取 扱 書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

ALPHARD

TOYOTA

	イラスト目次	**イラスト**から検索
1	安全・安心のために	お客様に**必ずお読みいただきたいこと**
2	メーターの見方	メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など
3	各部の操作	ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など
4	運転	運転に必要な操作やアドバイス
5	室内装備・機能	室内装備の使い方など
6	お手入れのしかた	車のお手入れ・メンテナンスの方法
7	万一の場合には	故障したときや、緊急時などの対処
8	車両情報	車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など
	さくいん	**症状**から検索
		音から検索
		アルファベットで検索
		五十音で検索

知っておいていただきたいこと 6
本書の見方 10
検索のしかた 11
イラスト目次 12

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に 24
安全なドライブのために 26
シートベルト 28
SRS エアバッグ 35
排気ガスに対する注意 44

1-2. お子さまの安全
お子さまを乗せるときは 45
チャイルドシート 46

1-3. 盗難防止装置
エンジンイモビライザーシステム 67
オートアラーム 68

2 メーターの見方

2. 計器の見方
警告灯／表示灯 72
計器類 78
マルチインフォメーションディスプレイ 82
燃費画面／ ESPO 画面 101

3 各部の操作

3-1. キー
キー 106

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
フロントドア 112
スライドドア 119
バックドア 138
スマートエントリー＆スタートシステム 148

3-3. シートの調整
フロントシート 155
セカンドシート 160
サードシート 175
パワーイージーアクセスシステム／ポジションメモリー（フロントシート）／メモリーコール機能 178
セカンドシートポジションメモリー 184
ヘッドレスト 186
シートアレンジ 193

3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル 205
インナーミラー 207
デジタルインナーミラー 209
ドアミラー 221
補助確認装置 224

3-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉
パワーウインドウ 225
ツインムーンルーフ 229

4 運転

4-1. 運転にあたって

運転にあたって.....234
荷物を積むときの注意.....245

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション）スイッチ.....246
オートマチックトランスミッション.....252
方向指示レバー.....259
電動パーキングブレーキ.....260
ブレーキホールド.....264

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ.....267
AHS（アダプティブハイビームシステム）.....271
AHB（オートマチックハイビーム）.....276
フォグランプスイッチ.....280
ワイパー＆ウォッシャー（フロント）.....282
ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）.....286

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方.....288

4-5. 運転支援装置について

Toyota Safety Sense.....292
PCS（プリクラッシュセーフティ）.....299
LTA（レーントレーシングアシスト）.....309
RSA（ロードサインアシスト）.....321
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）.....326
先行車発進告知機能.....342
ITS Connect.....345
Stop & Start システム.....356
BSM（ブラインドスポットモニター）.....369
クリアランスソナー.....376
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）.....391
PKSB（パーキングサポートブレーキ）.....400
パーキングサポートブレーキ（静止物）.....408
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）.....412
インテリジェントパーキングアシスト２.....415
運転を補助する装置.....462

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転.....469

5 室内装備・機能

5-1. エアコンの使い方

フロントオートエアコン 476
リヤオートエアコン 487
ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーター.....490

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧.....493
・室内灯 495
・マップランプ.....496
・リヤパーソナルランプ（セカンドシート／サードシート）.....496
・読書灯 498
・ルーフカラーイルミネーション.....499

5-3. 収納装備

収納装備一覧.....500
・グローブボックス.....501
・コンソールボックス.....501
・カップホルダー／ボトルホルダー.....503
・小物入れ 507
ラゲージルーム内装備 510

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備 514
・サンバイザー..... 514
・バニティミラー..... 514
・時計 514
・アクセサリーソケット 515
・アクセサリーコンセント..... 517
・後席用サンシェード 519
・サイドテーブル..... 520
・買い物フック..... 522
・アシストグリップ..... 523
・コートフック..... 524
・ステアリングスイッチ 525

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ..... 528
内装の手入れ..... 534

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット..... 537
ガレージジャッキ..... 541
ウォッシャー液の補充 543
タイヤについて..... 545
タイヤ空気圧について 549
エアコンフィルターの交換... 551
ワイパーゴムの交換 554
キーの電池交換..... 560
ヒューズの点検・交換 564
外装のランプの交換 567

7 万一の場合には

7-1. まず初めに

故障したときは.....570
非常点滅灯（ハザードランプ）.....571
発炎筒.....572
車両を緊急停止するには.....574
水没・冠水したときは.....575

7-2. 緊急時の対処法

けん引について.....577
フューエルポンプシャットオフシステム.....586
警告灯がついたときは.....587
警告メッセージが表示されたときは.....593
パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）.....599
パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）.....617
エンジンがかからないときは.....630
電子キーが正常に働かないときは.....632
バッテリーがあがったときは.....635
オーバーヒートしたときは...641
スタックしたときは.....644

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）.....648

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧.....654

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目.....665

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）.....668
車から音が鳴ったときは（音さくいん）.....671
アルファベット順さくいん.....673
五十音順さくいん.....675

マルチメディア画面装着車にお乗りのお客さまは、次の装備については別冊「マルチメディア取扱書」、「ナビゲーション取扱書」または「ナビゲーションシステム取扱書」をお読みください。

・ナビゲーション
・オーディオ＆ビジュアル
・後席 13.3 型ワイドディスプレイ
・音声操作システム
・パノラミックビューモニター
・バックガイドモニター
・ETC/ETC2.0 システム
・ハンズフリー
・T-Connect

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱書をお読みください。

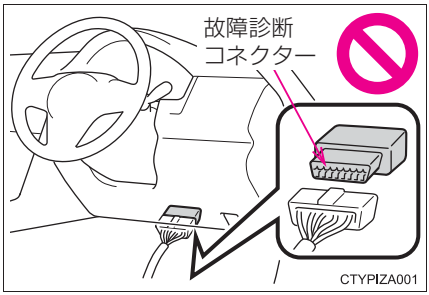
イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
  また、このような改造は Toyota Safety Sense のような先進安全装備にも影響を与え、正しく作動しない危険や作動すべきでない場面での作動をする恐れがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
  ・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
  異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
  ・電装品・無線機の取り付け・取りはずし
  電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
  RF 送信機の取り付けについては、P. 9 も参照してください。
- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。
電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

・エンジン回転数 / 電気モーター回転数
・アクセルペダルの操作状況
・ブレーキペダルの操作状況
・車速
・運転支援システムの作動状況
・カメラの画像情報

車両には複数のカメラがついています。どのカメラが画像を記録しているかは、トヨタ販売店にお問い合わせください。

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。
なお、コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

● データの取扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・トヨタが訴訟で使用する場合
・統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● 記録した画像情報はトヨタ販売店にて消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

T-Connect によるデータの取り扱いについて

お客様が T-Connect をご利用の場合、記録データとその使用について、T-Connect 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

・車両の各システムの作動状況
・アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
・車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両またはEDRに接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

・データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
・使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- EFI コンピュータ
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー
- Toyota Safety Sense

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

本書の見方

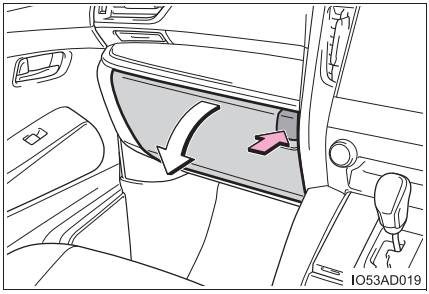
警告　お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。

注意　お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。

1 2 3…　操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

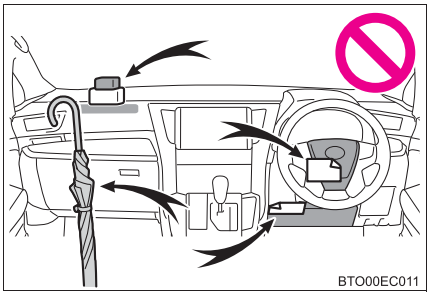
押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



説明の対象となるもの・場所を示しています。

“してはいけません”　“このようにしないでください”　“このようなことを起こさないでください”　という意味です。

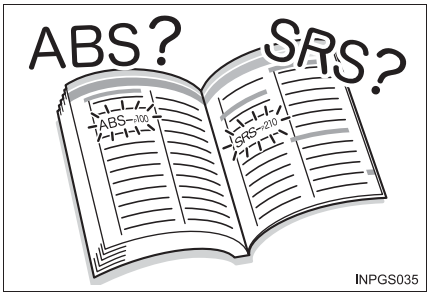


知識　機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

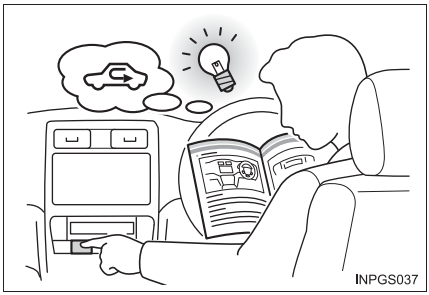
■ 名称から探す

・五十音順さくいん.....675
・アルファベット順
さくいん.....673



■ 取り付け位置から探す

・イラスト目次.....12

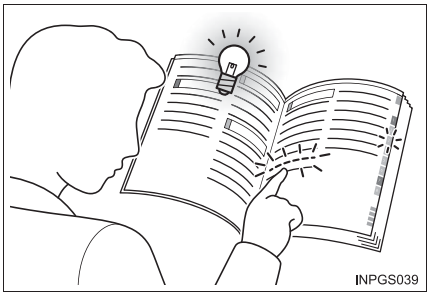


■ 症状や音から探す

・こんなときは
（症状別さくいん）.....668
・車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....671

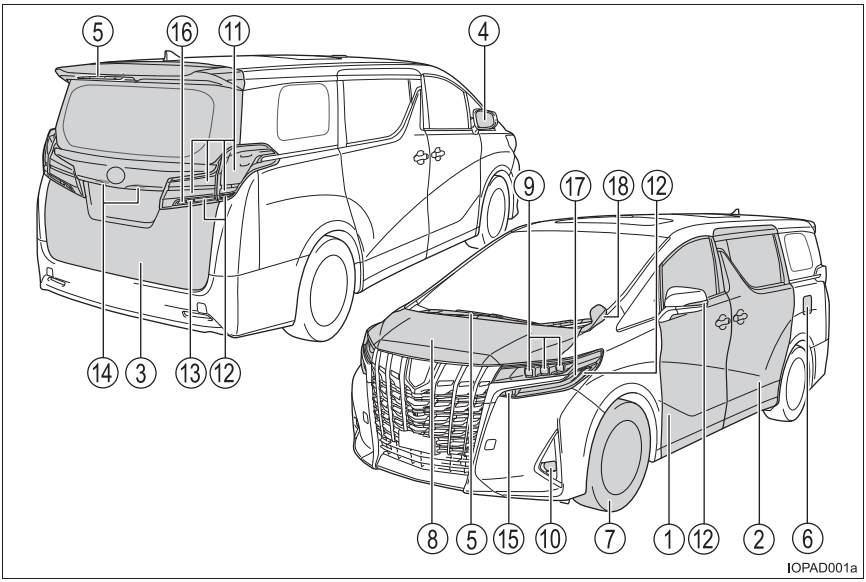
■ タイトルから探す

・目次.....2



イラスト目次

■ 外観



① **フロントドア . . . . . P. 112**
施錠／解錠 . . . . . P. 112
ドアガラスの開閉 . . . . . P. 225
メカニカルキーでの施錠／解錠 . . . . . P. 632
警告灯・警告メッセージ . . . . . P. 590, 593

② **スライドドア . . . . . P. 119**
施錠／解錠 . . . . . P. 119
スライドドアの開閉 . . . . . P. 123
パワースライドドア . . . . . P. 120
ドアガラスの開閉 . . . . . P. 225
警告灯・警告メッセージ . . . . . P. 590, 593

③ **バックドア . . . . . P. 138**
施錠／解錠 . . . . . P. 138
開け方／閉め方 . . . . . P. 139
パワーバックドア★ . . . . . P. 140
警告灯・警告メッセージ . . . . . P. 590, 593

④ **ドアミラー** . . . . . **P. 221**
鏡面の角度調整 . . . . . P. 221
ミラーの格納 . . . . . P. 221
曇りを取る（ミラーヒーター）★ . . . . . P. 222

⑤ **ワイパー** . . . . . **P. 282, 286**
冬季の注意 . . . . . P. 469
凍結防止（ウインドシールドデアイサー）★ . . . . . P. 479

⑥ **給油扉** . . . . . **P. 288**
給油方法 . . . . . P. 288
燃料の種類・燃料タンク容量 . . . . . P. 288, 648

⑦ **タイヤ** . . . . . **P. 545**
サイズ・空気圧 . . . . . P. 653
冬用タイヤ・タイヤチェーン . . . . . P. 469
点検・ローテーション . . . . . P. 545
パンク時の対処 . . . . . P. 599, 617

⑧ **ボンネット** . . . . . **P. 537**
開け方／閉め方 . . . . . P. 537
エンジンオイル . . . . . P. 649
オーバーヒート時の対処 . . . . . P. 641
警告メッセージ . . . . . P. 593

走行に関わる外装のランプ
（交換について：P. 567）

⑨ **ヘッドランプ** . . . . . **P. 267**

⑩ **フロントフォグランプ** . . . . . **P. 280**

⑪ **尾灯** . . . . . **P. 267**

⑫ **方向指示灯** . . . . . **P. 259**

⑬ **後退灯**
シフトレバーを R にする . . . . . P. 253

⑭ **番号灯** . . . . . **P. 267**

⑮ **コーナリングランプ★** . . . . . **P. 269**

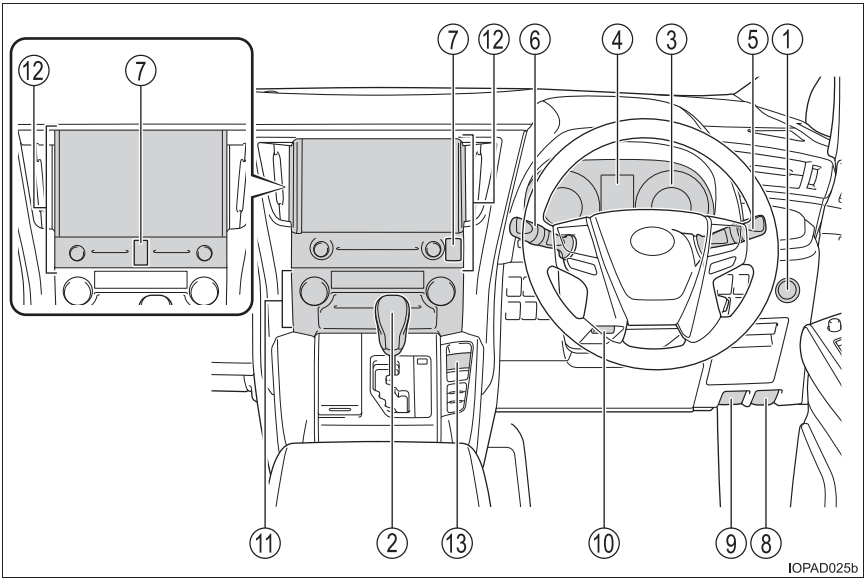
⑯ **リヤフォグランプ★** . . . . . **P. 280**

⑰ **車幅灯／デイライト★** . . . . . **P. 267**

⑱ **補助確認装置★** . . . . . **P. 224**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ インストルメントパネル



① **エンジンスイッチ . . . . . P. 246**
エンジンの始動・モード切りかえ . . . . . P. 246, 247
エンジンの緊急停止 . . . . . P. 574
エンジンが始動できないときの対処. . . . . P. 630
警告メッセージ . . . . . P. 593

② **シフトレバー . . . . . P. 252**
シフトポジションの切りかえ. . . . . P. 252
けん引時の注意 . . . . . P. 577
シフトレバーが動かないときの対処. . . . . P. 257

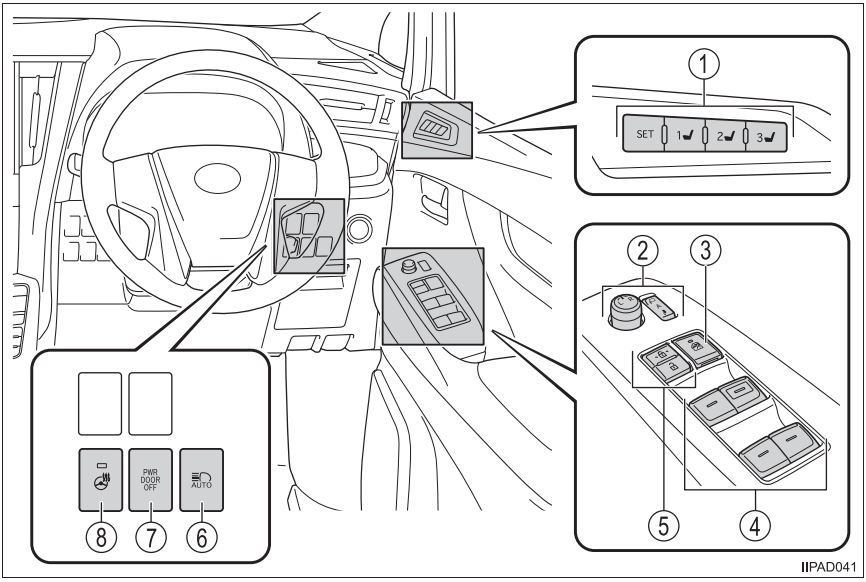
③ **メーター . . . . . P. 78**
見方・明るさの調整 . . . . . P. 78
警告灯／表示灯 . . . . . P. 72
警告灯点灯時の対処 . . . . . P. 587

④ **マルチインフォメーションディスプレイ . . . . . P. 82**
表示内容 . . . . . P. 82
警告メッセージ表示時の対処. . . . . P. 593

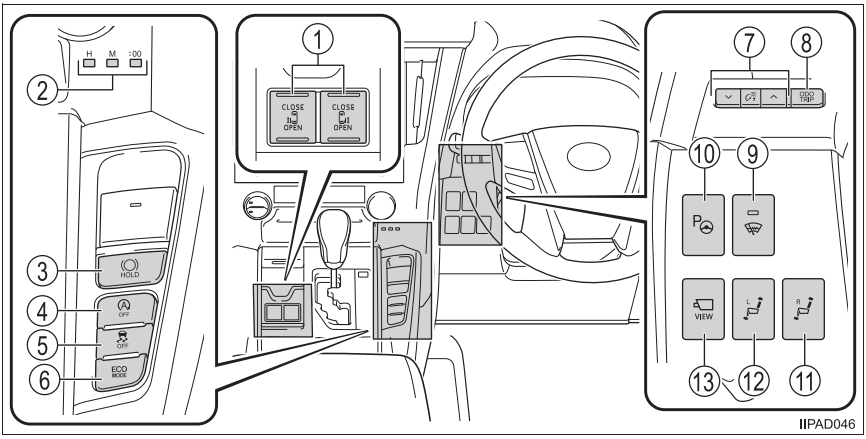
⑤ **方向指示レバー**.....P. 259
ランプスイッチ.....P. 267
ヘッドランプ・デイライト★／車幅灯・尾灯・番号灯 .....P. 267
フロントフォグランプ・リヤフォグランプ★.....P. 280
⑥ **ワイパー＆ウォッシャースイッチ（フロント）**.....P. 282
ワイパー＆ウォッシャースイッチ（リヤ）.....P. 286
使い方.....P. 282, 286
ウォッシャー液の補充.....P. 543
ワイパーゴムの交換 .....P. 554
⑦ **非常点滅灯スイッチ** .....P. 571
⑧ **給油扉オープナー** .....P. 291
⑨ **ボンネット解除レバー**.....P. 537
⑩ **ハンドル位置調整レバー** .....P. 205
⑪ **フロントエアコン** .....P. 476
操作方法.....P. 476
リヤウインドウガラスの曇り取り
（リヤウインドウデフォッガー）.....P. 479
⑫ **オーディオ★※**
音楽を聴く※
電話をかける・受ける（ハンズフリー）※
⑬ **パーキングブレーキスイッチ**.....P. 260
かける・解除する .....P. 260
冬季の注意 .....P. 470
警告ブザー・警告メッセージ.....P. 263, 593

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
※：マルチメディア画面装着車は、別冊「マルチメディア取扱書」または「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

■ スイッチ類

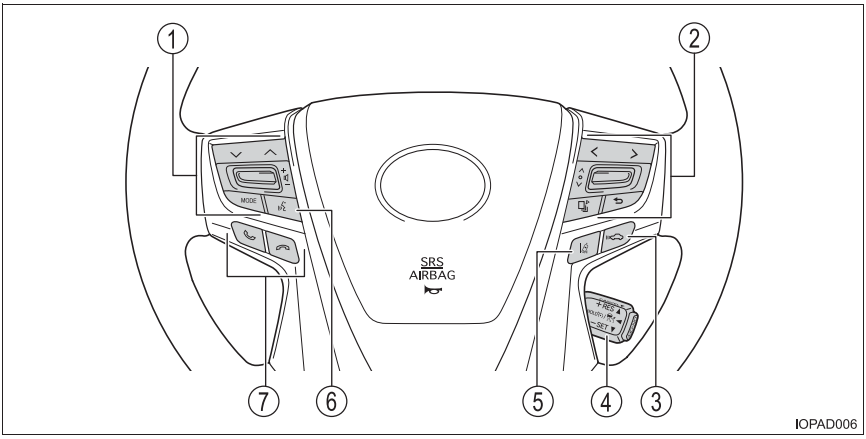


① ドライビングポジションメモリースイッチ★ . . . . . .P. 180
② ドアミラースイッチ . . . . . .P. 221
③ ウインドウロックスイッチ . . . . . .P. 225
④ パワーウインドウスイッチ . . . . . .P. 225
⑤ ドアロックスイッチ . . . . . .P. 115
⑥ アダプティブハイビームシステムスイッチ★ . . . . . .P. 272
オートマチックハイビームスイッチ★ . . . . . .P. 276
⑦ パワードアオフスイッチ . . . . . .P. 123
⑧ ステアリングヒータースイッチ★. . . . . .P. 491



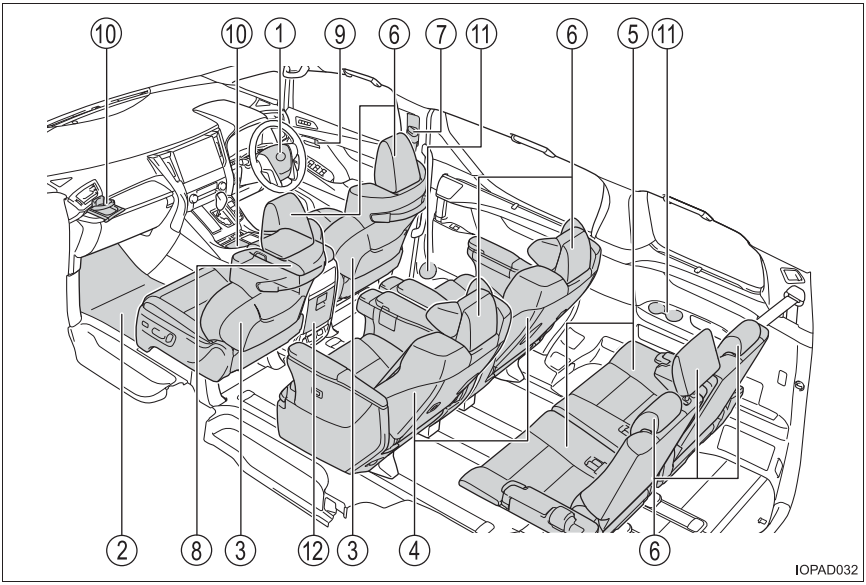
① パワースライドドア開閉スイッチ★ . . . . . .P. 122
② 時刻調整スイッチ . . . . . .P. 514
③ ブレーキホールドスイッチ . . . . . .P. 264
④ Stop & Start キャンセルスイッチ★ . . . . . .P. 359
⑤ VSC OFF スイッチ . . . . . .P. 463
⑥ ECO MODE スイッチ . . . . . .P. 253
⑦ メーター照度調整スイッチ . . . . . .P. 80
⑧ オドメータートリップメーター切りかえ・
トリップメーターリセットスイッチ. . . . . .P. 79
⑨ ウインドシールドデアイサースイッチ★. . . . . .P. 479
⑩ IPA スイッチ★ . . . . . .P. 418
⑪ 運転席側セカンドシートニュートラル
ポジションスイッチ★ . . . . . .P. 170
⑫ 助手席側セカンドシートニュートラル
ポジションスイッチ★ . . . . . .P. 170
⑬ パノラミックビューモニターメインスイッチ★ ※

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
※：マルチメディア画面装着車は、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。



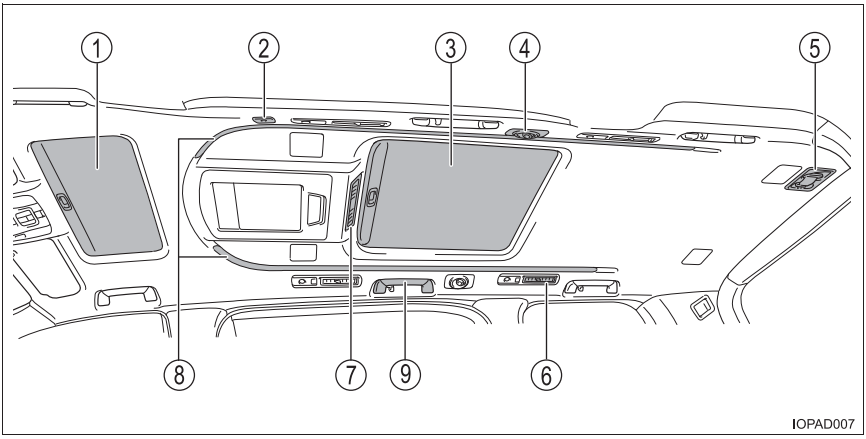
① オーディオスイッチ ※1 . . . . . P. 525
② メーター操作スイッチ . . . . . P. 84
③ 車間距離切りかえスイッチ . . . . . P. 332
④ クルーズコントロールスイッチ
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）. . . . . P. 326
⑤ LTA（レーントレーシングアシスト）スイッチ . . . . . P. 315
⑥ トークスイッチ ※2 ,3 . . . . . P. 525
⑦ 電話スイッチ ※1 . . . . . P. 525

■ 室内

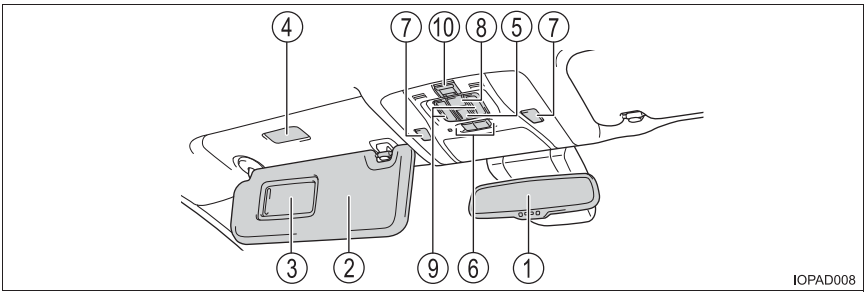


① SRS エアバッグ . . . . . P. 35
② フロアマット . . . . . P. 24
③ フロントシート . . . . . P. 155
④ セカンドシート . . . . . P. 160
⑤ サードシート★ . . . . . P. 175
⑥ ヘッドレスト . . . . . P. 186
⑦ シートベルト . . . . . P. 28
⑧ コンソールボックス . . . . . P. 501
⑨ ロックレバー . . . . . P. 115
⑩ カップホルダー . . . . . P. 503
⑪ ボトルホルダー . . . . . P. 505
⑫ 小物入れ . . . . . P. 507

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
※1：マルチメディア画面装着車は、別冊「マルチメディア取扱書」または「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。
※2：マルチメディア画面装着車は、別冊「ナビゲーション取扱書」または「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。
※3：T-Connect ナビゲーションシステム非装着車／ T-Connect ナビキット非装着車／エントリーナビキット非装着車では使用できません。



① フロントムーンルーフ★ . . . . . .P. 229
② 後席「ナノイー」吹き出し口★ . . . . . .P. 483
③ リヤムーンルーフ★. . . . . .P. 229
④ 読書灯★ . . . . . .P. 498
⑤ 分離格納式シートベルト★. . . . . P. 29
⑥ リヤエアコン吹き出し口 . . . . . .P. 488
⑦ リヤエアコン . . . . . .P. 487
⑧ ルーフカラーイルミネーション . . . . . .P. 499
⑨ アシストグリップ . . . . . .P. 523



① インナーミラー★ . . . . . P. 207
デジタルインナーミラー★ . . . . . P. 209
② サンバイザー ※1 . . . . . P. 514
③ バニティミラー . . . . . P. 514
④ バニティランプ . . . . . P. 514
⑤ リヤムーンルーフスイッチ★ . . . . . P. 229
⑥ 室内灯メインスイッチ . . . . . P. 495
⑦ マップランプスイッチ . . . . . P. 496
⑧ パワーバックドア開閉スイッチ★ . . . . . P. 140
⑨ パワースライドドア開閉スイッチ . . . . . P. 122
⑩ ヘルプネットボタン★ ※2

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1：やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。（→ P. 49）

※2：別冊「マルチメディア取扱書」または「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に.....24
安全なドライブのために.....26
シートベルト.....28
SRS エアバッグ.....35
排気ガスに対する注意.....44
1-2. お子さまの安全
お子さまを乗せるときは.....45
チャイルドシート.....46
1-3. 盗難防止装置
エンジンイモビライザーシステム.....67
オートアラーム.....68

運転する前に

点検整備

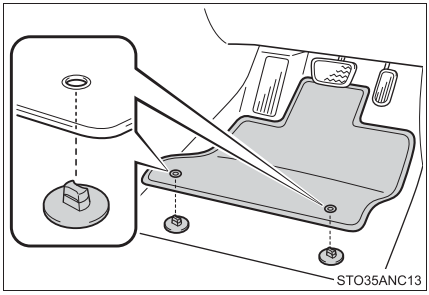
日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、お車に異常がないことを確認してください。

日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。
異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

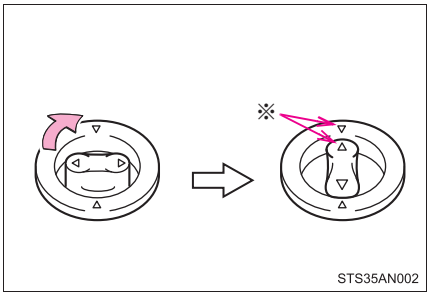
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

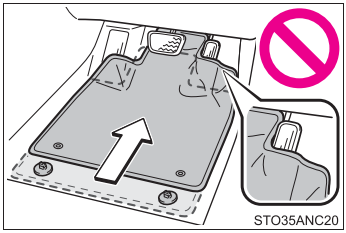
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

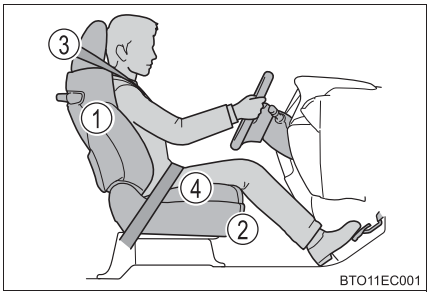
- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する



安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について



① まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→ P. 155）

② ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→ P. 155）

③ ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 186）

④ シートベルトを正しく着用する（→ P. 28）

シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→ P. 28）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→ P. 46）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。（→ P. 207, 209, 221）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
  ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
  また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルト

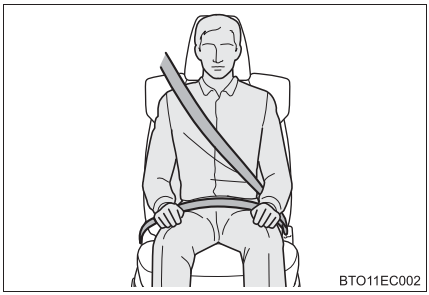
走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

正しく着用する

- 肩部ベルトを肩に十分かける

  首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

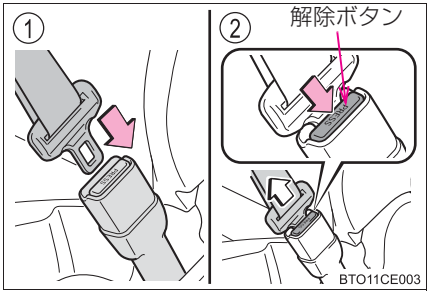
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする



着け方・はずし方（サードシート中央席を除く）

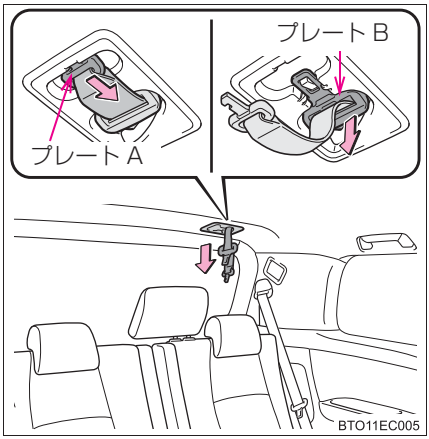
① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す



着け方（サードシート中央席）

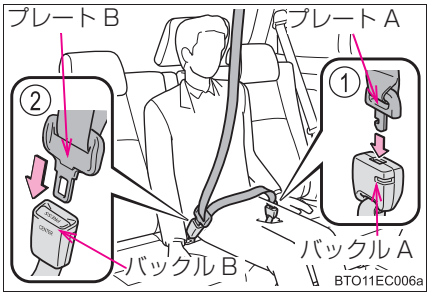
1 プレートを取り出す



2 ベルトを固定するには、プレートA、プレートBの順に“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

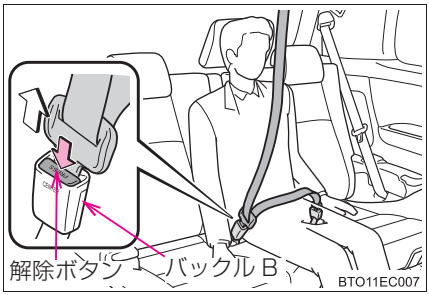
① プレート A、バックル A

② プレート B、バックル B



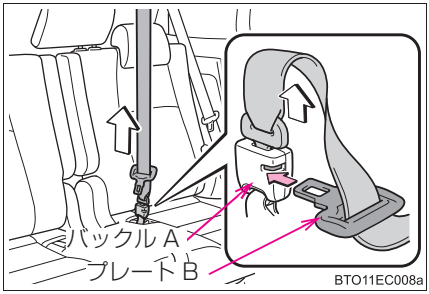
はずし方・格納のしかた（サードシート中央席）

1 バックル B の解除ボタンを押して、ベルトを解除する



2 メカニカルキー（→ P. 108）、またはプレート B をバックル A に挿し込み、ベルトを分離する

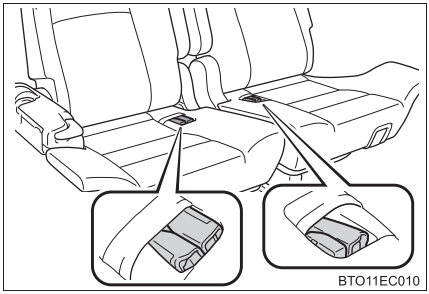
シートベルトを格納するときは、ベルトを持ちながらゆっくり巻きもどします。



3 プレート A、B を図のようにし、もとにもどす

確実に固定されるよう、しっかりと奥まで挿し込みます。

4 バックルを格納する

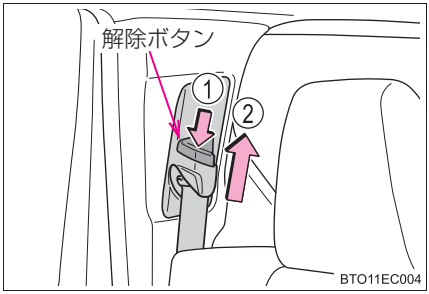


シートベルトの高さ調整（フロント席）

① 解除ボタンを押しながら、アジャスターを下げる

② アジャスターを上げる

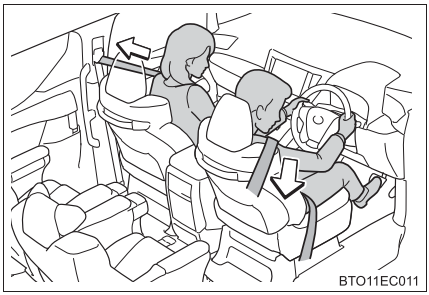
“カチッ” と音がして固定されるところまで動かしてください。



シートベルトプリテンショナー（フロント席）

前方・側方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方･側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



知識

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。（→ P. 46）
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。（→ P. 28）

■シートベルトプリテンショナーについて

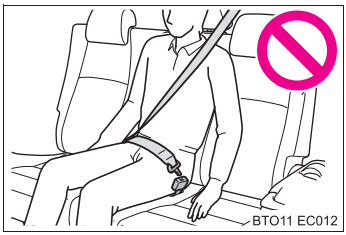
シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

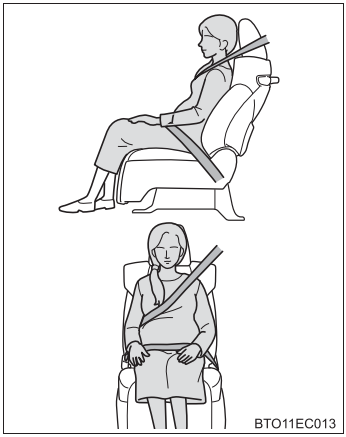
- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはセカンドシートまたはサードシートに座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する
- サードシート中央席のシートベルトを使用するときは、プレート A とバックル A および、プレート B とバックル B を結合する（→ P. 29）



■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。（→ P. 28）
通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



警告

■**疾患のある方の場合**

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。（→ P. 28）

■**お子さまを乗せるとき**

→ P. 60

■**プリテンショナー付きシートベルトについて**

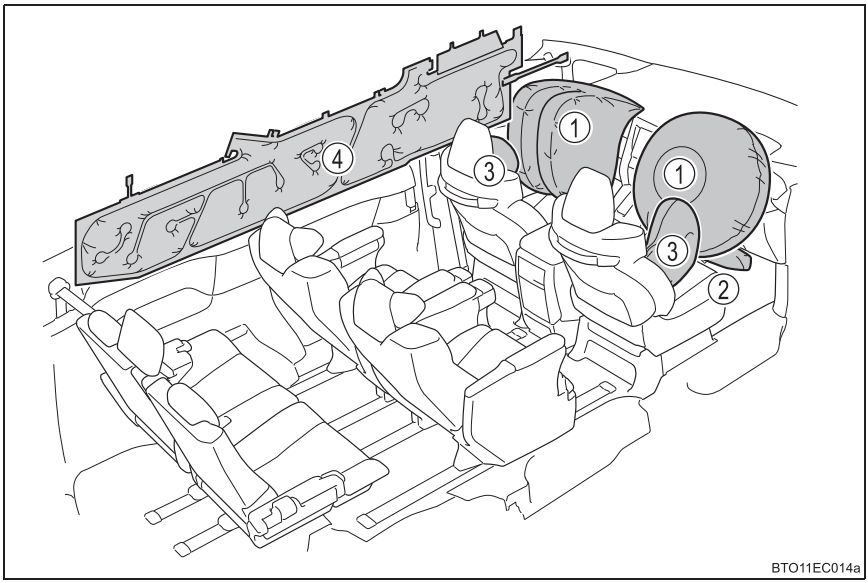
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■**シートベルトの損傷・故障について**

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルト（フロント席）の取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
  不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



◆ フロント SRS エアバッグ

① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

② 運転席 SRS ニーエアバッグ
（運転者の衝撃緩和を補助）

◆ SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ

③ SRS サイドエアバッグ
（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

④ SRS カーテンシールドエアバッグ
（フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和）

警告

■SRS エアバッグについて

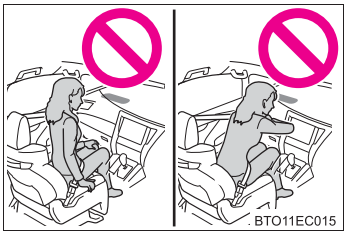
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

●助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

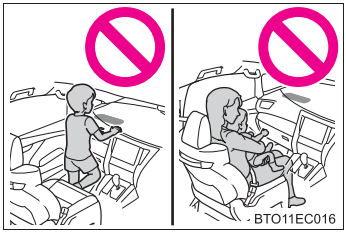
●お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはセカンドシートまたはサードシートに乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。（→ P. 46）

●シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



●お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない

●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



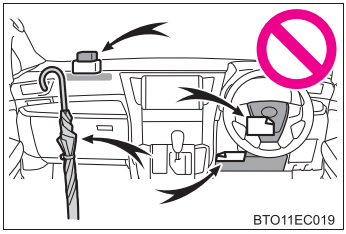
警告

■SRS エアバッグについて

●ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

●助手席では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

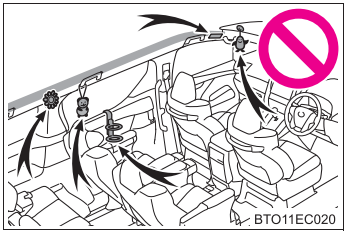
●ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



警告

■SRS エアバッグについて

●ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない（速度制限ラベルを除く：→P. 608）



●コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS　ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。

●SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

警告

■**改造・廃棄について**

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

知識

■SRS エアバッグが作動すると

●SRS エアバッグは高温のガスにより非常に高い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。

●作動音と共に白いガスが発生します。

●フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

●すべてのドアが解錠されます。（→ P. 118）

●燃料供給を停止します。（→ P. 586）

●T-Connect　サービスの契約期間内は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両を手配します。詳しくは「マルチメディア取扱書」または「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

・SRS エアバッグが作動した
・シートベルトプリテンショナーが作動した
・後方から強い衝撃を受けた

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。

・駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
・もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

●衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

■SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が約 20～30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

●前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが作動します。

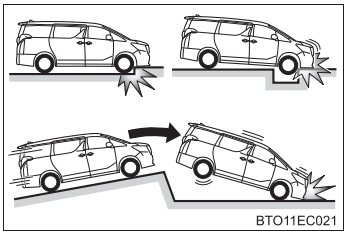
■衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグ・SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



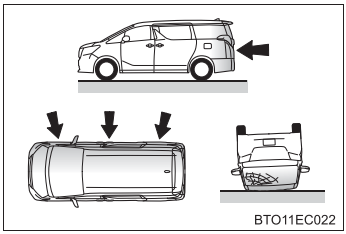
■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

●側面からの衝突

●後方からの衝突

●横転

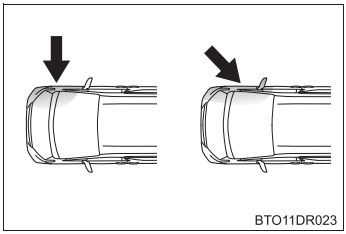


■SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

●客室部分以外の側面への衝撃

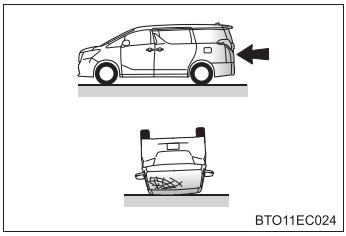
●斜めからの衝撃


BTO11DR023

SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

●後方からの衝突

●横転

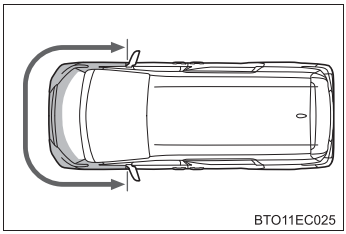

BTO11EC024

■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

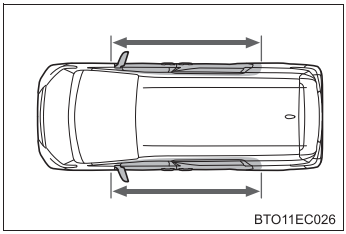
次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

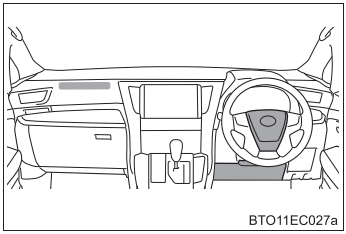
●フロントSRSエアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき


BTO11EC025

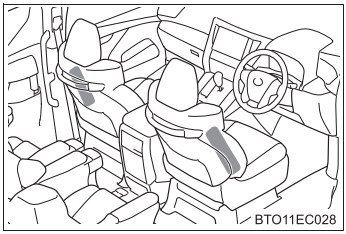
●SRSサイド＆カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき


BTO11EC026

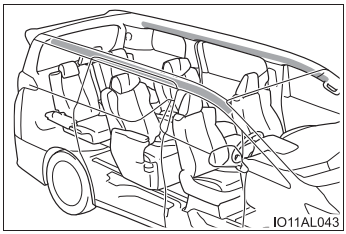
●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



●SRSサイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



●SRSカーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

- バックドアを閉じてください。
- バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。
  やむを得ないときは、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。
  まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→ P. 46）
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはセカンドシートまたはサードシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウインドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター（→ P. 124）・ウインドウロックスイッチ（→ P. 225）をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウインドウ・ムーンルーフ★・ボンネット・スライドドア・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。
- お子さまには取りはずしができる部品を操作させたり、取りはずした部品で遊ばせたりしないでください。

警告

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた、P. 46 を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはセカンドシートまたはサードシートに取り付けてください。
  取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。
- トヨタでは、より安全にお使いいただくために、トヨタ純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
  トヨタ純正チャイルドシートは、トヨタ車のために作られたチャイルドシートです。トヨタ販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと . . . . . P. 46
チャイルドシートを使用するときは . . . . . P. 48
シート位置別チャイルドシートの適合性について . . . . . P. 51
チャイルドシートの取り付け方法. . . . . P. 59
・シートベルトで固定する . . . . . P. 60
・ISOFIX ロアアンカレッジで固定する. . . . . P. 63
・トップテザーアンカレッジを使用する . . . . . P. 65

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。（→ P. 51）

警告

■お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- トヨタでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをセカンドシートまたはサードシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりセカンドシートまたはサードシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→ P. 51）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

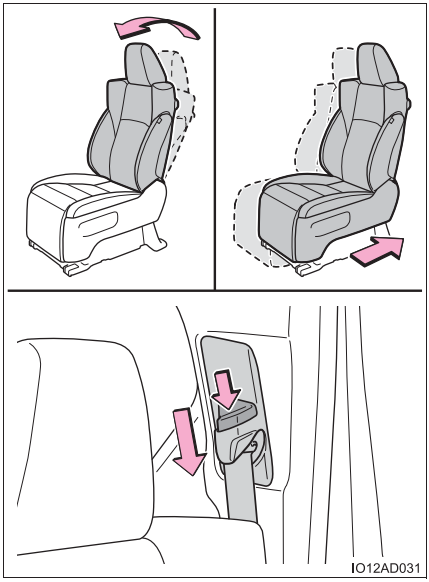
チャイルドシートを使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはセカンドシートまたはサードシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

- シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。
- 背もたれを可能な限り起こしてください。
  前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。
- シートベルトの高さをいちばん低い位置まで下げてください。



- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
  取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

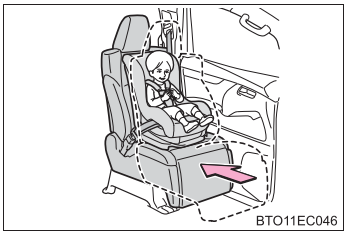
警告

■チャイルドシートを使用するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

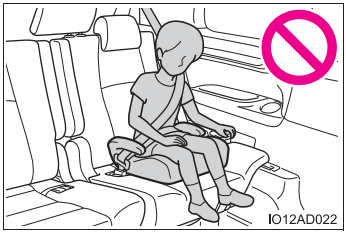
●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
助手席SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



警告

■チャイルドシートを使用するとき

●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

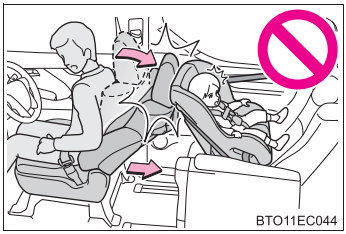


●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、セカンドシートまたはサードシートに取り付けてください。

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のセカンドシートに取り付けてください。

●助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。



シート位置別チャイルドシートの適合性について

■ シート位置別チャイルドシートの適合性について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→ P. 53）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。

推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。（→ P. 57）

次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

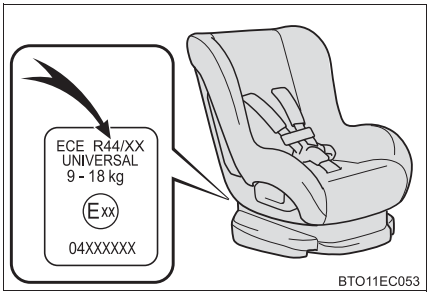
1 チャイルドシートの規格を確認する

UN（ECE）R44※1 に適合したチャイルドシートを使用してください。
適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。
チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。

法規番号の表示例

UN（ECE）R44 認可マーク※2

対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。



※1 UN（ECE）R44 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

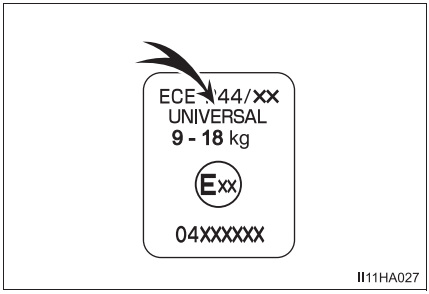
※2 表示されているマークは、商品により異なります。

2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する

チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。

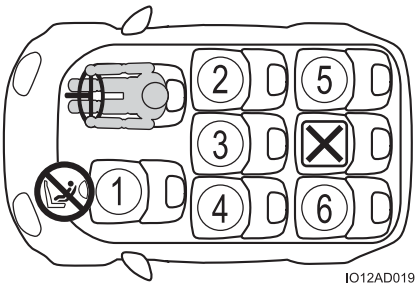
また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認頂くか、または販売業者へ確認してください。

・ユニバーサル「universal（汎用）」
・セミユニバーサル「semi-universal（準汎用）」
・リストリクティッド「restricted（限定）」
・ビークルスペシフィック「vehicle specific（特定車両）」

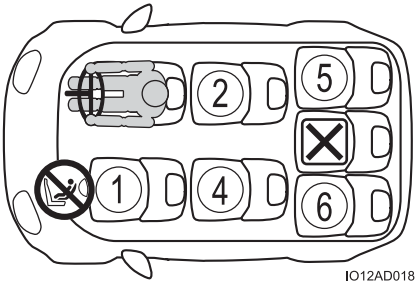


■ シート位置別チャイルドシートの適合性

▶ 8 人乗り車



▶ 7 人乗り車



1 ※1, 2, 3	※4 U L
2 ※2, 3	UF L
3 ※2, 3	UF L
4 ※2, 3	UF L
5 ※2, 3	UF L
6 ※2, 3	UF L

車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

車両のシートベルトで固定するタイプの前向きに取り付けるユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→ P. 57）に記載されたチャイルドシートに適しています。

ISOFIX チャイルドシートに適しています。

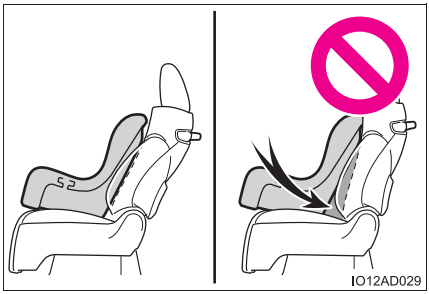
トップテザーアンカレッジが装備されています。

チャイルドシートの取り付けに適していません。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

※1 シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※2 背もたれを可能な限り起こしてください。
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



※3 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

※4 チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置						
シート位置の番号	①	②	③	④	⑤	⑥
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有 / 無）	有 前向きのみ	有 前向きのみ	有 前向きのみ	有 前向きのみ	有 前向きのみ	有 前向きのみ
アイサイズ着座位置（有/無）	無	無	無	無	無	無
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1/L2）	×	×	×	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1/R2X/R2/R3）	×	R1, R2, R3	×	R1, R2, R3	×	×
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X/F2/F3）	×	F2X, F2, F3	×	F2X, F2, F3	×	×
搭載可能なジュニアシートの治具（B2/B3）	×	×	×	×	×	×

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

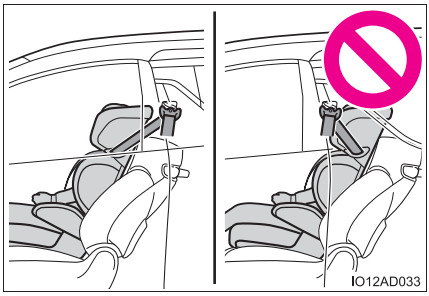
治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

質量グループ	推奨チャイルドシート	着座位置					
		①	②	③	④	⑤	⑥
0、0+（13kg まで）	トヨタ純正 NEO G-Child baby	×	○	○	○	○	○
	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	×	○	×	×
Ⅰ（9 ～ 18kg）	トヨタ純正 NEO G-Child baby	○ 前向きのみ	○	○	○	○	○
	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	×	○	×	×
Ⅱ、Ⅲ（15 ～ 36kg）	トヨタ純正 ジュニアシート	○	○	×	○	○	○

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

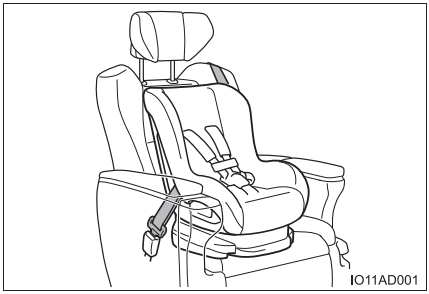
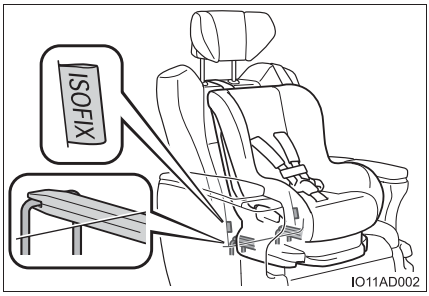
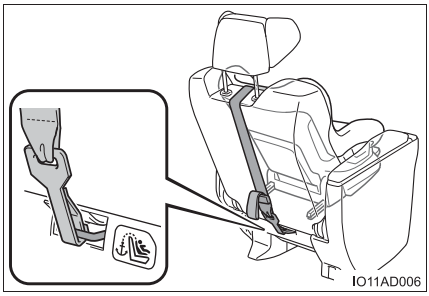
- セカンドシートまたはサードシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートが前の座席と干渉しないように前の座席を調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。
- シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。



- ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートの取り付けについては、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

固定方法		ページ
シートベルトで固定する		P. 60
ISOFIX ロアアンカレッジで固定する		P. 63
テザーベルトを固定する		P. 65

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→ P. 52、53）

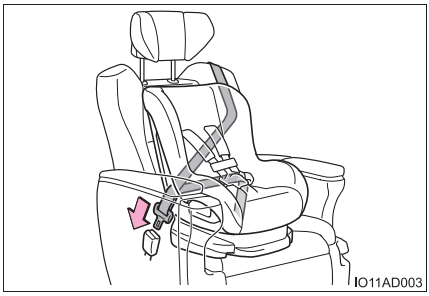
1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。（→ P. 48）

2 背もたれを可能な限り起こしてください。
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

3 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→ P. 186）

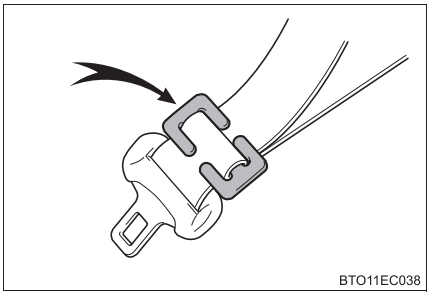
4 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



5 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）



6 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。（→ P. 62）

■ **チャイルドシートの取りはずし**

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。
チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。

警告

■**チャイルドシートを取り付けるとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

●シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。

●チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。

●チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

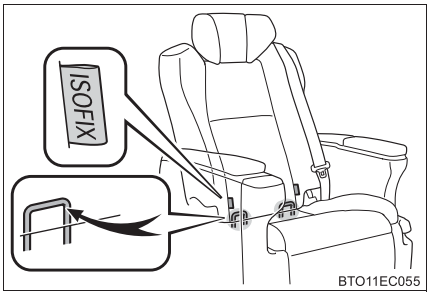
●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

●必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

■ ISOFIX ロアアンカレッジについて

この車はセカンドシート外側席にISOFIXロアアンカレッジが装備されています。（ロアアンカレッジが装備されていることを示すタグがシートに付いています）



■ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

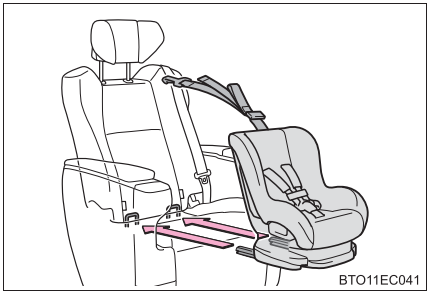
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→ P. 52、53）

1 背もたれを可能な限り起こしてください。
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→ P. 186）

3 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートのコネクタ（取り付け金具）をロアアンカレッジに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



4 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する（→ P. 62）

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

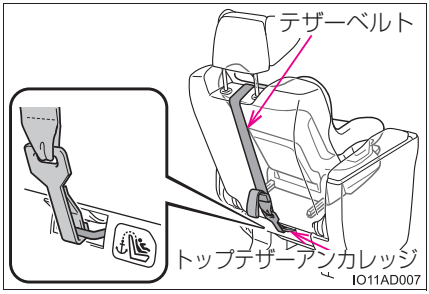
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカレッジを使用する

■ トップテザーアンカレッジについて

この車はセカンドシート外側席にトップテザーアンカレッジが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。



■ テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

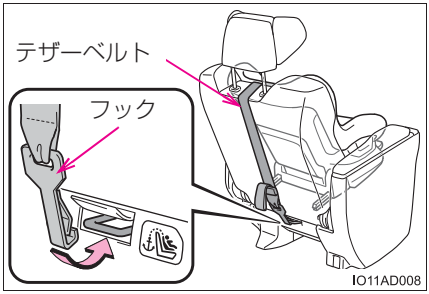
チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

1 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→ P. 186）

2 トップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。（→ P. 62）

ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。



警告

■**チャイルドシートを取り付けるとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカレッジ以外に掛けないでください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカレッジに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。

エンジンイモビライザーシステム

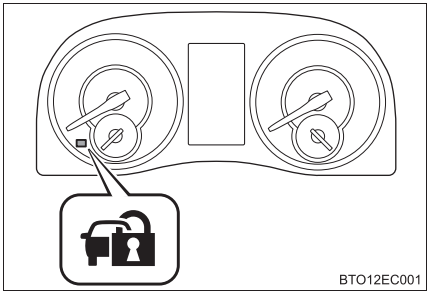
キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

エンジンスイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにセキュリティ表示灯が点滅します。

登録されたキーを携帯し、エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにするとシステムが解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。



知識

■メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

- ●キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- ●キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

オートアラームとは

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアが、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使わずに解錠、または開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき

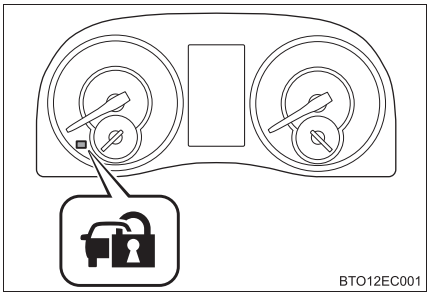
※ T-Connect サービスをご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合メールや電話でお知らせすることができます。

詳しくは、別冊「マルチメディア取扱書／ T-Connect ／サービスの使い方／マイカーサーチ Plus」または「ナビゲーションシステム取扱書／ T-Connect ／サービスの使い方／マイカーサーチ Plus」を参照してください。

オートアラームを設定する

ドア、バックドア、ボンネットを閉めスマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスリモコンを使って施錠します。
30 秒以上経過すると自動的に設定されます。

オートアラームが設定されるとセキュリティ表示灯は点灯から点滅にかわります。



オートアラームの設定を解除・作動を停止する

次のいずれかを行ってください。

- スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使ってドアまたは、バックドアを解錠する
- エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにするか、エンジンを始動する（数秒後に解除・停止します）

知識

■メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

●車内に人が乗っていないか

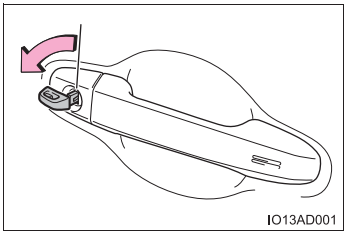
●ドアガラスとムーンルーフ★が閉じているか

●車内に貴重品などを放置していないか

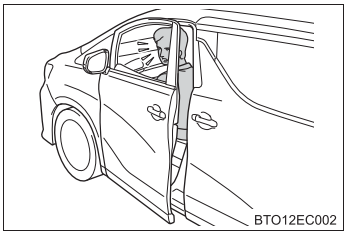
■オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームの設定を解除・作動を停止する操作を行ってください。

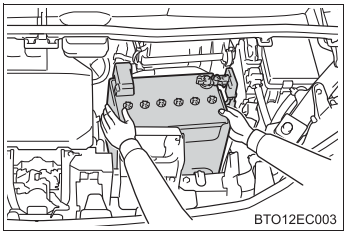
●メカニカルキーを使ってドアを解錠したとき



●車内に残った人が、ドア、バックドア、ボンネットを開けた、またはロックレバーで解錠したとき



●施錠後、バッテリーあがりなどでバッテリーの充電や交換をしたとき(→P. 635)



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■オートアラーム作動によるドアロック機能について

次のような場合、車内への不正な侵入を防止するため自動的にドアが施錠されることがあります。

●車内に残った人がドアを解錠し、オートアラームが作動した

●アラーム作動中に車内に残った人がドアを解錠した

●バッテリーあがりなどで充電・交換したとき

■カスタマイズ機能

メカニカルキーを使って解錠したとき、オートアラームが作動しないように設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→ P. 660）

⚠注意

■オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

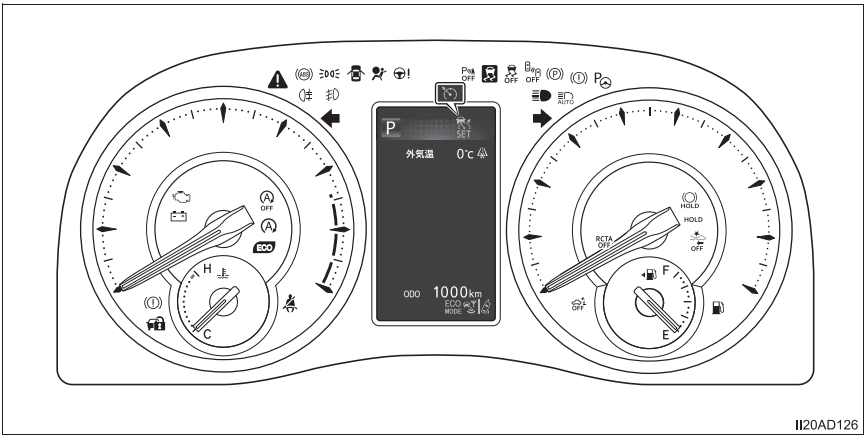
メーターの見方

2

2. 計器の見方
警告灯／表示灯.....72
計器類.....78
マルチインフォメーション
ディスプレイ.....82
燃費画面／ ESPO 画面.....101

警告灯／表示灯

メーター内の警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。
次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。



グレードなどによりメーターの意匠は異なります。

警告灯

万一のシステム異常などを警告します。

※1
ブレーキ警告灯
（→ P. 587）
（赤色）

※1
スリップ表示灯
（→ P. 588）

※1
充電警告灯
（→ P. 587）

※1
ブレーキホールド作動
表示灯（→ P. 588）
（点滅）

※2
油圧警告灯
（→ P. 587）

※1
Stop & Start キャンセル
表示灯★（→ P. 588）
（点滅）

※2
高水温警告灯
（→ P. 587）

※1
クリアランスソナー OFF
表示灯 （→ P. 588）
（点滅）

※1
ブレーキ警告灯
（→ P. 587）
（黄色）

※1
RCTA OFF 表示灯★
（→ P. 589）
（点滅）

※1
エンジン警告灯
（→ P. 587）

※1
PKSB OFF 表示灯
（→ P. 589）
（点滅）

※1
SRS エアバッグ／
プリテンショナー警告灯
（→ P. 588）

※1
PCS 警告灯
（→ P. 589）
（点滅または点灯）

※1
ABS ＆ブレーキアシスト
警告灯（→ P. 588）

※2
ペダル誤操作警告灯
（→ P. 590）

※1
パワーステアリング警告灯
（→ P. 588）
（赤色／黄色）

パーキングブレーキ
表示灯（→ P. 590）
（点滅）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

半ドア警告灯
（→ P. 590）

※1

マスターウォーニング
（→ P. 590）

燃料残量警告灯
（→ P. 590）

※2

（橙色）

LTA 表示灯
（→ P. 591）

シートベルト非着用警告灯
（→ P. 590）

※1 作動確認のためにエンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

表示灯

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯
（→ P. 259）

尾灯表示灯
（→ P. 267）

ハイビーム表示灯
（→ P. 268）

フロントフォグランプ表示灯（→ P. 280）

リヤフォグランプ表示灯★
（→ P. 280）

パーキングブレーキ表示灯（→ P. 260）

※1
ブレーキホールドスタンバイ表示灯（→ P. 264）

※1
ブレーキホールド作動表示灯（→ P. 264）

※1
スリップ表示灯
（→ P. 463）
（点滅）

※1, 2
VSC OFF 表示灯
（→ P. 464）

※1
エコドライブインジケーターランプ（→ P. 89）

セキュリティ表示灯
（→ P. 67, 68）

※1, 2
PCS 警告灯
（→ P. 302）

オートマチックハイビーム表示灯★（→ P. 276）／アダプティブハイビームシステム表示灯★（→P. 272）

※1
Stop & Start 表示灯★
（→ P. 356）

※1, 2
Stop & Start キャンセル表示灯★（→ P. 359）

※1, 2
クリアランスソナー OFF 表示灯（→ P. 376）

※1, 2
PKSB OFF 表示灯
（→ P. 400）

※1
インテリジェントパーキングアシスト 2 表示灯★（→ P. 420）

※3
スマートエントリー＆スタートシステム表示灯
（→ P. 246）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※3 ECO MODE エコドライブモード表示灯（→ P. 253）

※3 SET クルーズコントロールセット表示灯（→ P. 326）

※3, 4 低温表示灯（→ P. 78）

※3, 6 ITS Connect 通信接続状態表示灯★（→ P. 347）

※3, 5 LTA 表示灯（→ P. 315）

※1, 2 OFF BSM OFF 表示灯★（→ P. 369）

※3 レーダークルーズコントロール表示灯（→ P. 326）

※1, 2 RCTA OFF RCTA OFF 表示灯★（→ P. 391）

※3 クルーズコントロール表示灯（→ P. 326）

※7, 8 BSM ドアミラーインジケーター★（→ P. 369）

※1 作動確認のためにエンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 システムが OFF のときに点灯します。

※3 マルチインフォメーションディスプレイ内に表示されます。

※4 外気温が約 3 ℃以下のとき、約 10 秒間点滅したあとに点灯します。

※5 システムの作動状態により、表示色と点灯・点滅の状態が変化します。

※6 現在の通信状況により、アイコンの意匠がかわります。

※7 作動確認のため、次の条件のときインジケーターが点灯します。

・マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ 画面でBSMの機能をONに設定している状態で、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたとき

・エンジンスイッチがイグニッション ON モードの状態で、マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ 画面で BSM 機能を ON にしたとき

システムが正常であればインジケーターは数秒後に消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※8 ドアミラーに表示されます。

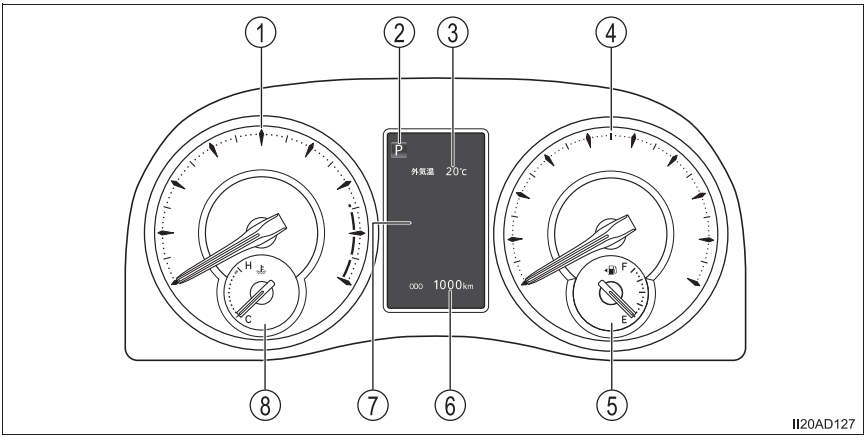
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**安全装置の警告灯が点灯しないとき**

ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯がエンジンスイッチをイグニッションONモードにしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

計器類



グレードなどによりメーターの意匠は異なります。

① タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

② シフトポジション・変速段／ギヤ段表示

選択されているシフトポジションまたは変速段／ギヤ段を表示します。
（→ P. 253）

③ 外気温／メニューアイコン表示

外気温表示：
外気温を－ 40 ℃～ 50 ℃のあいだで表示します。外気温が約 3 ℃以下になると、低温表示灯（→ P. 76）が点灯し、5 ℃以上になると消灯します。

メニューアイコン表示：
メーター操作スイッチを操作すると、数秒のあいだ、メニューアイコンが表示されます。（→ P. 85）

④ スピードメーター

車両の走行速度を示します。

⑤ 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

・ 少量給油（約 5L 以下）を行ったとき
・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
・ 坂道やカーブを走行したとき

⑥ オドメーター／トリップメーター／アイドリングストップ時間割り込み表示★

オドメーター：
走行した総距離を km の単位で表示します。

トリップメーター：
リセットしてからの走行距離を km の単位で表示します。区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

アイドリングストップ時間割り込み表示★：
現在のアイドリングストップ時間（Stop & Start システムによるエンジン停止時間）を表示します。

⑦ マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。（→ P. 82）

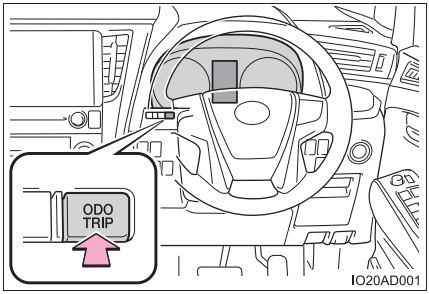
車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。（→ P. 593）

⑧ 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

表示の切りかえ（オドメーター／トリップメーター）

スイッチを押すごとに表示が切りかわります。
また、トリップメーター表示中に押し続けると、走行距離を 0 にもどします。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

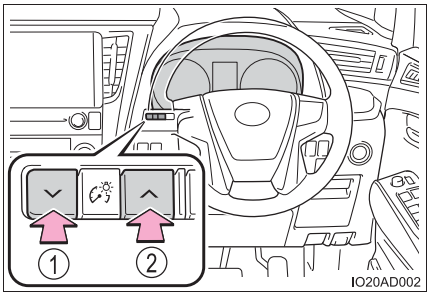
メーター照度調整スイッチ

メーターの明るさを調整できます。

① 暗くする

② 明るくする

スイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに割り込み画面が表示されます。（→ P. 83）



知識

■ **メーター・ディスプレイの作動条件**

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ **シフトポジション・変速段／ギヤ段表示の背景色について**

エコドライブモード（→ P. 253）を選択すると、シフトポジション・変速段／ギヤ段表示の背景色が青色になります。

■ **メーター照度の切りかえについて**

車幅灯が点灯・消灯すると、メーターの明るさが切りかわります。
ただし、周囲が明るいとき（昼間など）に車幅灯を点灯しても、メーターの明るさは切りかわりません。

■ **メーター照度調整について**

車幅灯消灯時と点灯時それぞれの明るさのレベルを調節することができます。

■ **外気温表示について**

● 次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

・ 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
・ 外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

● “ -- ” または “ E ” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ **液晶ディスプレイについて**

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

■燃料計と航続可能距離（→ P. 87）について

燃料計と航続可能距離は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで表示を更新することができます。

1 車両を平坦な場所に停車させる

2 ODO TRIP スイッチを押して、オドメーター／トリップメーターの表示をオドメーター表示に切りかえる

3 エンジンスイッチを OFF にする

4 ODO TRIPスイッチを押したまま、エンジンスイッチをイグニッションONモードにする

5 そのまま約 5 秒間 ODO TRIP スイッチを押し続け、オドメーターが点滅を開始したら手を離す

オドメーターが約 5 秒間点滅したあと、通常の表示にもどれば、更新は終了です。

警告

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えば変速段／ギヤ段表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐに変速段／ギヤ段の表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

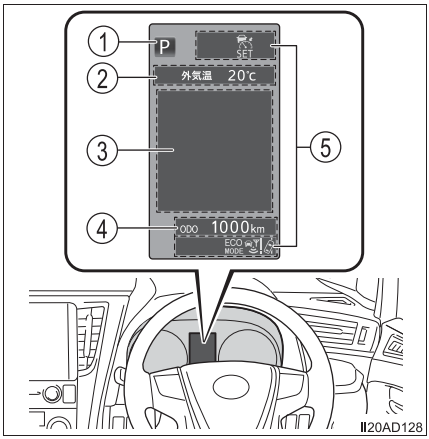
- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。
- 水温計の針が H のレッドゾーンに入ったときや、マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」が表示されたときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→ P. 641）

マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイは、燃費に関する情報や、走行に関する各種の情報などを表示します。また、メーター操作スイッチの操作で、後席の照明や各システムの設定などを変更することもできます。

◆ 画面の見方

マルチインフォメーションディスプレイには、次の情報が表示されます。



① シフトポジション･変速段／ギヤ段表示（→ P. 78）

② 外気温･メニューアイコン表示部

通常は外気温が表示されます。（→ P. 78）

メーター操作スイッチ（→ P. 84）を操作すると、数秒のあいだ、メニューアイコンが表示されます。※（→ P. 85）

③ 情報表示部

ドライブインフォメーション（→ P. 87）や各種のメッセージなどを表示します。

④ オドメーター／トリップメーター／アイドリングストップ時間割り込み★表示部（→ P. 79）

エンジンスイッチを操作してアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードに切りかえると、現在のエンジンスイッチのモードが表示されます。（→ P. 247）

⑤ 表示灯表示部

各機能の ON・OFF 状態や設定状況などに従って、関連する表示灯類が点灯・消灯します。（→ P. 72）

※ を押したときは、メニューアイコンが表示されません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■マルチインフォメーションディスプレイの作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■割り込み表示について

次の機能の作動状況に従って、マルチインフォメーションディスプレイに割り込み画面が表示されます。

- 交差点案内★
- 電話着信★
- Stop & Start システム作動時間★
- Stop & Start システム状態通知★
- メーター照度調整

これらの機能の割り込み表示が不要な場合は、画面の「割込表示」で OFF に設定することもできます。（→ P. 92）

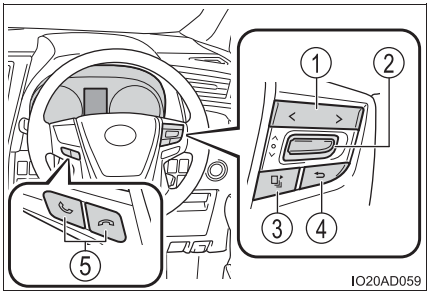
■液晶ディスプレイについて

→ P. 80

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ 操作方法

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。



① メニューの切りかえ ※1

② 上下に操作：
画面の切りかえ・
カーソルの移動 ※1

押す：
決定・次画面へ移動 ※2・
機能の ON ／ OFF※2

③ トップ画面に移動

スイッチを押すと に登録されている画面が表示されます。

④ ひとつ前の画面にもどる

⑤ 電話の発着信・履歴表示

ハンズフリーシステムと連携して、発着信の表示や操作を行うことができます。ハンズフリーシステムについて詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」または「マルチメディア取扱書」を参照してください。

※1 画面のスクロールや表示の切りかえなどが可能な画面では、操作方向を示すマーク（ ・ など）が表示されます。

※2 一部の機能のみ

知識

■ トップ画面について

●工場出荷時は、ドライブインフォメーション画面が登録されています。

●トップ画面を変更するときは、登録したい画面の表示中に を押し続け、 を上下に操作して「はい」を選択し、 を押します。

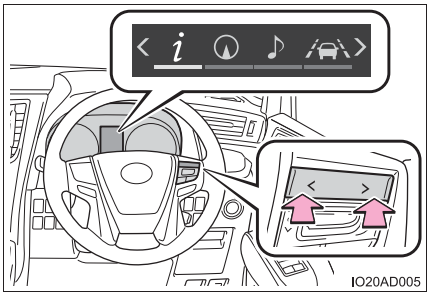
●登録できない画面を選択しようとした場合、「この画面は に登録できません」と表示されます。

● 画面の「 スイッチ設定」で、トップ画面の登録方法を確認できます。（→ P. 92）

◆ メニューアイコン

メーター操作スイッチの < > を操作してアイコンを選択することで、各アイコンに関連付けられた情報を表示することができます。

項目によっては状況に応じて自動で表示されます。



ドライブインフォメーション

走行に関するさまざまな情報を表示します。（→ P. 87）

ナビゲーションシステム連携画面★

T-Connect ナビゲーションシステム、T-Connect ナビキット、またはエントリーナビキットと連携して、方位計などを表示します。
また、ナビゲーションシステムでの目的地案内中に交差点案内が行われると、マルチインフォメーションディスプレイにも交差点案内が表示されます。

目的地の設定・地図の向きの切りかえなどについては、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」、または別冊「ナビゲーション取扱書」を参照してください。

オーディオ連携画面★

選択されているオーディオソースの情報を表示します。

・オーディオソースを切りかえるには、メーター操作スイッチの を押してオーディオソース選択画面を表示し、 を上下に操作してご希望のオーディオソースを選択してから を押します。

・オーディオソースの変更を中止する場合は、オーディオソース選択画面で を押します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

走行支援システム連携画面

次のシステムの作動状況を表示します。

・ LTA（レーントレーシングアシスト）（→ P. 309）
・ RSA（ロードサインアシスト）（→ P. 321）
・ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→ P. 326）
・ ITS Connect★（→ P. 345）

Stop & Start システム情報画面★

Stop & Start システムの作動状況を表示します。（→ P. 364）

後席状態表示画面

リヤエアコンの作動状態、および後席パワーウインドウ・リヤムーンルーフ★の開閉状態を確認できます。また、後席の照明に関する設定を変更することもできます。（→ P. 90）

警告メッセージ表示画面

車両に異常が発生した場合に、内容・対処法などのメッセージを表示します。（→ P. 593）

・ 警告メッセージがないときは、「メッセージなし」と表示されます。
・ 複数の警告メッセージがあるときは、メーター操作スイッチの を上下に操作することで、表示を切りかえることができます。
・ 確認可能な警告メッセージがあるときは が黄色で表示されます。

設定画面

車両の機能やマルチインフォメーションディスプレイの表示などに関する設定を変更できます。（→ P. 92）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ドライブインフォメーション

メーター操作スイッチの を上下に操作することで、画面上に表示される情報を切りかえることができます。

■ ドライブインフォ 1 ／ドライブインフォ 2

次の中から選択した情報を 1 画面ごとに 2 つずつ、ドライブインフォ 1 ／ドライブインフォ 2 として表示することができます。

ドライブインフォ 1 ／ドライブインフォ 2 に情報を登録する方法については、P. 92 を参照してください。

表示される情報は、参考としてご利用ください。

項目		表示内容
瞬間燃費	バー表示	現在の瞬間燃費をバーグラフで表示します。
平均燃費	リセット間 ※	前回リセットしてからの平均燃費を表示します。
	始動後	エンジン始動後の平均燃費を表示します。
	給油後	給油後の平均燃費を表示します。
平均車速	リセット間 ※	前回リセットしてからの平均車速を表示します。
	始動後	エンジン始動後の平均車速を表示します。
走行時間	リセット間 ※	前回リセットしてからの経過時間を表示します。
	始動後	エンジン始動後の経過時間を表示します。
距離	航続可能距離	現在の燃料残量で走行可能な、およその距離を表示します。（→ P. 88）
	始動後	エンジン始動後の走行距離を表示します。
その他	ブランク	情報を非表示にします。

※ リセットするには、リセットしたい項目の表示中にメーター操作スイッチの を押し続けます。

リセットが可能な情報が 1 画面上に 2 つ表示されているときは、リセットする情報を選択する画面が表示されます。その場合は、 を上下に操作してリセットしたい情報を選択し、 を押します。

その後、「実行」を選択して を押すと、情報がリセットされます。

■ エコインジケーター
（エコドライブインジケーターゾーン表示）

→ P. 89

■ 4WD Control（4WD 作動状態表示）★

→ P. 89

■ 車速（デジタルスピードメーター）

車両の走行速度を示します。

■ ブランク表示（画面 OFF）

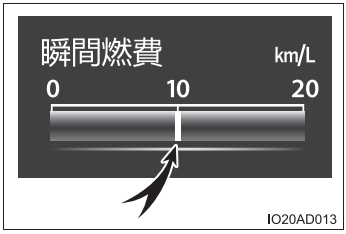
ドライブインフォメーションが非表示になります。

知識

■瞬間燃費について（→ P. 87）

●バーグラフ内の縦線は、現在のリセット間平均燃費（→ P. 87）を表しています。

●リセット間平均燃費をリセットすると、縦線の位置も 0 にもどります。



■航続可能距離について

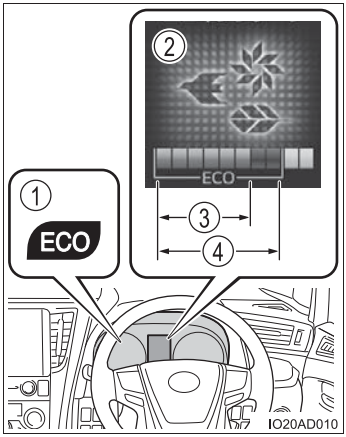
●運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。

●燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。この場合、燃料計の表示と共に更新することができます。（→ P. 81）

●「給油してください」と表示されたときは、燃料残量が少ないため、航続可能距離の計算ができません。
その場合は、すみやかに給油してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■エコドライブインジケーター



① エコドライブインジケーターランプ※

環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケーターランプが点灯します。必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。

② エコドライブインジケーターゾーン表示

エコ運転の範囲と現状のアクセル開度を表示します。

③ 現状のアクセル開度

現状のアクセル開度がエコ運転の範囲をこえたとき、エコドライブインジケーターゾーン表示の右側が点灯します。
このとき、エコドライブインジケーターランプは消灯します。

④ エコ運転の範囲

次の場合、エコドライブインジケーターは作動しません。

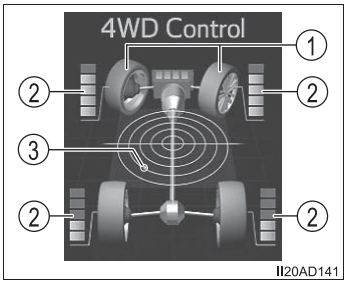
●シフトレバーが D 以外にあるとき

●車速が約 100km/h 以上のとき

※ エコドライブインジケーターランプの作動／非作動を設定できます。
(→ P. 92)

■4WD 作動状態表示（4WD 車）

4WD システムの作動状況などの情報を表示します。



① 操舵表示

前輪の表示の変化により、ハンドルの操作量と操作方向を表示します。

② 駆動力表示

0 ～ 5 の 6 段階で、各車輪の駆動状態を表示します。

③ G 表示

ボールの表示位置の変化により、車両にかかる G の大きさと方向を表示します。

図の画面表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

後席状態表示画面

リヤエアコン・後席パワーウインドウ・リヤムーンルーフ★の状態を確認できます。また、後席の照明の設定を変更することができます。

■ 後席エアコン状態

リヤエアコンに関する、次の情報が表示されます。

- 現在の吹き出し口のモード
- 設定温度
- AUTO 作動の有無
- 風量

リヤエアコンの操作については、P. 487 を参照してください。

■ 後席窓開状態

後席パワーウインドウ・リヤムーンルーフ★が開いているときに、メッセージが表示されます。

■ 天井照明設定

後席の照明類の設定を変更することができます。

1 メーター操作スイッチの を上下に操作してご希望の項目を選択し、 を押す

選択した項目の設定画面が表示されます。

2 設定画面で を上下に操作してご希望の設定を選択し、 を押す

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

項目	設定内容	設定結果
照度調整	消灯	ルーフカラーイルミネーションが消灯する
	100%	ルーフカラーイルミネーションの照度が切りかわる ※
	75%	
	50%	
	25%	
照明色切替	照明色 1 ～ 16	ルーフカラーイルミネーションの照明色が切りかわる ※
パーソナルランプ ★	消灯	・すべてのパーソナルランプが消灯する ・ラウンジモードが解除される
	ラウンジモード（→ P. 497）	リヤパーソナルランプがラウンジモードに切りかわる

※ ルーフカラーイルミネーションの消灯中に「照度調整」または「照明色切替」の設定操作を行うと、設定した照度・照明色で、ルーフカラーイルミネーションが点灯します。

知識

■後席の照明について

後席の照明の設定は、それぞれの照明の操作スイッチで変更することもできます。（→ P. 496, 499）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

設定画面

メーター操作スイッチで、車両の設定や画面の表示内容などを変更することができます。

■ 設定変更のしかた

1 メーター操作スイッチの < > を操作して を選択する

2 メーター操作スイッチの を上下に操作して設定を変更したい項目を選択し、 を押す

機能のON ／ OFF や機能の感度レベルなどを設定する項目では、 を押すたびに機能の ON ／ OFF、または調整レベルが切りかわります。

機能の作動内容や表示内容などを設定できる項目では、設定画面が表示されます。

3 設定画面が表示されたときは、メーター操作スイッチを操作して、いずれかの設定を選択、または時間などを希望の値に設定する ※

作動内容や設定値などを選択する項目では、ご希望の設定を選択、または値を設定したあと、 を押します。

設定を中止する場合は、 を押します。

設定の実行を確認する画面が表示された場合は、実行か中止を選択の上、 を押します。

※ 設定項目の種類によっては、項目を選択すると、さらに次の設定画面が表示される場合があります。

■ 設定項目一覧

項目	設定内容		設定結果
LTA	センタートレース	有	車線維持支援機能の有無が切りかわる（→ P. 314）
		無	
	操舵支援	有	操舵支援の有無が切りかわる（→ P. 313）
		無	
	警報感度		車線逸脱警報機能の感度が切りかわる（→ P. 98）
	ふらつき検知	有	ふらつき警報機能の有無が切りかわる（→ P. 314）
		無	
	ふらつき検知感度		ふらつき警報機能の感度が切りかわる（→ P. 98）
クリアランスソナー	クリアランスソナー	On	クリアランスソナーの ON ／ OFF が切りかわる（→ P. 376）
		Off	
	クリアランスソナー音量		クリアランスソナーブザーの音量が切りかわる（→ P. 98）
PKSB	On		PKSB の ON ／ OFF が切りかわる（→ P. 400）
	Off		
PCS	PCS	On	PCS（プリクラッシュセーフティ）の ON ／ OFF が切りかわる（→ P. 302）
		Off	
	警報感度		衝突警報の作動タイミングが切りかわる（→ P. 98）

<table>
<tr><th colspan="3">項目</th><th colspan="2">設定内容</th><th>設定結果</th></tr>
<tr><td colspan="3">BSM★</td><td colspan="2">On</td><td rowspan="2">ブラインドスポットモニターの ON ／ OFF が切りかわる（→ P. 369）</td></tr>
<tr><td colspan="3"></td><td colspan="2">Off</td></tr>
<tr><td colspan="3">RCTA★</td><td colspan="2">On</td><td rowspan="2">RCTA 機能の ON ／ OFF が切りかわる（→ P. 391）</td></tr>
<tr><td colspan="3"></td><td colspan="2">Off</td></tr>
<tr><td rowspan="13" colspan="3">RSA</td><td colspan="2" rowspan="2">RSA</td><td>On</td><td rowspan="2">RSA の ON ／ OFF が切りかわる（→ P. 324）</td></tr>
<tr><td>Off</td></tr>
<tr><td rowspan="9">告知手段</td><td rowspan="3">速度超過</td><td>告知なし</td><td rowspan="3">速度超過を認識したときの告知手段が切りかわる（→ P. 323）</td></tr>
<tr><td>表示のみ</td></tr>
<tr><td>表示とブザー</td></tr>
<tr><td rowspan="3">追い越し</td><td>告知なし</td><td rowspan="3">はみ出し通行禁止区間で追い越し操作を認識したときの告知手段が切りかわる（→ P. 323）</td></tr>
<tr><td>表示のみ</td></tr>
<tr><td>表示とブザー</td></tr>
<tr><td rowspan="3">その他</td><td>告知なし</td><td rowspan="3">車両進入禁止区間に進入したと認識したときの告知手段が切りかわる（→ P. 323）</td></tr>
<tr><td>表示のみ</td></tr>
<tr><td>表示とブザー</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">告知車速</td><td>10 km/h</td><td rowspan="3">速度超過時の告知タイミングが切りかわる（→ P. 323）</td></tr>
<tr><td>5 km/h</td></tr>
<tr><td>2 km/h</td></tr>
<tr><td colspan="3">nanoe★</td><td colspan="2">On</td><td rowspan="2">「ナノイー」※の ON ／ OFF が切りかわる（→ P. 479）</td></tr>
<tr><td colspan="3"></td><td colspan="2">Off</td></tr>
<tr><td colspan="3">車両設定</td><td colspan="3">「車両設定」設定項目一覧：→ P. 95</td></tr>
<tr><td colspan="3">表示設定</td><td colspan="3">「表示設定」設定項目一覧：→ P. 97</td></tr>
</table>

※「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■「車両設定」設定項目一覧

項目	設定内容		設定結果
Stop & Start★	Long		エアコンがONのときのアイドリングストップ時間が切りかわる（→ P. 363）
	Normal		
BSM★	明るさ		ドアミラーインジケーターの明るさが切りかわる（→ P. 98）
	感度		接近車両の検知を知らせるタイミングが切りかわる（→ P. 98）
RCTA 音量★			RCTAブザーの音量が切りかわる（→ P. 98）
先行車発進告知	先行車発進告知	On	先行車発進告知機能の ON ／ OFF が切りかわる（→ P. 344）
		Off	
	告知距離		先行車の発進を告知する距離が切りかわる（→ P. 98）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

項目	設定内容		設定結果
ITS Connect★	信号情報	On	赤信号注意喚起などの ON ／ OFF が切りかわる（→ P. 353）
		Off	
	道路環境情報	On	一時停止注意喚起などの ON ／ OFF が切りかわる（→ P. 353）
		Off	
	緊急車両通知	On	緊急車両存在通知の ON ／ OFF が切りかわる（→ P. 353）
		Off	
	通知感度		ITS Connect で各注意喚起を通知するタイミングが切りかわる（→ P. 98）
クルーズ（ITS）★	On		通信利用型レーダークルーズコントロールの ON ／ OFF が切りかわる（→ P. 353）
	Off		
IPA★	リバース連動	On	シフトレバーをRにしたときの、インテリジェントパーキングアシスト2連動機能の ON ／ OFF が切りかわる（→ P. 430）
		Off	
	音声案内	On	インテリジェントパーキングアシスト 2 の、音声案内の ON ／ OFF が切りかわる（→ P. 420）
		Off	
	ブザー音色	ブザー A	パワースライドドア作動開始／作動中の、ブザーの音色が切りかわる（→ P. 126）
		ブザー B	
		ブザー C	
	ブザー音量	Off	パワースライドドア作動開始／作動中の、ブザーの音量が切りかわる（→ P. 126）
		小	
		大	
	待ち時間★	0.5 秒	ウェルカムパワースライドドアによる、スライドドア開作動開始までの待ち時間が切りかわる（→ P. 130）
		1.5 秒	
		2.5 秒	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■「表示設定」設定項目一覧

項目	設定内容		設定結果
言語	日本語		マルチインフォメーションディスプレイに表示される言語が切りかわる
	English（英語）		
単位	km/L		燃費表示の単位が切りかわる
	L/100km		
ECO	On		エコドライブインジケーター（→ P. 89）の作動／非作動が切りかわる
	Off		
ドライブインフォ 1※			→ P. 87
ドライブインフォ 2※			
割込表示	交差点案内★	On	選択した項目の、マルチインフォメーションディスプレイへの割り込み表示の有無が切りかわる（→ P. 83）
		Off	
	電話着信★	On	
		Off	
	Ⓐ作動時間★	On	
		Off	
	Ⓐ状態通知★	On	
		Off	
	照度調整	On	
		Off	
カラー	表示色 1 ～ 4		マルチインフォメーションディスプレイの表示色が切りかわる
スイッチ設定	―		トップ画面（→ P. 84）を変更する方法が表示される
表示設定初期化	はい		実行すると、マルチインフォメーションディスプレイの設定が工場出荷時の状態にもどる
	いいえ		

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ ドライブインフォ 1 ／ドライブインフォ 2 を選択すると、現在登録されている情報の名称が表示されます。いずれかの情報名を選択し、選択画面で新たに表示させたい情報を選択することで、ドライブインフォ1 ／ドライブインフォ 2 に表示される情報を変更できます。

知識

■バッテリー端子の脱着をしたとき

バッテリー端子の脱着を行うと、ドライブインフォメーションの一部のデータ（メーター操作スイッチの操作でリセット可能な項目）がリセットされます。

■設定項目について

●「RSA ／告知手段」・「RSA ／告知車速」・「車両設定」・「表示設定」の各設定項目は、走行中は選択不可になり、操作できません。また、次の場合は設定画面が一時中断されます。

・警告メッセージが表示されたとき
・走行し始めたとき

●車両に装着されていない機能の設定項目は表示されません。

●設定変更の対象となる機能が OFF になっているときは、関連する設定項目も選択不可になります。

■感度などを設定する項目について

設定画面上のアイコンは、それぞれ次の意味を表しています。

設定項目		アイコン	設定結果
LTA (→ P. 93)	警報感度		高い
			普通
	ふらつき検知感度		高い
			普通
			低い
クリアランスソナー (→ P. 93)	音量		大
			中
			小

設定項目		アイコン	設定結果
PCS (→ P. 93)	警報感度		早い
			中間
			遅い
BSM★ (→ P. 95)	明るさ		明るい
			暗い
	感度		早い
			中間
			遅い
			死角領域のみ
RCTA 音量★ (→ P. 95)			大
			中
			小
先行車発進告知 (→ P. 95)	告知距離		遠い
			普通
			近い
ITS Connect★ (→ P. 96)	通知感度		高い
			低い

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**走行中の警告**

安全のため、メーター操作スイッチはできるだけ走行中に操作しないでください。メーター操作スイッチは、安全な場所に停車して操作してください。走行中に操作すると、ハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、走行中は画面を見続けないでください。

■**ディスプレイの設定を変更するとき**

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■**ディスプレイの設定を変更するとき**

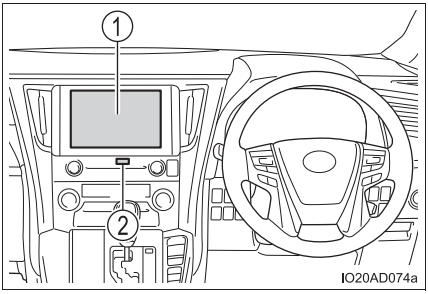
バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

燃費画面★／ESPO 画面★

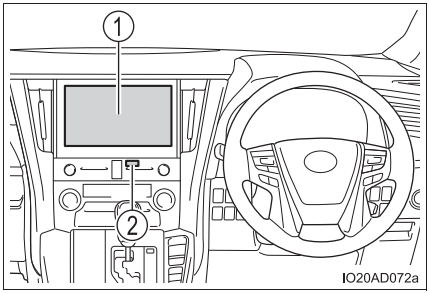
燃費に関する情報をマルチメディア画面★に表示します。

システムの構成部品

▶ T-Connect　ナビゲーションシステム非装着車



▶ T-Connect　ナビゲーションシステム装着車



① マルチメディア画面

② 「MENU」スイッチ

燃費画面の表示のしかた

▶ T-Connect　ナビゲーションシステム非装着車／ T-Connect　ナビキット非装着車／エントリーナビキット非装着車

「MENU」スイッチにタッチし、「情報」を選択する

▶ T-Connect ナビゲーションシステム装着車／ T-Connect ナビキット装着車／エントリーナビキット装着車

1 「MENU」スイッチにタッチし、「情報」を選択して、情報画面を表示させる

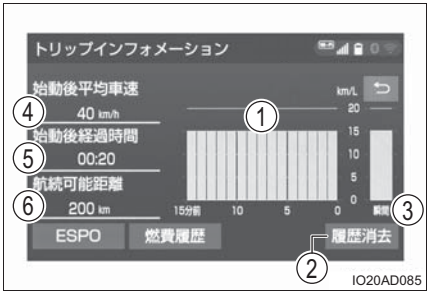
2 「エコ情報」を選択する

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

燃費画面の見方

■ トリップインフォメーション表示

トリップインフォメーション表示以外が表示されたときは、「トリップインフォメーション」を選択します。



① 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費（平均燃費）

平均燃費はエンジンスイッチをイグニッション ON モードにしてからと、前回走行時で色分けして表示されます。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

② 履歴消去

③ 瞬間燃費

④ エンジン始動後平均車速

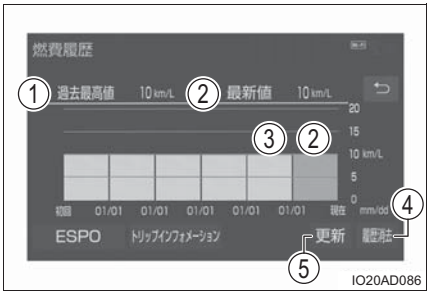
⑤ エンジン始動後走行時間

⑥ 航続可能距離

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ 燃費履歴表示

燃費履歴表示以外が表示されたときは、「燃費履歴」を選択します。



① 過去最高値表示

② 最新値表示

③ 過去平均燃費表示

平均燃費は最後に更新してからの平均、過去の平均で色分けして表示されます。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

④ 履歴消去

⑤ 最新値更新

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

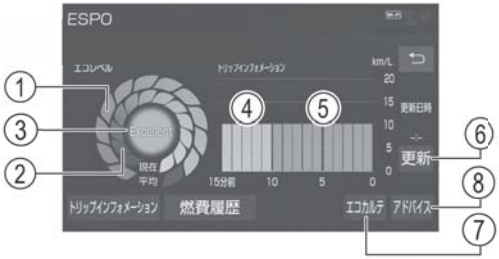
ESPO 画面の表示のしかた（T-Connect ナビゲーションシステム装着車／ T-Connect ナビキット装着車）

1 「MENU」スイッチにタッチし、「情報」を選択して、情報画面を表示させる

2 「エコ情報」を選択する

ESPO 画面以外が表示されたときは、「ESPO」を選択します。

ESPO 画面の見方（T-Connect ナビゲーションシステム装着車／ T-Connect ナビキット装着車）



II20AD110

① エコレベル平均値

エコレベルインジケーターの平均値を表示します。マークが増えるほど、環境に配慮した運転をしていることになります。

② エコレベルメーター

エコ運転のレベルを表示します。マークが増えるほど、環境に配慮した運転をしていることになります。

③ エコレベルインジケーター

エコレベルメーターのレベルに応じて Good・Excellent が表示されます。レベルが低い場合は表示されません。

④ 毎分燃費（前回エンジン始動～エンジン停止）

1 分ごとの平均燃費を最大 15 分前までグラフ表示します。
今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

⑤ 毎分燃費（今回エンジン始動～現在）

1 分ごとの平均燃費を最大 15 分前までグラフ表示します。
今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

⑥ 更新スイッチ ※

走行情報などをトヨタスマートセンターへ送信し、ステータスなどを更新します。

⑦ エコカルテスイッチ ※

お車から送信された情報を反映して、月間の走行距離・ガソリン消費量・CO_2 排出量・平均燃費などが表示されます。

⑧ アドバイススイッチ

・ドライバーの運転操作についてエコ運転の観点で診断した結果を表示します。よいところを確認したり、さらによくするにはどうしたらよいかを知ることができます。
・エコ運転や環境に関する豆知識を表示します。

※ T-Connect をご利用されているときに表示されます。
詳しくは、別冊「ナビゲーション取扱書」または「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

知識

■燃費履歴表示の記録を更新するには

燃費履歴表示で「更新」を選択すると、平均燃費の値とグラフが更新され、新たに平均燃費の記録を開始します。

マルチインフォメーションディスプレイに表示される平均燃費も同時にリセットされます。

■燃費データをリセットするには

「履歴消去」を選択すると、燃費データがリセットされます。

■航続可能距離について

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を示します。
表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

■トヨタスマートセンターへ送信する走行情報について

トヨタスマートセンターへ送信する走行情報は、マルチメディアシステムが算出するものであり、マルチインフォメーションディスプレイに表示される走行距離や燃費などとは一致しないことがあります。

各部の操作 3

3-1. キー

キー..... 106

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた

フロントドア 112

スライドドア 119

バックドア 138

スマートエントリー＆
スタートシステム 148

3-3. シートの調整

フロントシート.....155

セカンドシート.....160

サードシート.....175

パワーイージーアクセス
システム／
ポジションメモリー
（フロントシート）／
メモリーコール機能 178

セカンドシート
ポジションメモリー 184

ヘッドレスト.....186

シートアレンジ.....193

3-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル 205

インナーミラー.....207

デジタルインナーミラー 209

ドアミラー 221

補助確認装置.....224

3-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉

パワーウインドウ.....225

ツインムーンルーフ.....229

キー

キーについて

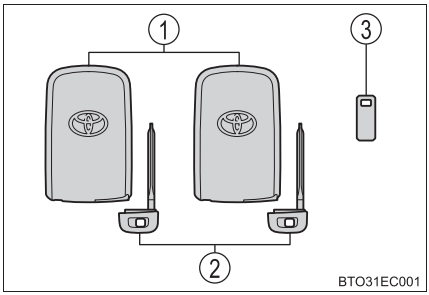
お客様へ次のキーをお渡しします。

① 電子キー
- スマートエントリー&スタートシステムの作動（→ P. 148）
- ワイヤレス機能の作動

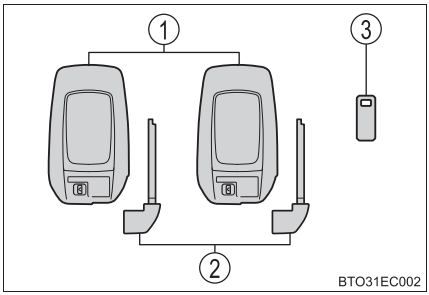
② メカニカルキー

③ キーナンバープレート

▶ パワーバックドア非装着車

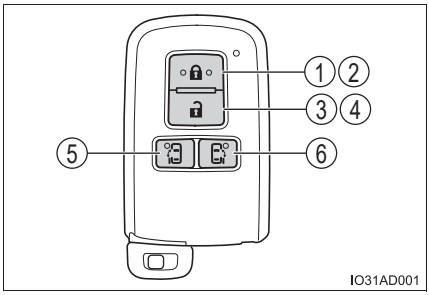


▶ パワーバックドア装着車



ワイヤレスリモコン

▶ パワーバックドア非装着車



① 全ドアを施錠する（→ P. 113）

② ドアガラスとリヤムーンルーフ★を閉める※（→ P. 113）

③ 全ドアを解錠する（→ P. 113）

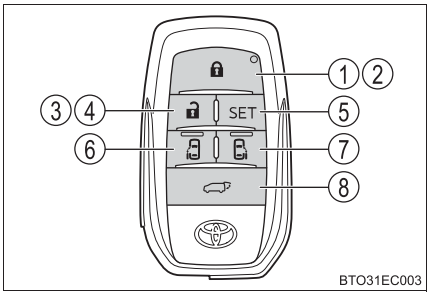
④ ドアガラスとリヤムーンルーフ★を開く※（→ P. 113）

⑤ 助手席側パワースライドドアを開閉する（→ P. 120）

⑥ 運転席側パワースライドドアを開閉する（→ P. 120）

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。（→ P. 662）

▶ パワーバックドア装着車



① 全ドアを施錠する（→ P. 113）

② ドアガラスとリヤムーンルーフ★を閉める※（→ P. 113）

③ 全ドアを解錠する（→ P. 113）

④ ドアガラスとリヤムーンルーフ★を開く※（→ P. 113）

⑤ ウェルカムパワースライドドア★を予約する（→ P. 124）

⑥ 助手席側パワースライドドアを開閉する（→ P. 120）

⑦ 運転席側パワースライドドアを開閉する（→ P. 120）

⑧ パワーバックドアを開閉する（→ P. 140）

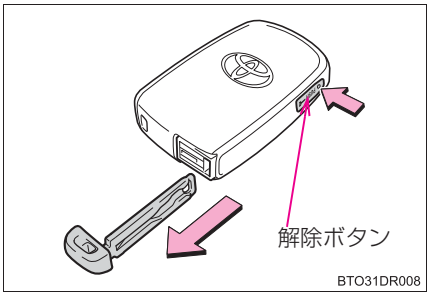
※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。（→ P. 662）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

メカニカルキーを使うには

▶ パワーバックドア非装着車

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出す

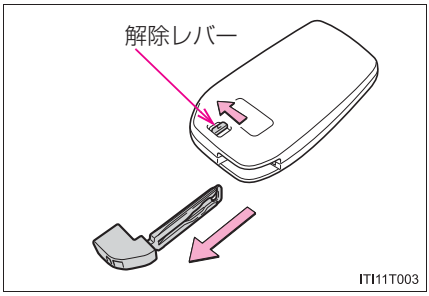


メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→ P. 632）

▶ パワーバックドア装着車

メカニカルキーを取り出すには、解除レバーをスライドさせてキーを取り出す



メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→ P. 632）

知識

■メカニカルキーを紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。
キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

■航空機に乗るとき

航空機にキーを持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。

●電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。

・スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
・作動範囲が狭くなった
・電子キーの LED が点灯しない

電池はお客様自身で交換することができます（→ P. 560）が、交換の際にキーが破損するおそれがあるため、トヨタ販売店での交換をおすすめします。

●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の1m以内に電子キーを保管しないでください。

・TV
・パソコン
・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・電気スタンド
・電磁調理器

●長期間使用しない電子キーは、節電モードにすることで電池の消耗を抑えることができます。（→ P. 150）

■電子キーの状態や、エンジンスイッチのモードに関するメッセージが表示されたときは

車内への電子キーの閉じ込みや、同乗者による電子キーの持ち出し、電源の切り忘れなどを防止するため、電子キーやエンジンスイッチなどの状態の確認をうながすメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されることがあります。その場合は、表示内容に従ってすみやかに対処してください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「キーの電池残量が少なくなっています 電池を交換してください」が表示されたときは

電子キーの電池残量が少なくなっています。新しい電池と交換してください。
（→ P. 560）

■電池の交換方法

→ P. 560

■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

■不正キーの使用について

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

⚠注意

■キーの故障を防ぐために

- ●落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- ●温度の高いところに長時間放置しない
- ●ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- ●キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- ●分解しない
- ●電子キー表面にシールなどを貼らない
- ●テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品の近くに置かない
- ●電気医療機器（マイクロ波治療機器や低周波治療機器など）の近くに置いたり、身に付けたまま治療を受けたりしない

■キー取り扱いの注意

電子キーは電波法の認証に適合しています。
必ず以下のことをお守り下さい。
・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
・必ず日本国内でご使用下さい。

■キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

■電子キーを紛失したとき

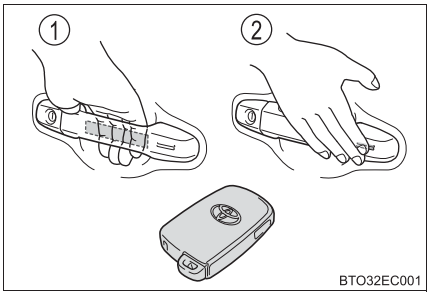
電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちのうえ、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

フロントドア

車外からの解錠／施錠

◆ スマートエントリー＆スタートシステム

電子キーを携帯して操作します。



① ドアハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

② ドアハンドル表面のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

◆ ワイヤレスリモコン

① 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

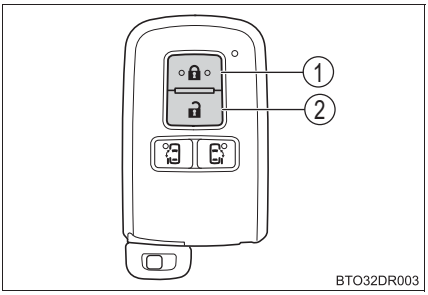
押し続けるとドアガラスとリヤムーンルーフ★が閉まります。※

② 全ドアを解錠する

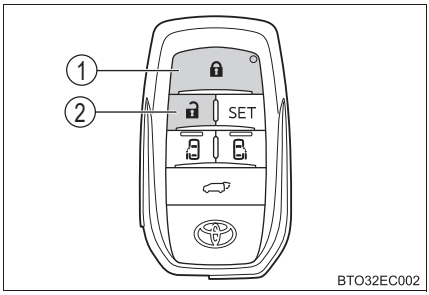
押し続けるとドアガラスとリヤムーンルーフ★が開きます。※

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。（→ P. 662）

▶ パワーバックドア非装着車



▶ パワーバックドア装着車



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■作動の合図

ドア：ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

ドアガラス・リヤムーンルーフ★：ワイヤレスリモコンによる開閉をブザーで知らせます。

■解錠操作のセキュリティ機能

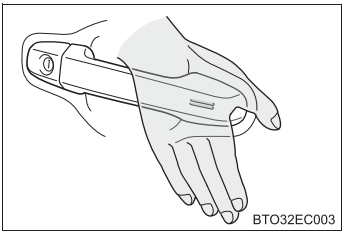
解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため自動的に施錠されます。

セキュリティ機能で施錠されたとき、電子キーの位置によって室内の作動範囲内に電子キーがあると検知されると、再度解錠されることがあります。

■ドアハンドル表面のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル表面のロックセンサーに指でふれても施錠できないときは、手のひらでロックセンサーにふれてください。

手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。



■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態で、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使ってドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。
ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■オートアラームの設定

施錠するとオートアラームが設定されます。（→ P. 68）

■スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→ P. 632）

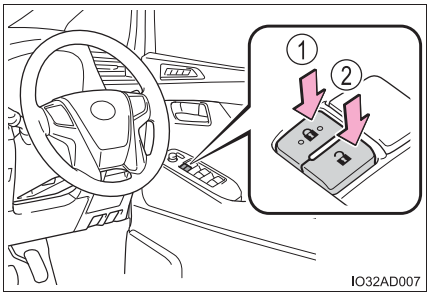
電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。（→ P. 560）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車内からの施錠／解錠

◆ ドアロックスイッチ

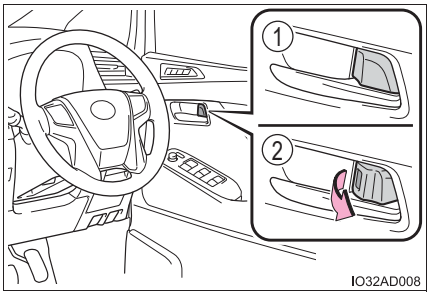
① 全ドアを施錠する
② 全ドアを解錠する



◆ ロックレバー

① ドアを施錠する
② ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開きます。



キーを使わずに外側からフロントドアを施錠するとき

1 ロックレバーを施錠側にする

2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

機能	作動内容
シフト操作連動ドアロック	エンジンが作動中にシフトレバーを P から動かすと全ドアが施錠されます。
シフト操作連動アンロック	シフトレバーを P に入れると全ドアが解錠されます。
車速感応オートドアロック	速度が約 20 km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
運転席ドア開連動アンロック	エンジンスイッチを OFF にしてから約 45 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

■ **設定・解除のしかた**

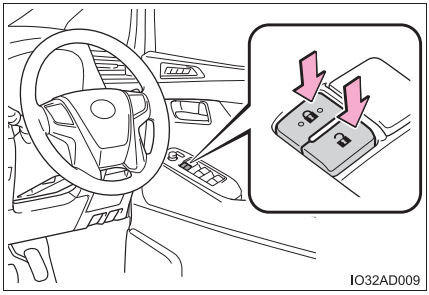
次の手順で、各機能の設定と解除が交互に切りかわります。

1 すべてのドアを閉め、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする（その後 20 秒以内に 2 を行う）

2 シフトレバーを P または N に入れ、運転席ドアロックスイッチの 🔒 または 🔓 を約 5 秒間押して離す

設定を行う機能によってシフトレバーとスイッチの位置を次の表から選択します。

機能を解除するには、同じ手順を行います。



機能	シフトレバーの位置	運転席ドアロックスイッチ
シフト操作連動ドアロック	P	🔒
シフト操作連動アンロック		🔓
車速感応オートドアロック	N	🔒
運転席ドア開連動アンロック		🔓

設定または解除の切りかえ操作が完了すると、すべてのドアが施錠されたあと、解錠されます。

マルチメディア画面装着車は、マルチメディア画面からでも設定の変更が行えます。（→ P. 654, 655）

知識

■衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。
衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

■メカニカルキーでの施錠・解錠

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→ P. 632）

■半ドア走行時警告ブザー

いずれかのドア、またはボンネットが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえるとマスターウォーニングが点滅し、警告ブザーが鳴ります。
開いているドア、またはボンネットがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 151

警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアレバーを引かない
  特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

■ドアを開閉するときの留意事項

傾斜した場所・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

■ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスやリヤムーンルーフ★を操作するとき

ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。
またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

スライドドア

スライドドアは次の方法で解錠・施錠および開閉することができます。

車外からの解錠／施錠

◆ スマートエントリー＆スタートシステム

→P. 112

◆ ワイヤレスリモコン

→P. 113

車内からの解錠／施錠

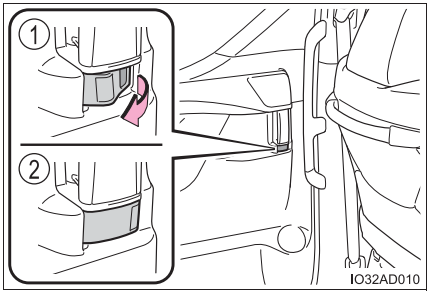
◆ ドアロックスイッチ

→P. 115

◆ ロックレバー

① 解錠

② 施錠



スライドドアの自動開閉（パワースライドドア）

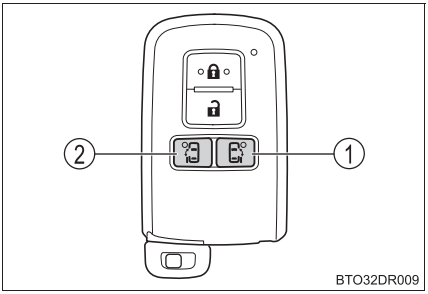
◆ ワイヤレスリモコン

① 運転席側パワースライドドアを開閉する（押し続ける）

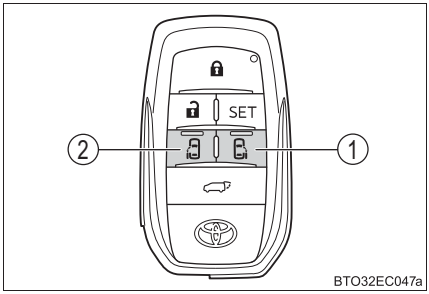
② 助手席側パワースライドドアを開閉する（押し続ける）

スライドドアを解錠してから操作してください。

▶ パワーバックドア非装着車



▶ パワーバックドア装着車

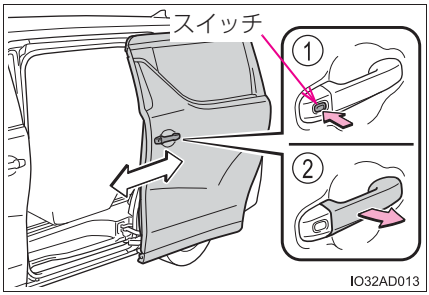


◆ スライドドアハンドル

① スイッチを押して開閉する

ドアが施錠されているとき：
電子キーを携帯してスイッチを押すと、すべてのドアが解錠され、スライドドアが自動で開きます。
電子キーが検知エリア内(→P. 148)にある状態で、スイッチを押してください。

ドアが解錠されているとき：
電子キーを携帯していなくても、スイッチを押すとスライドドアが自動で開閉します。



② ドアハンドルを引いて開閉する

スライドドアを解錠してから操作してください。

自動開閉中にスイッチを押す、またはドアハンドルを引くと、作動を停止します。再度スイッチを押す、またはドアハンドルを引くと、反転作動します。

◆ インサイドドアハンドル

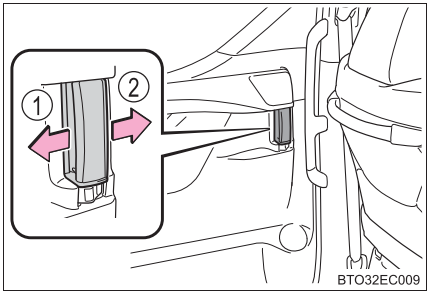
① 開ける

スライドドアを解錠してから操作してください。

② 閉める

ドアハンドルを操作するとパワースライドドアが自動で全開または、全閉になります。

また、自動開閉作動中に再度ドアハンドルを操作すると自動開閉作動が停止します。



◆ パワースライドドア開閉スイッチ

スイッチを約 1 秒押す

スライドドアを解錠してから操作してください。

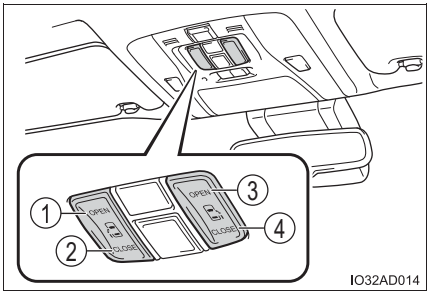
▶ オーバーヘッドコンソール

① 助手席側パワースライドドアを開ける

② 助手席側パワースライドドアを閉める

③ 運転席側パワースライドドアを開ける

④ 運転席側パワースライドドアを閉める



▶ センターパネル★

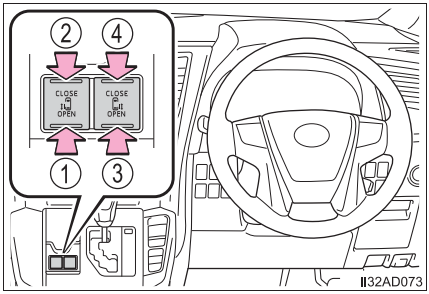
フタを開ける（→ P. 508）

① 助手席側パワースライドドアを開ける

② 助手席側パワースライドドアを閉める

③ 運転席側パワースライドドアを開ける

④ 運転席側パワースライドドアを閉める



開閉作動中に再度スイッチを押すと、作動が停止します。

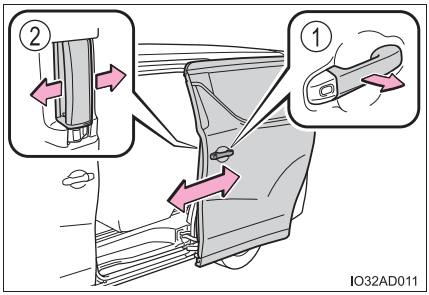
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

スライドドアの手動開閉

パワードアオフスイッチ（→ P. 123）が ON のとき、車外のスライドドアハンドル、または車内のインサイドドアハンドルを操作します。

① スライドドアハンドル

② インサイドドアハンドル



パワースライドドアの機能を停止するには

パワードアオフスイッチを ON にしてパワースライドドアの機能を停止します。

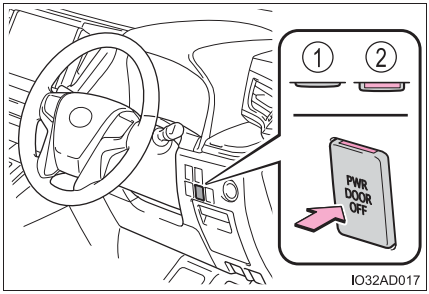
① ON

スライドドアを手動でのみ開閉できます。

ON にするとパワーバックドア★も使用できなくなります。

② OFF※

パワースライドドアをワイヤレスリモコン／スライドドアハンドル／インサイドドアハンドル／パワースライドドアスイッチの操作により、自動で開閉できます。



※ OFF にすると、スイッチ上部にオレンジ色のマークが表れます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

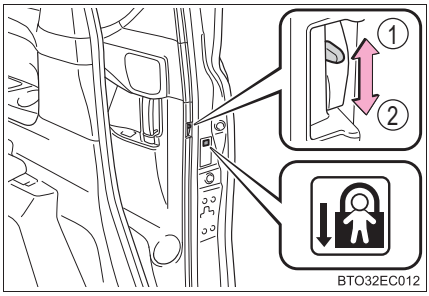
チャイルドプロテクター

施錠側にすると、インサイドドアハンドルを使用してスライドドアを開けられなくなります。

① 解錠

② 施錠

お子さまが車内からスライドドアを開けられないようにできます。両側のスライドドアを施錠側にしてください。



ウェルカムパワースライドドア★

予約（→ P. 125）が完了した電子キーを携帯して、予約した側のスライドドアのウェルカムパワースライドドアの作動範囲に入ると、すべてのドアが解錠し、そのままウェルカムパワースライドドアの作動範囲内で約2.5秒間※待つと予約した側のスライドドアが自動的に開作動します。

※ スライドドアの開作動が開始するまでの待ち時間を変更できます。（→ P. 92）

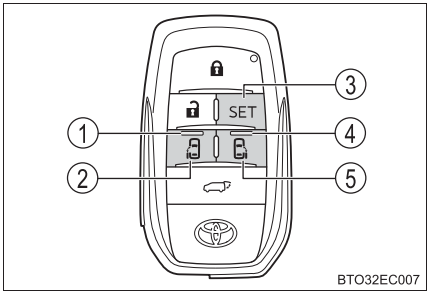
① 助手席側パワースライドドアインジケーター

② 助手席側パワースライドドアボタン

③ SET ボタン

④ 運転席側パワースライドドアインジケーター

⑤ 運転席側パワースライドドアボタン



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 予約のしかた

1 電子キーの SET ボタンを押し続ける

電子キーのパワースライドドアボタンのインジケーターが点滅します。

2 インジケーターが点滅しているあいだに、予約したい側のパワースライドドアボタンを押す

押された側のパワースライドドアボタンのインジケーターが約 3 秒間点灯し、消灯すると予約が完了します。

予約の有効時間は約 20 分間となります。予約を完了してから 20 分以上経過すると予約はキャンセルされます。

■ 予約の確認をする

電子キーの SET ボタンを押し続ける

予約された側の電子キーのパワースライドドアボタンのインジケータが約 5 秒間点灯します。

予約確認をすると、予約の有効時間はそこから約 20 分間となります。

■ 予約のキャンセル／変更をする

1 電子キーの SET ボタンを押し続ける

予約された側の電子キーのパワースライドドアボタンのインジケータが約 5 秒間点灯します。

2 インジケーターが点灯しているあいだに次の操作をする

予約をキャンセルする場合：

予約されている側（点灯している側）のパワースライドドアボタンを押す

予約を変更する場合：

予約されていない側（消灯している側）のパワースライドドアボタンを押す

知識

■スライドドアイージークローザー

スライドドアが半ドア状態になったとき、スライドドアイージークローザーが作動し、スライドドアが自動で完全に閉まります。スライドドアイージークローザーは、両側のスライドドアに装着されています。

- ●エンジンスイッチのモードに関係なく、スライドドアイージークローザーは作動します。
- ●スライドドアハンドルまたはインサイドドアハンドルを引いたままドアを閉めたときは、スライドドアイージークローザーが作動しないことがあります。
- ●スライドドアイージークローザーが作動中でも、車内のドアハンドルを引いてドアを開けることができます。（ロックレバーやチャイルドプロテクターが施錠側のときを除く）

■作動の合図（パワースライドドア使用時）

ブザーで知らせます。（作動開始時に 1 回、閉作動中は継続）

ブザーの音量・音色を変更できます。（→ P. 92）

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■給油扉が開いているとき（助手席側スライドドア）

●給油扉が開いているときは、助手席側パワースライドドアは作動しません。助手席側スライドドアは手動で開閉できますが、途中までしか開きません。（中間ストッパー位置で停止します）
中間ストッパー位置で停止したスライドドアを全開にするときは、給油扉を閉じ、いったんスライドドアを全閉にしてから、再度スライドドアを開けてください。

●助手席側パワースライドドアの自動開閉中に給油扉を開けると、ブザーが鳴り、手動操作に切りかわります。このとき約 7 秒間スライドドアにブレーキをかけ、ドアの速度を抑制します。

■パワースライドドアの作動可能条件

次の作動条件をすべて満たしているときに、自動で開閉できます。

●パワードアオフスイッチが OFF のとき

●スライドドアのドアロックが解錠されている（閉作動を除く）

●給油扉が閉じている（助手席側パワースライドドアのみ）

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのときは上記に加え、車速が 3km/h 以下かつ次のいずれかの条件を満たしていることが必要です。ただし、ワイヤレスリモコンによる開閉はできません。

●シフトレバーの位置が P のとき

●パーキングブレーキがかかっているとき

●ブレーキペダルを踏んでいるとき

■パワースライドドアの作動について

●パワードアオフスイッチが OFF のとき、ハンドルをブザーが鳴る位置まで操作すると自動で作動します。
閉作動中は、ブザーが断続的に鳴ります。

●パワードアオフスイッチが ON のときは、手動でのみ開閉できます。

●パワースライドドアの自動開閉中に、人や異物などにより挟み込みを感知すると、ブザーが鳴り、10cm 位反転作動したあとに作動を停止します。停止後にパワースライドドアを操作すると、以下のように作動します
逆方向に動く：
・アウトサイドハンドルを引くまたはスライドドアハンドルのスイッチを押す
開方向に動く：
・インサイドハンドルを開方向に引くまたはパワースライドドアスイッチ（OPEN 側）を押す
閉方向に動く：
・インサイドハンドルを閉方向に引くまたはパワースライドドアスイッチ（CLOSE 側）を押す

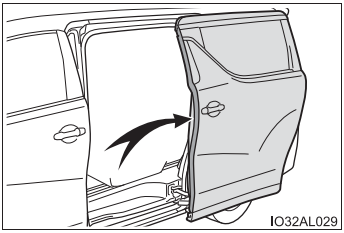
挟み込み防止機構作動後、電子キーのパワースライドドア開閉スイッチを押しても、パワースライドドアは作動しません。

■バッテリー端子を脱着したとき

パワースライドドアを適切に作動させるために、初期設定が必要です。スライドドアハンドルまたはインサイドドアハンドルを使用して、スライドドアを手動で一度全閉にしてください。

■挟み込み防止機構（パワースライドドア）

パワースライドドアの前端部には、センサーが付いています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機構が作動し、ドアは 10cm 位反転作動したあとに停止します。



■予約ロック機能について（パワースライドドア）

パワースライドドアの自動閉作動中に、あらかじめ全ドアの施錠を予約する機能です。

次の操作をすると、パワースライドドア以外のすべてのドアが施錠され、パワースライドドアも閉まると同時に施錠されます。

1 パワースライドドア以外のすべてのドアを閉じる

2 パワースライドドアの自動閉作動中にフロントドアまたはバックドアでスマートエントリー＆スタートシステムによる施錠操作を行う（→P. 112，138）またはワイヤレスリモコンによる施錠操作を行う（→P. 113）

すべてのドアが閉まり施錠されると、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。

●予約ドアロック機能使用時、施錠操作をしたあとに、キーを車内にもどすと、車内にキーが閉じ込められることがあります。
予約ドアロック機能は、必ずキーを携帯した状態で使用してください。

●予約ドアロック操作をしてパワースライドドアが自動閉作動中に、挟み込み防止機能が作動するなど停止操作が行われると、予約ドアロック機能が解除されすべてのドアが解錠されます。

●車から離れるときは、すべてのドアが閉まり施錠されたことを確認してください。

■ウェルカムパワースライドドア★の作動可能条件

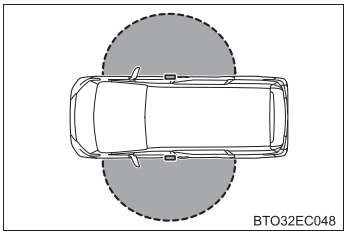
すべてのドアが施錠されているときに作動可能です。
ただし、次のときはすべてのドアが施錠されていてもウェルカムパワースライドドアは作動しません。

●ドア施錠操作後、5 秒以内
●カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたとき（→ P. 658）
●電子キーが節電モードに設定されているとき（→ P. 150）
●車内に電子キーがある状態で施錠操作をしたとき

■ウェルカムパワースライドドア★の作動範囲

●：作動範囲

フロントドアハンドルから周囲約 150cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）



■ウェルカムパワースライドドア★の作動について

●ウェルカムパワースライドドアの作動範囲内に入ってからスライドドアの開作動が開始するまでのあいだに次のことを行うとウェルカムパワースライドドアの機能がキャンセルされ、スライドドアの開作動は行われません。

・電子キーがウェルカムパワースライドドアの作動範囲内から離れた
・ドアを施錠した
・ワイヤレスリモコンを操作した
・エンジンスイッチをアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードにした

●ウェルカムパワースライドドアによるスライドドアの自動開作動中に次のことを行うと、スライドドアの開作動は停止します

・電子キーの SET ボタンまたは、パワースライドドアボタンを押した
・パワースライドドアの停止操作を行った
・挟み込み防止機能が作動した

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ウェルカムパワースライドドア★が正常に働かないおそれのある状況

●複数の電子キーがウェルカムパワースライドドアの作動範囲内にある

●スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況にある（→ P. 151）

●隣接する車両でウェルカムパワースライドドアが作動している

■電子キーの電池の消耗について（ウェルカムパワースライドドア★使用時）

通常のスマートエントリー＆スタートシステム機能と比べて電子キーの電池を多く消耗します。
ウェルカムパワースライドドアの使用頻度が多いほど、電子キーの消耗は早くなります。

■ウェルカムパワースライドドア★使用時の電子キーについて

●予約は 1 つの電子キーで行ってください。複数の電子キーに予約した場合、先に検知されたほうの電子キーの予約内容でウェルカムパワースライドドアが作動します。

●電子キーの電池が切れたり、電子キーの電池を交換すると予約はキャンセルされます。再度予約を行ってください。

■ウェルカムパワースライドドア★のスライドドア開作動開始までの待ち時間の変更について

マルチインフォメーションディスプレイの 画面から、スライドドアの開作動が開始するまでの待ち時間を変更できます。（→ P. 92）

■自動洗車機を使うとき

→ P. 529

■カスタマイズ機能（パワースライドドア）

スライドドアスイッチの反応時間などの変更ができます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 656）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**走行中の留意事項**

走行中は次のことをお守りください。
お守りいただかないと思いもよらずドアが開き、外に投げ出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●すべてのドアを確実に閉める

●すべてのドアを施錠する

●お子様を乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用してドアが開かないようにする

●シートベルトを必ず着用する

●走行中はインサイドドアハンドルを操作しない

■**お子さまを乗せているときは**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまを車内に残さないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはスライドドアの開閉操作をさせないでください。
不意にスライドドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

●お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクター（→P. 124）を使用して車内からドアが開かないようにする

■**スライドドアの操作にあたって**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●乗り降りするときは、スライドドアが全開位置であることを確認してください。

●スライドドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

●ドアガラスを開けた状態でスライドドアを開閉するときは、窓から手・足・顔などを出さないでください。

●人がいるときは安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●スライドドアを開けるときは、必ず全開位置まで開き固定してください。（全開にするとスライドドアがストッパーで固定されます）半開状態ではスライドドアが確実に固定されないため、傾斜地などで不意に動き出すおそれがあります。

警告

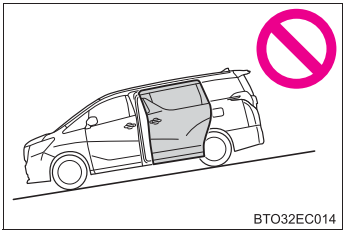
■スライドドアの操作にあたって

●車内からスライドドアにもたれかからないでください。スライドドアを開いたとき、車外へ落ちるなど思わぬ事故につながるおそれがあります

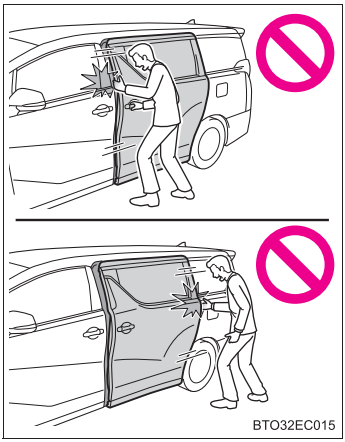
●スライドドアが中間ストッパーの位置で停止した場合、スライドドアは固定されません。坂道などではドアが不意に動き出すおそれがありますので、十分注意してください。

●傾斜した場所ではスライドドアの開閉スピードが速くなります。スライドドアにあたったり挟んだりしないように注意してください。

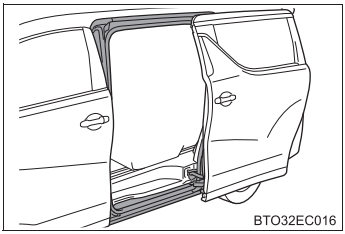
●下り坂で乗り降りするときは、スライドドアを全開にしておいてください。また、途中でドアハンドルやドアハンドルスイッチを操作しないでください。スライドドアが突然動き出すおそれがあります。


BTO32EC014

●スライドドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。


BTO32EC015

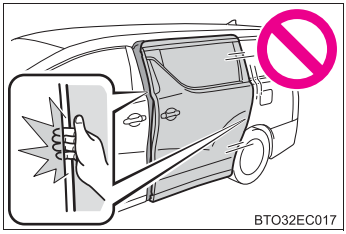
●スライドドアのアーム、レール、ピラー部および配線部には、手足をかけないでください。


BTO32EC016

警告

■スライドドアイージークローザーについて

●スライドドアが半ドア状態になったとき、スライドドアイージークローザーが動き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。
(→P. 126)



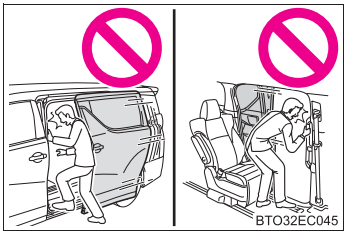
●スライドドアイージークローザーは、パワードアオフスイッチがONであっても作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。

●ロックレバーやチャイルドプロテクターが施錠側のとき、スライドドアイージークローザー作動中にインサイドドアハンドルを引くとスライドドアイージークローザーが半ドア状態で停止し、開けられません。指などを挟まれないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。

■パワースライドドアについて

パワースライドドアの操作時は、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●パワースライドドア作動中に乗り降りしないでください。



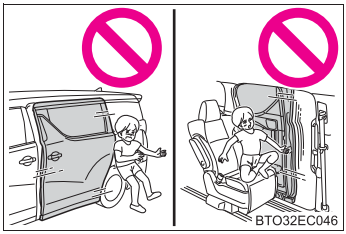
●ドアハンドルを使ってパワースライドドアを開閉するときは、操作後すぐにドアハンドルから手を離してください。ドアハンドルを握ったままスライドドアが作動すると、手・指・腕などに無理な力がかかるおそれがあるので十分注意してください。

●周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

警告

■パワースライドドアについて

●人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
また、車外および車内のスライドドア付近にもたれている人がいるときは、パワースライドドアを作動させないでください。



●自動開閉中にパワードアオフスイッチをONにすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

●自動開閉中、または全開以外のときは、ドアが急に反転作動したり、動きだすおそれがあります。必ず全開で静止していることを確認してください。

●傾斜した場所では、開いたあとにドアが閉まる場合があります。ドアは必ず全開で静止していることを確認してください。

●自動開閉中に作動可能条件を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し、手動操作に切りかわる場合があります。
この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

警告

■パワースライドドアについて

●次のような場合、システムが異常と判断し自動作動が停止することがあります。手動作動に切り替わり、急にスライドドアが閉まるなどして思わぬ事故につながるおそれがあるため、十分に注意してください。

・自動作動中、障害物に干渉したとき
・エンジン停止時でパワースライドドアが自動作動しているときに、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき

●チャイルドプロテクターを施錠側にしているときは、パワースライドドアの誤操作防止のため、パワードアオフスイッチを ON にしてください。

●ドアガラスを開けた状態で自動開閉するときは、絶対に窓から手足や顔などを出さないでください。

●タイヤ交換時や洗浄機を使用する際は、パワードアオフスイッチを ON にしてください。ON にしないと誤ってスイッチにふれたときにスライドドアが動き、手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■挟み込み防止機能（パワードアオフスイッチ OFF 時）

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●挟み込み防止機構を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、スライドドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

●挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれ方によっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

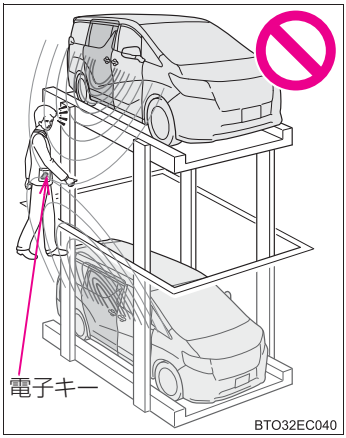
警告

■ウェルカムパワースライドドア★について

ウェルカムパワースライドドアによるスライドドアの操作時は、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●フロントドアハンドルから約2m以上離れた位置で、十分に周囲の安全を確認してから車両に近付いてください。
周囲に人がいるときは、車両に近付く前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
また、車外および車内のスライドドア付近にもたれている人がいるときは、ウェルカムパワースライドドアを作動させないでください。

●機械式駐車場などでは、車両が安全な場所にあることを確認してから車両に近付いてください。
車両が電子キーよりも上または、下にある状態でも電子キーが検知されればウェルカムパワースライドドアが作動し、スライドドアが自動的に開作動します。



●電子キーが検知されてからスライドドアの開作動が開始するまでのあいだは、いつでもスライドドアの作動が停止できるようにスライドドアハンドルに手が届く位置、または電子キーのSETボタンを押せる状態でお待ちください。

●スライドドア開作動までの待ち時間の変更（→P. 130）で待ち時間を短めに設定したときは、電子キーが検知されてからスライドドアが開作動するまでの時間が短くなるため、よりいっそう注意して操作してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

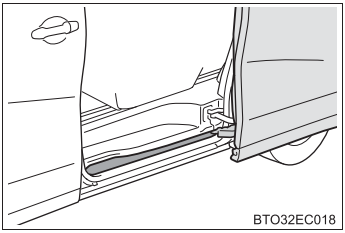
⚠注意

■スライドドアについて

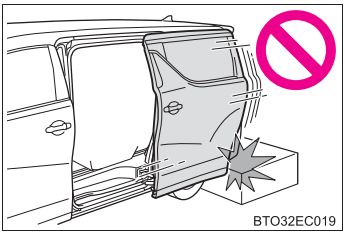
●スライドドアを開閉する前に、運転者はスライドドアが安全に開閉できるように車外および車内のスライドドア付近の状態を必ず確認してください。

●走行するときやドアを開閉するときは、ジュースなどが入っている紙コップやガラス製のコップなどをスライドドア内側のボトルホルダー（→ P. 505）に収納しないでください。

●スライドドアのリヤステップ下のローラー滑走面に、石などの異物が入り込まないように注意してください。異物が入り込んだままスライドドアを開閉すると、スライドドアの故障の原因になります。


BTO32EC018

●スライドドアを開けるときは縁石や壁などにあたらないように注意してください。スライドドアを損傷するおそれがあります。


BTO32EC019

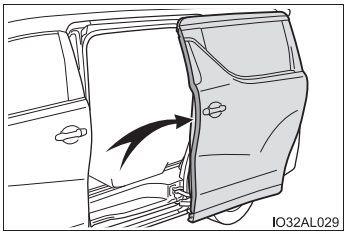
■スライドドアイージークローザーについて

●スライドドアイージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。

●ドアの開け閉めを短時間にくり返すとスライドドアイージークローザーが作動しないことがあります。この場合、一度ドアを開け、少し時間をおいてから閉め直すと作動します。

■パワースライドドアについて

パワースライドドア前端部のセンサーを刃物などの鋭利なもので傷付けないよう注意してください。
センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。また、自動で閉めているときにセンサーが切断されると、スライドドアはただちに停止します。


IO32AL029

バックドア

バックドアは次の方法で解錠・施錠および開閉することができます。

解錠／施錠

◆ スマートエントリー＆スタートシステム

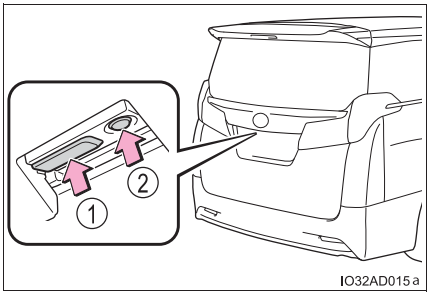
電子キーを携帯して操作します。

① 全ドアを解錠する

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

② 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。



◆ ワイヤレスリモコン

→ P. 113

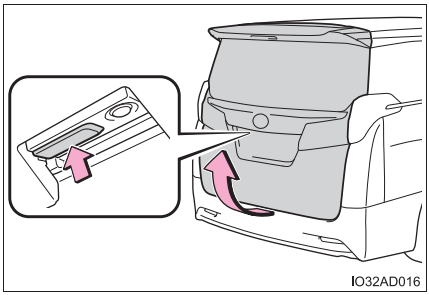
◆ ドアロックスイッチ

→ P. 115

バックドアの手動開閉

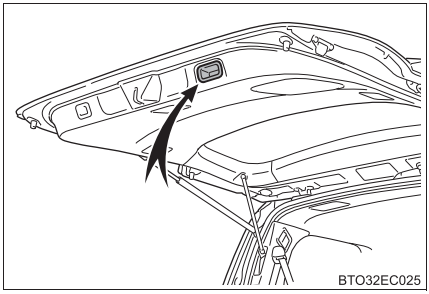
■ 開ける

スイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる



■ 閉める

バックドアグリップを持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。



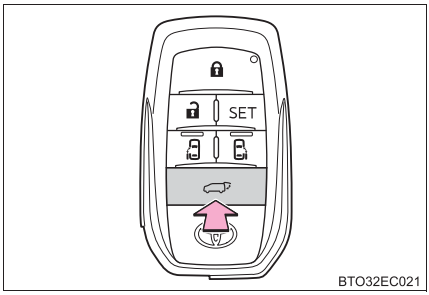
バックドアの自動開閉（パワーバックドア装着車）

◆ ワイヤレスリモコン

スイッチを押し続ける

バックドアを解錠してから操作してください。

開閉作動中に再度スイッチを押すと、反転作動します。
ただし、作動開始から約 1 秒間は反転作動に切りかわりません。

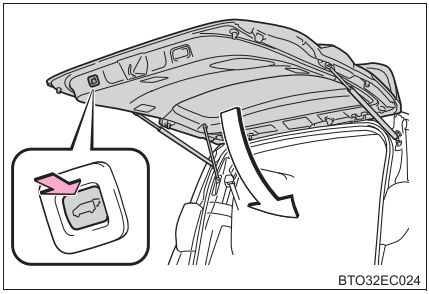


◆ パワーバックドアスイッチ（閉作動のみ）

スイッチを押す

ブザーが鳴りバックドアが自動で閉まります。

バックドアが閉まる途中でスイッチを押すと、バックドアは再び自動で開きます。

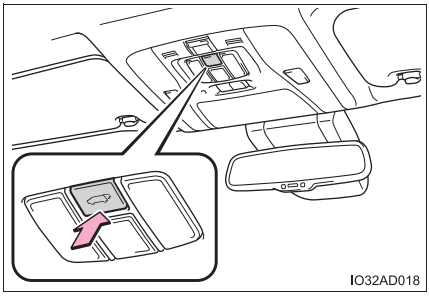


◆ パワーバックドア開閉スイッチ

スイッチを押し続ける

ブザーが鳴りバックドアが自動で開閉します。

開閉作動中に再度スイッチを押すと、反転作動します。
ただし、作動開始から約 1 秒間は反転作動に切りかわりません。



パワーバックドアの機能を停止するには（パワーバックドア装着車）

パワースライドドアの機能を停止するとパワーバックドアの機能も停止します。（→ P. 123）

バックドアを手動でのみ開閉できます。

パワースライドドアも使用できなくなります。

知識

■パワーバックドアの作動可能条件（パワーバックドア装着車）

●パワードアオフスイッチが OFF のとき（→ P. 123）

●バックドアが解錠されている（閉作動を除く）

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのときは上記に加え、次の条件を満たしていることが必要です。
ただし、ワイヤレスリモコンによる開閉はできません。

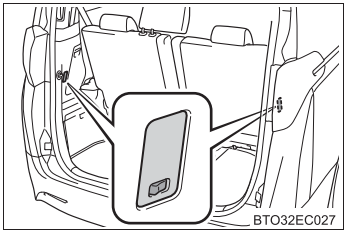
●シフトレバーの位置が P のとき

●車速が 3km/h 以下のとき

■ラゲージルームランプ

スイッチを ON にしておくとバックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。

エンジンスイッチが OFF の場合、約 20 分後に自動消灯します。


BTO32EC027

■バックドアをいったん開けてから閉めたあとは

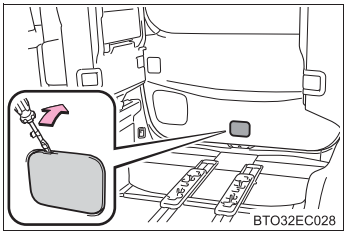
バックドアが自動で施錠されないため、再度バックドアを施錠してください。

■バックドアが開かなくなったら

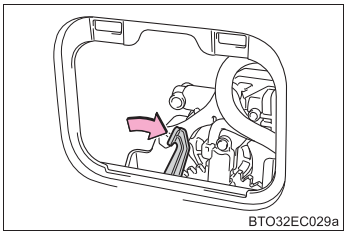
バックドアを内側から開けることができます。

1 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。


BTO32EC028

2 レバーを押す


BTO32EC029a

■バックドアイージークローザー

バックドアが半ドア状態になったとき、バックドアイージークローザーが作動し、バックドアが自動で完全に閉まります。

●エンジンスイッチがどの状態であっても、バックドアイージークローザーは作動します。

●バックドアイージークローザーが作動中でも、バックドアオープンスイッチを押してバックドアを開けることができます。

■パワーバックドアの作動について（パワーバックドア装着車）

●作動開始時にブザーが鳴り、非常点滅灯が 2 回点滅します。また開閉作動中は、ブザーが断続的に鳴ります。

●パワードアオフスイッチがONのときは、パワーバックドアは作動しませんが手動で開閉できます。

●パワーバックドア自動開閉中に、バックドアオープンスイッチを押すと、パワーバックドアの作動が停止し、手動操作に切りかわります。

●パワーバックドア自動開閉中に、人や異物などにより異常を感知すると、ブザーが鳴り、その位置からバックドアは自動的に反対方向に動き、全開位置または、全閉位置で停止します。

●パワーバックドア自動開閉中に、連続して3回以上の異常を感知するとブザーが鳴り、バックドアにブレーキをかけ、速度を抑制しながら作動し、全開位置または全閉位置で停止します。

■予約ロック機能について（パワーバックドア装着車）

パワーバックドアの自動閉作動中に、あらかじめ全ドアの施錠を予約する機能です。

次の操作をすると、パワーバックドア以外のすべてのドアが施錠され、パワーバックドアも閉まると同時に施錠されます。

1 バックドア以外のすべてのドアを閉じる

2 パワーバックドアの自動閉作動中にスマートエントリー＆スタートシステムによる施錠操作を行う（→P. 112）
またはワイヤレスリモコンによる施錠操作を行う（→P. 113）

すべてのドアが閉まり施錠されると、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。

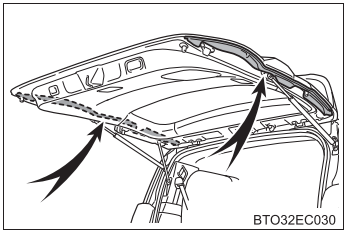
●予約ドアロック機能使用時、施錠操作をしたあとに、キーを車内にもどすと、車内にキーが閉じ込められることがあります。
予約ドアロック機能は、必ずキーを携帯した状態で使用してください。

●予約ドアロック操作をしてパワーバックドアが自動閉作動中に、挟み込み防止機能が作動するなど停止操作が行われると、予約ドアロック機能が解除されすべてのドアが解錠されます。

●車から離れるときは、すべてのドアが閉まり施錠されたことを確認してください。

■挟み込み防止機能（パワーバックドア装着車）

パワーバックドアの左右端部には、センサーが付いています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機能が作動し、その位置からバックドアは自動的に反対方向に動き、全開位置で停止します。



■バッテリーを再接続したときは（パワーバックドア装着車）

パワーバックドアを適切に作動させるために、初期設定としてバックドアを手動で一度全閉にしてください。

■カスタマイズ機能（パワーバックドア装着車）

パワーバックドアスイッチの操作方法などの変更ができます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 657）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行する前に

●走行前にバックドアが閉まっていることを確認してください。
完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが開いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■走行中の留意事項

●走行中はバックドアを閉めてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものに当たったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあります。走行前にバックドアが閉まっていることを必ず確認してください。

●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■**バックドアの操作にあたって**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

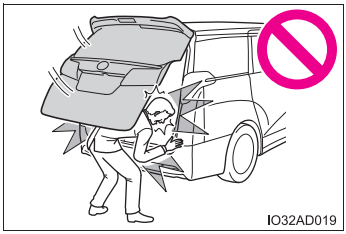
●バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。

●バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

●人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

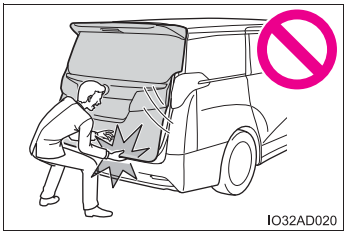
●強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

●半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。
特に傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。


IO32AD019

●バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

●バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアグリップを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。


IO32AD020

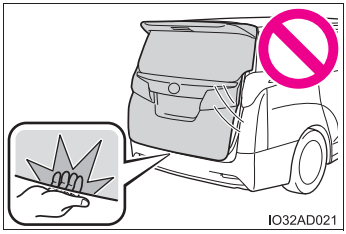
●バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。
手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにバックドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

警告

■バックドアイージークローザーについて

●バックドアが半ドア状態になったとき、バックドアイージークローザーが動き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。
（→ P. 142）



●バックドアイージークローザーは、パワードアオフスイッチが ON のときにも作動するため、指などの挟みこみには十分注意してください。（パワーバックドア装着車）

■パワーバックドアについて（パワーバックドア装着車）

パワーバックドアの操作時は、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

●人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●自動開閉中にパワードアオフスイッチを ON にすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

●自動開閉中に作動可能条件を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切りかわる場合があります。
この場合、坂道などの傾斜した場所ではバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので十分注意してください。

●傾斜した場所では、開いたあとにドアが突然閉じる場合があります。必ずドアが全開で静止していることを確認してください。

●次のような場合、システムが異常と判断して自動作動が停止し、手動操作に切りかわることがあります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

・自動作動中、障害物に干渉したとき
・エンジン停止時でパワーバックドアが自動作動しているときに、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき

警告

- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、自動で作動できずにパワーバックドアが故障したり、開いたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。
  バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

■**挟み込み防止機能（パワーバックドア装着車）**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

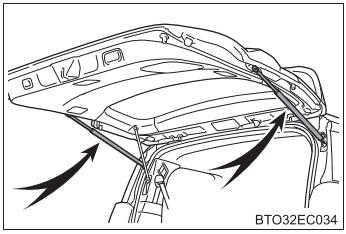
- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、バックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

注意

■**ダンパーステーについて**

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない
- ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない



⚠注意

■バックドアイージークローザーの故障を防ぐために

●バックドアイージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。無理な力をかけると、バックドアイージークローザーの故障の原因となります。

●バックドアの開け閉めを短時間にくり返すとバックドアイージークローザーが作動しないことがあります。この場合、いったんバックドアを開け、少し時間をおいてから閉め直すと作動します。

■パワーバックドアの故障を防ぐために（パワーバックドア装着車）

●パワーバックドアを作動させる前に、凍結によるバックドアの貼り付きがないことを確認してください。バックドアに無理な力がかかっている状態で作動させると、故障の原因になります。

●パワーバックドアの作動中は、バックドアに無理に力をかけないでください。

●パワーバックドア左右端部のセンサー（→ P. 143）を刃物などの鋭利なもので傷付けないように注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。

スマートエントリー&スタートシステム

電子キーをポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。必ず運転者が携帯してください。

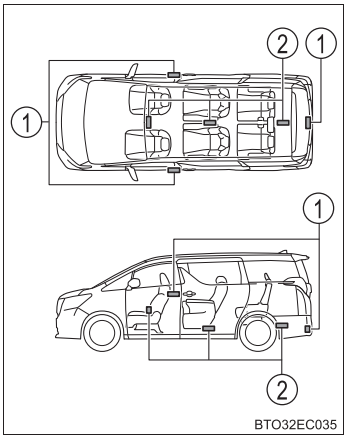
- ドアを解錠・施錠する（→ P. 112）
- スライドドアを開ける（→ P. 121, 124）
- バックドアを解錠・施錠する（→ P. 138）
- エンジンを始動する（→ P. 246）

知識

■アンテナの位置

① 車外アンテナ

② 車室内アンテナ



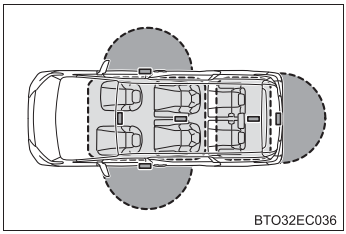
■作動範囲（電子キーの検知エリア）

●: ドアの施錠・解錠時

フロント席ドアハンドル／バックドアオープンスイッチから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

●: エンジン始動時またはエンジンスイッチのモード切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。



■警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。
警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。（→ P. 593）

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のとおりです。

警告音	状況	対処方法
車外から “ピー” と5秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー＆スタートシステム、もしくはワイヤレス機能で施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する
車内から “ピー、ピー” と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチをアクセサリーモードにした（アクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた）	エンジンスイッチをOFFにしたあと、運転席ドアを閉める

■マルチインフォメーションディスプレイに「スマートエントリー＆スタートシステム故障 取扱書を確認」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両のバッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。

・車の外約 2m 以内に電子キーを 10 分以上放置した
・5 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった

●14 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

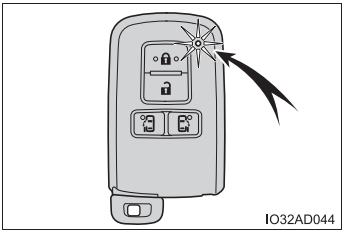
■電子キーの節電モードについて

●節電モードに設定すると、電子キーによる電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

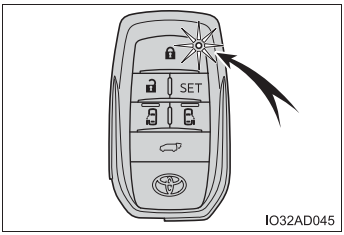
電子キーの 🔒 を押しながら、🔓 を2回押し、電子キーのインジケータが4回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー&スタートシステム・ウェルカムパワースライドドア★を使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。

▶パワーバックドア非装着車



▶パワーバックドア装着車



●長期間使用しない電子キーは、節電モードにしておくことをおすすめします。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、エンジンイモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→ P. 632）

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき

・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
・他の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

●充電器など電子機器の近くに電子キーを置いた場合

●コインパーキングに駐車しているとき（車両検出用の電波が影響をおよぼす可能性があるため）

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。

・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある
・エンジン始動時やエンジンスイッチの切りかえ時に、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・ドアポケットまたはグローブボックス内などに置かれている

●インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外では、解錠できません

●車外でも電子キーがドアガラスに近付いていると、エンジンを始動できることがあります。

●電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠します）

●ワイヤレスリモコンなどでの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー＆スタートシステムでの解錠ができないことがあります。（ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できます）

●手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。

●ロック操作は、連続で 2 回まで有効です。3 回目以降はロック動作しません。※

●電子キーを携帯したまま洗車をすると、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてください。

・キーを車両から2m 以上離れた場所に置く（盗難に注意し保管してください）
・キーを節電モードに設定してスマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→ P. 150）

●洗浄機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。全てのドアを施錠すると警報は止まります。

●ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しないことがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。

●すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

※ カスタマイズ機能により、操作方法を変更できます。（→ P. 658）

■長期間運転しないとき

●盗難防止のため、電子キーを車両から 2m 以上離しておいてください。

●あらかじめスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることができます。（→ P. 658）

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります）

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき

●ドアの解錠・施錠：→ P. 632

●エンジンの始動：→ P. 633

■ウェルカムパワースライドドア★の作動について

→ P. 129

■カスタマイズ機能

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 658）

■カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたとき

●ドアの解錠・施錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの解錠・施錠ができます。（→ P. 632）

●エンジンの始動・エンジンスイッチのモード切りかえ：→ P. 633

●エンジンの停止：→ P. 247

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**電波がおよぼす影響についての警告（スマートエントリー＆スタートシステムアンテナ）**

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ（→ P. 148）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波が医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

フロントシート

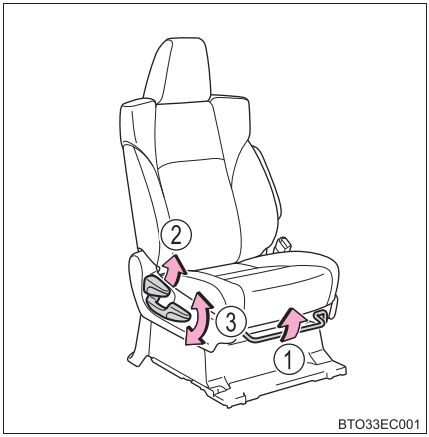
調整のしかた

▶ マニュアルシート

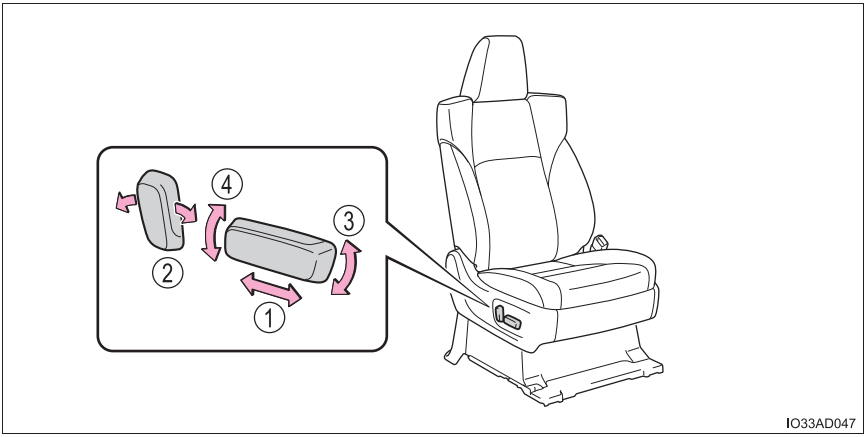
① 前後位置調整

② リクライニング調整

③ シート全体の上下調整
（運転席のみ）

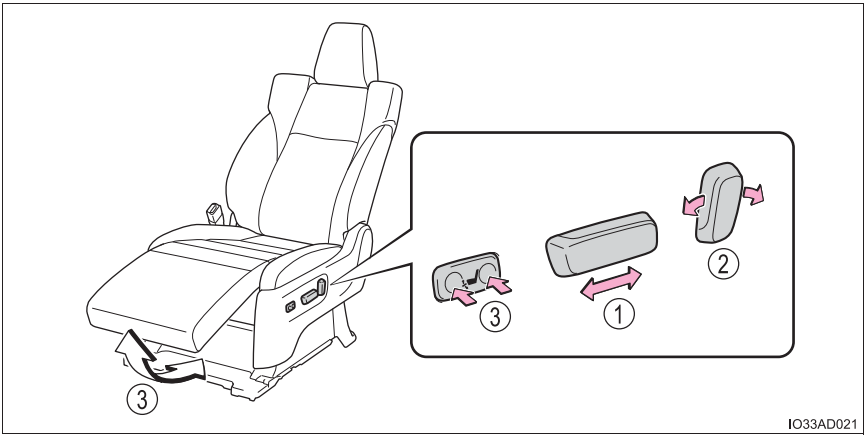


▶ パワーシート（運転席）



① 前後位置調整
② リクライニング調整
③ クッション前端の上下調整
④ シート全体の上下調整

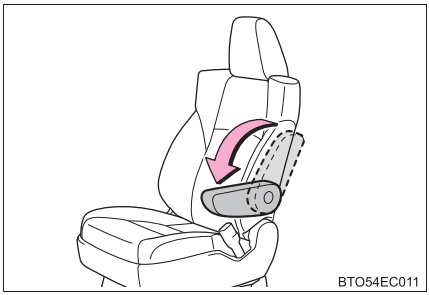
▶ パワーシート（助手席）



① 前後位置調整
② リクライニング調整
③ オットマン角度調整／格納

アームレスト★

アームレストの角度を調整するには、アームレストをいっぱいまで持ち上げてから、止まる位置まで下げます。その後、お好みの位置まで持ち上げると、その位置でアームレストが固定されます。



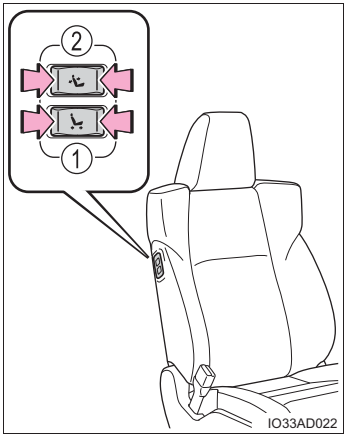
アームレストが固定されると、下げることはできなくなります。
下げたいときは、再度いっぱいまで持ち上げてください。

知識

■運転席から助手席を操作するには（パワーシート装着車）

① 前後位置調整

② リクライニング調整



■パワーイージーアクセスシステム★

エンジンスイッチのモード切りかえ・運転席のシートベルト脱着に連動して、運転席シートが動きます。（→ P. 178）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■シートを調整するとき

●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■シート調整について

●背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シート調整後はシートが確実に固定されていることを確認してください。
（マニュアルシート）

■運転席から助手席を操作するとき（パワーシート装着車）

助手席に乗員がいるときは操作をしないでください。また、操作中は、助手席に座らないでください。
足を挟むなどして助手席乗員がけがをするおそれがあります。

■前後位置調整やオットマン★の操作をするときは

足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■オットマン★の使用について

●走行中は角度調整をしないでください。
急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●オットマン部分に座らないでください。
シートベルトが適切に着用できないため、急ブレーキや事故のときに体がシートから投げ出され、重大な傷害を受けたり最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●オットマンの上には絶対に乗らないでください。
オットマンが破損し、転倒などして生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●つまずいてけがをするのを防ぐため、車を乗り降りする際オットマンを上げているときは格納してください。

●格納するときにシートの下に手や足を入れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠注意

■**運転席から助手席を操作するとき（パワーシート装着車）**

操作するときは助手席の上や足元に作動をさまたげるものがないことを確認してください。シートに無理な力がかかり故障するおそれがあります。

■**オットマン★の故障を防ぐために**

- 足元のスペースを確保しオットマンの作動をさまたげないようにしてください。
- オットマン部分に重いものを載せないでください。
- オットマンを上げているときに、下にものを置かないでください。格納時にものを挟み破損するおそれがあります。

■**アームレスト★の破損を防ぐために**

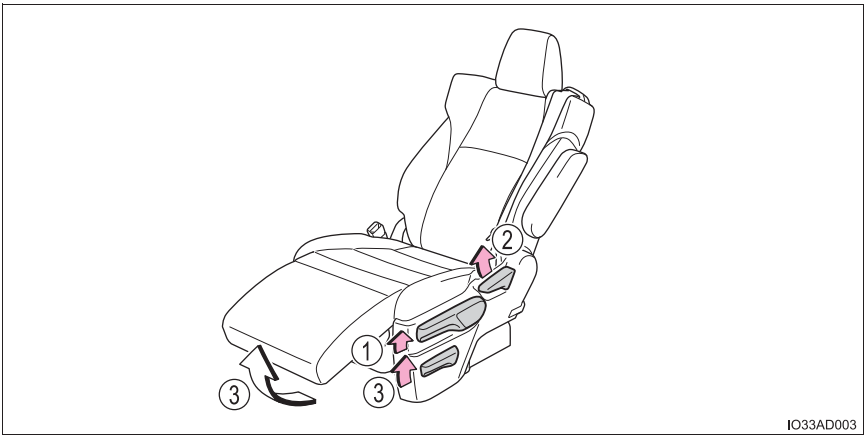
過度の負荷をかけないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

セカンドシート

調整のしかた

▶ マニュアルシート（7 人乗り）



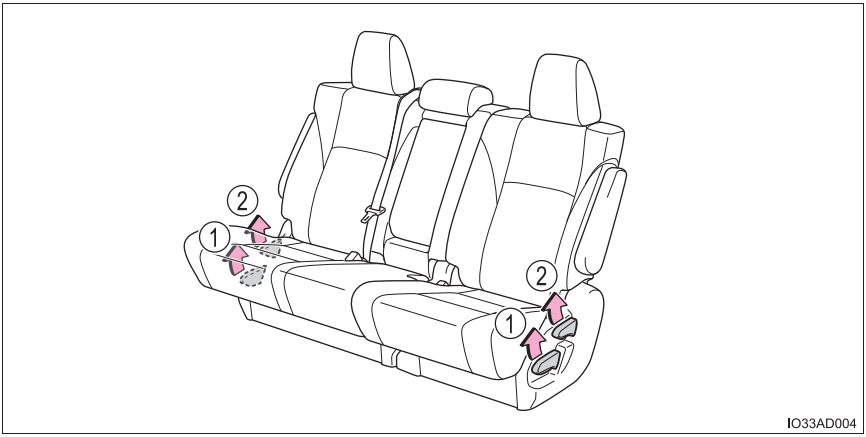
① 前後左右位置調整 ※

② リクライニング調整

③ オットマン角度調整／格納

※ レバーを 1 段階上げると前後位置調整、2 段階上げると前後左右位置調整ができます。

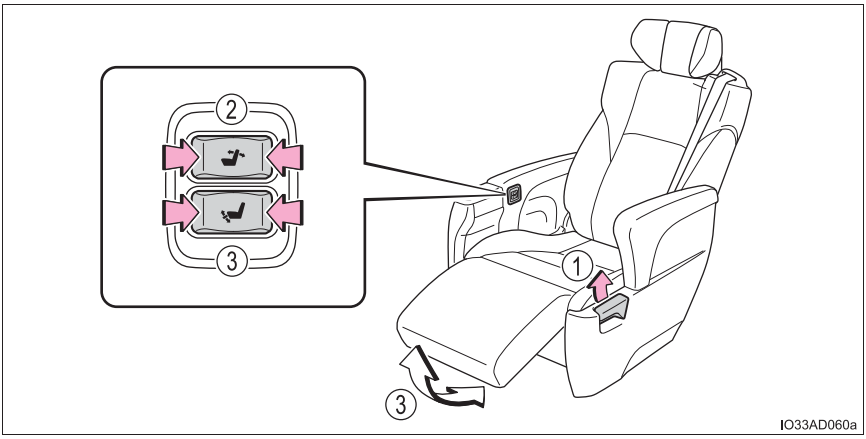
▶ マニュアルシート（8 人乗り）



① 前後位置調整

② リクライニング調整

▶ パワーシート（シートポジションメモリー非装着車）

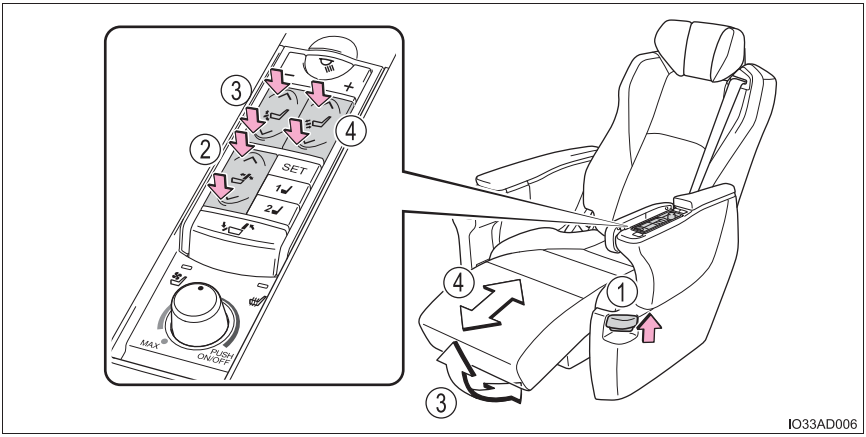


① 前後位置調整（手動）

② リクライニング調整（電動）

③ オットマン角度調整／格納（電動）

▶ パワーシート（シートポジションメモリー装着車）



① 前後位置調整（手動）

② リクライニング調整（電動）

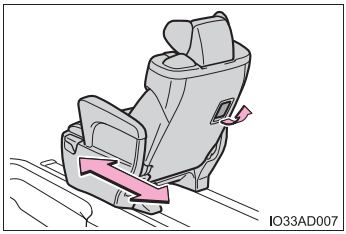
③ オットマン角度調整／格納（電動）

④ オットマン長さ調整（電動）

知識

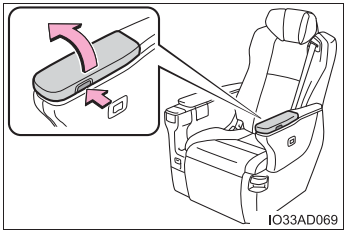
■サードシートからセカンドシートを前後に移動させるには（パワーシート装着車）

レバーを引き、セカンドシートを前後に動かします。



■アームレストのフタを開けるとき（パワーシート［シートポジションメモリー装着車］）

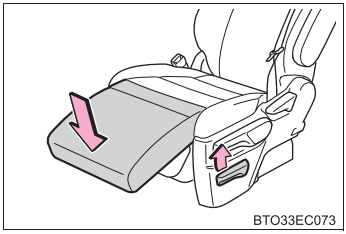
フタの横のボタンを押してください。



■オットマン★を格納するときは

▶マニュアルシート

オットマン調整レバーを引いたままオットマンを下側に押します



▶パワーシート（シートポジションメモリー装着車）

オットマンの長さをいちばん短くして格納してください。

■警告ブザー（パワーシート［シートポジションメモリー装着車］）

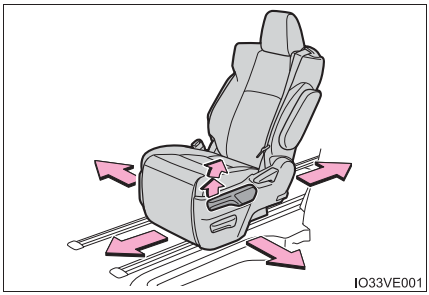
シートを調整したあとにブザーが約 3 秒間鳴った場合、シート調整システムに異常がある可能性があります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

セカンドシートを左右に調整する（マニュアルシート［7 人乗り］）★

レバーを 2 段階引く

セカンドシートを前後左右に調整することができます。



サードシートへの乗り降り（マニュアルシート）

1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

2 7 人乗り車：

オットマンを格納する（→ P. 160）

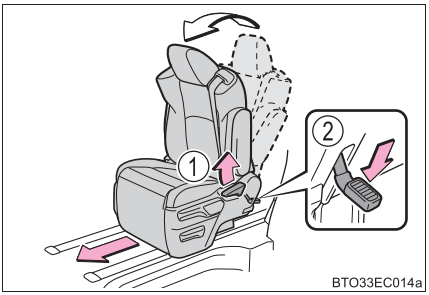
8 人乗り車：

運転席側から乗り降りするときは、セカンドシートのアームレストを格納する（→ P. 172）

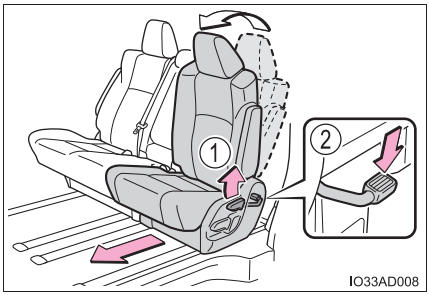
3 リクライニングレバー（①）を引く、または前倒しペダル（②）を踏む

背もたれが前に倒れて、シートを前方に移動させることができます。

▶ 7 人乗り車



▶ 8 人乗り車



4 乗車または降車後、ご希望の位置にセカンドシートを動かし、背もたれを起こす

背もたれとシートの位置が固定されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

サードシートへの乗り降り（パワーシート）

▶ パワーシート（シートポジションメモリー非装着車）

1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

2 オットマンを格納する（→ P. 160）

3 サイドテーブルを格納する（→ P. 520）

左右セカンドシートの間から乗り降りします。

▶ パワーシート（シートポジションメモリー装着車）

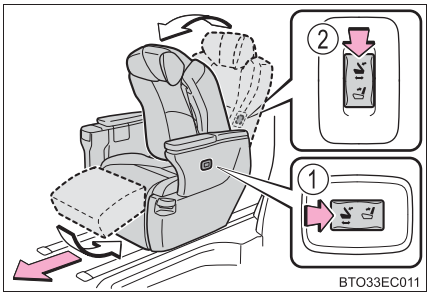
■ 電動で操作する

1 車を停止させる。シフトレバーを P に入れるかエンジンスイッチを OFF にし、しっかりとパーキングブレーキをかける

2 サイドテーブルを格納する（→ P. 520）

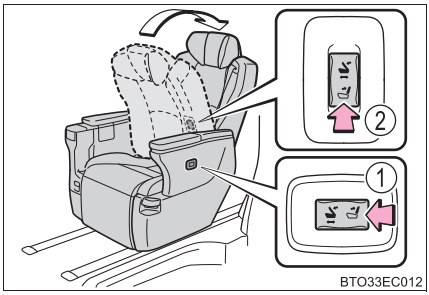
3 ブザーが鳴るまで①または②の を押す

背もたれが自動で倒れ、オットマンが格納し、手動でシートを前方に移動させることができます。



4 乗車または降車後、ご希望の位置までシートを動かし、①または②の をブザーが鳴るまで押す

背もたれがニュートラルポジションにもどり、シートはロックされます。



シートを軽くゆすり、確実にロックされていることを確認します。

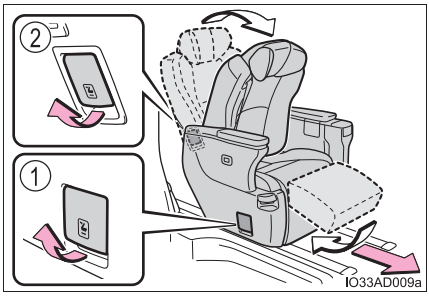
■ 手動で操作する（運転席側のみ）★

1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

2 サイドテーブルを格納する（→ P. 520）

3 ①または②のレバーを引く

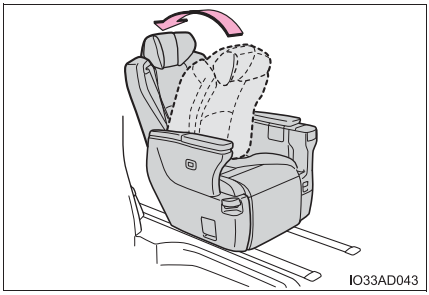
背もたれが自動で倒れ、オットマンが格納し、手動でシートを前方に移動させることができます。



4 乗車または降車後、ご希望の位置までシートを動かし、背もたれをロックする位置まで起こす

シート位置もロックされます。

シートを軽くゆすり、確実にロックされていることを確認します。



知識

■シートが作動しないとき（パワーシート［シートポジションメモリー装着車］）

次のいずれかの状況のとき、 を押すとブザーが 2 回鳴り、シートを操作することはできません。

●スイッチを押した側のシートに人が座っている、または荷物が載っているとき

●スイッチを押した側のシートベルトが装着されているとき

●エンジンスイッチがイグニッションONモードで、シフトレバーがP以外にあるとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■シートの作動を途中で止めるとき（パワーシート［シートポジションメモリー装着車］）

作動しているシートで、次のいずれかの操作をします。

● か を押す

●シート横の前後位置調整レバーを操作する
シート背面のレバーでは、作動を停止することができません。

●リクライニング調整・オットマン角度調整・オットマン長さ調整スイッチのいずれかを押す

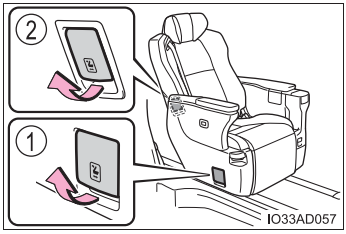
●“SET” ボタン・セカンドシートポジションメモリーのいずれかのボタンを押す（→ P. 184）

●シートまたはインストルメントパネルにあるセカンドシートニュートラルポジションスイッチを押す（→ P. 170）

●シートに座るまたはシートベルトを着用する

止める位置によっては、ブザーが約 3 秒間鳴ることがあります。その場合はもう一度スイッチを押 して、作動を完了させてください。処置をしてもブザーが鳴る場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■シートの電動作動中に手動操作したとき（パワーシート［シートポジションメモリー装着車］［運転席側のみ］）★



を押してシートが自動で作動している時に、①または②のレバーを引くと自動作動が停止して背もたれが倒れます。

背もたれはレバーを引いた位置までしかもどらないため、位置によってはブザーが約 3 秒間鳴ることがあります。その場合は を押してください。処置をしてもブザーが鳴る場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■警告ブザー（パワーシート［シートポジションメモリー装着車］）

●エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたときにブザーが約 3 秒間鳴った場合、前回シートを調整したときに異常が発生していた可能性があります。

この場合、いずれかのシート調整スイッチまたは か を押して、シートが正常に動くことを確認してください。

●次のいずれかの状況でブザーが約 3 秒間鳴った場合、 を押して作動を完了させてください。

・エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき
・シフトレバーが P 以外の位置にあるとき
・セカンドシートに人が座っているか、荷物が載っている、またはシートベルトが装着されているとき
・セカンドシートが調整中でないとき

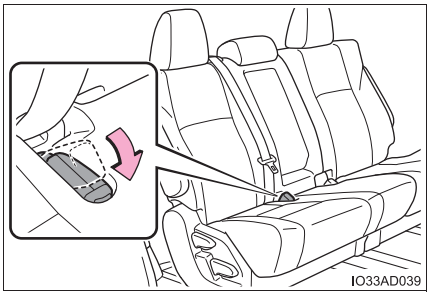
処置をしても警告ブザーが鳴る場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

セカンドシートをチップアップするには（マニュアルシート[8 人乗り]）

運転席側、助手席側ともに、同じ要領で操作することができます。

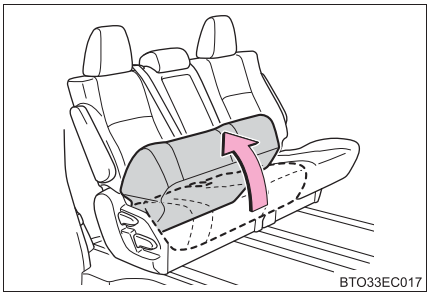
1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

2 セカンドシートベルトのバックルを格納する



3 セカンドシートのアームレストを格納する（→ P. 172）

4 シートクッションを起こす

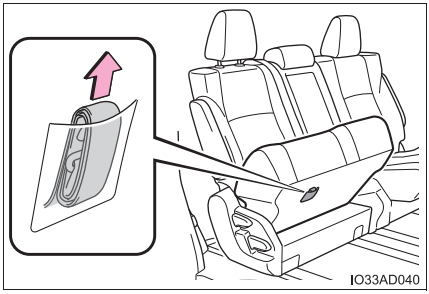


5 リクライニングレバーを引く、または前倒しペダルを踏んで背もたれを前方に倒す（→ P. 160）

シートのロックが解除されます。

6 シートをお好みの位置に移動したあと、背もたれをもとにもどし、シートを固定する

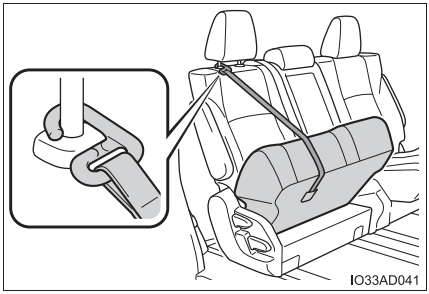
7 シートクッション下部の収納ポケットから、シート固定バンドを取り出す



8 シート固定バンドのフックをヘッドレストにかけ、シートクッションを固定する

シートを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。

チップアップしたあとに前後位置調整レバーを引くと、シートを動かすことができます。



シートをもとにもどすときは、逆の手順でもどしてください。

ニュートラルポジションにもどすとき（パワーシート［シートポジションメモリー装着車］）

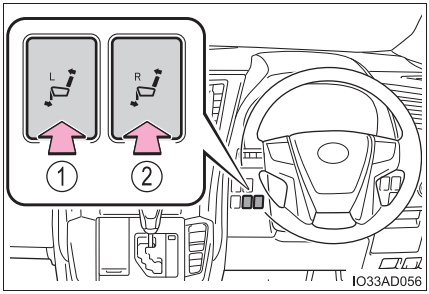
■ 運転席で操作する

ブザーが鳴るまでスイッチを押す

① 助手席側

② 運転席側

あらかじめ登録されたポジション（→ P. 171）に背もたれがもどるとともに、オットマンが格納されます。



お好みの背もたれ位置を登録していない場合は、所定の位置（初期設定の位置）にもどります。

■ セカンドシートで操作する

ブザーが鳴るまで を押す

あらかじめ登録されたポジション（→ P. 171）に背もたれがもどるとともに、オットマンが格納されます。

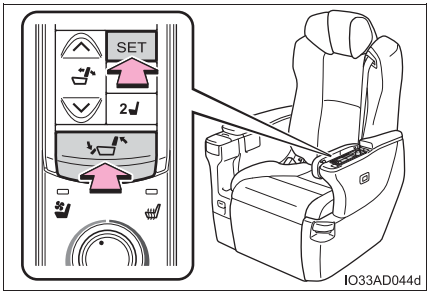
お好みの背もたれ位置を登録していない場合は、所定の位置（初期設定の位置）にもどります。

■ ポジションの登録

1 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

2 背もたれをお好みの位置に調整する

3 SET ボタンを押しながら、または SET ボタンを押したあと、3 秒以内に をブザーが鳴るまで押す



知識

■運転席側からセカンドシートを操作するとき

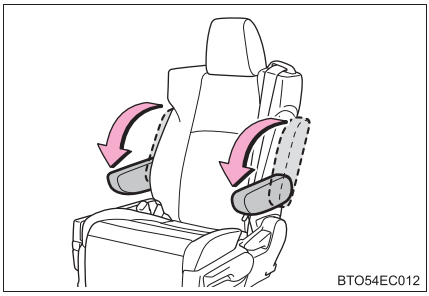
次の場合は、運転席側のスイッチを押してもセカンドシートが作動しません。（ブザーが 2 回鳴ります）

- セカンドシートに乗員がいる、または重量物が置かれているとき
- セカンドシートのシートベルトが装着されているとき

アームレスト★

▶ マニュアルシート（7 人乗り）

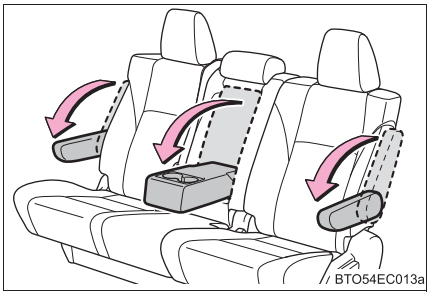
アームレストの角度を調整するには、アームレストをいっぱいまで持ち上げてから、止まる位置まで下げます。その後、お好みの位置まで持ち上げると、その位置でアームレストが固定されます。



アームレストが固定されると、さげることはできなくなります。
下げたいときは、再度いっぱいまで持ち上げてください。

▶ マニュアルシート（8 人乗り）

手前に倒して使用する



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■シート調整について

●同乗者や荷物などにシートがあたらないよう、ご注意ください。

●背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シート調整後はシートを軽くゆさぶり、シートが確実に固定されていることを確認してください。

■サードシートに乗り降りするとき

●サードシートへ乗り降りしたあとは、必ずセカンドシートを固定させてください。

●シートを調整しているときは、シートの下や動いている部分の近くに手を近付けないでください。指や手を挟み、けがをするおそれがあります。

■前後調整やオットマン★の操作をするとき

足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■オットマン★を使用するとき

●走行中は角度・長さ調整をしないでください。
急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●オットマン部分に座らないでください。
シートベルトが適切に着用できないため、急ブレーキや事故のときに体がシートから投げ出され、重大な傷害を受けたり最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●オットマンの上には絶対に乗らないでください。
オットマンが破損し、転倒などして生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●つまずいてけがをするのを防ぐため、車に乗り降りする際、オットマンを上げているときは格納してください。

●格納するときにシートの下に手や足を入れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**運転席またはサードシートからセカンドシートを操作するとき**

セカンドシートに乗員がいるときは操作をしないでください。
セカンドシートの乗員がけがをするおそれがあります。

注意

■**サードシートに乗り降りするとき（マニュアルシート［8 人乗り］）**

シートクッションを持ち上げているときは、前倒しペダルを通常よりも強く踏み込んでください。

■**オットマン★の故障を防ぐために**

●足元のスペースを確保しオットマンの作動をさまたげないようにしてください。

●オットマン部分に重いものを載せないでください。

●オットマンを上げているときに、下にものを置かないでください。格納時にものを挟み破損するおそれがあります。

■**運転席またはサードシートからセカンドシートを操作するとき**

操作する前に、セカンドシートの足元に作動をさまたげるものがないことを確認してください。シートに無理な力がかかり故障するおそれがあります。

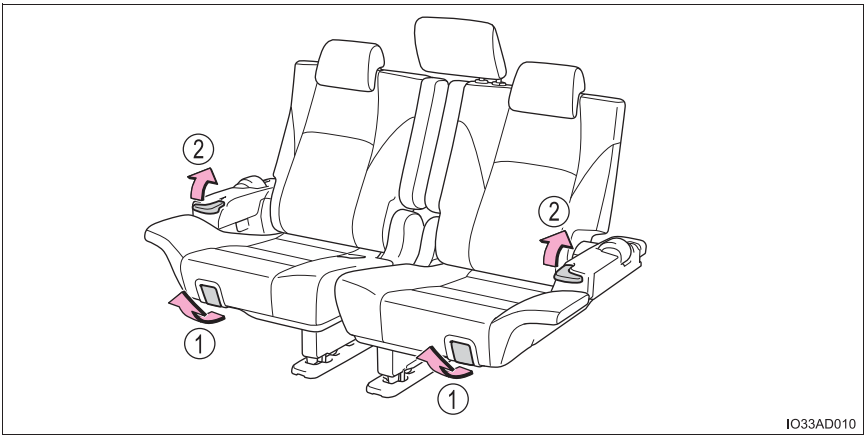
■**アームレスト★の破損を防ぐために**

過度の負荷をかけないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

サードシート★

調整のしかた



① 前後位置調整　② リクライニング調整

サードシートへの乗り降り

→P. 164

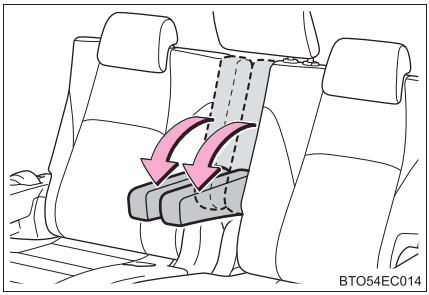
サードシートを格納するには

→P. 197

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アームレスト★

手前に倒して使用する



知識

■サードシートからセカンドシートを前後に移動させるには（セカンドパワーシート装着車）

→P. 163

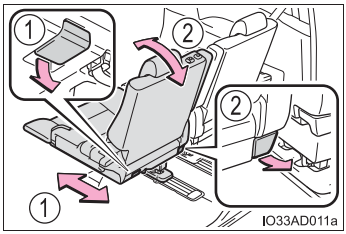
■バックドア側からサードシートを調整するには

① 前後位置調整

レバーを引いたまま、シートを前後に動かします。

② リクライニング調整

レバーを引いたまま、背もたれを前後に動かします。



警告

■シート調整について

●背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シート調整後はシートを軽くゆさぶり、シートが確実に固定されていることを確認してください。

●中央席に座るときは、前後位置およびリクライニング位置を左右のシートで同じにしてください。
お守りいただかないと、サードシート中央席シートベルトが正しく着用できず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意

■**アームレスト★の破損を防ぐために**

過度の負荷をかけないでください。

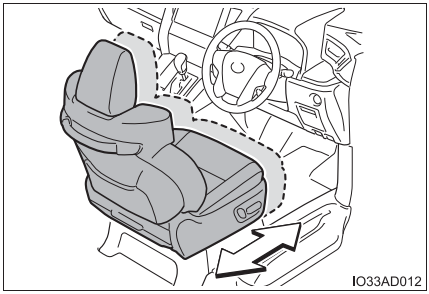
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パワーイージーアクセスシステム★／ポジションメモリー（フロントシート）★／メモリーコール機能★

自動で運転席・ドアミラーを動かし、乗り降りしやすい位置に調整したり、お好みのドライビングポジションに調整したりします。

パワーイージーアクセスシステム

乗降時に運転者が乗り降りしやすいよう、シートが自動で動きます。



■ 降車時

次のすべての操作を行ったとき、シートが降りやすい位置に自動で調整されます。

- シフトレバーを P に入れる
- エンジンスイッチを OFF にする
- シートベルトをはずす

シートの作動中は、ブザーが断続的に鳴ります。

■ 乗車時

次のいずれかの操作を行ったとき、シートがもとの位置にもどります。

- エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにする
- シートベルトを着用する

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■パワーイージーアクセスシステムの作動について

降車時に、シートの位置が最後方付近にあるなど、パワーイージーアクセスシステムが作動しない場合があります。

■作動の停止について

パワーイージーアクセスシステム作動中に次の操作をすると作動が停止します。

降車時：
- シフトレバーを操作する
- 運転席のシート調整スイッチ（→ P. 155）のいずれかを操作する
- ポジションメモリーの 1・2・3 のいずれかのボタンを押す（→ P. 180）

乗車時：
- 運転席のシート調整スイッチ（→ P. 155）のいずれかを操作する
- ポジションメモリーの 1・2・3 のいずれかのボタンを押す（→ P. 180）
- 車両を発進させる

■カスタマイズ機能

パワーイージーアクセスシステムによるシート移動量を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 658）

ポジションメモリー

お好みのドライビングポジション（シートの位置・ドアミラーの角度）を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。
ドライビングポジションは、3 パターンまで登録できます。

登録方法

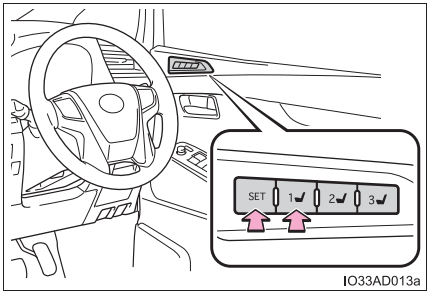
1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

2 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

3 運転席・ドアミラー角度をお好みの位置に調整する（→ P. 221）

4 SET ボタンを押しながら、または SET ボタンを押したあと 3 秒以内に 1 ～ 3 のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す

すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。



IO33AD013a

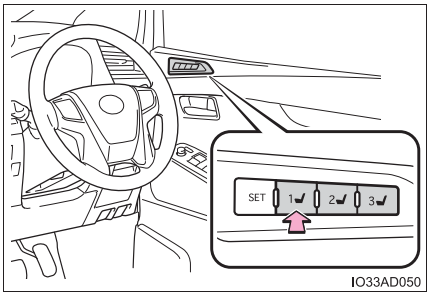
呼び出し方法

1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

2 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

3 1 ～ 3 のうち呼び出したいポジションのボタンをブザーが鳴るまで押す

シートの作動中は、ブザーが断続的に鳴ります。



IO33AD050

知識

■ポジションの呼び出し作動を途中で止めたいとき

次のいずれかの操作をします。

- SET ボタンを押す
- 1 ～ 3 のボタンを押す
- シート調整スイッチのいずれかを操作する（シートのみ作動停止）

■登録できるシート位置（→ P. 156）

すべての位置が登録できます。

■エンジンスイッチ OFF 後の作動

運転席ドアを開けて 180 秒以内、または運転席ドアを閉めて 60 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。

■ポジションメモリーを正しくお使いいただくために

登録位置がシート各調整位置の最端部にある状態で、さらに同じ方向に操作をすると、呼び出し位置にずれが生じることがあります。

メモリーコール機能

お好みのドライビングポジションを電子キーに登録することで、電子キーごとにお好みのドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。

■ 登録方法

お好みのドライビングポジションをあらかじめ 1 ～ 3 のいずれかのボタンに登録しておきます。

登録させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。
車内にキーが 2 つ以上あると、正確に登録できません。

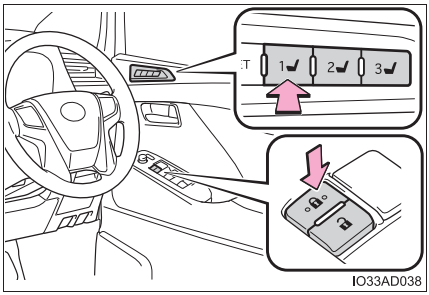
1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

2 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

3 登録させたいドライビングポジション（1 ～ 3）を呼び出す

4 呼び出したドライビングポジションのボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を “ピー” とブザーが鳴るまで押す

登録できなかった場合は、約 3 秒間ブザーが鳴り続けます。



■ 呼び出し方法

1 ドライビングポジションを登録した電子キーを携帯し、運転席ドアをスマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠してドアを開ける

シートの作動中は、ブザーが断続的に鳴ります。

ドライビングポジションが登録された位置へ動きますが、シート位置は乗り込みやすくするために、登録された位置より少し後方に動きます。

ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は、シートやミラーは動きません。

2 エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにするか、シートベルトを着用する

シートが登録したドライビングポジションに動きます。

■ 解除方法

解除させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。
車内にキーが 2 つ以上あると、正確に解除できません。

1 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

2 SET ボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を “ ピッピッ ” とブザーが鳴るまで押す

解除できなかった場合は、約 3 秒間ブザーが鳴り続けます。

知識

■ メモリーコール機能によるドライビングポジションの呼び出しについて

- 電子キーごとにドライビングポジションを登録できるため、携帯する電子キーによっては呼び出されるドライビングポジションが異なる場合があります。
- 運転席ドア以外のドアをスマートエントリー＆スタートシステムで解錠した場合は、ドライビングポジションの呼び出しは行われません。その場合は、登録したドライビングポジションのボタンを押してください。

■ カスタマイズ機能

メモリーコール機能による解錠ドアの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 658）

警告

■ シートを調整するとき

シート調整中は、シートがセカンド席乗員にあたったり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

セカンドシートポジションメモリー★

お好みのポジション（オットマンと背もたれ）を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。

登録方法

1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

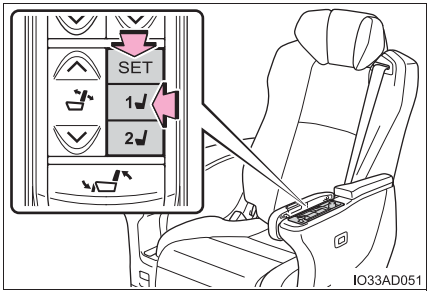
2 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

3 ボタンを押してカバーを開ける（→ P. 163）

4 セカンドシートをお好みの位置に調整する（→ P. 162）

5 SET ボタンを押しながら、または SET ボタンを押したあと 3 秒以内に、1 または 2 のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す

すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。



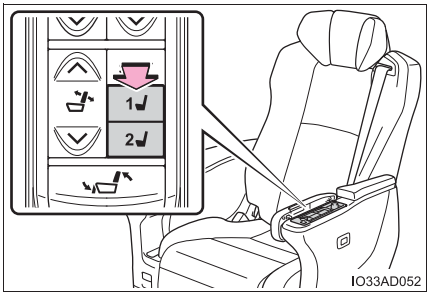
呼び出し方法

1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

2 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

3 1 または 2 のうち呼び出したいポジションのボタンをブザーが鳴るまで押す

背もたれの作動中は、ブザーが断続的に鳴ります。

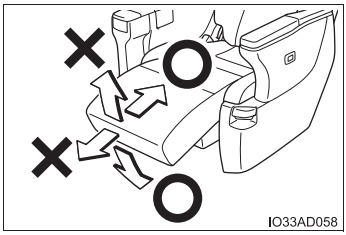


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■オットマンの作動について

登録された位置が現在の位置より上および伸びる位置にある場合は作動しません。現在の位置より下または縮む位置にある（格納方向）場合のみ作動します。



■ポジションの呼び出し作動を途中で止めたいとき

次のいずれかの操作をします。

- SET ボタンを押す
- 1 または 2 のボタンを押す
- シート調整スイッチを操作する

■登録できるシート位置

シート前後位置以外の位置が登録できます。

■もとの位置（ニュートラルポジション）にもどすには

→ P. 170

■警告ブザー

登録したポジションを呼び出したあとにブザーが約 3 秒間鳴った場合は、システムに異常がある可能性があります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■シート調整時の警告

シート調整中は、セカンド席乗員がフロントシートにあたらないよう注意してください。

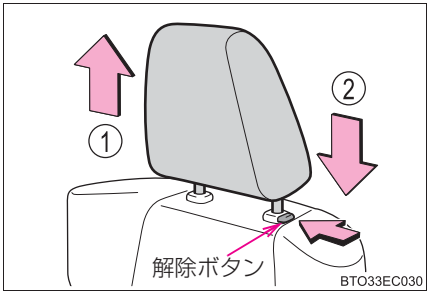
ヘッドレスト

フロントシート（助手席可倒式ヘッドレスト★を除く）

① 上げる

② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



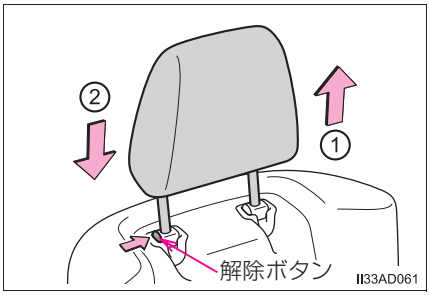
フロントシート（助手席可倒式ヘッドレスト★）

■ 上下調整

① 上げる

② 下げる

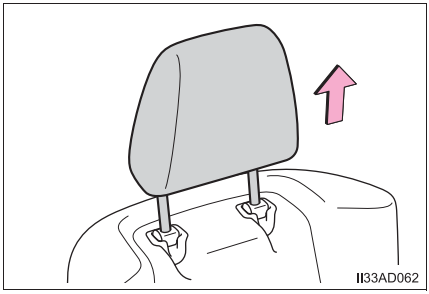
下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



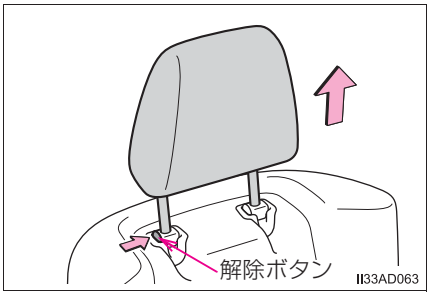
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ヘッドレストを倒すとき

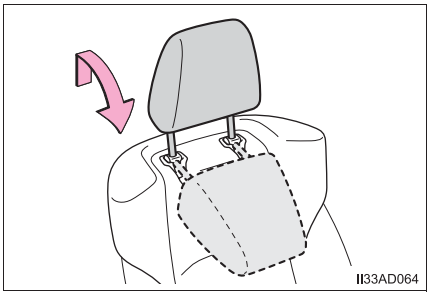
1 ヘッドレストをロック位置まで引き上げる



2 解除ボタンを押しながら、ヘッドレストをロック位置から少し引き上げる

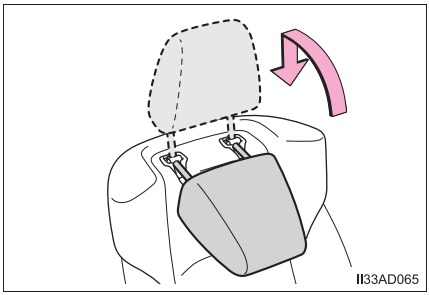


3 解除ボタンを離し、ヘッドレストをいちばん上まで引き上げたあと、ヘッドレストを持ちながら前へ倒す



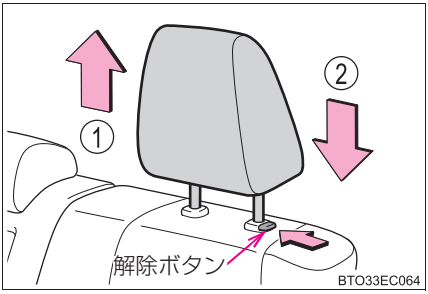
■ ヘッドレストを使用するとき

ヘッドレストを起こし、ロック位置まで押し下げる



セカンドシート（8 人乗り車中央席を除く）

▶ マニュアルシート

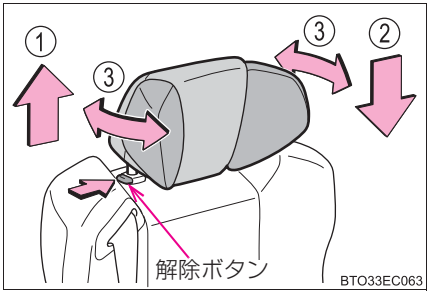


① 上げる

② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

▶ パワーシート



① 上げる

② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

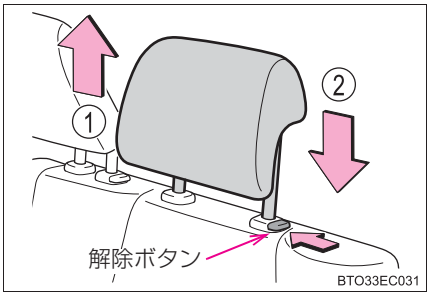
③ 左右調整

セカンドシート（8 人乗り車中央席）／サードシート（外側席）

① 上げる

② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

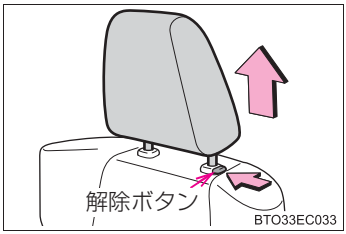


知識

■ヘッドレストを取りはずすとき

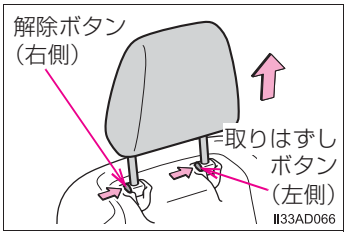
▶フロントシート（助手席可倒式ヘッドレスト★を除く）／セカンドパワーシートを除く

解除ボタンを押しながらヘッドレストを引き上げます。



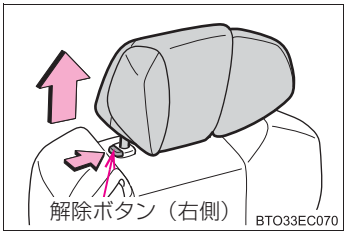
▶フロントシート（助手席可倒式ヘッドレスト★）

解除ボタンと取りはずしボタンを押しながらヘッドレストを引き上げます。

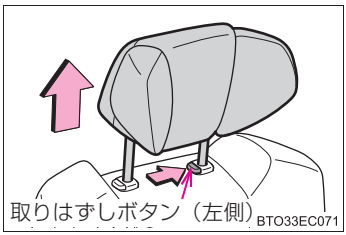


▶セカンドパワーシート

1 解除ボタンを押しながらヘッドレストをいちばん上まで引き上げる



2 ヘッドレストを引き上げながら取りはずしボタンを押して、ヘッドレストを取りはずす



フロントシート：ヘッドレストが天井にあたって取りはずしにくいときは、シートの高さや角度をかえてください。（→P. 155）

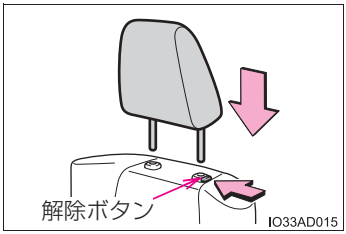
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ヘッドレストを取り付けるとき

▶フロントシート（助手席可倒式ヘッドレスト★を除く）／セカンドマニュアルシート／サードシート（外側席）

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

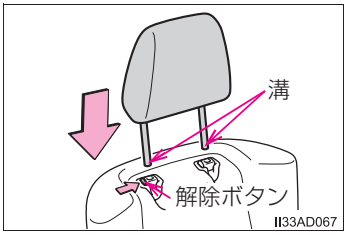
さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作してください。



▶フロントシート（助手席可倒式ヘッドレスト★）

ヘッドレストの両方のステーに溝があることを確認して、ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

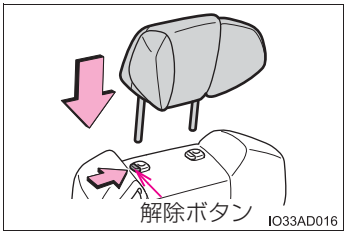
さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作してください。



▶セカンドパワーシート

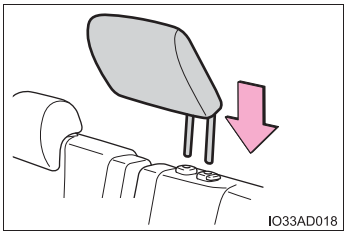
ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作してください。



▶サードシート（中央席）

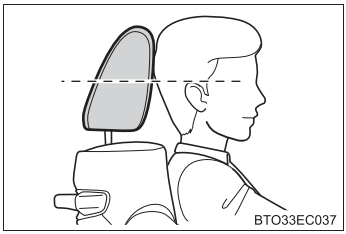
ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ヘッドレストの高さについて（フロントシート／セカンドシート［8 人乗り車中央席を除く］）

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



■助手席可倒式ヘッドレスト★を倒すとき

シートの位置・角度・高さによっては、ヘッドレストを倒すことができない場合があります。

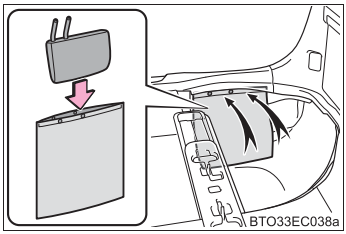
■セカンドシート（8 人乗り車中央席）／サードシート（外側席）のヘッドレストの使用について

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

■サードシート（中央席）のヘッドレストの格納について

1 左側のデッキボードを折り曲げてくぼみにかける、または取りはずす（→ P. 510）

2 ヘッドレストを収納袋に入れて、収納袋のホックとラゲージルームのホックで固定する



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**ヘッドレストについて**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する

●ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する

●ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する

●ヘッドレストをはずしたまま走行しない

■**助手席可倒式ヘッドレスト★について**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ヘッドレストを倒したまま助手席に人を乗せて走行しない

●人を乗せるときは、必ず走行前にヘッドレストを起こして正しい位置に調整する

●ヘッドレストを倒すときは、助手席に人が乗っていないことを確認する

●ヘッドレストを倒すときやもどすときは、ヘッドレストを持って操作する

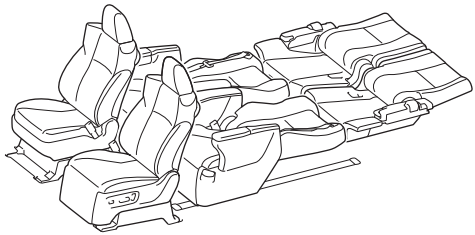
●ヘッドレストを倒すときやもどすときは、動いている部分に手を近付けない

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

シートアレンジ

◆ リヤシートフルフラットモード★

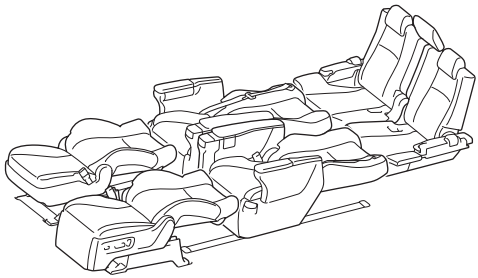
セカンドシート、サードシートをフルフラットにする（→ P. 195）



BTO33EC039

◆ フロント・セカンドフルフラットモード★

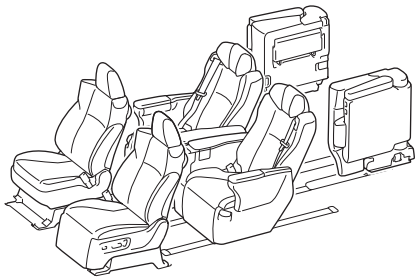
フロントシート、セカンドシートをフルフラットにする（→ P. 196）



BTO33EC040

◆ 荷室モード

サードシートを格納する（→ P. 197）

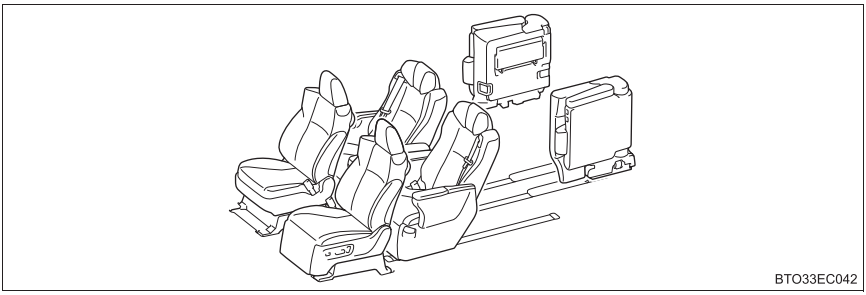


BTO33EC041

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

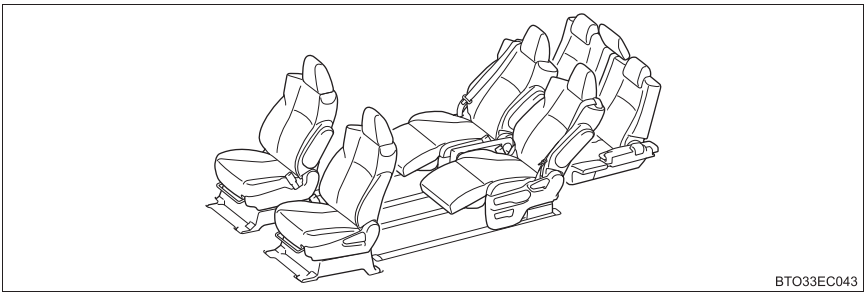
◆ 最大積載モード

ラゲージスペースを拡大する（→ P. 199）



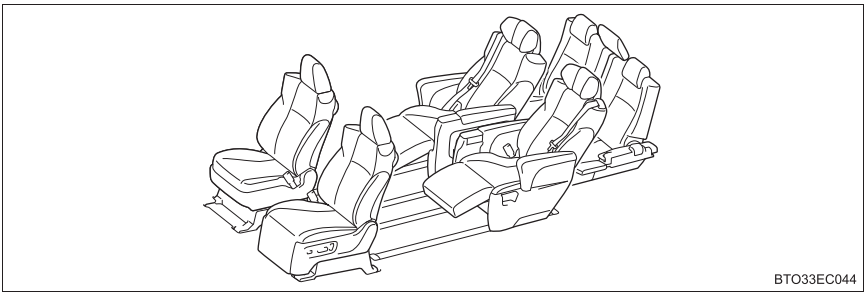
◆ スーパーリラックスモード（セカンドマニュアルシート [7 人乗り] 装着車）

セカンドシートを後方へ移動する（→ P. 200）



◆ エグゼクティブモード（セカンドパワーシート装着車）

→ P. 200



リヤシートフルフラットモードにする★

1 車を停止させ、シフトレバーを P に入れて、パーキングブレーキをかける

2 サードシート中央席シートベルトを格納する（→ P. 30）

3 サードシートをいちばん前まで移動させる（→ P. 175）

サードシートのアームレスト★を格納してください。（→ P. 176）

4 サードシートのヘッドレストをはずす（→ P. 186）

中央席ヘッドレストは、ラゲージルームに収納します。（→ P. 191）

5 サードシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す（→ P. 175）

6 サードシートがバックドアにふれる位置までうしろに移動させる（→ P. 175）

7 セカンドシートをいちばん前まで移動させる（→ P. 160）

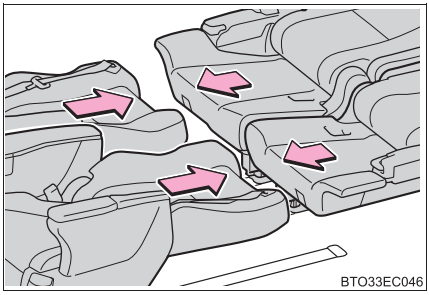
8 7 人乗り車のセカンドマニュアルシートは、左右位置を中央に移動させる（→ P. 160）

セカンドシートのアームレストを格納してください。（→ P. 172）

9 セカンドシートのヘッドレストをはずす（→ P. 186）

10 セカンドシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す（→ P. 160）

11 セカンドシートとサードシートのすき間がなくなるように必要に応じてシートを移動させる（→ P. 160, 175）



シートをもとにもどすときは、逆の手順でもどしてください。

サードシート中央席シートベルトを使用するときは：→ P. 29

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フロント・セカンドフルフラットモードにする★

1 車を停止させ、シフトレバーを P に入れて、パーキングブレーキをかける

2 サードシート中央席シートベルトを格納する（→ P. 30）

3 サードシートをいちばんうしろまで移動させる（→ P. 175）

サードシートのアームレスト★を格納してください。
（→ P. 176）

4 セカンドシートをいちばんうしろまで移動させる（→ P. 160）

セカンドシートのアームレスト★を格納してください。
（→ P. 172）

5 フロントシートをいちばん前まで移動させる（→ P. 155）

フロントシートのアームレスト★を格納してください。（→ P. 157）

6 フロントシートのヘッドレストをはずす（→ P. 186）

7 フロントシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す（→ P. 155）

8 フロントシートとセカンドシートのすき間がなくなるようにセカンドシートを移動させる（→ P. 160）

9 7 人乗り車のセカンドマニュアルシートは、左右位置を中央に移動させる（→ P. 160）

10 セカンドシートのヘッドレストをはずす（→ P. 186）

11 セカンドシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す（→ P. 160）

12 セカンドシートとサードシートのすき間がなくなるようにサードシートを移動させる（→ P. 175）

13 サードシートの背もたれをバックドアにふれるまで倒す（→ P. 175）

シートをもとにもどすときは、逆の手順でもどしてください。

サードシート中央席シートベルトを使用するときは：→ P. 29

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

荷室モードにする

1 車を停止させ、シフトレバーを P に入れて、パーキングブレーキをかける

2 サードシート中央席シートベルトを格納する（→ P. 30）

3 サードシートの各シートベルトのバックルを格納する（→ P. 31）

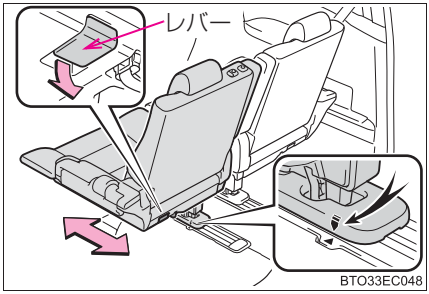
4 サードシート中央席のヘッドレストを取りはずして収納する（→ P. 189）

5 サードシート左右席のヘッドレストをいちばん下まで下げる（→ P. 186）

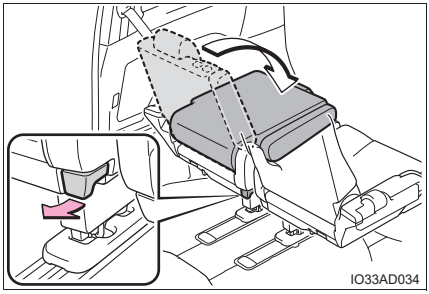
6 サードシートのアームレスト★を格納する（→ P. 176）

7 レバーを引いてサードシートを前後に動かし、シート側のマークをレール側のマークに合わせる

シートを軽くゆすり、確実にロックしていることを確認します。



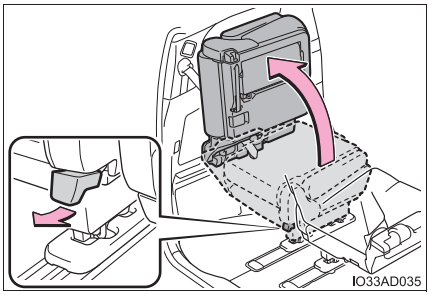
8 スペースアップレバーを 1 段階引いて背もたれを倒す。



9 スペースアップレバーをもう 1 段階引いてシートをはね上げる

シートを前後に動かさないではね上げてください。

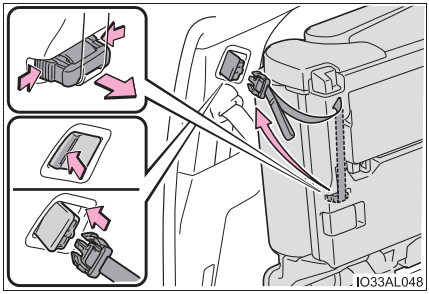
シートのはね上げと連動して、シート脚部が格納されます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

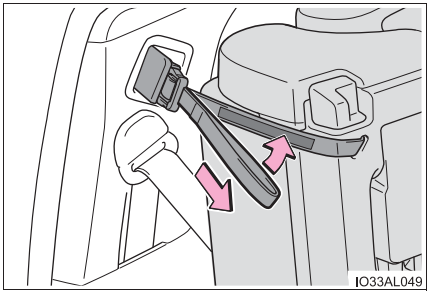
10 シートクッション裏側からシート固定ベルトを取り出し、壁面のロック部と結合する

ロック部は、図のように押してから引き出します。



11 シートを手で押さえながら、シート固定ベルトを引っ張る

ベルトの長さを調整したあと、図のように面ファスナーでベルトを固定します。



12 シートを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認する

シートをもとにもどすときは、逆の手順でもどしてください。

サードシート中央席シートベルトを使用するときは：→P. 29

最大積載モードにする

▶ 7 人乗り車

1 車を停止させ、シフトレバーを P に入れて、パーキングブレーキをかける

2 サードシートを格納する（→ P. 197）

3 セカンドシートをいちばん前まで移動させる（→ P. 160）

マニュアルシート装着車：シートを軽くゆすり、確実にロックしていることを確認します。

シートをもとにもどすときは、逆の手順でもどしてください。

サードシート中央席シートベルトを使用するときは：→ P. 29

▶ 8 人乗り車

1 車を停止させ、シフトレバーを P に入れて、パーキングブレーキをかける

2 サードシートを格納する（→ P. 197）

3 セカンドシートベルトのバックルを格納する（→ P. 28）

4 セカンドシートのアームレストを格納する（→ P. 172）

5 セカンドシートのシートクッションを起こす（→ P. 169）

6 セカンドシートのシートクッション下部の収納ポケットから、シート固定バンドを取り出す（→ P. 170）

7 シート固定バンドのフックをヘッドレストにかけ、シートクッションを固定する（→ P. 170）

シートを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。

8 セカンドシートのリクライニングレバーを引く、または前倒しペダルを踏んで背もたれを前方に倒す（→ P. 160）

シートを前方に移動させることができます。

9 セカンドシートをいちばん前まで移動したあと、背もたれをもとにもどし、セカンドシートを固定する（→ P. 160）

シートをもとにもどすときは、逆の手順でもどしてください。

サードシート中央席シートベルトを使用するときは：→ P. 29

スーパーリラックスモードにする（セカンドマニュアルシート［7 人乗り］装着車）

1 車を停止させ、シフトレバーを P に入れて、パーキングブレーキをかける

2 サードシートをいちばんうしろまで移動させる（→ P. 175）

サードシートのアームレスト★を格納してください。（→ P. 176）

3 セカンドシートのサイドテーブル★を格納する（→ P. 520）

4 セカンドシートの左右位置を中央に移動させる（→ P. 160）

セカンドシートのアームレストを格納してください。（→ P. 172）

5 セカンドシートとサードシートのあいだのスライドストッパーをはずす（→ P. 201）

6 セカンドシートを後方へ移動させる（→ P. 160）

7 オットマンの角度を調整する（→ P. 160）

シートをもとにもどすときは、逆の手順でもどしてください。

エグゼクティブモードにする（セカンドパワーシート装着車）

1 車を停止させ、シフトレバーを P に入れて、パーキングブレーキをかける

2 サードシートをいちばんうしろまで移動させる（→ P. 175）

3 セカンドシートを後方へ移動させる（→ P. 160）

4 オットマンの角度／長さを調整する（→ P. 160）

シートをもとにもどすときは、逆の手順でもどしてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

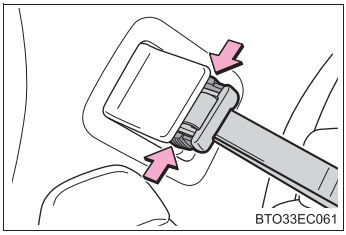
■サードシートを格納するとき

サードシートを格納するときは、バックドア側から操作してください。

■シート固定ベルトをはずすとき

シート固定ベルトの上下のツメを押してはずし、シートクッション裏側に格納します。

シートを押して、ベルトをゆるめた状態でツメを押してください。



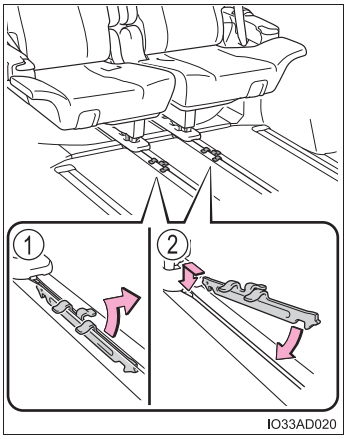
■スライドストッパーについて

●サードシートの足元に、スライドストッパーがあります。これはシートをスライドさせたとき、誤って乗員がシートとシートのあいだに足を挟まないようにするために取り付けられています。

●スライドストッパーを取りはずしたときは、紛失しないように大切に保管してください。工具袋に入れておくことをおすすめします。（→ P. 602, 618）

① 取りはずし

② 取り付け



警告

■シートアレンジについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●走行中はシートアレンジ操作をしないでください。

●必ず平坦な場所でシフトレバーを P に入れて、パーキングブレーキを確実にかけてください。

●シートに人が乗っている状態でシートアレンジ操作をしないでください。

●操作をするときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意してください。

●シートが乗員や荷物にあたらないように注意してください。

●シートアレンジをしたあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。

●シートの間にシートベルト、バックルが挟み込まれていないか確認してください。

●ラゲージルームに人をのせて走行しないでください。

●フラットにした状態で人や荷物をのせて走行しないでください。

●ラゲージルームにお子様をのせないでください。

●シートを移動しないときはスライドストッパーを取りはずさないでください。

■フラットシートについて

フラットにした状態で人や荷物を乗せて走行しないでください。

警告

■サードシートの格納について

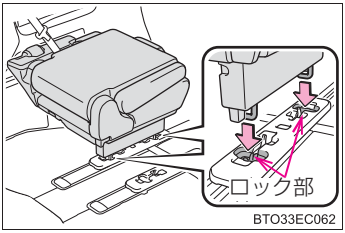
●ラゲージスペースに人を乗せて走行しないでください。

●シートベルトが背もたれや、シートクッションに挟まれていないことを確認してください。

●シートクッションの上に荷物などをのせたままシートを格納しないでください。

●シート格納時にシート固定ベルトで固定されていない場合、シート脚部が動き、荷物やシートが破損したり、けがをするおそれがあります。シートを格納したときは必ずシートを固定してください。

●シートをおろしたときは、シート脚部が床面ロック部に確実に固定されたことを確認してください。



●左右のシートを同時に格納しないでください。指や手を挟み、けがをするおそれがあります。シートを格納するときは、片側ずつ操作してください。

■シートをもとの位置にもどしたあとは

●シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。

●シートの間にシートベルト、バックルが挟み込まれていないか確認してください。

●ヘッドレストが取り付けられていることを確認してください。

⚠注意

■シートアレンジについて

シートレールの上にマットなどを敷かないでください。

■シートの格納について

- セカンドシートのシートクッションを持ち上げたときは、シートクッションの土台部分に乗ったり、手や足を入れないでください。
- サードシートをおろすときは、床面に物がないことを確認してから行ってください。
- セカンドシートの位置や、サードシートの片側の背もたれが前に倒れている状態だと、サードシートがあたり格納できないことがあります。
- サードシートのバックルを格納（→P. 31）しないでサードシートを格納（→P. 197, 199）すると、背もたれがへこむことがあります。
- サードシートの格納時は、持ち上げたシートの前後位置を動かさないでください。持ち上げた状態からシートの位置がかわると、もとにもどす際にシートが破損するおそれがあります。

■フラットシートについて

- 背もたれをもどすときは、背もたれを押さえながらリクライニング調整を行ってください。（マニュアルシート）
- フラットにした状態でシートの上を走りまわらないでください。またシートの上を移動するときは、シートの中央を踏んでゆっくりと移動してください。

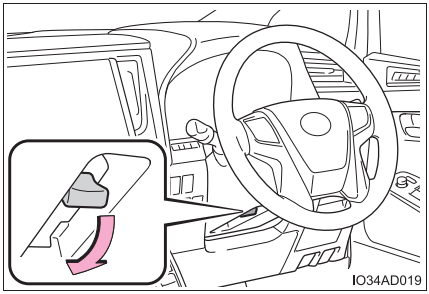
■スライドストッパーについて

スライドストッパーは必ず正しい向きで取り付けてください（→P. 201）。逆向きで取り付けた状態でシートをスライドさせると、レール部やストッパーなどが破損するおそれがあります。

ハンドル

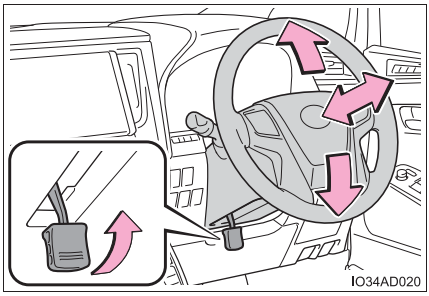
調整のしかた

1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



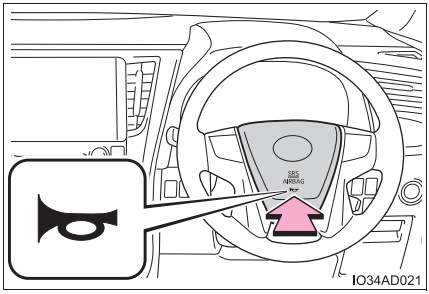
2 ハンドルを上下・前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



ホーン（警音器）

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。



警告

■**走行中の留意事項**

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**ハンドル位置を調整したあとは**

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。

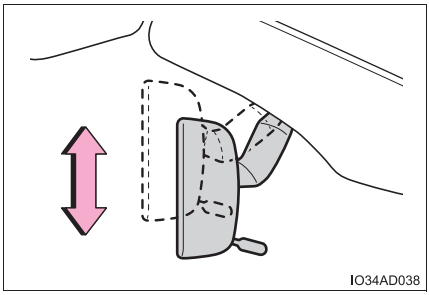
インナーミラー★

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



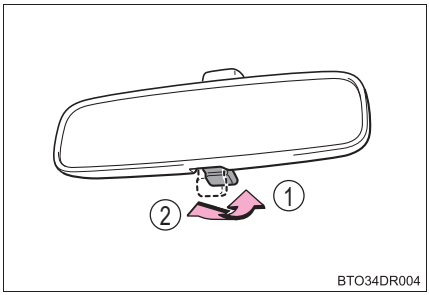
防眩機能

▶ 手動防眩ミラー

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。

① 通常使用時

② 防眩時



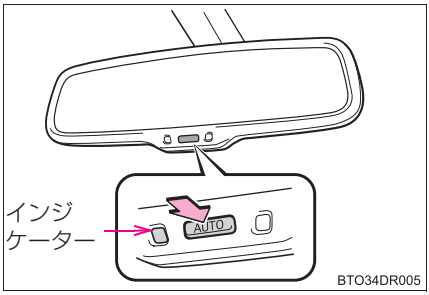
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ 自動防眩ミラー

後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

自動防眩機能の切りかえ
ON ／ OFF

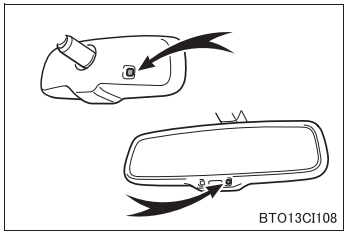
ON のときはインジケーターが点灯します。
エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたときは、ミラーは常に自動防眩機能が ON になっています。
ボタンを押すと OFF になりインジケーターが消灯します。



知識

■ センサーの誤作動防止（自動防眩ミラー装着車）

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



警告

走行中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

デジタルインナーミラー★

車両後方カメラの映像をミラー内のディスプレイに表示する運転補助装置です。

切りかえレバーを操作することで、鏡面ミラーからデジタルインナーミラーに切りかえることができます。

ヘッドレストや荷物などで視界をさえぎられずに後方を確認することができます。また、セカンドシート・サードシートを映さないことで乗員のプライバシーを保護することができます。

警告

次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■デジタルインナーミラーをお使いになる前に

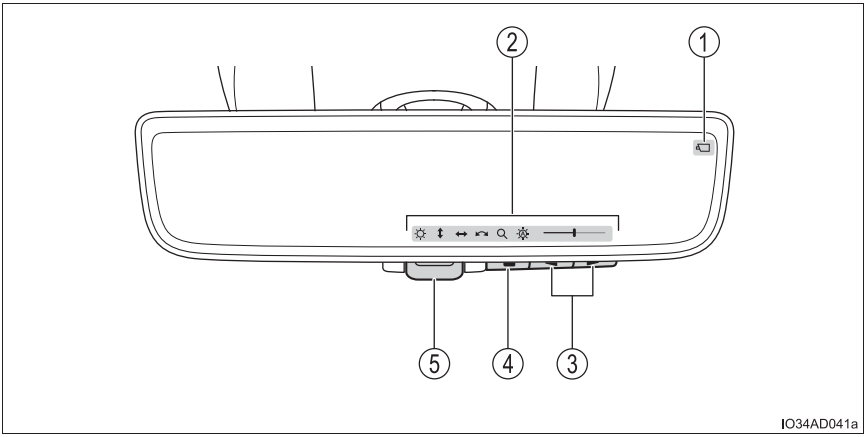
●走行前に必ずミラーの調整を行ってください。(→P. 212)

・鏡面ミラーモードに切りかえて、鏡面を後方が正しく映る位置に調整する
・デジタルミラーモードに切りかえて、ディスプレイに表示される映像を調整する

●ディスプレイに表示される映像と鏡面ミラーに映る範囲は異なりますので、あらかじめ違いを確認してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

各部の名称



① カメラインジケーター

カメラが正常に作動していることを示します。

② アイコン表示エリア

調整アイコン（→ P. 212）・調整ゲージが表示されます。

③ 選択／調整スイッチ

調整項目の設定を変更します。

④ メニュースイッチ

調整アイコンの表示や、調整項目の移動を行います。

⑤ 切りかえレバー

デジタルミラーモードと鏡面ミラーモードの切りかえを行います。

モードを切りかえるには

切りかえレバーを操作することで、デジタルミラーモードと鏡面ミラーモードを切りかえることができます。

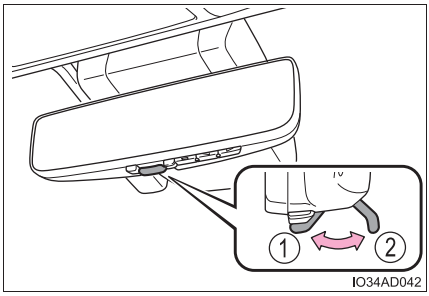
① デジタルミラーモード

車両後方の映像を表示します。

ディスプレイに が表示されます。

② 鏡面ミラーモード

映像が消え、鏡面ミラーとして使用できます。



知識

■デジタルミラーモードの作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

エンジンスイッチをイグニッション ON モードから OFF またはアクセサリーモードにすると、数秒後に表示が消えます。

■デジタルミラーモードについて

●ミラーの反射や汚れ、カメラに水滴やほこりが付いているなどでディスプレイに表示される映像が見えにくい場合や、後続車のライトのちらつきや圧迫感が気になる場合は、鏡面ミラーモードに切りかえてください。

●バックドアが開いているときは、デジタルインナーミラーの映像が正しく表示されません。走行前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。

●ディスプレイが反射して見えにくい場合は、サンシェード（ツインムーンルーフ装着車）を閉めてください。

●夜間など暗いところでは、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

・映像の色と実際の色が異なって見える
・後続車のライトの高さなどによっては、後続車の周囲が白くぼやけて見える
・周辺を明るく見せるために映像が自動的に調整されることにより、特有のちらつきが発生する

映像が見えにくい場合や、ちらつきが気になる場合は、鏡面ミラーモードに切りかえてください。

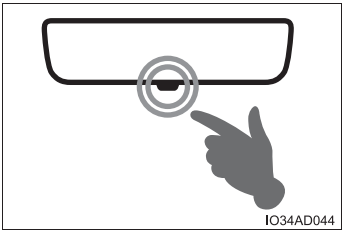
●デジタルインナーミラー本体が発熱することがありますが、異常ではありません。

●体調・年齢などにより、ディスプレイに表示される映像に焦点が合うまで時間がかかる場合があります。焦点が合わせづらいと感じたときは、鏡面ミラーモードに切りかえてください。

●主に同乗者がディスプレイを凝視すると、車酔いを起こすおそれがあります。

■システムに異常が発生したら

デジタルミラーモード使用時に、図で示すシンボルが表示された場合、システムに異常があるおそれがあります。シンボルの表示は数秒後に消えます。切りかえレバーを操作し、鏡面ミラーモードに切り替えて、トヨタ販売店で点検を受けてください。

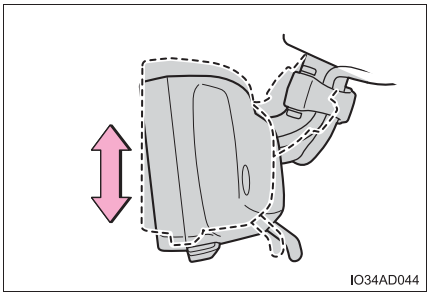


調整するには

■ ミラー本体の上下調整

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

鏡面ミラーモードに切りかえて、インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する

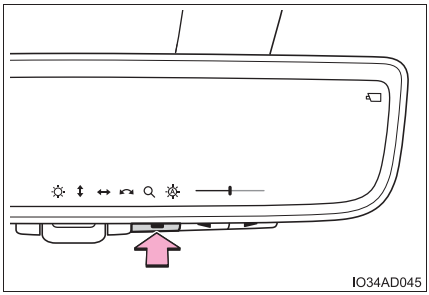


■ ディスプレイの調整（デジタルミラーモード）

デジタルミラーモードの調整や機能の ON/OFF ができます。

1 メニュースイッチを押す

調整アイコンが表示されます。



2 メニュースイッチをくり返し押して、調整したい項目（調整アイコン）を選択する

3 ▭ または ▭ を押して、設定を変更する

約 5 秒以上スイッチを操作しない状態が続くと、調整アイコンの表示が消えます。

調整アイコン	設定内容
☼	ディスプレイの明るさを調整することができます。
↕	ディスプレイの表示映像を上下に調整することができます。
↔	ディスプレイの表示映像を左右に調整することができます。
↺	ディスプレイの表示映像の傾きを調整することができます。
🔍	ディスプレイの表示映像を拡大縮小することができます。
☼A	自動防眩機能の ON/OFF を 切りかえることができます。※ ON にすることで、後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に調整します。 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたときは、常に自動防眩機能が ON になっています。

※ 鏡面ミラーモード使用時の機能ですが、デジタルミラーモード使用時にも設定できます。（→ P. 214）

■ 自動防眩機能の ON/OFF 切りかえ（鏡面ミラーモード）

鏡面ミラーモードの自動防眩機能の ON/OFF を変更できます。変更はデジタルミラーモード使用時、鏡面ミラーモード使用時のいずれからでも行えます。

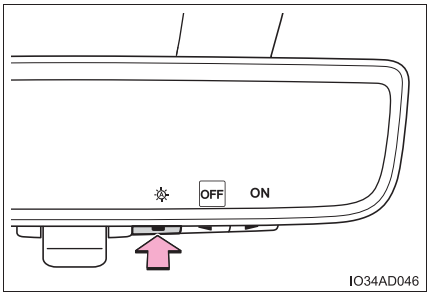
▶ デジタルミラーモード使用時

→ P. 212

▶ 鏡面ミラーモード使用時

1 メニュースイッチを押す

調整アイコンが表示されます。



2 ▭ または ▭ を押して、自動防眩機能の ON ／ OFF を切りかえる

約 5 秒以上スイッチを操作しない状態が続くと、調整アイコンの表示が消えます。

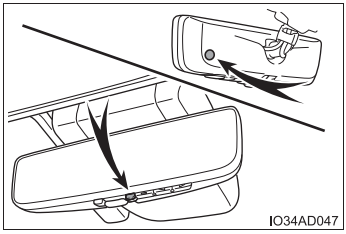
知識

■ ディスプレイの調整について（デジタルミラーモード）

- ディスプレイ表示の調整を限界値まで行うと、映像がゆがむ場合がありますが故障ではありません。
- ディスプレイ表示が明るすぎると、目が疲れることがあります。適度な明るさに調整してください。
  目が疲れた場合には、鏡面ミラーモードに切りかえてご使用ください。
- ディスプレイ表示の明るさは、車両前方の明るさに合わせて自動でかわります。

■センサーの誤作動防止

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

●走行中は、デジタルインナーミラーの位置やディスプレイに表示される映像を調整しないでください。
デジタルインナーミラーの操作スイッチは、安全な場所に停車して操作してください。走行中に操作すると、ハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●必ず車両周辺の状況を直接確認してください。

デジタルミラーモード使用時は、ディスプレイ上に映る車両や障害物が実際の大きさと異なる場合があります。後退時は、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。また、夜間など暗いところで後続車が接近したときは、周囲が暗く映る場合があります。

■安全にお使いいただくために

煙が出る、異臭がするなど異常な状態で使用すると、発火の原因になります。ただちに使用を中止してトヨタ販売店にご相談ください。

お手入れについて

■ デジタルインナーミラーのお手入れについて

ミラー表面が汚れていると、映像が見えにくくなることがあります。あらかじめ、乾いたやわらかい布などで汚れをそっとふき取ってください。

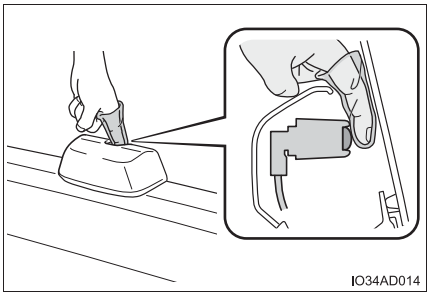
■ カメラのお手入れについて

カメラのレンズが汚れていると、鮮明な画像が得られません。

水滴やほこりなどが付着したときは水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズを清掃してください。

清掃しにくい場合は綿棒を使用してください。

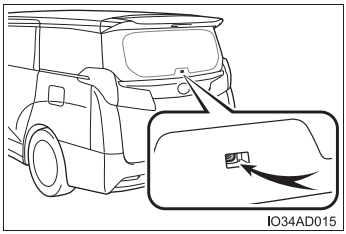
また、清掃する際はリヤウインドウガラスの内側も同様に清掃してください。



知識

■ カメラについて

デジタルインナーミラーのカメラは、図の位置にあります。



⚠注意

■デジタルインナーミラーの故障や誤作動を防ぐために

●ミラーをふくときはシンナー・ベンジン・アルコールなどの溶剤を使用しないでください。変色・劣化・故障の原因になります。

●ミラーの近くでは、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こしたりしないでください。故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

●ミラー本体の取りはずし・分解・改造はしないでください。

■カメラの故障や誤作動を防ぐために

●デジタルインナーミラーが正常に作動しなくなるおそれがありますので、次のことにご注意ください。

・カメラ部を強くたたいたり、ものをぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。
・カメラ部は取りはずし・分解・改造をしないでください。
・有機溶剤・ワックス・油膜取り剤・ガラスコーティング剤などが付着したときはすぐにふき取ってください。
・カメラレンズをふくときは水で湿らせたやわらかい布を使用してください。
カメラレンズを強くこするとレンズが傷付いて、鮮明な画像を見ることができなくなるおそれがあります。
・リヤウインドウガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼る場合は、カメラ前部に貼らないでください。
カメラ前部に貼り付けた場合、映像が正しく映らなくなる場合があります。

●カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

故障とお考えになる前に

デジタルミラーモード使用時に次のような症状で気になったときやお困りになったときは、考えられる原因と処置を参考に、もう一度確認してください。

処置をしても直らないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイに表示される映像が見にくい	ミラー表面が汚れている	乾いたやわらかい布などで汚れをそっとふき取ってください。
	強い光（太陽やヘッドランプの光など）がデジタルインナーミラーにあたった	鏡面ミラーモードに切りかえてください。（ツインムーンルーフ★からの光があたっているときは、サンシェードを閉めてください）
	・夜間など暗いところで使用した ・テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くで使用した ・カメラ付近の温度が高い、または低い ・外気温が低い ・雨天時など湿度が高い ・太陽やヘッドランプの光が直接カメラのレンズにあたった ・蛍光灯、ナトリウム灯、水銀灯などの照明の下で使用した ・排気ガスが映り込んでいる	鏡面ミラーモードに切りかえてください。 （カメラおよびその周辺環境が改善されてから、再びデジタルミラーモードをご使用ください）
	カメラのレンズに水滴、ほこりなどの異物や汚れが付着している	水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズを清掃してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイに表示される映像が見にくい	ラゲージルームの荷物がガラス等に反射して映り込んでいる	・鏡面ミラーモードに切りかえてください。 ・荷物を映りこまない位置に移動するか、黒い布等で覆いガラスへの反射を抑えてください。
	リヤウインドウガラスが曇っている	鏡面ミラーモードに切りかえてください。 リヤウインドウデフォッガー（→ P. 479）を使用し、曇りが取れてから再びデジタルミラーモードでご使用ください。
	リヤウインドウガラスの外側が汚れている	リヤワイパーで汚れをふき取ってください。
	リヤウインドウガラスの内側が汚れている	水で湿らせたやわらかい布で清掃してください。
ディスプレイに表示される映像がずれている	バックドアが完全に閉まっていない	バックドアを閉めてください。
	カメラ部に強い衝撃が与えられた	鏡面ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。
ディスプレイ上に が表示され、ディスプレイに表示される映像が暗くなった	システムに異常が発生した	鏡面ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。
ディスプレイ上の が消灯した		

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイ上に が表示された	デジタルインナーミラーの温度が非常に高い （徐々にディスプレイが暗くなり、その後も温度が上がり続けると映像が消えます）	ミラーの温度を下げるために、車室内の温度を下げることを推奨します。 （ミラーの温度が下がると が消えます） ミラーの温度が下がっても が消えない場合は、鏡面ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。
切りかえレバーが正常に作動しない	切りかえレバーに異常が発生した	鏡面ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。 （メニュースイッチを約 10 秒間押し続けることで、鏡面ミラーモードに切りかえることができます）

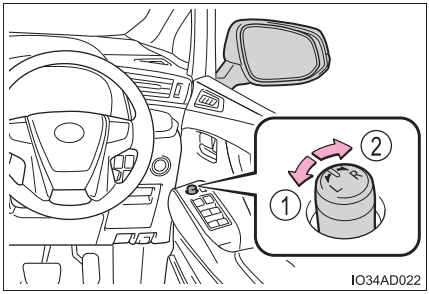
ドアミラー

調整のしかた

1 調整するミラーを選ぶには、スイッチをまわす

① 左

② 右



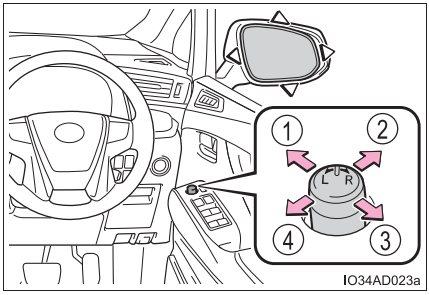
2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを操作する

① 上

② 右

③ 下

④ 左

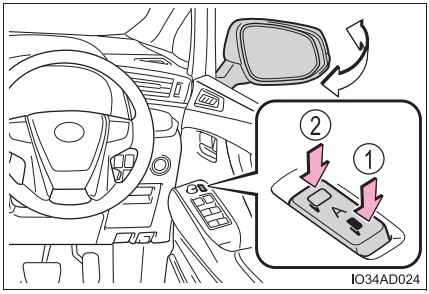


ドアミラーを格納・復帰する

① ミラーを格納する

② ミラーをもとの位置にもどす

スイッチを中立の位置（A）にするとオート作動に切りかわり、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠と連動して作動します。



リバース連動機能について★

ミラー調整スイッチのLまたはRどちらかが選択されているときは、後退時に鏡面が下向きになり、下方が見やすくなります。

この機能を使用しないときは、ミラー調整スイッチの選択がLまたはRに選択されていない状態にしてください。

■ 後退時に下向きになる角度を調整するときは

シフトレバーをRに入れた状態で、鏡面位置を調整することで、下向きに動く角度を調整できます。
次回からシフトレバーをRにするたびに、その角度で作動します。

通常時（シフトレバーがR以外のとき）の鏡面位置を基準に下向きに動く角度を記憶するため、調整後に通常時の鏡面位置を変更すると、それに伴って後退時の鏡面位置も変化します。

通常時の鏡面位置を変更したときは、後退時に下向きになる角度も調整してください。

知識

■鏡面調整の作動条件

エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションONモードのとき

■ミラーが曇ったとき（ミラーヒーター装着車）

リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。（→ P. 479）

■ミラー角度の自動調整★

お好みのミラー角度をポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。（→ P. 180）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■寒冷時に「オート作動」で使用するとき

寒冷時に「オート作動」で使用しているとき、ドアミラーが凍結すると、自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、格納スイッチを押すか、手で動かしてください。

■カスタマイズ機能

オート電動格納作動の作動内容などを変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 662）

警告

■走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ミラーが動いているとき

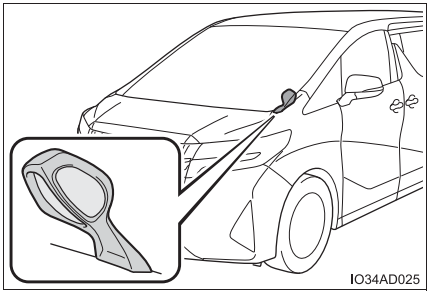
手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ミラーヒーターが作動しているとき（ミラーヒーター装着車）

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

補助確認装置★

発進時またはごく低速時に、前方および左側車両側面を確認するときに役立ちます。

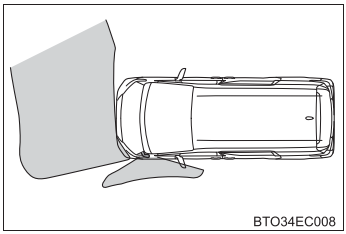


知識

■ミラーに映るおよその範囲

身長・シートの位置により、確認できる範囲は異なります。

ミラーの鏡面は固定式のため、鏡面を動かして確認できる範囲の調整をすることはできません。



注意

■補助確認装置について

- 補助確認装置の鏡面部に汚れが付着しているときは、やわらかい布などを使用して汚れをふき取ってください。
- 車両直前・直左部や後方の確認は、直接確認するかインナーミラー・ドアミラーなども併用し十分注意して行ってください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パワーウインドウ

開閉のしかた

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。

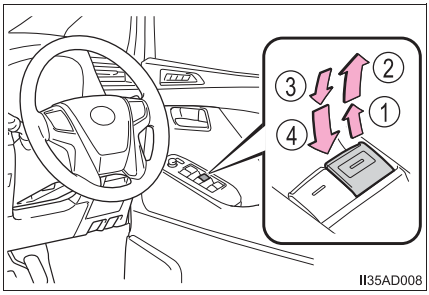
① 閉める

② 自動全閉 ※

③ 開ける

④ 自動全開 ※

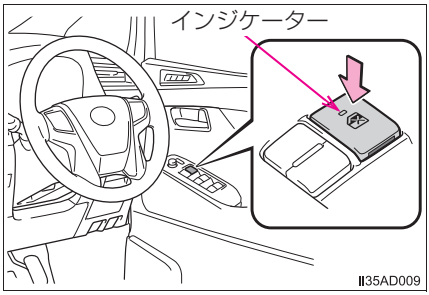
※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。



ウインドウロックスイッチ

スイッチを押すとインジケーターが点灯し、運転席以外のドアガラスやリヤムーンルーフ★が作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスやリヤムーンルーフを開閉することを防止できます。



知識

■ **作動条件**

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ **エンジン停止後の作動**

エンジンスイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ **挟み込み防止機能**

ドアガラスを閉めるときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

■ドアガラスを開閉することができないとき

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウインドウスイッチで、次の操作を行ってください。

●車を停止し、エンジンスイッチをイグニッション ON モードの状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。または、「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

1 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

2 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする

3 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 6 秒以上引き続ける

4 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける

5 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で約 4 秒以上押し続ける

6 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ドアロック連動ドアガラス開閉機能

●メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。※ （→ P. 632）

●ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。※ （→ P. 107）

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

■バッテリーをはずしたとき

ウインドウロックスイッチが OFF になるため、バッテリーを接続したあと、再度ウインドウロックスイッチを ON にする必要があります。

■窓開警告機能

エンジンスイッチが OFF でドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■後席窓開状態表示について

マルチインフォメーションディスプレイから後席窓の開状態を確認できます。（→ P. 90）

■カスタマイズ機能

ドアロック連動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 662）

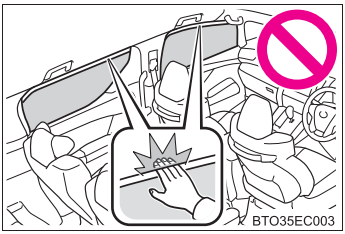
警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ドアガラスを開閉するとき

●運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→ P. 225）

●ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



●ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。
またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

●車から離れときはエンジンスイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告

■**挟み込み防止機能**

●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

■**巻き込み防止機能**

●巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。

●巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などが巻き込まれないように注意してください。

注意

■**挟み込み防止機能・巻き込み防止機能について**

ドアガラスを開閉しているときに、ドアを強く閉めると挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が作動し、ドアガラスが反転・停止することがあります。

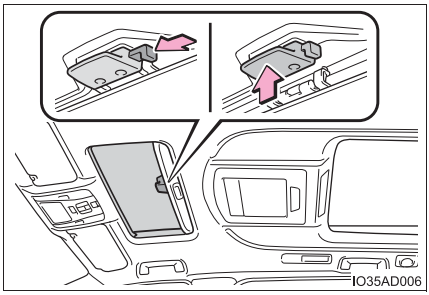
ツインムーンルーフ★

フロントムーンルーフをチルトアップすることができます。また、頭上のスイッチでリヤムーンルーフを開閉できます。

フロントムーンルーフをチルトアップする

ボタンを押しながらハンドルを押し上げる

閉めるときは“カチッ”と音がするまで引き下げます。



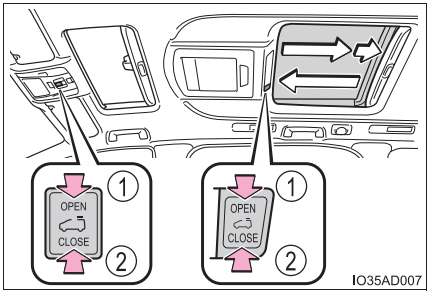
リヤムーンルーフを開閉する

① 開く ※

全開の手前の位置で止まります。(風切り音の低減機能)
全開にしたいときは、スイッチをもう一度押してください。

② 閉める ※

※ 途中で停止するときは、スイッチを軽く押します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■リヤムーンルーフの作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

ただし、パワーウインドウのウインドウロックスイッチが押された状態のときは作動しません。（→ P. 225）

■エンジン停止後の作動

エンジンスイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間はリヤムーンルーフを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■リヤムーンルーフの挟み込み防止機能

リヤムーンルーフを閉めるときに、リヤムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■サンシェード

手動で開閉できます。また、リヤサンシェードはリヤムーンルーフが開くと連動して開きます。

■リヤムーンルーフが正常に閉まらないとき

閉まるときに反転し閉じ切らない場合、次の操作を行ってください。

1 スイッチの “CLOSE” 側を押し続ける ※

リヤムーンルーフが全閉位置まで閉じてから、全開位置まで開き、その後再び全閉位置まで閉まります。

2 リヤムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す。

※復帰操作作動中はスイッチを押し続けてください。途中でスイッチから手を離すと最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■リヤムーンルーフ開警告機能

エンジンスイッチが OFF でリヤムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■後席窓開状態表示について

マルチインフォメーションディスプレイからリヤムーンルーフの開状態を確認できます。（→ P. 90）

■カスタマイズ機能

ドアロック連動リヤムーンルーフ開閉機能などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 662）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ムーンルーフを開けているとき

●走行中はルーフから手や顔を出さない

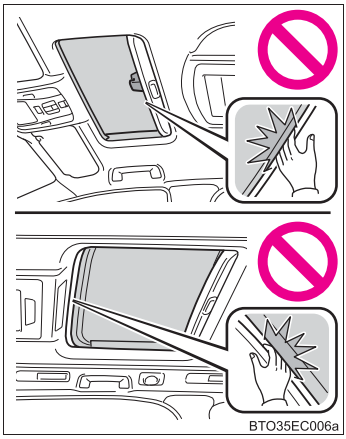
●開口部に腰かけない

■ムーンルーフを開閉するとき

●運転者は、ムーンルーフの開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはムーンルーフの操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

●フロントムーンルーフを閉めるときや、リヤムーンルーフを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。

●ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってリヤムーンルーフを操作するときは、リヤムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。
またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がリヤムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。


BTO35EC006a

●車から離れる時はエンジンスイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■リヤムーンルーフの挟み込み防止機能

●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、リヤムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

運転 4

4-1. 運転にあたって

運転にあたって 234
荷物を積むときの注意..... 245

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション）スイッチ 246
オートマチックトランスミッション 252
方向指示レバー 259
電動パーキングブレーキ..... 260
ブレーキホールド 264

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ 267
AHS（アダプティブハイビームシステム）..... 271
AHB（オートマチックハイビーム）..... 276
フォグランプスイッチ..... 280
ワイパー＆ウォッシャー（フロント）..... 282
ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）..... 286

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方 288

4-5. 運転支援装置について

Toyota Safety Sense.....292
PCS（プリクラッシュセーフティ）.....299
LTA（レーントレーシングアシスト）.....309
RSA（ロードサインアシスト）.....321
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）..... 326
先行車発進告知機能.....342
ITS Connect.....345
Stop & Start システム.....356
BSM（ブラインドスポットモニター）.....369
クリアランスソナー.....376
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）.....391
PKSB（パーキングサポートブレーキ）.....400
パーキングサポートブレーキ（静止物）.....408
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）.....412
インテリジェントパーキングアシスト 2.....415
運転を補助する装置.....462

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転.....469

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

エンジンをかける

→ P. 246

発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→ P. 252）

2 パーキングブレーキを解除する（→ P. 261）

パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトレバーを P 以外にしたときに、自動でパーキングブレーキが解除されます。（→ P. 260）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

停車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける（→ P. 261）

長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にします。（→ P. 252）

駐車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

2 パーキングブレーキをかけて（→ P. 261）、シフトレバーを P にする（→ P. 252）

パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトレバーを P にしたときに、自動でパーキングブレーキがかかります。（→ P. 260）

3 エンジンスイッチを押してエンジンを停止する

4 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め ※ を使用してください。

※輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

上り坂の発進のしかた

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→ P. 252）

2 パーキングブレーキスイッチを引いて、手動でパーキングブレーキをかける（→ P. 261）

3 ブレーキペダルから足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏む

4 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキスイッチを押し、パーキングブレーキを手動で解除して発進する（→ P. 261）

急発進の抑制（ドライブスタートコントロール）

アクセルペダルを踏み込んだまま、次のようにシフトポジションを切りかえたとき、エンジン出力を抑制することがあります。

● R に切りかえたとき ※

● P または R から、D などの前進シフトポジションに切りかえたとき ※

この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

※ 状況によっては操作できない場合があります。

知識

■ **上り坂発進について**

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。（→ P. 462）

■ **雨の日の運転について**

●雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ **走行中のエンジン回転数について**

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなることがあります。これは走行状況に合わせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うためで、急加速を示すものではありません。

●車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき

●アクセルペダルを離したとき

■エンジン出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

●アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、エンジン出力を抑制する場合があります。

●ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→ P. 590）

■ドライブスタートコントロールについて

TRC の作動を停止（→ P. 464）すると、急発進の抑制制御も停止します。急発進の抑制制御により、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合は、TRC の作動を停止してください。（→ P. 464）

■運転者標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミ部分に取り付けることはできません。

■オーバーヒートについて

次のようなきびしい走行状況ではオーバーヒートになるおそれがあります。

●暑い日に長い上り坂を走行する

●高速走行直後に急減速や急停止をする

■環境に配慮した運転（エコドライブインジケーター）

→ P. 89

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 574を参照してください。

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。（→ P. 253）

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転するとき

- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- 4WD 車：オフロード走行をしないでください。
  本格的なオフロード走行を目的とした 4WD 車ではありません。やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。
- 渡河などの水中走行はしないでください。
  電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります

■すべりやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シフトレバーを操作するとき

- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
  エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをNに入れると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
  シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限度をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■停車するとき

●空ぶかしをしないでください。
シフトレバーがＰまたはＮ以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■駐車するとき

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターを収納装備などに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてエンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーを P にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●エンジン回転中またはエンジン停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

■仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。
エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるとき

●ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。

●ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

●万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。

●ブレーキシステムは２つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■万一脱輪したときは（4WD 車）

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■床下に衝撃を受けたとき

ただちに安全な場所に停車し、エンジンを止めてください。ブレーキ液や燃料のもれ、マフラーなど車体下部に損傷がないか確認してください。もれや損傷がある場合はただちに販売店で点検整備を受けてください。
もれや損傷を放置すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠注意

■運転しているとき

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。
アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、エンジン出力を抑制する場合があります。

●坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけシフトレバーをＰにしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーをＰにしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

●パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

●ハンドルがとられる

●異常な音や振動がある

●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 599, 617 を参照してください。

注意

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- ●エンストする
- ●電装品がショートする
- ●水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ●ブレーキの効き具合
- ●エンジン・トランスアクスル・トランスファー（4WD 車）・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- ●プロペラシャフト（4WD 車）・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■**積んではいけないもの**

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

●燃料が入った容器

●スプレー缶

■**荷物を積むとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。

●シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。

●セカンドシート・サードシート★のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。

●ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。

●次の場所には荷物を積まないでください。

・運転席または助手席足元
・助手席やセカンドシート／サードシート★（荷物を積み重ねる場合）
・インストルメントパネル
・ダッシュボード

●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

■**荷物の重量・荷重のかけ方について**

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

エンジン（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動またはエンジンスイッチのモードを切りかえることができます。

エンジンのかけ方

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを引く（→ P. 261）

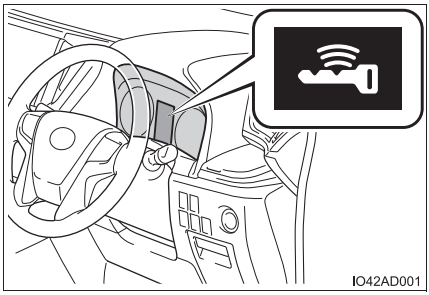
メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

3 ブレーキペダルをしっかり踏む

マルチインフォメーションディスプレイに が表示されます。

表示されないと、エンジンは始動しません。

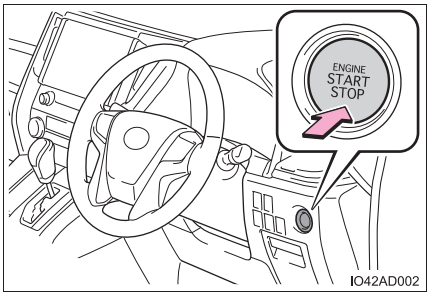


4 エンジンスイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。



エンジンスイッチのどのモード（→ P. 247）からでもエンジンを始動できます。

エンジンの停止のしかた

1 車両を完全に停止させる

2 パーキングブレーキをかけて（→ P. 261）、シフトレバーを P の位置にする

3 エンジンスイッチを押す

エンジンが停止します。

4 ブレーキペダルから足を離してマルチインフォメーションディスプレイの「アクセサリー」の表示が消灯していることを確認する

エンジンスイッチの切りかえ

ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）

① OFF ※

非常点滅灯が使用できます。

② アクセサリーモード

アクセサリーソケットなどの電装品が使用できます。

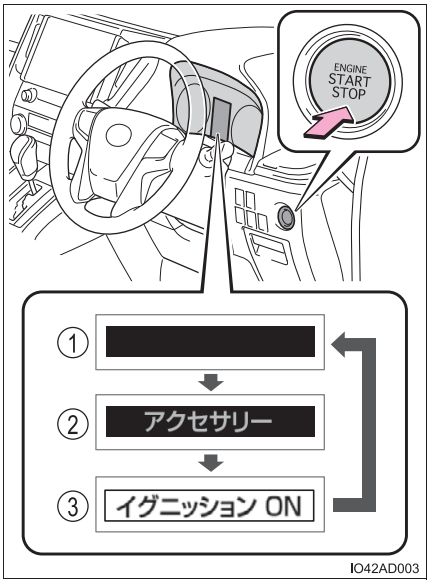
マルチインフォメーションディスプレイに「アクセサリー」が表示されます。

③ イグニッション ON モード

すべての電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに「イグニッション ON」が表示されます。

※ シフトレバーが P 以外のときはアクセサリーモードになり、OFF になりません。



シフトレバーが P 以外でエンジンを停止したとき

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、エンジンスイッチのモードは OFF になりません。次の手順で OFF にしてください。

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーを P の位置にする

3 マルチインフォメーションディスプレイに「電源を Off してください」が表示されていることを確認し、エンジンスイッチを 1 回押す

4 マルチインフォメーションディスプレイの「電源を Off してください」の表示が消灯していることを確認する

知識

■ **自動電源 OFF 機能**

シフトレバーが P にあるとき、20 分以上アクセサリーモードか 1 時間以上イグニッション ON モード（エンジンがかかっていない状態）にしたままにしておくと、エンジンスイッチが自動で OFF になります。
ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■ **電子キーの電池の消耗について**

→ P. 109

■ **スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況**

→ P. 151

■ **ご留意いただきたいこと**

→ P. 152

■ **エンジンが始動しないとき**

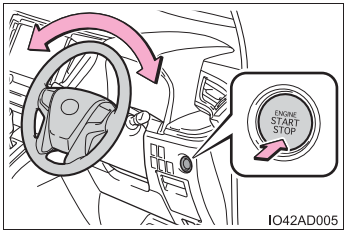
- エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります（→ P. 67）。トヨタ販売店へご連絡ください。
- シフトレバーが P の位置にあるか確認してください。エンジンを始動するときに、シフトレバーが傾いたり、P 以外の位置にするとエンジンを始動することができない場合があります。
  マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン停止　P レンジに入れてください」が表示されます。
- 始動操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されている場合は、画面の指示に従ってください。

■ステアリングロックについて

エンジンスイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。エンジンスイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

■ステアリングロックが解除できないとき

マルチインフォメーションディスプレイに「ハンドルを左右に回しながらエンジンスイッチを押してください」が表示されます。シフトレバーが P の位置にあることを確認して、ハンドルを左右にまわしながらエンジンスイッチを短く確実に押してください。



■ステアリングロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にエンジンの始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。2 秒～10 秒程度でもとの状態にもどります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「スマートエントリー＆スタートシステム故障　取扱書を確認」が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■電子キーの電池が切れたとき

→ P. 632

■エンジンスイッチの操作について

●スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切りかえやエンジンの始動ができない場合があります。

●エンジンスイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、エンジンが始動しない場合があります。エンジンスイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたとき

→ P. 632

警告

■**エンジンを始動するとき**

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**走行中の警告**

エンジンの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**緊急時のエンジン停止方法**

●走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。（→ P. 574）
ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

●走行中にエンジンスイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。

●走行中にエンジンを緊急停止したあと、エンジンを再始動させる場合は、シフトレバーを N にし、エンジンスイッチを押してください。

⚠注意

■バッテリーあがりを防止するために

●エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

●エンジンがかかっていないときに、マルチインフォメーションディスプレイの「アクセサリー」または「イグニッション ON」の表示が消灯していないときは、エンジンスイッチが OFF になっていません。エンジンスイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

●シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させないでください。シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンスイッチがアクセサリーモードとなるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因となります。

■エンジンを始動するとき

●エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。

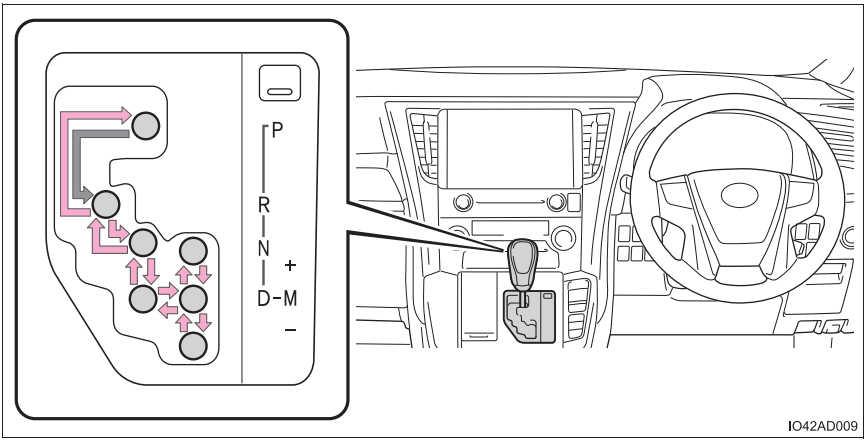
●もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■エンジンスイッチの操作について

エンジンスイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

オートマチックトランスミッション

シフトレバーの動かし方



エンジンスイッチがイグニッション ON モードの状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的および状態	
	2AR-FE エンジン搭載車	2GR-FKS エンジン搭載車
P	駐車またはエンジンの始動	
R	後退	
N	動力が伝わらない状態	
D	通常走行 ※1	
M	7 速スポーツ シーケンシャルシフト マチックモード走行 ※2 （→ P. 254）	M モード走行 ※2 （→ P. 255）

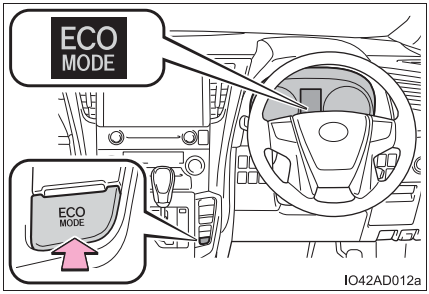
※1 D ポジションを使用することで、そのときの走行状況に最適なシフトレンジが自動で選択されます。通常は D ポジションを使用してください。

※2 シフトレバーを操作して変速段を切りかえることにより、適切なエンジンブレーキ力が得られます。

エコドライブモードの選択

車両駆動力とエアコンの作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。

エコドライブモードに切りかえるときは、スイッチを押す



マルチインフォメーションディスプレイに ECO MODE 表示灯が表示されます。

もう一度スイッチを押すと、通常走行モードにもどります。

エコドライブモードが ON の状態は、エンジンスイッチをOFFにしても記憶されています。

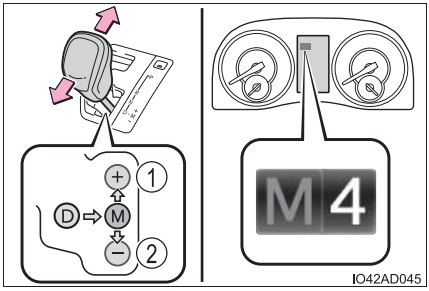
7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードでの変速段切りかえ（2AR-FE エンジン搭載車）

シフトレバーを M ポジションにすると、7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードに切りかわります。シフトレバーの操作で思いどおりの変速段を選択し、運転することができます。シフトレバーの “ ＋ ” 側または “ － ” 側の操作で変速段を切りかえることができます。

① シフトアップ

② シフトダウン

シフトレバーを操作するごとに 1 速ずつ変速します。
M1 ～ M7 のあいだで選択した変速段がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。



M ポジションで走行しているときでも、エンジン回転数が上がりすぎそうなとき、または下がりすぎそうなときは、自動的に変速段が切りかわる場合があります。

M モードでのギヤ段切りかえ（2GR-FKS エンジン搭載車）

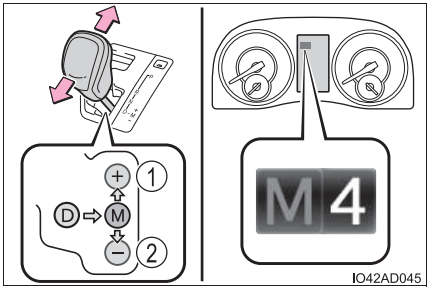
シフトレバーを M ポジションにすると、M モードに切りかわります。シフトレバーの操作で思いどおりのギヤ段を選択し、運転することができます。シフトレバーの “＋” 側または “－” 側の操作でギヤ段を選択することができます。

① シフトアップ

② シフトダウン

シフトレバーを操作するごとに 1 速ずつ変速します。

M1 から M8 の中で選択したギヤ段に固定され、マルチインフォメーションディスプレイにギヤ段が表示されます。



M ポジションでは、次の場合を除いてシフトレバーを操作しない限り、変速しません。

- 車速が低下した場合（シフトダウンのみ）
- オートマチックトランスミッションフルードやエンジン冷却水が低温の場合
- オートマチックトランスミッションフルードが高温の場合　（シフトアップのみ）
- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に達した場合

次の場合はシフトレバーを操作しても変速しません。

- 車速が低い場合（シフトアップのみ）

知識

■変速段機能（2AR-FE エンジン搭載車）

●エンジンブレーキ力は 7 段階から選択が可能です。

●変速段の数字が小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。

■変速段機能（2GR-FKS エンジン搭載車）

●エンジンブレーキ力は 8 段階から選択が可能です。

●ギヤ段の数字が小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。

■レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）を使って走行しているとき

エンジンブレーキを目的に D から M にシフトしたり M ポジションで走行中にシフトダウンしたりしても、レーダークルーズコントロール（全車追従機能付）が解除されずにエンジンブレーキが効かない場合があります。（→ P. 326）

■M ポジションで走行中に停車したときは（7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行時）

●停車すると自動的に M1 にシフトダウンされます。

●停止後走行するときは M1 からの発進となります。

●停止後は M1 に固定されます。

■シフトダウン制限警告ブザー（7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード、または M モード走行時）

安全や走行性能を確保するため、シフト操作には制限があり、シフトレバーを操作してもシフトできない場合があります。シフト操作によるシフトダウンが行われない場合は警告ブザーが鳴ります。

■エコドライブモード時のエアコン作動について

エコドライブモードは、暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。（→ P. 481）空調の効きをよりよくしたいときは、風量を調整するか、エコドライブモードを解除してください。

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

→ P. 235

■シフトレバーを M にしても、シフトポジション・変速段表示（2AR-FE エンジン搭載車）／ギヤ段表示（2GR-FKS エンジン搭載車）に M が表示されないときは

システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。この場合、シフトレバーを D にしているときと同じ制御になります。

■リバース警告ブザー

シフトレバーをRに入れるとブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。

■シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。エンジンスイッチがイグニッションONモードでブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーをPからシフトできません。

■AI-SHIFTについて

AI-SHIFT：

AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に適切な変速比・ギヤ段切りかえを行います。
AI-SHIFTは、シフトレバーをDにしているときに自動的に作動します。シフトレバーをMにすると、機能が解除されます。

NAVI・AI-SHIFT（T-Connect ナビゲーションシステム装着車）：

ナビゲーションシステムの機能を利用した、高度な自動変速制御の機能です。使用方法は別冊「ナビゲーションシステム取扱書」をご覧ください。

■シフトレバーをPからシフトできないとき

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。
ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

シフトロックの解除のしかた：

1 パーキングブレーキをかける

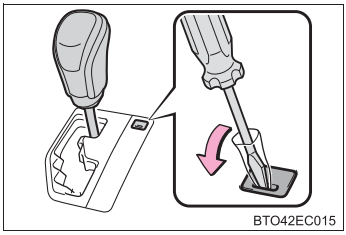
2 エンジンスイッチをOFFにする

3 ブレーキペダルを踏む

4 カバーをはずす

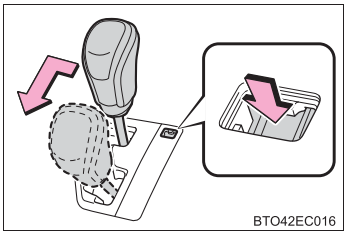
マイナスドライバーなどを使ってカバーをはずします。

傷が付くのを防ぐために、ドライバーなどの先端に、布などを巻いて保護してください。


BTO42EC015

5 シフトロック解除ボタンを押す

ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。


BTO42EC016

警告

■ **すべりやすい路面を走行するとき**

急なアクセル操作やシフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

■ **シフトロック解除時の事故を防ぐために**

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。
誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

方向指示レバー

操作のしかた

① 左折

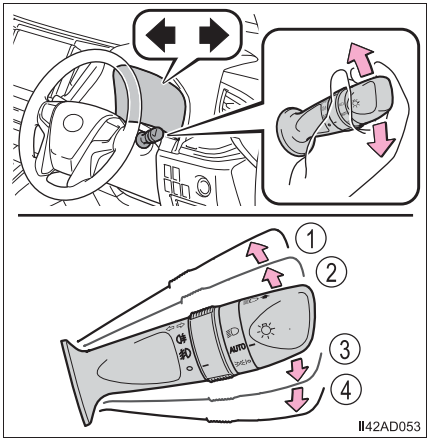
② 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

③ 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

④ 右折



知識

■**作動条件**

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■**表示灯の点滅が異常に速くなったとき**

各方向指示灯が正常に点滅しているか、確認してください。

電動パーキングブレーキ

お好みに応じて次のモードから選択することができます。

オートモード

シフトレバーの操作に応じて、パーキングブレーキが自動で作動します。オートモードのときでも手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。（→ P. 261）

■ オートモードを ON にする

停車中に、マルチインフォメーションディスプレイに「オートモード On シフト操作に応じてパーキングブレーキが作動」と表示されるまでスイッチを引き続ける

・P から P 以外にしたとき：
パーキングブレーキが解除され、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。

・P 以外から P にしたとき：
パーキングブレーキがかかり、パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

シフトレバーは、ブレーキペダルを踏みながら操作してください。

■ オートモードを OFF にする

停車中に、マルチインフォメーションディスプレイに「オートモード Off」と表示されるまでスイッチを押し続ける

マニュアルモード

手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

① パーキングブレーキをかける

パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

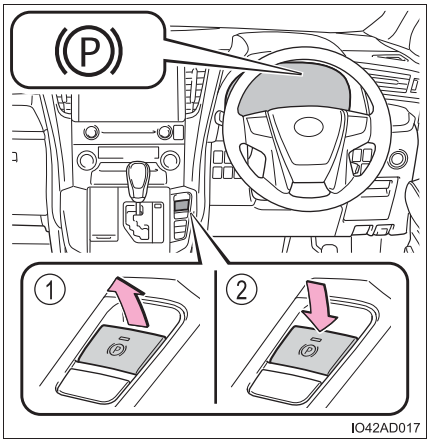
緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるときは、スイッチを引き続けてください。

② パーキングブレーキを解除する

パーキングブレーキ表示灯が消灯します。

ブレーキペダルを踏みながら操作してください。

アクセルペダルを踏みながらでも操作できます。（上り坂の発進のしかた：→ P. 235）



パーキングブレーキ表示灯が点滅した場合は、再度スイッチを操作してください。（→ P. 590）

知識

■パーキングブレーキの作動

●エンジンスイッチがイグニッション ON モード以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。

●エンジンスイッチがイグニッション ON モード以外では、オートモードによる作動（かける・解除する）はできません。

■マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングブレーキ高温 現在使用できません」が表示されたときは

短時間に作動をくり返すと、システムの過熱防止のために作動制限することがあります。その場合は、操作を控えてください。1 分程度でもとの状態にもどります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「EPB 動作が途中で停止しました」または「パーキングブレーキ現在使用できません」と表示されたときは

パーキングブレーキスイッチを操作してください。何度か操作しても表示が消えない場合は、システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ ウィーン ” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■パーキングブレーキ表示灯について

●パーキングブレーキをかけたとき、エンジンスイッチのモードによって、次のようにパーキングブレーキ表示灯が点灯します。
イグニッション ON モード：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。
イグニッション ON モード以外：約 15 秒間点灯します。

●パーキングブレーキをかけた状態でエンジンスイッチを OFF にしたとき、パーキングブレーキ表示灯が約 15 秒間点灯したままになりますが、異常ではありません。

■モードの切りかえについて

オートモードの ON/OFF を切りかえるとメーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、ブザーが吹鳴します。

■駐車するとき

→ P. 234

■パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキが解除されず車速が約 5km/h 以上になると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングブレーキを解除してください」が表示されます。

■警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ブレーキ警告灯が点灯したときは

→ P. 587

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→ P. 470

警告

■駐車するとき

お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■パーキングブレーキスイッチについて

パーキングブレーキスイッチの周辺にものを置かないでください。
ものとスイッチが干渉して、思わぬパーキングブレーキの作動につながるおそれがあります。

注意

■駐車するとき

車から離れるときは、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にし、車が動かないことを確認してください。

■システムに異常が発生したら

安全な場所に車を停め、警告表示を確認してください。

■故障などでパーキングブレーキが解除できないとき

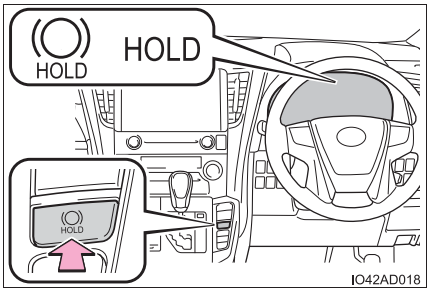
パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。この場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

ブレーキホールド

シフトレバーが D・M または N でブレーキホールドシステムが ON のとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトレバーが D または M のとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。

スイッチを押して、ブレーキホールドシステムを ON にする

ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が点灯します。ブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯（黄）が点灯します。



知識

■システムの作動条件

次のときはブレーキホールドシステムを ON できません。

●運転席ドアが閉まっていない

●運転席シートベルトを着用していない

ブレーキホールドシステムが ON のときに上記いずれかを検出したときは、システムが OFF になり、ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が消灯します。ブレーキ保持中に検出した場合は、さらに警告音と共にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

■ ブレーキ保持について

●ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約3分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかります。このときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●急坂路ではブレーキ保持できないことがあり、その場合運転者が、ブレーキをかける必要があります。このときブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

●ブレーキ保持中にシステムを OFF するときは、ブレーキペダルをしっかり踏み、もう一度スイッチを押してください。

■ ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかかったとき

発進時は次のいずれかの操作でパーキングブレーキを解除してください。

●運転席シートベルトを着用した状態でアクセルペダルを踏む

●ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキスイッチを操作して手動で解除する（→ P. 261）

操作したあとパーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。（→ P. 260）

■ トヨタ販売店で点検が必要なとき

ブレーキホールドシステムの作動条件を満たしているときに、ブレーキホールドスイッチを押してもブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が点灯しないときはシステムの異常が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「BrakeHold 故障」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ ブレーキホールド作動表示灯（黄）が点滅したときは

→ P. 588

警告

■**急坂路では**

急坂路でブレーキホールドシステムを使用するときは注意してください。急坂路ではブレーキホールドシステムにてブレーキを保持できないことがあります。

■**すべりやすい路面では**

タイヤのグリップ限界をこえて停車させることはできません。すべりやすい路面での使用は控えてください。

注意

■**駐車するとき**

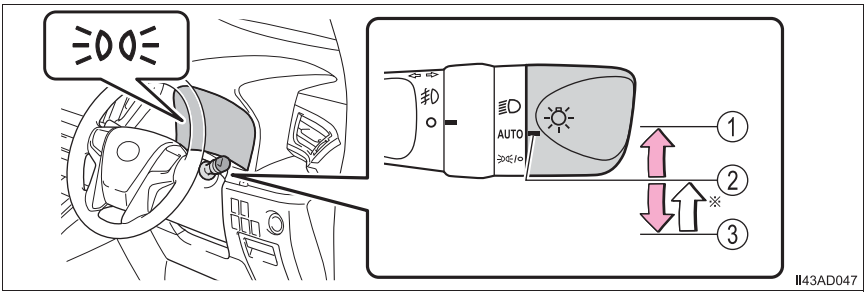
ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にエンジンスイッチを OFF にすると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。エンジンスイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてください。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯・消灯できます。

点灯のしかた

次のように スイッチを操作すると、ランプが点灯します。



※ スイッチを③ の位置へ操作し手を離すと、自動的に② AUTOの位置へ戻ります。

	点灯状態	
ポジション	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
①	ヘッドランプ・スモールランプが点灯	
② AUTO ※1	デイライト★（→ P. 269）が点灯	ヘッドランプ・スモールランプが点灯
③ ※1	スモールランプが点灯	スモールランプが点灯 ※2

上記の表のスモールランプは、車幅灯・尾灯・インストルメントパネルランプを意味します。

※1 操作するたびに、② AUTOによる点灯状態と③ による点灯状態が切りかわります。

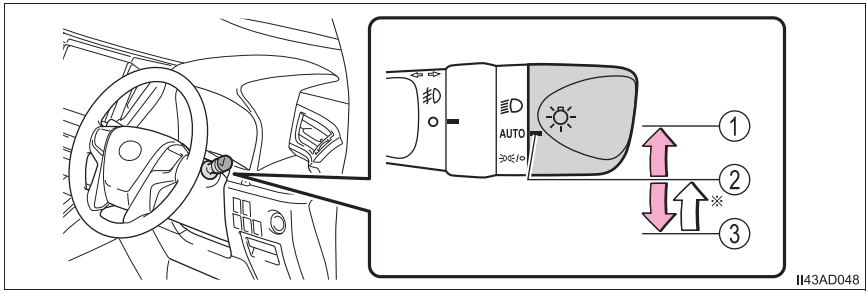
※2 停車中のみ点灯可能。車両を発進させると② AUTOによる点灯状態に切りかわります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

消灯のしかた

スイッチを③の位置で 1 秒以上保持すると、次のように作動します。

消灯中に①か③の位置へ操作すると消灯状態が解除されます。



※ スイッチを③の位置へ操作し手を離すと、自動的に②AUTOの位置へ戻ります。

	点灯状態	
ポジション	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
③	ヘッドランプ・スモールランプ・デイライト★（→ P. 269）が消灯	ヘッドランプ・スモールランプが消灯 ※

※ 停車中のみ消灯可能。車両を発進させると消灯状態が解除されます。

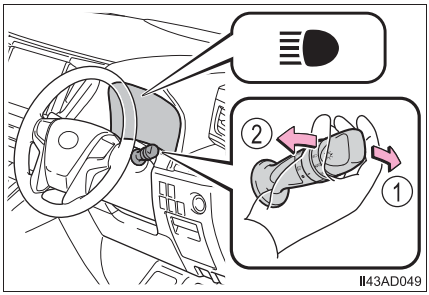
ハイビームにする

① ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

コーナリングランプ★

ヘッドランプ（ロービーム）点灯時、かつ車速が約 30km/h 以下のとき、次のいずれかの条件を満たすと、夜間走行時の交差点や駐車時に優れた視認性を確保するため、コーナリングランプが追加点灯し車両進行方向を照射します。

- ハンドルを操作したとき
- 方向指示レバーを操作したとき
- シフトレバーが R のとき（左右両側のコーナリングランプが点灯）

知識

■ AUTO モードの作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ デイライト★

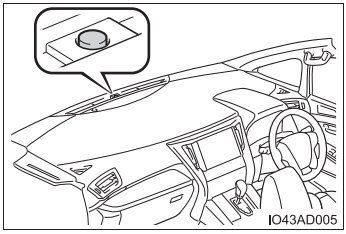
日中での走行時、自車が他の運転者から見やすくなるように、エンジン始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチを AUTO にすると、デイライトが自動で点灯します（車幅灯より明るく点灯します）。
デイライトは夜間の使用を意図したものではありません。

■ 自動で点灯／消灯する明るさについて

周囲の明るさに応じて自動的にランプが点灯／消灯します。日中走行中でも周囲の環境や明るさによって、ヘッドランプが自動点灯する場合があります。

■ ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ ランプ消し忘れ防止機能

エンジンスイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしてフロントドアまたはスライドドアを開けるとすべてのランプが自動的に消灯します。
再びランプを点灯する場合は、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにするか、一度ランプスイッチを AUTO にしてから ≡DGE/O または ≡D の位置にします。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■節電機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、エンジンスイッチをOFF の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。
エンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると節電機能は解除されます。次のいずれかを行った場合、節電機能はいったん解除され、再度節電機能が働き約 20 分後、すべてのランプが自動消灯します。

●ランプスイッチを操作したとき

●ドアを開閉したとき

■ランプ消し忘れ警告ブザー

ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■コーナリングランプ ★

コーナリングランプは、点灯したまま約 30 分経過すると、自動で消灯します。

■マルチインフォメーションディスプレイに「ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 659）

⚠注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

AHS（アダプティブハイビームシステム）★

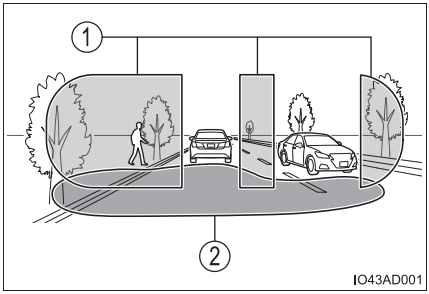
アダプティブハイビームシステムは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、ヘッドランプの配光を制御します。

- 車速に応じて、ハイビームの明るさと照らす範囲を調整します。
- 前方車両の周辺を遮光したハイビームを点灯します。
  （遮光ハイビーム）

  前方車両へのまぶしさを緩和しつつ、前方視界の確保を補助します。

① ハイビームで照らす範囲

② ロービームで照らす範囲



- カーブを走行しているとき、進行方向側をハイビームでより明るく照らします。
- 先行車との距離に応じて、ロービームの照らす範囲を調整します。

警告

■安全にお使いいただくために

アダプティブハイビームシステムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

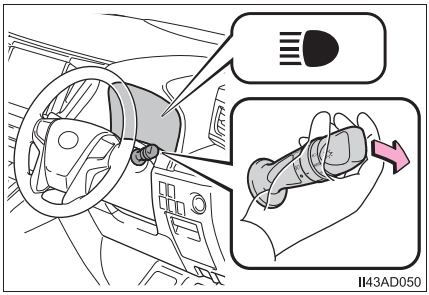
■アダプティブハイビームシステムの誤操作を防ぐために

荷物を積み過ぎないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

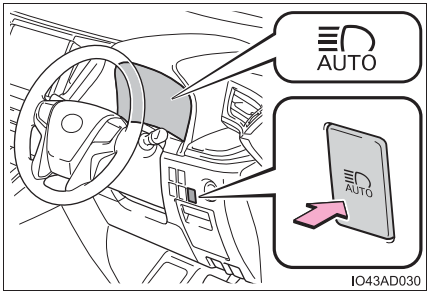
アダプティブハイビームシステムの使い方

1 ランプスイッチを AUTO または にし、レバーを前方へ押す



2 アダプティブハイビームシステムスイッチを押す

アダプティブハイビームシステムが作動すると、アダプティブハイビームシステム表示灯が点灯します。



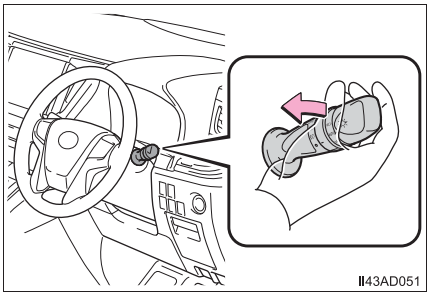
手動切りかえのしかた

■ ロービームへの切りかえ

レバーをもとの位置にもどす

アダプティブハイビームシステム表示灯が消灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度レバーを前方に押します。

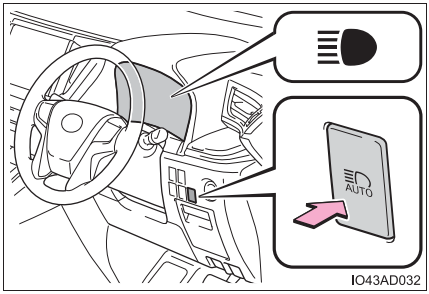


■ ハイビームへの切りかえ

アダプティブハイビームシステムスイッチを押す

アダプティブハイビームシステム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度スイッチを押します。



知識

■ヘッドランプ配光の自動切りかえ条件

●次の条件をすべて満たすと、ハイビームが点灯し、システムが作動します。

・車速が約 15km/h 以上※
・前方にランプを点灯した車両がない
・車両前方が暗い

※ 車速が約 30km/h 以上になると、カーブ走行時に進行方向側を明るく照らします。

●次の条件をすべて満たすと、前方車両の位置に応じて遮光ハイビームに切りかわり、ロービームの照らす範囲を調整します。

・車速が約 15km/h 以上
・前方にランプを点灯した車両がある
・車両前方が暗い

●次の条件のいずれかのとき、ロービームに切りかわります。

・車速が約 10km/h 以下
・車両前方が明るい
・前方車両の台数が多い
・前方車両の動きが速く、その車両にまぶしさを与える可能性がある

■前方カメラの検知について

●次の状況では、ハイビームが自動で遮光ハイビームに切りかわらない場合があります。

・見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
・他車が前方を横切ったとき
・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
・前方車両が無灯火のとき

●前方車両のフォグランプにより、ハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合や切りかわらない場合、または遮光範囲が変化する場合があります。

●次の原因により、遮光範囲の追従速度やロービームへの切りかえのタイミングが変化する場合があります。

・前方車両のランプの明るさ
・前方車両の動きや向き
・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
・前方車両が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●ヘッドランプの配光制御が運転者の感覚に合わない場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

・悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
・フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
・フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
・前方カメラが変形しているときや、汚れているとき
・前方カメラの温度が非常に高いとき
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
・前方車両から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
・急激な明るさの変化が連続するとき
・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
・カーブが多い道路を走行しているとき
・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
・コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
・自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
・ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

■マルチインフォメーションディスプレイに「ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください」が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 663）

AHB（オートマチックハイビーム）★

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

警告

■**安全にお使いいただくために**

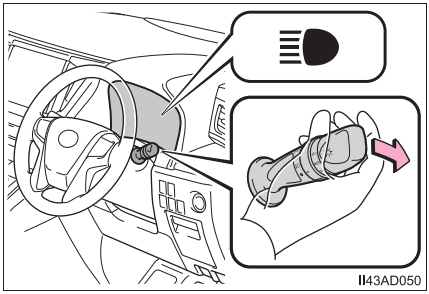
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■**オートマチックハイビームの誤操作を防ぐために**

荷物を積み過ぎないでください。

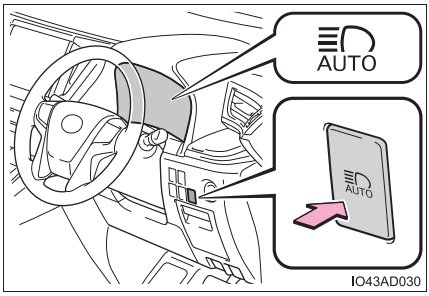
オートマチックハイビームの使い方

1 ランプスイッチを AUTO または にし、レバーを前方へ押す



2 オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビームが作動すると、オートマチックハイビーム表示灯が点灯します。



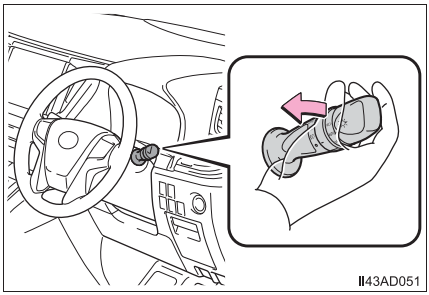
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

手動切りかえのしかた

■ ロービームへの切りかえ

レバーをもとの位置にもどす

オートマチックハイビーム表示灯が消灯します。
オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーを前方に押します。

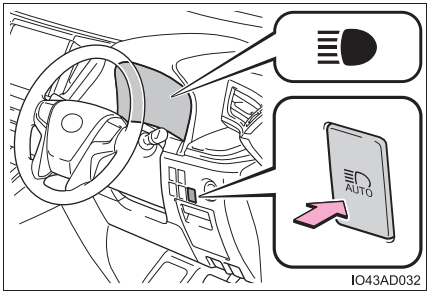


■ ハイビームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビーム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度スイッチを押します。



知識

■ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

●次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。

・車速が約 30km/h 以上
・車両前方が暗い
・前方にランプを点灯した車両がいない
・前方の道路沿いの街路灯の光が少ない

●次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。

・車速が約 25km/h 以下
・車両前方が明るい
・前方車両がランプを点灯している
・前方の道路沿いの街路灯の光が多い

■前方カメラの検知について

●次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。

・見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
・他車が前方を横切ったとき
・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
・前方車両が無灯火のとき

●前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

●次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。

・前方車両のランプの明るさ
・前方車両の動きや向き
・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
・前方車両が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

・悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
・フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
・フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
・前方カメラが変形しているときや、汚れているとき
・前方カメラが極端に高温になっているとき
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
・先行車から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
・急激な明るさの変化が連続するとき
・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
・カーブが多い道路を走行しているとき
・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
・コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
・自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
・ハイビームの使用に問題がある、またはほかの運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

■**マルチインフォメーションディスプレイに「ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください」が表示されたとき**

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

フォグランプスイッチ

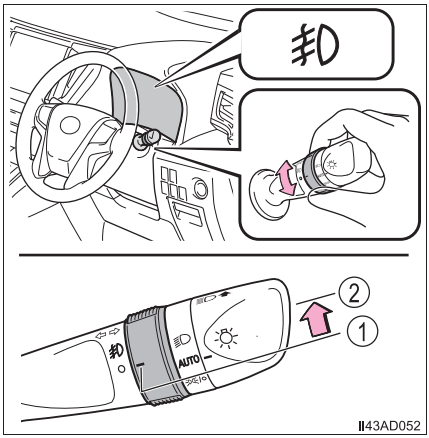
雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

操作のしかた

▶ フロントフォグランプスイッチ

① ○ 消灯する

② 点灯する



▶ フロント＆リヤフォグランプスイッチ★

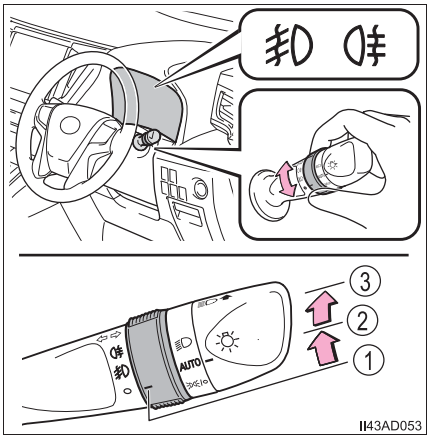
① ○ 消灯する

② フロントフォグランプを点灯する

③ フロント＆リヤフォグランプを点灯する

手を離すとの位置までもどります。

再度、スイッチをに操作すると、リヤフォグランプのみ消灯します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■点灯条件

フロントフォグランプ：
ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。
リヤフォグランプ★：
リヤフォグランプは、フロントフォグランプが点灯しているときのみ使用できます。

■リヤフォグランプ★について

●リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。

●雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。
視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。
必要なとき以外は使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ワイパー & ウォッシャー（フロント）

操作のしかた

次のように レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。

▶ 間欠時間調整式ワイパー

① ○ 停止

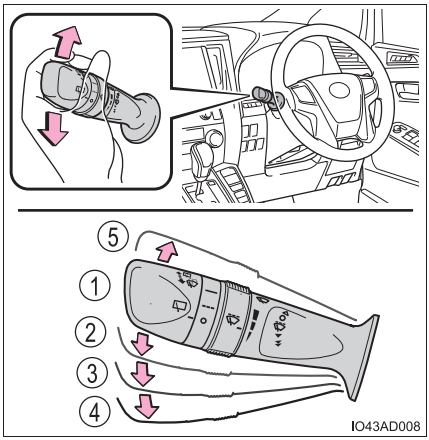
② 間欠作動

車速が高くなると、作動頻度が増えます。

③ ▼ 低速作動

④ ▼▼ 高速作動

⑤ △ 一時作動

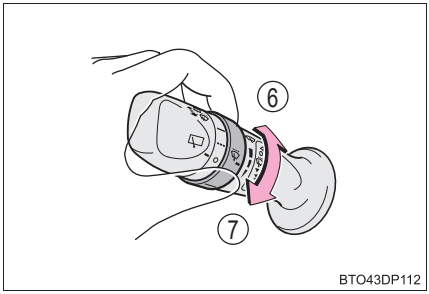


を選択しているとき、間欠作動の時間を調整することができます。

間欠作動の時間は、車速に応じてかわります。

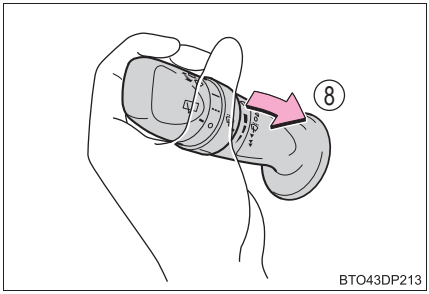
⑥ 間欠ワイパーの作動頻度（増）

⑦ 間欠ワイパーの作動頻度（減）



⑧ ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。



▶ 雨滴感知式ワイパー

① ○ 停止

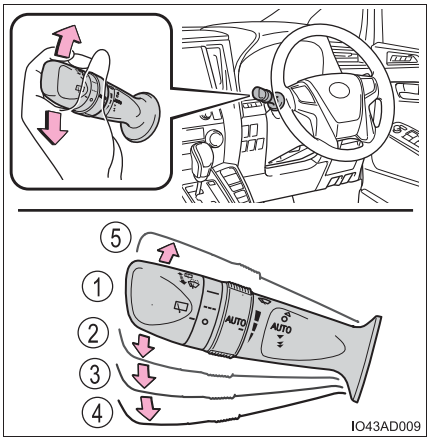
② AUTO AUTO モード

③ ▼ 低速作動

④ ▼▼ 高速作動

⑤ △ 一時作動

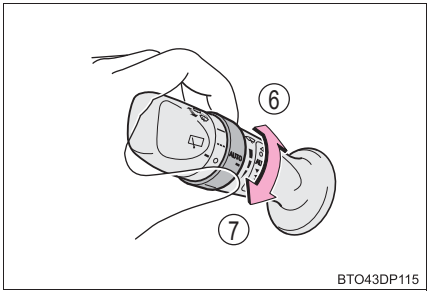
「AUTO」AUTO モードを選択しているとき、雨滴量と車速に応じてワイパーが作動します



「AUTO」AUTO モードが選択されているときは、次のようにツマミをまわして、雨滴センサーの感度を調整できます。

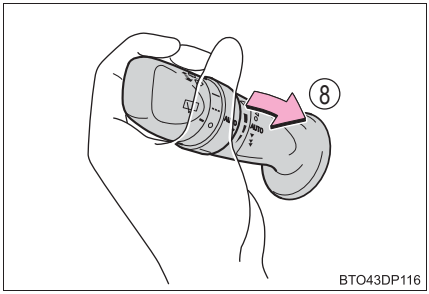
⑥ 雨滴センサーの感度調整（高）

⑦ 雨滴センサーの感度調整（低）



⑧ ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。



知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■液だれ防止作動

ウォッシャー液を噴射するとワイパーが数回作動し、その後、液だれ防止のためにさらに 1 回作動します。
ただし、走行中は液だれ防止作動は働きません。

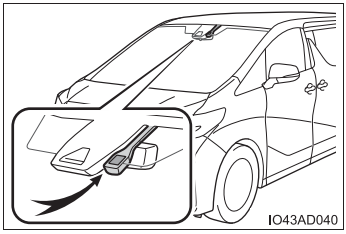
■車速による作動への影響

車速によってワイパー作動の間欠時間への影響があります。

■雨滴感知センサー（雨滴感知式ワイパー装着車）

●雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

光学センサーを使用しているため、フロントウインドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。



●エンジンスイッチがイグニッションONモードのときにAUTOモードにすると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。

●AUTO モードのとき雨滴センサーの感度調整を（高）側へ調整すると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。

●雨滴感知センサーの温度が 90℃以上または－ 15℃以下のときは、AUTO 作動しないことがあります。その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

警告

■**AUTO モード時のワイパー作動について**

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが動くおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

■**ウォッシャー使用時の警告**

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍り付き、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■**フロントウインドウガラスが乾いているとき**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■**ウォッシャー液が出ないとき**

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■**ノズルがつまったとき**

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ワイパー&ウォッシャー（リヤ）

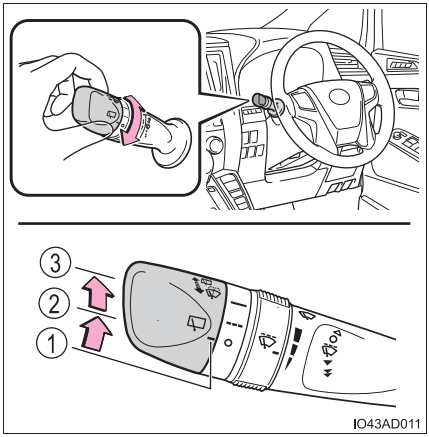
操作のしかた

次のように スイッチを操作すると、リヤワイパーが作動します。

① ○ 停止

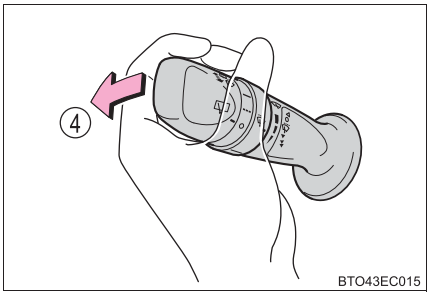
② --- 間欠作動

③ ━ 通常作動



④ ウォッシャー液を出す

レバーを前方へ押すとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。



知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッションONモードのとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

注意

■リヤウインドウガラスが乾いているとき

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

給油口の開け方

次の手順で給油口を開けてください。

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、エンジンスイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■燃料の種類

▶ 2AR-FE エンジン搭載車
・無鉛レギュラーガソリン
・バイオ混合ガソリン（レギュラー）

▶ 2GR-FKS エンジン搭載車
・無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）
・バイオ混合ガソリン（プレミアム）

■バイオ混合ガソリンについて

エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

■給油扉が開いているとき（助手席側スライドドア）

→ P. 127

警告

■**給油するときは**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。
静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

●キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。
すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。

●気化した燃料を吸わないようにしてください。
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

●喫煙しないでください。

●給油口にノズルを確実に挿入してください。

●継ぎ足し給油をしないでください。

●正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

⚠注意

■給油するとき

指定のガソリンを使用してください。

▶ 2AR-FE エンジン搭載車

指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。

▶ 2GR-FKS エンジン搭載車

指定以外のガソリン（無鉛レギュラーガソリン）や他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。

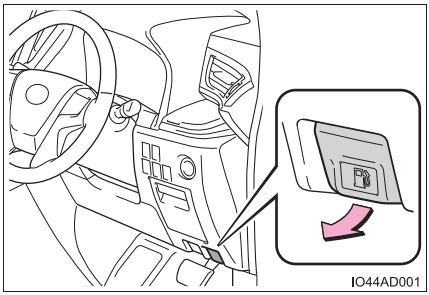
次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

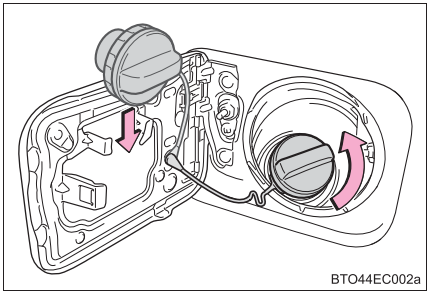
※エタノール混合率10%をこえるもの、またはETBE混合率22%をこえるもの

給油口の開け方

1 オープナーを引いて、給油扉を開く



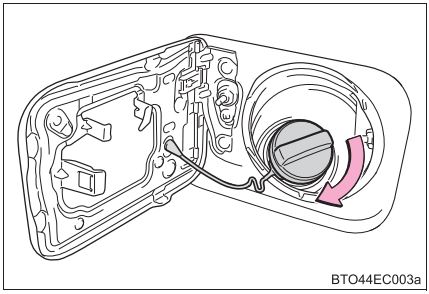
2 キャップをゆっくりまわして開け、ハンガーにかける



給油口の閉め方

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



⚠ 警告

■キャップが正常に閉まらないとき

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。
正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

運転支援装置

◆ PCS（プリクラッシュセーフティ）

→ P. 299

◆ LTA（レーントレーシングアシスト）

→ P. 309

◆ AHS（アダプティブハイビームシステム）★

→ P. 271

◆ AHB（オートマチックハイビーム）★

→ P. 276

◆ RSA（ロードサインアシスト）

→ P. 321

◆ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

→ P. 326

◆ 先行車発進告知機能

→ P. 342

警告

■Toyota Safety Sense について

Toyota Safety Sense は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。
本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

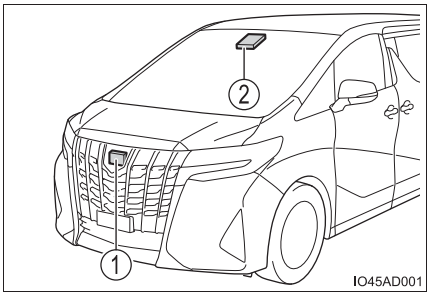
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

前方センサー

フロントグリルとフロントウインドウガラスにある 2 種類のセンサーにより、各運転支援装置に必要な情報を認識します。

① レーダー

② 前方カメラ



警告

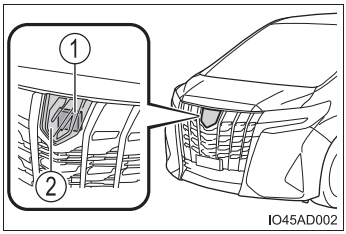
■**レーダーの故障や誤作動を防ぐために**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく

① レーダー

② レーダー専用カバー



レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

●レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない

●レーダー周辺への強い衝撃を避ける
レーダー・フロントグリル・フロントバンパーに強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

●レーダーを分解しない

●レーダーやレーダー専用カバーを改造したり、塗装したりしない

●次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

・レーダー・フロントグリルを脱着や交換したとき
・フロントバンパーを交換したとき

警告

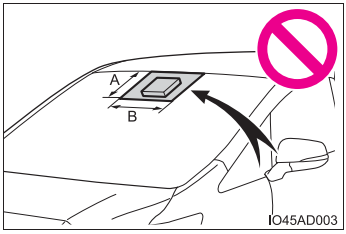
■**前方カメラの故障や誤作動を防ぐために**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく

・フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
・フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
・フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない
A：フロントウインドウガラス上端から前方カメラ下端より下約 1cm まで
B：約 20cm（前方カメラ中心から左右約 10cm）



●前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→ P. 479）

●前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する

●フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない

●フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

●前方カメラに液体をかけない

●前方カメラに強い光を照射しない

警告

- 前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
  フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
  レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 前方カメラに強い衝撃を加えない
- 前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方カメラを分解しない
- インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない
  詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

知識

■レーダーの取り扱い

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

■マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

前方センサーが一時的に作動しない、または異常があるおそれがあります。

●次の状況が改善されると警告メッセージが消え、作動可能状態になります。対処を行っても警告メッセージが表示されたままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

状況	対処法
前方カメラ周辺に汚れや付着物（曇り、結露、凍結などを含む）があるとき	ワイパーやエアコンの機能などを使って、汚れや付着物を取り除く （フロントウインドウガラスの曇りを取るには： → P. 479）
炎天下や極寒の環境など、前方カメラ周囲の温度などが作動条件外のとき	炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる 特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります。
	極寒での駐車時など、前方カメラが低温のときは、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる
ボンネットが開いているときや、フロントウインドウガラスの前方カメラ前部にステッカーが貼り付けられているときなど、前方カメラの前方がさえぎられているとき	ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、前方カメラの視界がさえぎられないようにする
“プリクラッシュセーフティ現在使用できません”が表示されたとき	レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除く

●次のときは周囲の環境が前方センサーの作動可能状態になれば警告メッセージが消えます。
周囲の環境が改善されたり、しばらく走行したりしても警告メッセージが表示されたままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

・炎天下や極寒の環境など、レーダー周囲の温度などが作動条件外のとき
・暗闇・逆光・雪・霧など、前方カメラが周囲の状況を認識できないとき
・車両周辺の状況によってはレーダーが正しく周囲の環境を認識できないとき
その場合には “プリクラッシュセーフティ現在使用できません” が表示されます。

PCS（プリクラッシュセーフティ）

進路上の作動対象（→ P. 299）を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON ／ OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→ P. 302）

システムの作動対象

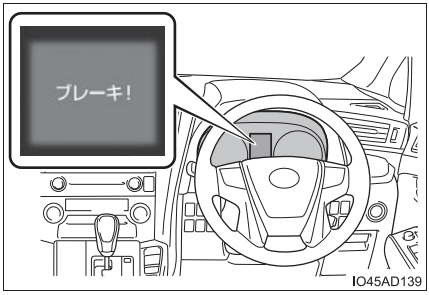
システムは次のものを作動対象として検出しています。

- 車両
- 自転車運転者
- 歩行者

機能一覧

■ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ･･･”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、回避操作をうながします。



■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の低減に寄与します。

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき：→P. 304
・システムが正常に作動しないおそれがあるとき：→P. 306

●お客様ご自身でプリクラッシュセーフティの作動テストを行わないでください。対象（マネキンや段ボールで作動対象を模したものなど）や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■プリクラッシュブレーキについて

●プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。

●プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、約2秒後にプリクラッシュブレーキが解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。

●プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。

●プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

●ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

警告

■**プリクラッシュセーフティを OFF にするとき**

次のときは、システムを OFF にしてください。
システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- けん引されるとき
- けん引するとき
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、エンジンを始動しタイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- 事故などにより、フロントバンパーやフロントグリルに強い衝撃が加わったとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- メーカー指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 応急用タイヤやタイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- 車両に前方センサーをさえぎるような装備品（除雪装置など）を一時的に取り付けているとき

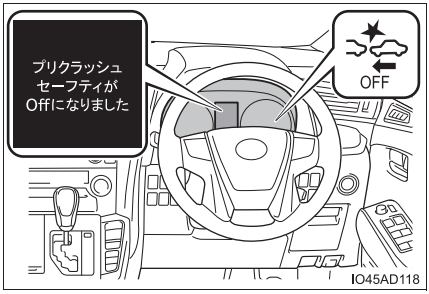
プリクラッシュセーフティの設定変更

■ プリクラッシュセーフティの ON ／ OFF を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ （→ P. 92）から、プリクラッシュセーフティの ON（作動）／ OFF（非作動）を変更することができます。

エンジンスイッチがイグニッション ON モードになるとシステムは ON になります。

システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



■ 衝突警報の作動タイミングを変更する

マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ （→ P. 92）から、衝突警報の作動タイミングを変更することができます。

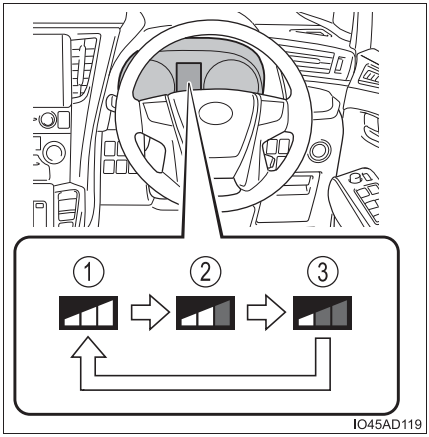
変更した作動タイミングはエンジンスイッチを OFF にしても継続しますが、プリクラッシュセーフティを OFF から ON の状態にすると「中間」に戻ります。

① 早い

② 中間

初期設定

③ 遅い



知識

■システムの作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。
各機能の作動速度は次のとおりです。

●衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 10 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ～ 80km/h	約 10 ～ 80km/h

●プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 30 ～ 180km/h	約 30 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 30 ～ 80km/h	約 30 ～ 80km/h

●プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 10 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ～ 80km/h	約 10 ～ 80km/h

ただし、次のときシステムは作動しません。

●バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ

●シフトレバーが R のとき

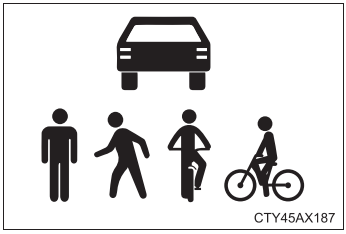
●VSC OFF 表示灯が点灯しているとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

■作動対象の検出

大きさ・輪郭・動きなどから検出します。

周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。（→ P. 306）

図は作動対象として検出する対象のイメージです。



■プリクラッシュブレーキの作動解除

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

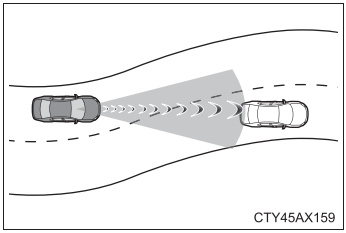
●アクセルペダルを強く踏み込む

●ハンドルを大きくきる、またはすばやく操作する

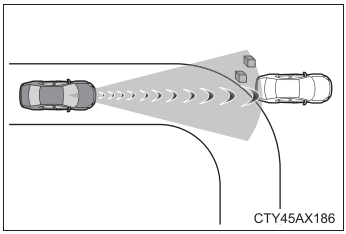
■衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。

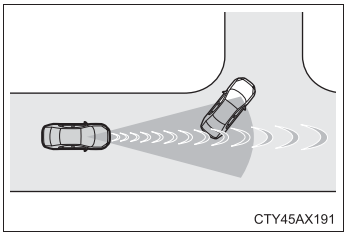
・作動対象などのすぐそばを通過するとき
・車線を変更して作動対象などを追いこすとき
・進路変更時や曲がりくねった道を走行時など、自車前方の隣車線や路側に作動対象が存在するとき


CTY45AX159

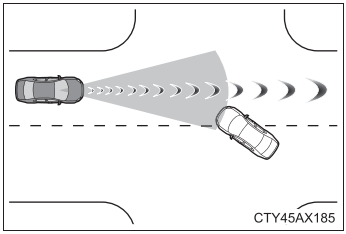
・作動対象などに急接近したとき
・道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）などに近付いたとき
・カーブ入り口の道路脇に作動対象や物体などが存在するとき


CTY45AX186

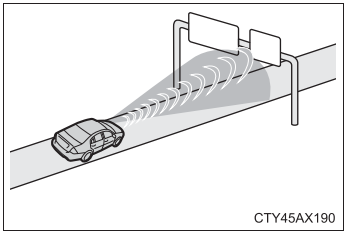
・自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
・自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
・車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき


CTY45AX191

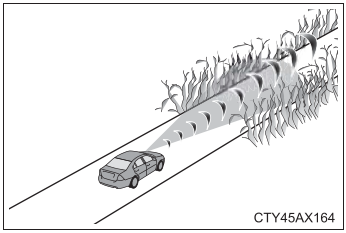
・右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき



・作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき
・路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
・構造物に囲まれた道（トンネルや鉄橋など）を走行するとき
・自車の前方に金属物（マンホール・鉄板など）・段差・突起物があるとき
・道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき



・ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
・洗車機を使用するとき
・自車に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき

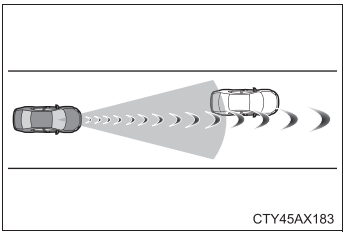


・自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
・電波の反射が強い物体（大型トラック・ガードレールなど）の横を走行するとき
・テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき

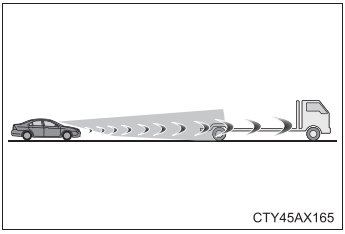
■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

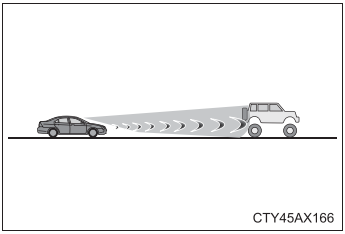
・自車に向かって作動対象が近付いてくるとき
・自車や作動対象がふらついているとき
・作動対象が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
・作動対象に急接近したとき
・作動対象が自車の中心軸からずれているとき


CTY45AX183

・作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
・上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
・作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
・作動対象が複数重なっているとき
・作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
・作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
・作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
・作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
・自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
・自車の正面方向から強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラにあたっているとき
・横向き、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき
・前方車両がオートバイのとき
・前方車両の全幅が狭いとき（超小型モビリティなど）
・前方車両の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
・前方車両の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）

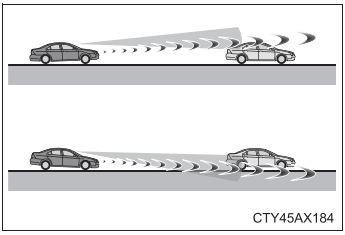

CTY45AX165

・前方車両の最低地上高が極端に高いとき



・前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
・前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
・子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2　人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
・歩行者・自転車運転者の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
・歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
・歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
・歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき
・歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
・悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき
・自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
・周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
・周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）
・エンジンを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
・右左折中および右左折後の数秒間
・カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
・自車が横すべりしているとき

・車両姿勢が変化しているとき



・ホイールアライメントがずれているとき
・ワイパーブレードが前方カメラの視界をさえぎっているとき
・過度な高速走行をしているとき
・坂道を走行しているとき
・前方センサーの向きがずれているとき

●例えば次のような状況では、制動力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。

・ブレーキ性能が十分に発揮できない場合（ブレーキ部品が極度に冷えている・過熱している・ぬれているなど）
・車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの摩耗や空気圧など）が良好でないとき
・砂利道やすべりやすい路面を走行しているとき

■VSC を停止したとき

●VSC の作動を停止（→ P. 464）したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。

●PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「VSC が Off のためプリクラッシュブレーキも停止します」が表示されます。

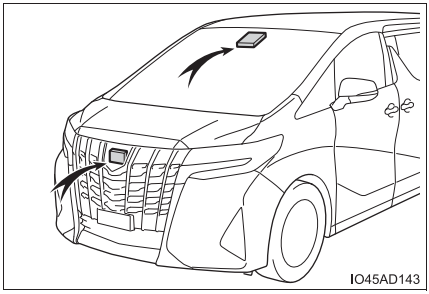
LTA（レーントレーシングアシスト）

機能概要

白（黄）線が整備された道路を走行中、車線または走路※からの逸脱の可能性を警告するとともに、車線または走路※からの逸脱を避けるためのハンドル操作の一部を支援します。また、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→P. 326）の作動中は、車線維持に必要なハンドルの操作を支援します

白（黄）線または走路※を前方カメラで認識します。また、先行車を前方カメラやレーダーで認識します。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



警告

■LTA をお使いになる前に

●LTA を過信しないでください。LTA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。

●適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●LTA を使用しないときは、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。

■LTA を使用してはいけない状況

次の状況では、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●雨天時や積雪・凍結などで、すべりやすい路面を走行しているとき

●雪道を走行しているとき

●水たまりや雨・雪・霧・砂ぼこりなどで白（黄）線が見えにくいとき

●工事によって規制された車線・仮設の車線を走行しているとき

●工事区間を走行しているとき

警告

- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき
- タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき
- 車両けん引時

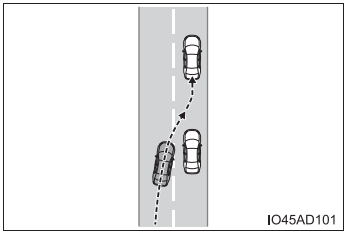
■LTA の故障、または誤作動を防ぐために

- ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。
- サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。
- フロントウインドウガラスの修理が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

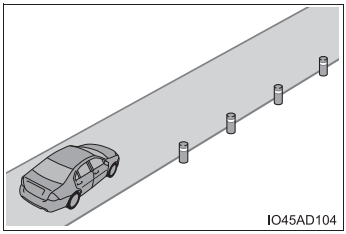
- 先行車追従表示中（→ P. 316）に、先行車が車線変更したとき（先行車の動きに合わせて自車も車線変更するおそれがあります）



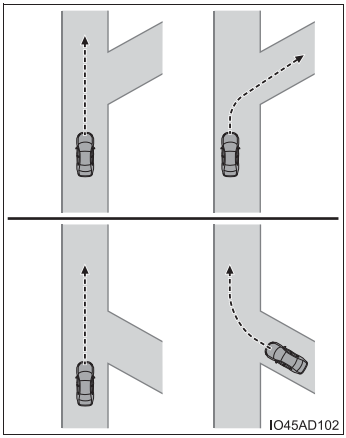
- 先行車追従表示中（→ P. 316）に、先行車がふらついたとき（先行車の動きに合わせて自車もふらついて走行しレーンをはみ出すおそれがあります）
- 先行車追従表示中（→ P. 316）に、先行車が車線から逸脱したとき（先行車の動きに合わせて自車も車線から逸脱するおそれがあります）
- 先行車追従表示中（→ P. 316）に、先行車がレーン内を右、または左に片寄って走行したとき（先行車の動きに合わせて自車も片寄って走行しレーンをはみ出すおそれがあります）
- 急カーブを走行しているとき

警告

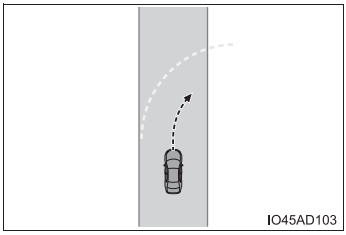
●路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物や模様があるとき（ガードレール・反射ポールなど）



●分岐・合流路などを走行するとき



●道路の修復で、アスファルト修復後や白（黄）線の跡が残っているとき



●白（黄）線に平行するような影がある、または白（黄）線が影の中にあるとき

●料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき

●白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鋲）や置き石などがあるとき

●白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき

●雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき

●車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）

●白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき

警告

- コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
- アスファルトと草・土・縁石等の境界が不明瞭または直線的でないとき
- 照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき
- トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき
- 対向車のヘッドランプ光・太陽光などが前方カメラに入射しているとき
- 坂道を走行しているとき
- 左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき
- 車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき
- 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、またはレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- 横風を受けているとき
- 周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用したとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- 冬用タイヤなどを装着しているとき
- 過度な高速走行をしているとき

LTA に含まれる機能

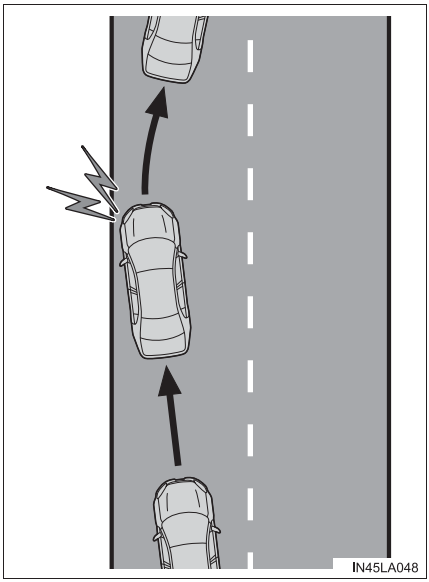
■ 車線逸脱警報機能

車両が車線または走路 ※ から逸脱する可能性がある場合に、マルチインフォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーにより注意をうながします。

警報ブザーが鳴ったときは、まわりの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白（黄）線または走路※内の中央付近にもどってください。

BSM 装着車：車線逸脱により、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、方向指示灯の点滅中も車線逸脱警報機能が作動します。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



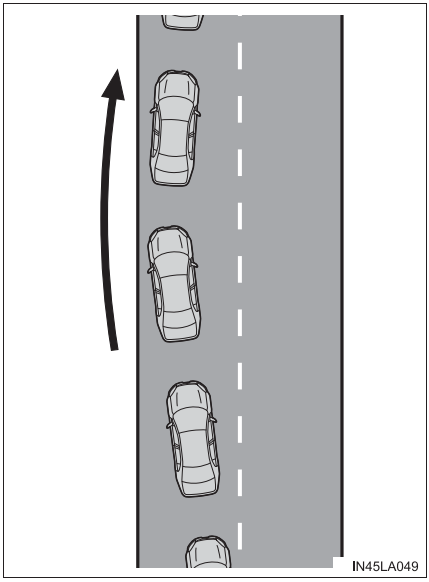
■ 車線逸脱抑制機能

車両が車線または走路 ※ から逸脱する可能性がある場合に、短時間、小さな操舵力をハンドルに与えて、車線からの逸脱を避けるために必要なハンドル操作の一部を支援します。

一定時間ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは、マルチインフォメーションディスプレイの表示により注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。

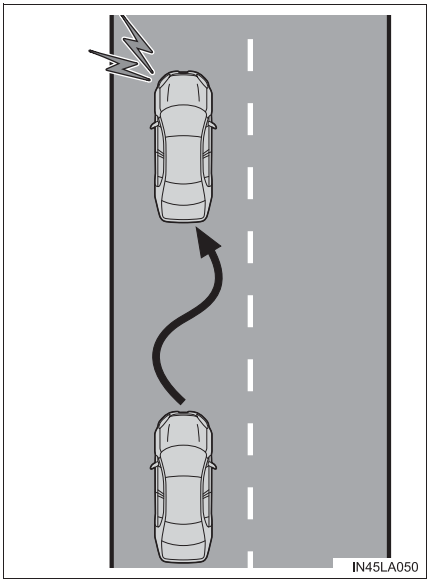
BSM 装着車：車線逸脱により、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、方向指示灯の点滅中も車線逸脱抑制機能が作動します。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



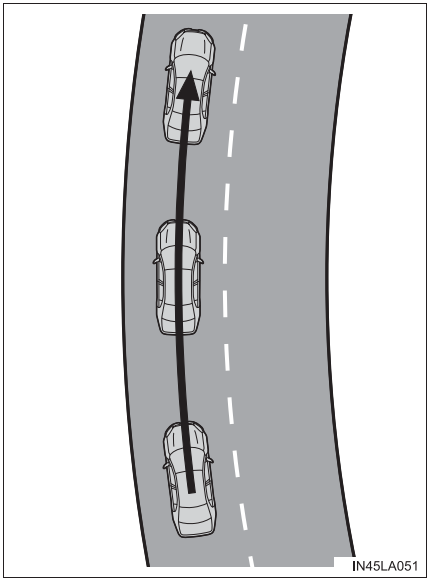
■ ふらつき警報機能

車両がふらついて走行しているときに、警報ブザーおよびマルチインフォメーションディスプレイの表示により注意をうながします。



■ 車線維持支援機能

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）と連携し、現在の車線内を走行するために必要なハンドル操作の一部を、システムが支援します。



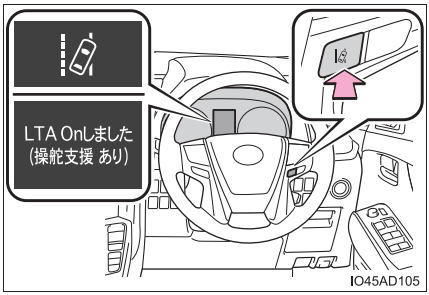
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が作動していないときは、車線維持支援機能は作動しません。

渋滞のときなど白（黄）線が見えにくい、または見えない場合、先行車の軌跡を利用して先行車に追従する支援を行います。

一定時間ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは、マルチインフォメーションディスプレイの表示により注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。

設定のしかた

LTA を ON にするには LTA スイッチを押す

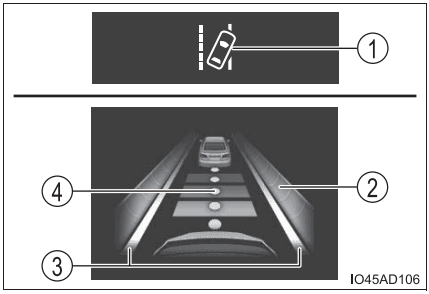


LTA 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

OFF にするには、再度スイッチを押します。

いったん LTA を ON ／ OFF すると、次回エンジンを始動したときにも、そのままの状態が続きます。

マルチインフォメーションディスプレイ表示



① LTA 表示灯

表示灯の点灯状態で、システムの作動状況をお知らせします。

白色に点灯：車線逸脱監視中

緑色に点灯：車線逸脱抑制機能、または車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中

橙色に点滅：車線逸脱警報中

② ハンドル操舵支援の作動表示

マルチインフォメーションディスプレイを走行支援システム連携画面に切りかえると表示されます。

車線逸脱抑制機能、または車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中であることを示しています。

両側点灯：車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中

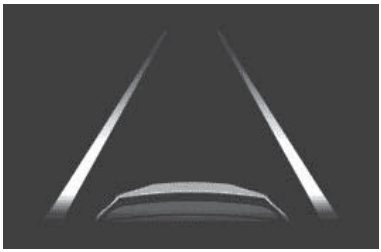
片側点灯：車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援が作動中

両側点滅：車線維持支援機能の注意喚起が作動中

③ 車線逸脱警報機能表示

マルチインフォメーションディスプレイを走行支援システム連携画面に切りかえると表示されます。

▶ 白線表示の内側が白いとき



システムが白（黄）線または走路※を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が橙色で点滅します。

▶ 白線表示の内側が黒いとき

システムが白（黄）線または走路※を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを示しています。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

④ 先行車追従表示

マルチインフォメーションディスプレイを走行支援システム連携画面に切りかえると表示されます。

車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中（先行車に追従中）であることを示しています。

先行車の動きに合わせて自車も同じ動きをする場合があります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。

知識

■各機能の作動条件

●車線逸脱警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・LTA を ON にしているとき
・車速が約 50km/h 以上のとき ※1
・システムが白（黄）線または走路 ※2 を認識しているとき（白［黄］線または走路 ※2 が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します）
・車線の幅が約 3m 以上のとき
・方向指示レバーを操作していないとき（BSM 装着車：方向指示灯方向に車両がいる場合は除く）
・急カーブを走行していないとき
・システムの異常が検知されていないとき（→ P. 320）

※1 車線維持支援機能が作動中は約 50km/h 以下でも作動します。

※2 アスファルトと草・土・縁石等の境界

●車線逸脱抑制機能

車線逸脱警報機能の作動条件に加えて、次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・マルチインフォメーションディスプレイの 画面で「操舵支援」を「有」に設定しているとき（→ P. 92）
・一定以上の加減速がないとき
・車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
・ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき
・TRC または VSC を OFF にしていないとき
・手放し運転に対する注意喚起（→ P. 319）が行われていないとき

●ふらつき警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・マルチインフォメーションディスプレイの 画面で「ふらつき検知」を「有」に設定しているとき（→ P. 92）
・車速が約 50km/h 以上のとき
・車線の幅が約 3m 以上のとき
・システムの異常が検知されていないとき（→ P. 320）

●車線維持支援機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・LTA を ON にしているとき

・マルチインフォメーションディスプレイの 画面で「操舵支援」を「有」かつ「センタートレース」を「有」に設定しているとき（→ P. 92）

・システムが白（黄）線を認識しているとき、または先行車の軌跡を認識しているとき（先行車が二輪車の場合を除く）

・レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が車間制御モードで作動しているとき

・車線の幅が約 3 ～ 4m のとき

・方向指示レバーを操作していないとき

・急カーブを走行していないとき

・システムの異常が検知されていないとき（→ P. 320）

・一定以上の加減速がないとき

・車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき

・ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき

・TRC または VSC を OFF にしていないとき

・手放し運転に対する注意喚起（→ P. 319）が行われていないとき

・車線中央付近を走行しているとき

・車線逸脱抑制機能が作動していないとき

■機能の一時解除

●作動条件（→ P. 317）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

●車線維持支援機能作動中に、作動条件（→ P. 318）が満たされなくなった場合、“ピピッ” とブザー音で、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。

■車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能について

●車速や車線の逸脱状況・路面状況などにより、車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能が作動しなかったりすることがあります。

●これらの各機能によるステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

●車線逸脱抑制機能の作動テストを行わないでください。

■車線逸脱警報機能について

●外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。

●走路※がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は走路逸脱に対する警報・制御が作動しない場合があります。

●BSM 装着車：となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性を判断できない場合があります。

●車線逸脱警報機能の作動テストを行わないでください。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

■手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

●システムの作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

●カーブを走行中に曲がりきれず車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断したとき

車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。また、システムがカーブを走行中と判断した場合は、直線走行時に比べて早いタイミングで注意喚起が行われます。

●車線逸脱抑制機能による車線逸脱を避けるためのハンドル操舵支援中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに、操作しない状態が続きハンドル操舵支援が行われると、ブザーが鳴り注意喚起が行われます。ハンドル操舵支援の回数が増えるごとに、ブザーの継続時間が長くなります。

■ふらつき警報機能について

システムの作動中に、車両がふらついて走行しているとシステムが判断したとき、ブザーと同時にマルチインフォメーションディスプレイに休憩をうながすメッセージと図で示すシンボルで注意喚起を行います。

車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。

■警告メッセージ

次のメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示され、LTA 表示灯が橙色で点灯した場合は、対処方法に従って適切に対処してください。また、その他の警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

●「LTA 故障販売店で点検してください」

システムが正常に作動しなくなっているおそれがあります。
トヨタ販売店で点検を受けてください。

●「LTA 現在利用できません」

前方カメラ以外のセンサーの異常によりシステムが一時停止しています。いったん LTA を OFF にして、しばらくしてから再度、LTA を ON にしてください。

●「LTA 現在の車速では使用できません」

車速が LTA の作動可能範囲をこえたため、使用できません。車速を落として走行してください。

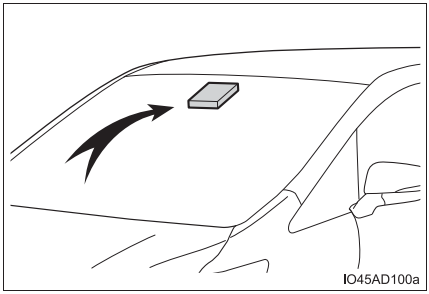
■カスタマイズ機能

機能の設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→ P. 92）

RSA（ロードサインアシスト）

機能概要

前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）を使って特定の道路標識を認識し、ディスプレイ表示によって道路標識の情報を運転者にお知らせします。



認識した道路標識の制限速度に対し、運転者が制限速度を超過して走行、または禁止行為を行っている等とシステムが判断した場合に、告知表示およびブザー音で運転者に告知します。

警告

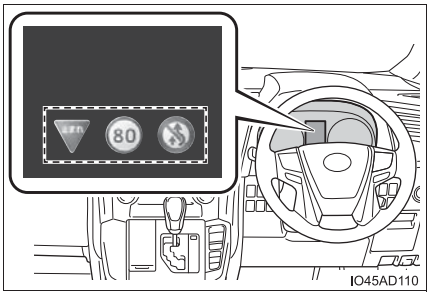
■RSA をお使いになる前に

RSA は、道路標識の情報を知らせることで運転者を支援しますが、運転者自身の確認や認識を代行するものではありません。安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

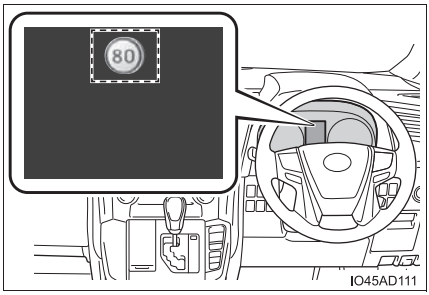
マルチインフォメーションディスプレイ表示

前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）によって標識を認識すると、マルチインフォメーションディスプレイに表示します。

● 走行支援システム連携画面を選択したときは、最大3つの標識を表示できます。（→P. 82）



● 走行支援システム連携画面以外を選択したときは、次のいずれかの標識が表示されます。
・最高速度標識
・車両進入禁止標識（告知時のみ）



速度制限標識以外を認識した場合、速度標識の重複表示にてお知らせします。

認識される道路標識の種類

電光標識も含めて、次の種類の道路標識を認識します。

ただし、規定外の標識、新しく導入された標識は認識されない場合があります。

最高速度

はみ出し通行禁止

車両進入禁止

終わり ※

一時停止

※ マルチインフォメーションディスプレイに、表示されません。

告知機能

次の状況では、システムが告知表示で運転者に告知します。

- 自車の車速がマルチインフォメーションディスプレイに表示されている制限速度より、一定の速度を超過すると、最高速度標識の強調やブザーの吹鳴をします。
- システムが進入禁止の標識を認識し、自車が進入禁止区域に進入したと判定したときには、マルチインフォメーションディスプレイに表示される車両進入禁止標識の点滅やブザーの吹鳴をします。
- はみ出し通行禁止標識がマルチインフォメーションディスプレイに表示されているときに、自車の追い越しを検出すると、はみ出し通行禁止標識の点滅やブザーの吹鳴をします。

状況によっては、告知表示が正常に作動しない場合があります。

知識

■設定のしかた

→ P. 92

■RSA 標識表示

次の状況では、最高速度・はみ出し通行禁止・車両進入禁止の標識表示が消えます。

- 一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき
- 終わり標識の下に対象標識を認識したとき

次の状況では、一時停止の標識表示が消えます。

- 標識を通過したとシステムが判定したとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に標識を認識できず、正しい標識の表示がされない場合があります。

- 前方カメラやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- 汚れ・雪・ステッカー等がフロントウインドウの前方カメラの近くにあるとき
- 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
- 強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラに直接あたっているとき
- 標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき
- 電光標識のコントラストが低いとき
- 標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき
- 前方カメラが標識を認識する時間が短いとき
- 運転の状況（曲がる・車線変更等）が誤って判断されたとき
- 標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき
- 先行車の後部分にステッカーが貼ってあるとき
- システムが対応している標識と類似した標識が認識されたとき
- 側道の速度標識が前方カメラの認識範囲内に入ったとき
- ロータリー（環状交差路）を走行しているとき
- 重い荷物を積むなど車両が傾いているとき
- 十分な光がなかったり、明るさが急激に変化したりしたとき
- トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき

●ナビゲーションシステムの地図情報が古いとき

●ナビゲーションシステムを利用できないとき

●マルチインフォメーションディスプレイとナビゲーションシステムに表示される最高速度標識が異なる場合があります。

■速度制限標識表示

マルチインフォメーションディスプレイに最高速度標識が表示されているときに、エンジンスイッチを OFF にすると、次回エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたときには再度同じ標識が表示されます。

■マルチインフォメーションディスプレイに「RSA 故障　販売店で点検してください」が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

一部の機能は、設定を変更することができます。（→ P. 92）

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

機能概要

アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行い、自動的に加速・減速・停止をします。定速制御モードでは、一定の車速で走行できます。

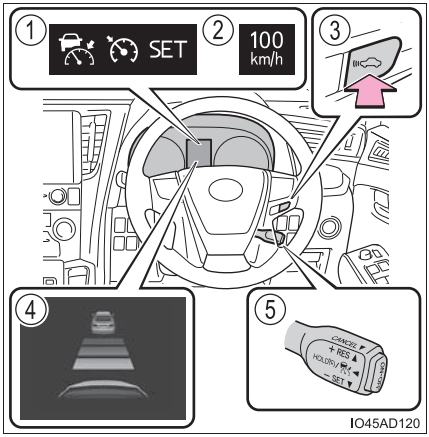
通信利用型レーダークルーズコントロールは ITS Connect を装備している車両のみ使用できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

- 車間制御モード（→ P. 329）
- 定速制御モード（→ P. 334）
- 通信利用型レーダークルーズコントロール（ITS Connect装着車のみ）（→ P. 335）

システムの構成部品

① 表示灯
② 設定速度
③ 車間距離切りかえスイッチ
④ マルチインフォメーションディスプレイ
⑤ クルーズコントロールスイッチ



警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・センサーが正しく検知しないおそれのある先行車：→P. 340
・車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況：→P. 341

●設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

●システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使わないときは ON-OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。
運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

警告

■**レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用してはいけない状況**

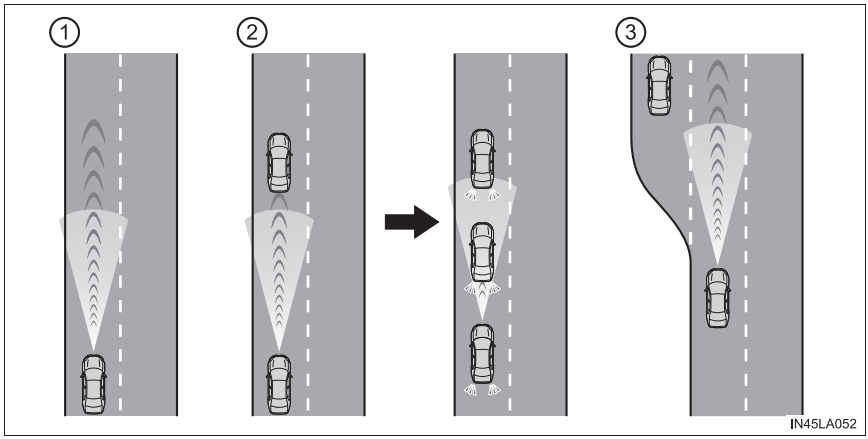
次の状況では、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 歩行者や自転車等が混在している道
- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
  急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。
- 高速道路や自動車専用道路の出入り口
- センサーが正しく検知できないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）
- レーダー前面または、前方カメラ前面に雨滴や雪などが付着しているとき
- ひんぱんに加速・減速をくり返すような交通状況のとき
- 車両けん引時
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき

車間制御モードでの走行

車間制御モードでは、レーダーにより車両前方約 100m 以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

下り坂を走行しているときは、車間距離が短くなることがあります。



① 定速走行：
先行車がいないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

② 減速走行 ― 追従走行：
設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

先行車が停止したときは、続いて停止します（制御停車）。先行車の発進後、クルーズコントロールレバーを上げるか、アクセルペダルを踏むと追従走行にもどります（発進操作）。自車が発進操作を行わなかった場合は、制御停車を続けます。

約 80km/h 以上で走行中に追い越し車線側へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して設定速度まで加速することで、追い越しを支援します。

③ 加速走行：
設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき

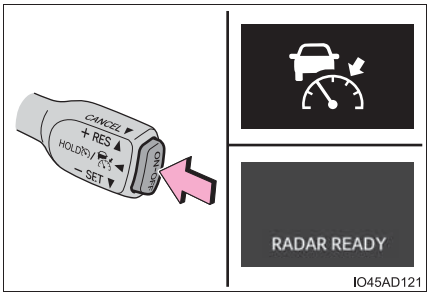
設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

速度を設定する（車間制御モード）

1 ON-OFFスイッチを押して、システムをONにする

レーダークルーズコントロール表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。OFF にするには再度スイッチを押します。

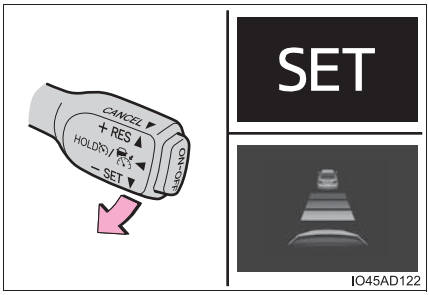
ON-OFF スイッチを 1.5 秒以上押し続けると定速制御モードでシステムがONします。（→P. 334）



2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの車速で定速走行できます。



設定速度をかえる

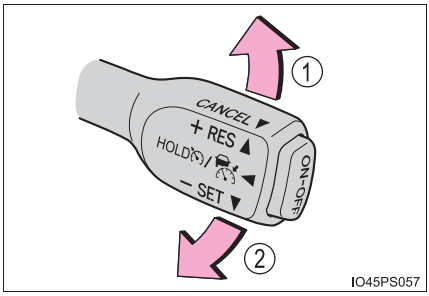
設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまでレバーを操作します。

① 速度を上げる（車間制御モードの制御停車中は除く）

② 速度を下げる

微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

大幅調整：レバーを上または下に保持して速度をかえ、希望の速度で手を離す



車間制御モードでは、設定速度は、次のとおりに増減されます

微調整：レバー操作をするごとに 1km/h

大幅調整：レバーを保持しているあいだ、5km/h ずつ

定速制御モード（→ P. 334）では、設定速度は、次のとおりに増減されます

微調整：レバー操作をするごとに 1km/h

大幅調整：レバーを保持しているあいだ連続して変化

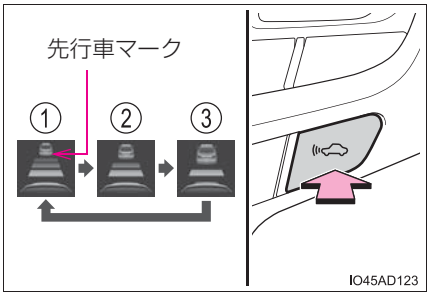
車間距離を変更する（車間制御モード）

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。

① 長い

② 中間

③ 短い



車間距離選択の目安（車間制御モード）

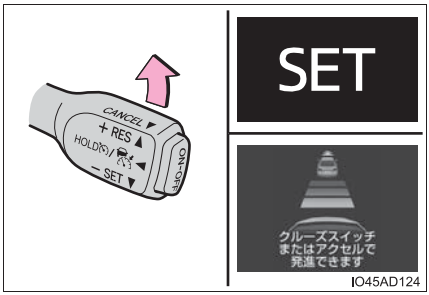
次の目安を参考に車間距離を選択してください。
（車速 80km/h で走行している場合）
なお、車速に応じて車間距離は増減します。また、制御停車時は設定にかかわらず状況に応じた車間距離で停車します。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50m
中間	約 40m
短い	約 30m

制御停車から追従走行に復帰させる（車間制御モード）

先行車の発進後、レバーを上げる

先行車の発進後にアクセルペダルを踏んでも追従走行に復帰します。

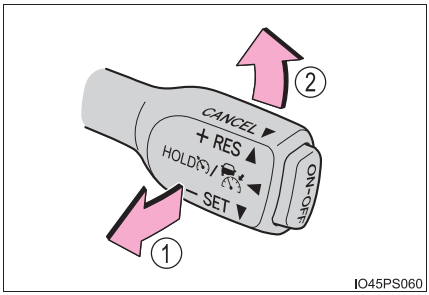


制御を解除する・復帰させる

① 制御を解除するには、レバーを手前に引く

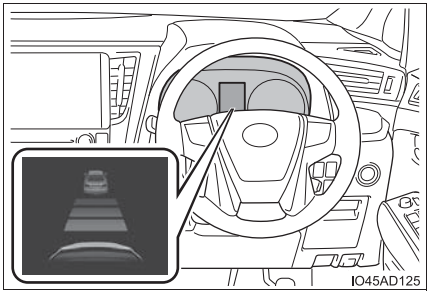
ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。（車間制御モードの制御停車中は、ブレーキペダルを踏んでも解除されません）

② 制御を復帰させるには、レバーを上げる



接近警報（車間制御モード）

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。



■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

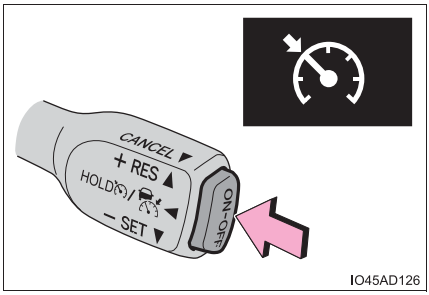
定速制御モードでの走行

定速制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行わず、一定の車速で走行します。レーダーの汚れなどにより、車間制御モードで走行できない場合のみご使用ください。

1 クルーズコントロールが OFF の状態で、ON-OFF スイッチを 1.5 秒以上押し続ける

ON-OFF スイッチを押した直後は、レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。その後、クルーズコントロール表示灯に切りかわります。

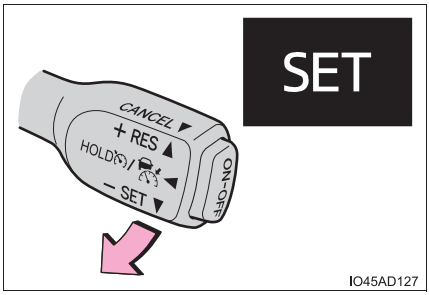
システムがOFFの状態から操作したときのみ、定速制御モードへの切りかえが可能です。



2 希望の車速（約30km/h以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの車速で定速走行できます。



設定速度をかえる（→ P. 331）

制御を解除する・復帰させる（→ P. 333）

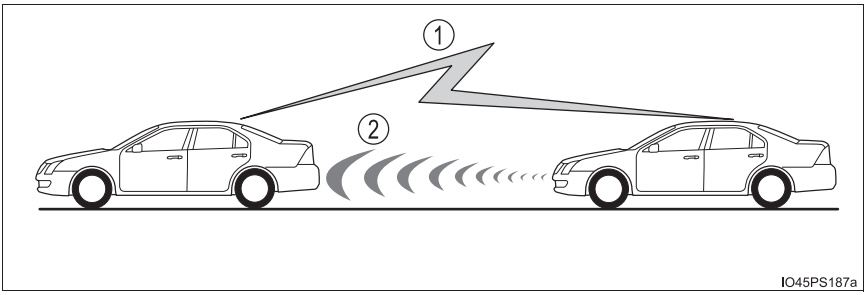
通信利用型レーダークルーズコントロール（ITS Connect 装着車）

通信利用型レーダークルーズコントロールは、ITS Connect が装着されている車両のみ利用できます。

ITS Connect については P. 345 を参照してください。

このシステムは車間制御モードでの追従走行中、先行車も通信利用型レーダークルーズコントロールに対応している場合に自動的に作動します。

■ 情報取得



① 先行車との通信

加減速情報などを取得します。

② レーダー

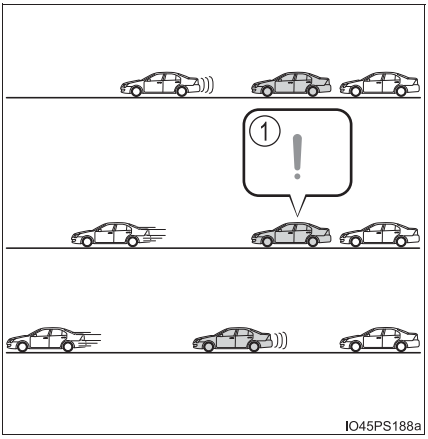
車間距離情報などを取得します。

■ システム作動について

先行車の加減速の情報を通信で取得することにより、先行車の加減速に素早く追従して車間距離や速度の変動を抑制し、スムーズな追従走行に寄与します。また、先行車が認識できなくなった場合は自動的に車間制御モードに切りかわります。

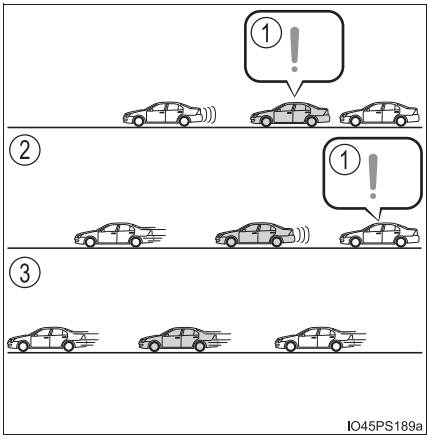
車間制御モードに比べて、次のような作動になります。

● 車間制御モード



① 先行車の発進に遅れて気づく

● 通信利用型レーダークルーズコントロール



① 先行車の発進に素早く気づく
② スムーズな加速で追従
③ 短時間で渋滞解消

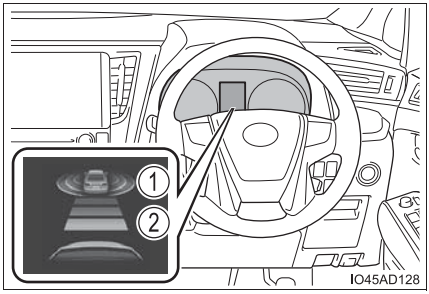
■ 通信利用型レーダークルーズコントロールの ON ／ OFF を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの 画面（→ P. 92）から、通信利用型クルーズコントロールの ON（作動）／ OFF（非作動）を変更することができます。

■ システム作動時の表示

① 先行車通信マーク

② 車間距離表示



■ 通信利用型レーダークルーズコントロールの作動目安

レーダークルーズコントロールの車間距離設定に応じて、本機能の作動レベルがかわります。(→ P. 332)

車間距離設定	作動目安
長い	ゆったりとした加減速による追従走行
中間	中間の追従走行
短い	きびきびとした加減速による追従走行

知識

■設定条件について

●シフトレバーが D のとき設定できます。

●車速が約 30km/h 以上のとき、希望の設定速度に設定できます。
（ただし車速が約 30km/h 未満で設定したときは、設定速度が約 30km/h に設定されます）

■車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■追従走行中の停車制御について

●制御停車中にレバーを上げた場合、約3秒以内に先行車が発進すれば追従走行にもどります。

●先行車に続いて停車したあと約3秒以内に先行車が発進した場合、追従走行にもどります。

■車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

●VSC が作動したとき

●TRC が一定時間作動したとき

●TRC または VSC を OFF にしたとき

●センサーが何かでふさがれて正しく検知できないとき

●運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき
（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）

●パーキングブレーキが作動したとき

●急坂路で制御停車したとき

●制御停車中に次を検出したとき

・運転席シートベルトを着用していない
・運転席ドアが開いた
・車両が停止したあと約 3 分経過した

上記以外の理由で車間制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■定速制御モードの自動解除

次のとき、自動的に定速制御モードが解除されます。

●設定速度より車速が約 16km/h 以上低下したとき

●車速が約 30km/h 未満になったとき

●VSC が作動したとき

●TRC が一定時間作動したとき

●TRC または VSC を OFF にしたとき

●運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき
（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）

上記以外の理由で定速制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■通信利用型レーダークルーズコントロールについて

●本機能によって、車間制御モードの速度や車間距離設定が変更されることはありません。

●先行車が通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していないときは、本機能は作動しません。

●先行車や周囲の車両の走行状態によっては、スムーズな追従走行が行われない場合や、自車の速度や先行車との車間距離に影響がおよぶ場合があります。必要に応じてブレーキ・アクセルを操作してください。

■通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しないおそれがある状況

次のような状況では、通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しない、または通信利用型レーダークルーズコントロールから車間制御モードに切りかわる場合があります。

●先行車との通信が途絶したとき

●センサーが先行車を誤って検知したとき

●トンネルやビル街などで、自車または先行車の GPS 受信状態や通信状態が悪化しているとき

●雪道などスリップしやすい路面を走行しているとき

●急な坂道を走行しているとき

●追従していた先行車が車線変更などで離脱したとき

●通信していた先行車とのあいだに、通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していない車両が割りこんできたとき

■ブレーキが作動したとき

ブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわったりすることがありますが異常ではありません。

■レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。（→ P. 297, 593）

■センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

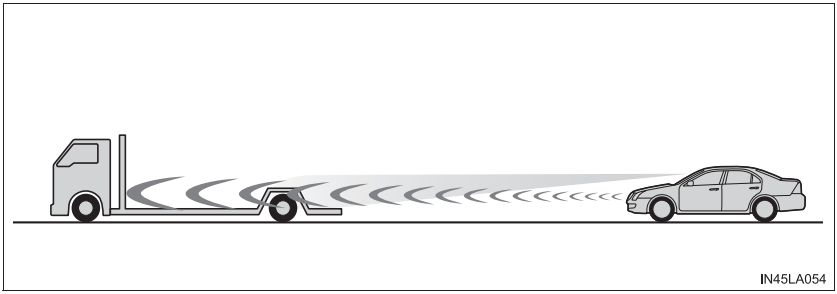
次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→ P. 333）も作動しないおそれがあります。

●先行車が急に割り込んできたとき

●先行車が低速で走行中のとき

●同じ車線に停車中の車がいるとき

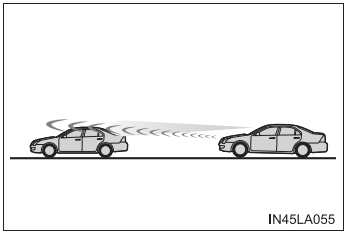
●先行車の後部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）



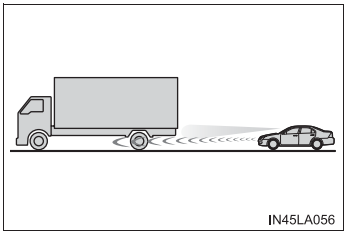
●同じ車線を二輪車が走行中のとき

●周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーの検知のさまたげになる場合

●自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）



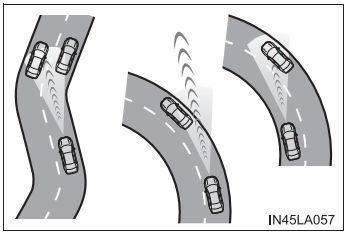
●先行車の車高が極端に高いとき



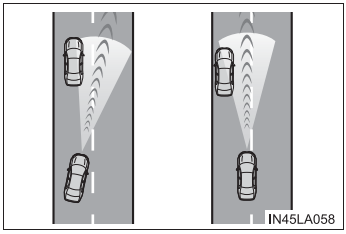
■車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況

次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってアクセルペダルを操作）してください。
センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

●カーブや車線幅が狭い道路などを走行する場合



●ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合



●先行車が急ブレーキをかけた場合

●道路脇に構造物がある道（トンネル・橋など）を走行する場合

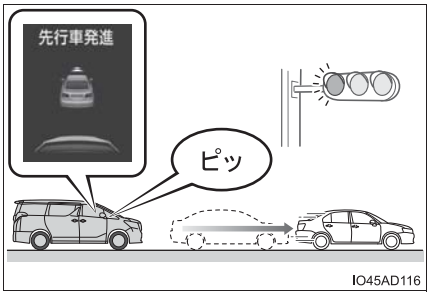
●アクセルペダルを踏んで加速したあと、車速が設定速度にもどるとき

先行車発進告知機能

先行車の発進後、自車が停止し続けた場合、警告ブザーとマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停止しているときに先行車を認識し続け、先行車が発進してしばらく進んでも自車が停止し続けた場合にお知らせします。



知識

■作動条件

次のいずれかの条件を満たしたときに作動します。

●シフトレバーがP･R以外でブレーキペダルを踏んで、停止している、またはシフトレバーがNで停止しているとき

●ブレーキホールドが作動中のとき

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が作動していて、制御停車中のとき

■先行車が発進していても告知しない場合があるとき

例えば次のような状況では、前方カメラとレーダーが対象を検出できず、システムが正常に作動しない場合があります。

●自車と先行車の停止位置がずれており、先行車を正しく認識できないとき

●先行車との車間距離が極端に短くなり、先行車を正しく認識できないとき

●坂道やカーブなどにより、先行車を正しく認識できないとき

●先行車の背面形状（けん引をしている車両や荷物を積んでいないトレーラー、雪や泥などが大量に付着している車両など）やボデーカラーなどにより、先行車を正しく認識できないとき

●先行車がオートバイ・自転車などのとき

●先行車の右左折や車線変更などにより、先行車を認識できなくなったとき

●悪天候（雨･霧･雪･砂嵐など）･煙･水蒸気などにより、先行車を認識できないとき

●前方カメラとレーダー前面に雨滴、雪などが付着し、先行車を正しく認識できないとき

●前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車を正しく認識できないとき

●プリクラッシュセーフティが一時的に使用できないときや、故障などによりPCS警告灯が点滅または点灯しているとき

●右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき

■先行車が発進していなくても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。

●悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）により、先行車の発進を誤認識したとき

●坂道やカーブなどにより、先行車ではないものを先行車と認識しているとき

●前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車ではないものを先行車と認識しているとき

●先行車がいない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき

●自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき

■先行車発進告知機能の設定を変更するには

●先行車発進告知機能の ON ／ OFF

システムの ON ／ OFF を切りかえることができます。（→ P. 92）

●先行車発進告知機能の告知距離

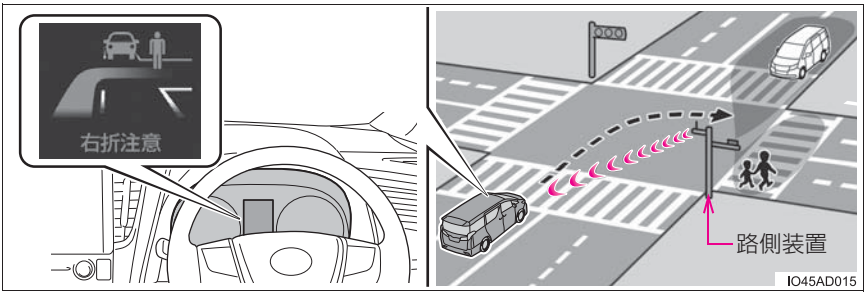
告知する距離を切りかえることができます。（→ P. 92）

ITS Connect ★

ITS Connect の概要

ITS Connect は、交通情報や周辺車両の情報を受信することにより、安全運転や快適な運転を支援するシステムです。

◆ 安全運転を支援する通知・案内・注意喚起



ITS Connect は、道路に設置された DSSS※ 用路側装置や通信機を搭載した車両と無線通信することで、見通しが悪い交差点の交通状況などの情報を受信します。

受信した情報は、状況に応じて通知・案内や注意喚起としてマルチインフォメーションディスプレイに表示され、運転者に注意をうながすことにより安全運転を支援します。

※ DSSS（Driving Safety Support Systems）とは、運転者の認知・判断の遅れや誤りによる交通事故を未然に防止することを目的とするシステムで、警察庁が推進しているプロジェクトです。

◆ 通信利用型レーダークルーズコントロール

先行車との通信により受信した加速／減速情報をレーダークルーズコントロールの制御に利用し、よりスムーズな追従走行に寄与することで快適な運転を支援します。詳細は P. 335 を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
ITS Connect はあらゆる状況で安全運転の支援をするものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ITS Connect は安全運転の支援を目的として設計していますが、その効果はさまざまな条件によりかわり、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
「システムが正常に作動しないおそれがあるとき」（→ P. 354）をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

■ITS Connect について

●次のような状況では、ITS Connect は作動しません。

・交差点に DSSS 用路側装置が設置されていないとき
・先行車や接近してくる車両に通信機が搭載されていないとき

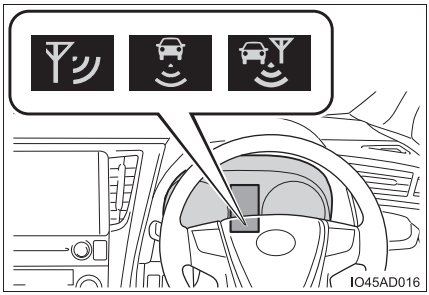
●交差点に進入する方向によっては、作動する通知・案内・注意喚起が異なる場合があります。

■右折時注意喚起について

DSSS 用路側装置が設置された交差点であっても、DSSS 用路側装置の種類や交差点に進入する方向によっては、対向車のみを検知し、歩行者に対する注意喚起をしない場合があります。
そのため、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。「割り込み表示による通知・案内・注意喚起」（→ P. 348）をお読みいただき、必ず自らの目視による安全確認を行ってください。

ITS Connect アイコンの見方

ITS Connect の機能が利用可能なとき、マルチインフォメーションディスプレイに次のアイコンを表示して通信の接続状態をお知らせします。



アイコン	接続状態
	道路に設置された DSSS 用路側装置から必要な情報を取得できている
	通信機を搭載した車両から必要な情報を取得できている
	道路に設置された DSSS 用路側装置、および通信機を搭載した車両、両方から必要な情報を取得できている

割り込み表示による通知・案内・注意喚起

状況に応じて、次の通知・案内・注意喚起をマルチインフォメーションディスプレイに割り込み表示します。

■ 右折時注意喚起

交差点で右側方向指示灯を点滅させて右折待ちをしているときに、対向車や歩行者がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、対向車や右折先の歩行者を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

交差点に設置されている DSSS 用路側装置（感知器）の種類によって、注意喚起の表示は次のように異なります。

▶ 対向車および歩行者を感知する交差点

IO45AD017

▶ 対向車のみを感知する交差点

IO45AD018

・注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
・一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

■ 赤信号注意喚起

赤信号の交差点手前にさしかかってもアクセルペダルを踏み続けているなど、赤信号を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

IO45AD019

■ 信号待ち発進準備案内

赤信号で停車したとき、青信号にかわるまでの待ち時間の目安をバー表示で表します。

待ち時間が残り少なくなるとバー表示が消え、まもなく信号がかわることを表します。

IO45AD020

■ 緊急車両存在通知

緊急車両（救急車）がサイレンを鳴らして近辺を走行しているときに、ブザーが鳴り、自車に対する緊急車両のおおよその方向・距離・進行方向を表示します。

緊急車両の距離と進行方向が表示されていないときは、自車のすぐ近くに緊急車両がいることを表します。

IO45AD021

■ 一時停止注意喚起 ※1, 2, 3

一時停止の交差点手前にさしかかってもアクセルペダルを踏み続けているなど、一時停止を見落している可能性があるとシステムが判断したときにブザーと表示で注意喚起を行います。

IO45AD022

■ 前方停止車両存在案内 ※1, 2, 3

見通しが悪いカーブの先などで、渋滞などによって先行車両が停止または低速で走行しているときに、ブザーと表示でお知らせします。

IO45AD023

■ わき道車両存在案内 ※1, 2, 3

見通しが悪い交差点のわき道に車両がいるときに、ブザーと表示でお知らせします。

IO45AD024

※1 T-Connect ナビゲーションシステム装着車

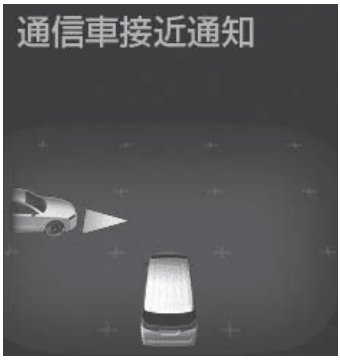
※2 T-Connect ナビキットまたはエントリーナビキット装着車、かつ ETC2.0 ユニット（ビルトイン）ナビキット連動タイプ（光ビーコン機能付）装着車

※3 一時停止注意喚起・前方停止車両存在案内・わき道車両存在案内について、正常に作動しないおそれがある状況など、詳しくは別冊「ナビゲーション取扱書」または「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

通信車両接近通知

交差点などで停車しているときに、通信機を搭載した車両が接近してくると、通信車両のおおよその方向を表示します。

接近してくる方向が正面の場合は、右側方向指示灯を点滅させているときのみ表示します。



IO45AD025

■ 通信車両接近通知の使い方

● マルチインフォメーションディスプレイで専用の通知画面を表示しているときに使用することができます。

メーター操作スイッチ(→P. 84)の < > を操作して を選択し、 を上下に操作して通知画面を表示してください。

● 車両が停止しているときに表示が有効になります。車両が完全に停止していないときは通知されません。

各機能の設定変更

マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ 画面の「車両設定」から「ITS Connect」または「クルーズ（ITS）」を選択することで、次の機能の設定を変更することができます。（→ P. 92）

設定項目		設定内容
ITS Connect	信号情報	次の機能の ON ／ OFF の切りかえ ※1 （初期設定：ON） ・ 赤信号注意喚起 ・ 信号待ち発進準備案内
	道路環境情報	次の機能の ON ／ OFF の切りかえ ※1 （初期設定：ON） ・ 一時停止注意喚起 ※2, 3 ・ 右折時注意喚起 ・ 前方停止車両存在案内 ※2, 3 ・ わき道車両存在案内 ※2, 3
	緊急車両通知	緊急車両存在通知のON／OFFの切りかえ （初期設定：ON）
	通知感度	次の機能の通知感度（高い／低い）の切りかえ ※4, 5 （初期設定：高い） ・ 赤信号注意喚起 ・ 一時停止注意喚起 ※2, 3 ・ 右折時注意喚起
クルーズ（ITS）		通信利用型レーダークルーズコントロールの ON ／ OFF の切りかえ （初期設定：ON）

※1「信号情報」または「道路環境情報」に含まれる各機能を個別に ON ／ OFF することはできません。

※2 T-Connect ナビゲーションシステム装着車

※3 T-Connect ナビキットまたはエントリーナビキット装着車、かつ ETC2.0 ユニット（ビルトイン）ナビキット連動タイプ（光ビーコン機能付）装着車

※4「高い」に設定すると通知タイミングが早くなり、「低い」に設定すると通知タイミングが遅くなります。

※5 各機能の通知タイミングを個別に変更することはできません。

知識

■交差点ごとの作動する通知・案内・注意喚起について

道路に設置されている DSSS 用路側装置の種類により発信している情報が異なるため、交差点によって作動する通知・案内・注意喚起は異なります。

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば次のような状況などでは、車両の位置や向きを正しく特定できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

・高いビルや高い街路樹に囲まれているとき
・トンネルや高架下を通過しているとき
・エンジンを始動してから、しばらく走行するまでのあいだ

●例えば次のような状況などでは、正しく通信ができず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

・周囲に大型車が走行しているときなど、通信がさえぎられたとき
・通信を妨害する電波が発せられているとき
・DSSS 用路側装置の向きがかわってしまっているとき
・DSSS 用路側装置がメンテナンス中や故障しているとき
・他車両の通信機が故障しているとき

●右折時注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。

・交差点内で一旦停止せずに右折しようとしたとき
・周囲の環境や天候、DSSS 用路側装置の劣化などの影響により、対向車や歩行者の検知性能が低下しているとき
・対向車や歩行者が周囲の建物や別の車両に隠れているとき
・DSSS 用路側装置の検知範囲外に対向車や歩行者がいるとき
・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

●赤信号注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。

・遅い速度で走行しているとき
・停車しているとき
・交差点付近の側道や駐車場内の通路など、DSSS 路側装置が設置された道路と並行する場所を走行しているとき
・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

●信号待ち発進準備案内は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。

・前方の信号機が青信号、黄信号または矢印信号のとき
・青信号にかわるまでの待ち時間が残り少ないとき
・停車していないとき
・交差点付近の側道や駐車場内の通路など、DSSS 路側装置が設置された道路と並行する場所を走行しているとき
・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

●緊急車両存在通知は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。

・緊急車両と自車の距離が一定以上離れているとき
・緊急車両が自車から遠ざかる方向に走行しているとき
・立体交差付近を走行しているとき
・緊急車両から受信した情報が誤っているとき

●通信車両接近通知は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。

・相手通信車両から受信した情報が誤っているとき

■ITS Connect 機器に関する情報

●本製品は、トロンフォーラム（www.tron.org）の T-License2.0 に基づき T-Kernel ソースコードを利用しています。

●本機は、ITS Connect 推進協議会が規定する相互接続性確認試験に適合しています。
機種名：DTU-1010
型式認定番号：10005

●本システムは、周波数 760MHz の電波を発信するため、お車を海外へ持ち込んだ場合はその国の関連法規に違反する場合があります。

■ITS Connect に関するお問い合わせについて

ITS Connect に関するお問い合わせ（機器の調子・機能・使用方法や道路上の通信設備の整備計画など）はトヨタ販売店にお問い合わせください。

⚠注意

■ITS Connect 機器取り扱いの注意

●ITS Connect 機器は電波法の基準に適合しています。ITS Connect 機器に貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。

●ITS Connect 機器を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

Stop & Start システム★

赤信号や交差点などの一時的な停車中、燃費向上やアイドリング騒音低減のため、エンジンスイッチを操作することなく、ブレーキペダルなどの操作によってエンジンを停止・再始動させるシステムです。

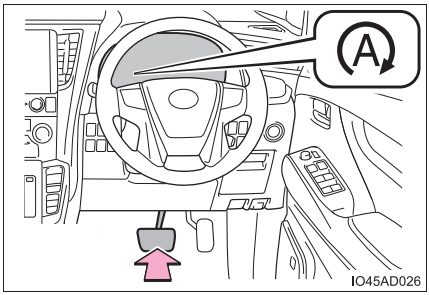
Stop & Start システムの作動

◆ ブレーキホールドシステムが OFF のとき

■ エンジンが停止する

シフトレバーを D で走行中、ブレーキペダルを踏み車両を完全に停止させると、エンジンが自動的に停止します。

Stop & Start 表示灯が点灯します。



■ エンジンが再始動する

ブレーキペダルから足を離すと、エンジンが再始動します。

Stop & Start 表示灯が消灯します。

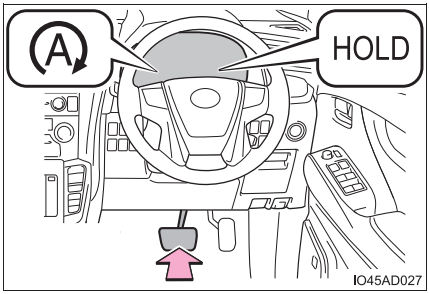
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ ブレーキホールドシステムが ON のとき

ブレーキホールドシステム作動時（→ P. 264）も、Stop & Start システムは作動します。

■ エンジンが停止する

シフトレバーを D で走行中、ブレーキペダルを踏み車両を完全に停止させると、エンジンが自動的に停止します。



Stop & Start 表示灯が点灯します。

ブレーキホールドシステム作動中は、ブレーキホールド作動表示灯（黄）が点灯します。このときブレーキペダルから足を離しても、Stop &Start システムによるエンジン停止状態を継続します。

■ エンジンが再始動する

アクセルペダルを踏むと、エンジンが再始動します。（ブレーキペダルから足を離してもエンジンは再始動しません）

Stop & Start 表示灯とブレーキホールド作動表示灯（黄）が消灯します。

■ ブレーキホールドシステム作動時の Stop & Start システムの作動について

- Stop & Start システムによりエンジンが自動的に再始動しても、ブレーキホールドシステムによるブレーキ保持は継続します。
- Stop & Start システムによるエンジン停止中に、ブレーキホールドシステムの作動条件（→ P. 264）が満たされなくなると、ブレーキホールドシステムは OFF になります。

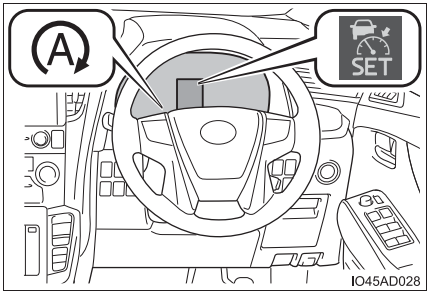
このとき自動的にパーキングブレーキがかかり、エンジンが自動的に再始動します。

◆ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が作動しているとき

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）による制御停車時（→ P. 329）も、Stop & Start システムは作動します。

■ エンジンが停止する

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）の車間制御モードで走行中、制御停車で車両が完全に停止すると、エンジンが自動的に停止します。（ブレーキペダルを踏まなくてもエンジンが自動的に停止します）



Stop & Start 表示灯が点灯します。

■ エンジンが再始動する

先行車が発進すると、エンジンが再始動します。

Stop & Start 表示灯が消灯します。

■ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）による制御停車時の Stop & Start システムの作動について

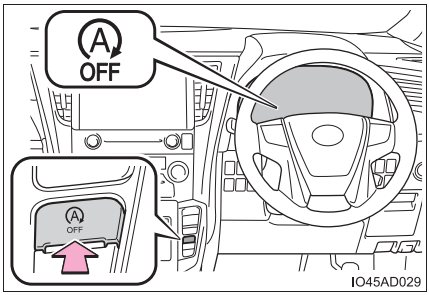
Stop & Start システムによりエンジンが自動的に再始動しても、制御停車は継続します。
（制御停車から追従走行に復帰させる：→ P. 332）

Stop & Start システムを非作動にするには

Stop & Start システムを非作動にするにはStop & Start キャンセルスイッチを押す

Stop & Start キャンセル表示灯が点灯します。

もう一度 Stop & Start キャンセルスイッチを押すと、作動可能状態にもどり、Stop & Start キャンセル表示灯が消灯します。



■ Stop & Start システムの自動再開

Stop & Start システムを Stop & Start キャンセルスイッチによって非作動にしていても、一度エンジンスイッチを OFF にしてからエンジンを始動することによって、Stop & Start システムは自動的に作動可能状態にもどります。

■ 停車中に Stop & Start キャンセルスイッチを押したとき

- Stop & Start システムによるエンジン停止中、Stop & Start キャンセルスイッチを押すとエンジンが再始動します。
- Stop & Start システムが非作動のとき、もう一度 Stop & Start キャンセルスイッチを押すと、Stop & Start システムが作動可能状態にもどりますがエンジンは停止しません。
  次に車両が停止したときに、Stop & Start システムによってエンジンが停止します。

坂道発進補助機能

Stop & Start システムによるエンジン停止後、エンジンが再始動し駆動力が発生するまでのあいだ、ブレーキ力を一時的に保持し坂道での車両後退を抑制します。
駆動力が発生すると、保持していたブレーキ力を自動的に解除します。

- 坂道だけでなく、平坦な場所でも作動します。
- ブレーキから音が発生することがありますが異常ではありません。
- ブレーキペダルの踏み応えがかわったり、振動が発生したりすることがありますが異常ではありません。

知識

■作動条件

●次の条件がすべて満たされたとき、Stop & Start システムが作動可能状態になります。

・ブレーキペダルをしっかりと踏んでいるとき（レーダークルーズコントロール［全車速追従機能付き］の車間制御モードの制御停車中を除く）
・シフトレバーが D のとき
・ が OFF のとき
・運転席シートベルトを着用しているとき
・エンジンが十分暖まっているとき
・運転席ドアが閉まっているとき
・アクセルペダルを踏んでいないとき
・外気温が－ 5 ℃以上のとき
・ボンネットが閉まっているとき

●次の状況では、Stop & Start システムによるエンジン停止が行われない場合がありますが、異常ではありません。

・外気温が高い、または低いときに、エアコンを使用しているとき
・定期的な充電中のとき
・バッテリーが十分に充電されていないとき（例：長期間の駐車後などバッテリーの充電量が低下、電気負荷が大きい、バッテリー液温が低い、バッテリーが劣化）
・ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき
・勾配が急な坂道で停車したとき
・ハンドル操作をしているとき
・渋滞などで、断続的に停車するとき
・標高が高いとき
・エンジン冷却水温やトランスミッション油温が低いとき、または高すぎるとき
・バッテリー液温が低いとき、または高すぎるとき
・バッテリーを脱着した後、しばらくの期間

●Stop & Start システムによるエンジン停止中、次のときはエンジンが自動的に再始動します。（Stop & Start システムによるエンジン停止を再度行うには、一度走行してください）

・エアコンを ON にしたとき
・ を ON にしたとき
・ハンドルを操作したとき
・シフトレバーを D 以外にしたとき
・運転席シートベルトをはずしたとき
・運転席ドアを開けたとき
・アクセルペダルを踏んだとき
・Stop & Start キャンセルスイッチを押したとき
・坂道などで車両が動き出したとき

●Stop & Start システムによるエンジン停止中、次のときはエンジンが自動的に再始動する場合があります。（Stop & Start システムによるエンジン停止を再度行うには、一度走行してください）

・ブレーキペダルをさらに強く踏み込む、またはポンピングブレーキをしたとき
・エアコンを使用しているとき
・バッテリーの充電量が低下しているとき

■**インテリジェントパーキングアシスト 2★（→ P. 415）作動中の Stop & Start システムの作動について**

インテリジェントパーキングアシスト 2 の作動中は、Stop & Start システムの作動を中止します。

■**ボンネットを開けたとき**

●Stop & Start システムによるエンジン停止中にボンネットを開けたときは、Stop & Start システムによるエンジン停止状態からエンスト状態に移行され、エンジンが自動で再始動しません。その場合は通常のエンジン始動操作（→ P. 246）でエンジンを始動してください。

●ボンネットが開いている状態でエンジンを始動したときは、ボンネットを閉めても Stop & Start システムは作動しません。ボンネットを閉め一度エンジンスイッチを OFF にし、30 秒以上待ってからエンジンを始動してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■Stop & Start システムについて

●長時間停車する場合には、エンジンスイッチを OFF にし、エンジンを停止してください。

●Stop & Start システムが作動しないときやキャンセルされたとき、または Stop & Start システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。（→ P. 365）

●Stop & Start システムによるエンジン停止中にエンジンスイッチを押すと、Stop & Start システムによるエンジン停止状態からエンスト状態に移行され、エンジンが自動で再始動しません。その場合は通常のエンジン始動操作（→ P. 246）でエンジンを始動してください。

●Stop & Start システムによりエンジンが再始動するとき、一時的にアクセサリーソケットやアクセサリーコンセントなどが使用できないことがありますが異常ではありません。

●電装品・無線機の取り付け・取りはずしは Stop & Start システムに悪影響をおよぼす可能性があります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

●Stop&Start システムの作動によりエンジン停止状態からエンジンが再始動するとき、一時的にハンドルが重く感じることがあります。（2GR-FKS エンジン搭載車）

■Stop & Start システムによるエンジン停止中、フロントウインドウガラスが曇ったとき

を押してください。（エンジンが自動的に再始動します）：→ P. 479

断続的にフロントウインドウガラスが曇るときは、Stop & Start キャンセルスイッチを押し、Stop & Start システムを非作動にしてください。

■Stop & Start システムによるエンジン停止中、エアコン吹き出し口から臭いが発生したとき

Stop & Start キャンセルスイッチを押して、Stop & Start システムの作動を停止してください。

■Stop & Start システムによるエンジン停止中のエアコン作動について

●オート設定で空調システムを使用しているときに、Stop & Start システムによりエンジンが停止した場合は、冷房時の温度上昇や暖房時の温度低下を抑えるため、ファンの風量を弱めたり、停止したりすることがあります。

●空調の効きをよりよくしたいときは、Stop & Start キャンセルスイッチを押し、Stop & Start システムを非作動にしてください。

■エアコンが ON のときのアイドリングストップ時間の長さの切りかえについて

次のいずれかの操作により、エアコンが ON のときの Stop & Start システムによるエンジン停止時間の長さを切りかえることができます。（エアコンが OFF のときの Stop & Start システムによるエンジン停止時間の長さは切りかえできません）

▶ Stop & Start キャンセルスイッチの操作による設定

Stop & Start キャンセルスイッチを 3 秒以上押し続けるごとに、「Normal」（通常）・「Long」（長め）が切りかわります。

マルチインフォメーションディスプレイの （Stop & Start システム情報）画面、または （設定）画面で、設定状態を確認することができます。

▶ （Stop & Start システム情報）画面からの設定

1 （Stop & Startシステム情報）画面で、メーター操作スイッチ（→ P. 84）の を押す

2 を上下に操作して「 」を選択し、 を押す

3 を上下に操作して「Normal」（通常）または「Long」（長め）のいずれかを選択し、 を押す

▶ （設定）画面からの設定

→ P. 92

■Stop & Start システム保護機能

●大音量でオーディオ★を使用しているとき、バッテリーの消費を抑えるためにオーディオ★を自動的に OFF にする場合があります。この場合、エンジンスイッチを OFF にして 3 秒以上待ってからアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにし、オーディオ★を再開させてください。

●バッテリーの端子をはずして再接続したときに、オーディオ★※が作動しないことがあります。その場合は、いったんエンジンスイッチを OFF にしてください。その後、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにし、再度 OFF にする操作を 2 回くり返すことでオーディオ★※が作動します。

※ メーカーオプションのナビゲーションシステムを除く

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■バッテリーを交換するとき

→ P. 638

■アイドリングストップ時間など Stop & Start システムの作動表示

マルチインフォメーションディスプレイの (Stop & Start システム情報) 画面（→ P. 86）に、Stop & Start システムの作動状態を表示することができます。

項目	表示内容
Stop & Start	現在の Stop & Start システムによるアイドリングストップ時間を表示します。 また、メーター操作スイッチを使ってエアコンが ON のときのアイドリングストップ時間の長さを切りかえることができます。（→ P. 363）
始動後	エンジンを始動してからエンジンを停止するまでの総アイドリングストップ時間を表示します。
リセット間	前回リセットしてからの、Stop & Start システムによるアイドリングストップ時間を通算で表示します。
始動後節約燃料	エンジンを始動してからエンジンを停止するまでに、Stop & Start システムによって節約できた燃料の量（参考値）※ を表示します。
リセット間節約燃料	前回のリセット後に Stop & Start システムによって節約できた燃料の量（参考値）※ を通算で表示します。

※ アイドリングストップ時間と時間あたりの燃料消費量に基づいて算出されます。

「リセット間」および「リセット間節約燃料」の表示をリセットすることができます。

●リセットするには、メーター操作スイッチの を押し、 を上または下に操作して「リセット」を選択したあと、 を押し続けます。

●リセット操作を中止する場合は、メーター操作スイッチの を押します。

■マルチインフォメーションディスプレイのメッセージについて

Stop & Start システムによるエンジン停止が行われないとき、また Stop & Start システムによるエンジン停止中にエンジンが自動的に再始動したとき、マルチインフォメーションディスプレイに次のメッセージが表示されます。

●Stop & Start システムによるエンジン停止が行われないとき

メッセージ	状況
ブレーキをもう少し踏み込んでください	ブレーキペダルを踏む力が足りない → ブレーキペダルを踏み足すと作動します。
エアコン優先	・外気温が高い、または低いときにエアコンを使用している → 設定温度と室内温度の差が小さくなると作動可能になります。 ・ を ON にしている → 曇りが取れてから をOFFにすると、作動可能状態になります。
バッテリー充電中	・バッテリーの充電量が低下している可能性がある → バッテリーの充電を優先するため、一時的にアイドリングストップを禁止していますが、エンジンをしばらく作動させると作動可能状態になります。 ・リフレッシュ充電中の可能性がある → 最大1時間のリフレッシュ充電が完了すると作動可能な状態になります。 ・長時間（1 時間以上）にわたって継続的に表示される → バッテリ劣化の可能性がありますのでトヨタ販売店に相談してください。
ブレーキシステム	・標高が高い ・ブレーキ倍力装置の負圧が低下した → ブレーキ倍力装置の負圧が所定値まで生成されると作動可能状態になります。
ハンドル操作	ハンドルを操作した ※
シートベルト非装着	運転席のシートベルトをはずしている → 運転席シートベルトを着用してしばらく待つと、作動可能状態になります。

メッセージ	状況
アイドリングストップできません	・一時的にアイドリングストップを禁止している → エンジンをしばらく作動させると作動可能状態になります。 ・ボンネットが開いている状態でエンジンを始動した可能性がある → ボンネットを閉め一度エンジンスイッチをOFFにして、30秒以上待ってからエンジンを始動すると作動可能状態になります。
システム温度が低い	バッテリーが冷えている可能性がある → エンジンをしばらく作動させることでエンジンルーム内の温度が上昇すると作動可能状態になります。
システム温度が高い	バッテリーが非常に熱くなっている可能性がある → エンジンを停止しエンジンルーム内の温度が十分に下がると作動可能状態になります。
専用バッテリー非装着	Stop & Start システム専用品以外のバッテリーを装着した可能性がある → Stop & Start システムが作動しません。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※ Stop & Start システムの作動条件：→ P. 360

●Stop＆Startシステムによるエンジン停止中にエンジンが自動的に再始動したとき

メッセージ	状況
エアコン優先	・エアコンを ON にした、またはエアコンを使用している ※ ・ を ON にした ※
ブレーキシステム	・ブレーキペダルをさらに強く踏み込んだ、またはポンピングブレーキをした → 走行することによりブレーキ倍力装置の負圧が所定値まで生成されると作動可能状態になります。
バッテリー充電中	・バッテリーの充電量が低下している可能性がある → バッテリーの充電を優先させるため、エンジンが再始動しました。エンジンをしばらく作動させると作動可能状態になります。
ハンドル操作	ハンドルを操作した ※
シートベルト非装着	運転席のシートベルトをはずした ※

※ Stop & Start システムの作動条件：→ P. 360

■マルチインフォメーションディスプレイに「アイドリングストップ故障 販売店で点検してください」が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■Stop & Start キャンセル表示灯が点滅したままのとき

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■Stop & Start システムが作動しているとき

●Stop & Start システムによるエンジン停止中（Stop & Start 表示灯が点灯中）は、ブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。（ブレーキホールド作動中とレーダークルーズコントロール［全車速追従機能付き］の制御停車中は除く）

●Stop & Start システムによるエンジン停止中（Stop & Start 表示灯が点灯中）は、車から離れないでください。
エンジンが自動的に始動する場合があるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●換気が悪い場所では、Stop & Start システムを非作動にしてください。
エンジンが自動的に再始動する場合があるため、排気ガスが充満し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■Stop & Start システムを正常に作動させるために

次のようなときは Stop & Start システムが正常に作動しないおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

●運転席シートベルトを着用しているときに、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点滅するとき

●運転席シートベルトをはずしているときに、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点灯しないとき

●運転席ドアを閉めているにもかかわらず、マルチインフォメーションディスプレイにドア開警告表示が表示される、または室内灯のメインスイッチがドアポジションのときにマップランプとリヤパーソナルランプが点灯するとき

●運転席ドアを開けているにもかかわらず、マルチインフォメーションディスプレイにドア開警告表示が表示されない、または室内灯のメインスイッチがドアポジションのときにマップランプとリヤパーソナルランプが点灯しないとき

BSM（ブラインドスポットモニター）★

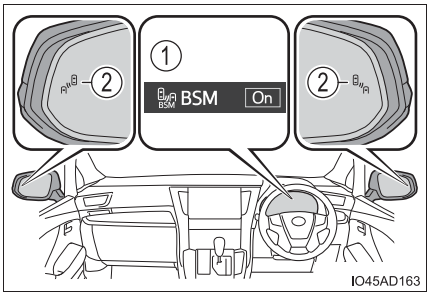
ブラインドスポットモニターは、リヤバンパー上方の内側にあるレーダーセンサーを使用し、運転者による車線変更時の判断を支援するシステムです。

システムの構成部品

① マルチインフォメーションディスプレイ

ブラインドスポットモニターの ON ／ OFF を切り替えます。

② ドアミラーインジケーター



ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーターが点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

設定のしかた

マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ 画面でブラインドスポットモニターの ON（作動）・OFF（停止）の切りかえができます。（→ P. 92）

ブラインドスポットモニターが OFF のときは、BSM OFF 表示灯（→ P. 75）が点灯します。エンジンスイッチがイグニッション ON モードになるたび、ブラインドスポットモニターは ON になります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「BSM　現在使用できません」が表示されたとき

電圧異常やセンサー周辺のリヤバンパー上方に氷・雪・泥などが付着していることが考えられます（→ P. 371）。センサー周辺のリヤバンパー上方の氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合、正常に作動しないことがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「BSM 故障　販売店で点検してください」が表示されたとき

センサーの故障や位置、向きのずれなどが考えられます。トヨタ販売店にて点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
（→ P. 92）

■レーダーセンサーの取り扱いについて

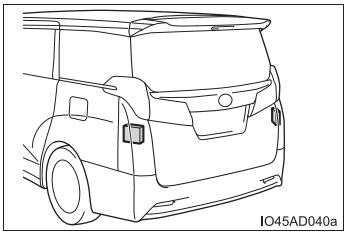
本製品は各国の電波法に適合しています。製品表面の印字はその証明ですので、消さないでください。
製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。

R 202 -LSC077

警告

■システムを正しく作動させるために

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパー上方の内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

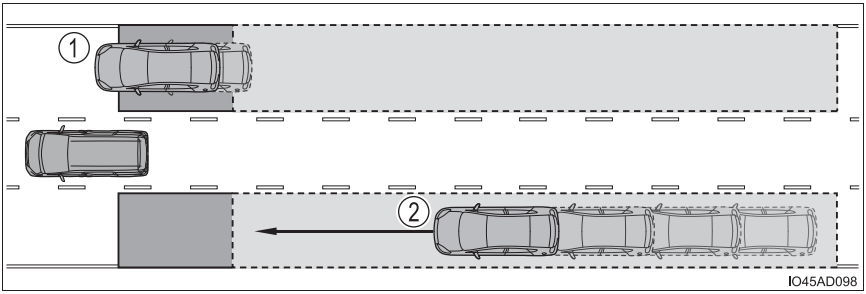


- センサー周辺のリヤバンパー上方は常にきれいにしておく
  センサー周辺のリヤバンパー上方に汚れや着雪がある場合、警告表示（→ P. 370）とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落とした後、ブラインドスポットモニターの作動条件（→ P. 374）でしばらく走行してください（目安：約 10 分）。それでも警告表示が消えない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。
- センサー周辺のリヤバンパー上方への強い衝撃を避ける
  センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。
  次のような場合には、必ずトヨタ販売店にて点検を受けてください。
  - ・センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた
  - ・センサー周辺のリヤバンパー上方などに傷や凹みがある、一部が外れている
- センサーを分解しない
- センサーやセンサー周辺のリヤバンパー上方にアクセサリーをつけたり、ステッカー（透明なものを含む）やアルミテープなどを貼ったりしない
- センサーやセンサー周辺のリヤバンパー上方を改造しない
- リヤバンパー上方の塗装修理の際にはトヨタ設定色以外への変更は行わないでください

ブラインドスポットモニターの作動

■ 検知できる車両

ブラインドスポットモニターはレーダーセンサーにより隣の車線を走行する次の車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによってその車両の存在を運転者に知らせます。

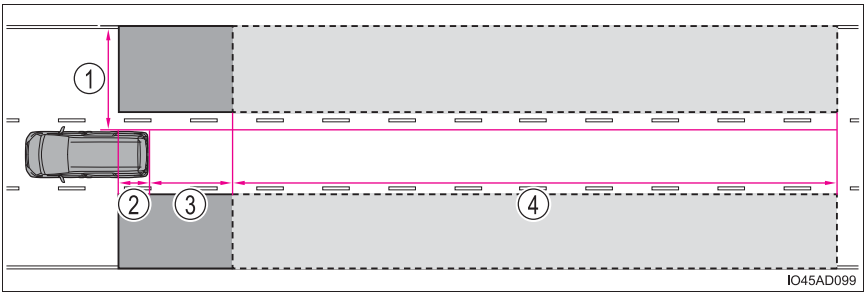


① ドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両

② 後方からドアミラーに映らない領域（死角領域）に急速に接近してくる車両

■ 検知できる車両

次の範囲に入った車両を検知します。



検知できる範囲：

① 車両の両側面について、側面から約 0.5 m 離れた面から約 3.5 m の領域 ※

※ 車両側面から外側に約 0.5 m は検知しません。

② リヤバンパーから約 1 m 前方の領域

③ リヤバンパーから約 3 m 後方の領域

④ リヤバンパーから後方約 3 m ～ 60 m の領域 ※

※ 自車と他車の速度差が大きいほど、ドアミラーインジケーターは他車がより遠くにいる状況で点灯、点滅します。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

ブラインドスポットモニターは、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認をおこなう必要があります。

知識

■ブラインドスポットモニターの作動条件

ブラインドスポットモニターは、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

●ブラインドスポットモニターが ON のとき

●シフトレバーが R 以外の位置のとき

●車速が約 16 km/h 以上のとき

■ブラインドスポットモニターが車両を検知する条件

次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

●隣の車線を走行する他車に自車が追い越されるとき

●小さい速度差で隣の車線を走行する他車を追いこすとき

●他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■システムが検知しない条件

次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●小型のオートバイ・自転車・歩行者など ※

●対向車

●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※

●同じ車線を走行する後続車 ※

●2 つ隣の車線を走行する他車 ※

●大きい速度差で隣の車線を走行する他車を追いこすとき ※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■システムが正しく作動しないおそれがある状況

●次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパー上方に付着したとき
・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
・複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
・自車と後続車の車間距離が短いとき
・検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
・自車と他車の速度差に変化があるとき
・検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
・停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーやけん引フックを装着しているとき
・検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
・ブラインドスポットモニターを ON にした直後

●特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

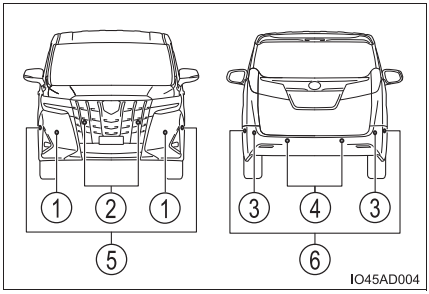
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・タイヤがスリップ（空転）しているとき
・自車と後続車の車間距離が短いとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーやけん引フックを装着しているとき
・雨や雪を後方に巻き上げているとき

クリアランスソナー

クリアランスソナーは、低速（約10km/h以下）で運転しているときに、車両と静止物とのおおよその距離を超音波センサーによって検知して、マルチインフォメーションディスプレイおよびマルチメディア画面★の距離表示とブザー音、音声案内（T-Connect ナビゲーションシステム装着車のみ）で運転者にお知らせする補助装置です。

センサーの位置・種類

① フロントコーナーセンサー
② フロントセンターセンサー
③ リヤコーナーセンサー
④ リヤセンターセンサー
⑤ フロントサイドセンサー（インテリジェントパーキングアシスト 2 装着車）



⑥ リヤサイドセンサー（インテリジェントパーキングアシスト 2 装着車）

クリアランスソナーの切りかえ

マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ 画面で ON（作動）・OFF（停止）の切りかえができます。（→ P. 92）

クリアランスソナー機能が OFF のときは、クリアランスソナー OFF 表示灯（→ P. 75）が表示されます。

OFF（停止）に切りかえて、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ から「クリアランスソナー」を ON（作動）にし、システム作動状態にしないとクリアランスソナーは復帰しません。（エンジンスイッチを OFF にしたあとで再度イグニッション ON モードにしても、復帰しません）

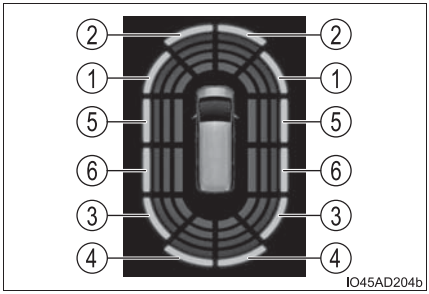
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

クリアランスソナーの表示のしかた

壁などの静止物を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイまたはマルチメディア画面★に表示されます。

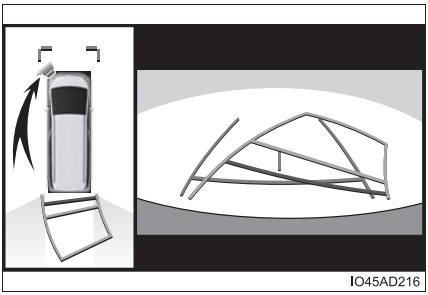
■ マルチインフォメーションディスプレイの表示

① フロントコーナーセンサー作動表示
② フロントセンターセンサー作動表示
③ リヤコーナーセンサー作動表示
④ リヤセンターセンサー作動表示
⑤ フロントサイドセンサー作動表示★
⑥ リヤサイドセンサー作動表示★

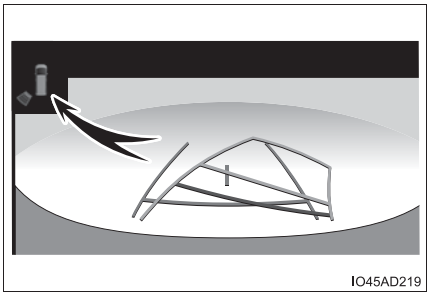


■ マルチメディア画面の表示

▶ パノラミックビューモニター表示★



▶ 割込み表示



静止物を検知すると自動的に表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

距離表示の見方

静止物を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイおよびマルチメディア画面★の作動表示が点灯（一部、バーや枠が点滅）します。

インテリジェントパーキングアシスト 2 装着車では、サイドエリアのスキャンが完了するまでの間は、フロントサイドセンサー作動表示、リヤサイドセンサー作動表示は表示されません。

マルチインフォメーションディスプレイ ※1, 2	マルチメディア画面 ※1	静止物までのおおよその距離	
		フロントコーナー＆フロントセンターセンサー＆フロントサイドセンサー★	リヤコーナー＆リヤセンターセンサー＆リヤサイドセンサー★
（点灯）	（点灯）	フロントセンターセンサー：約 100cm ～ 60cm	リヤセンターセンサー：約 150cm ～ 60cm
（点灯）	（点灯）	フロントコーナーセンサー：約 60cm ～ 45cm フロントサイドセンサー：約 115cm ～ 70cm フロントセンターセンサー：約 60cm ～ 45cm	リヤコーナーセンサー：約 60cm ～ 45cm リヤサイドセンサー：約 115cm ～ 70cm リヤセンターセンサー：約 60cm ～ 45cm
（点灯）	（点灯）	フロントコーナーセンサー：約 45cm ～ 30cm フロントサイドセンサー：約 70cm ～ 30cm フロントセンターセンサー：約 45cm ～ 30cm	リヤコーナーセンサー：約 45cm ～ 30cm リヤサイドセンサー：約 70cm ～ 30cm リヤセンターセンサー：約 45cm ～ 30cm

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

マルチインフォメーションディスプレイ ※1, 2	マルチメディア画面 ※1	静止物までのおおよその距離	
		フロントコーナー＆フロントセンターセンサー＆フロントサイドセンサー★	リヤコーナー＆リヤセンターセンサー＆リヤサイドセンサー★
（点灯および枠が遅い点滅）	（点滅）	約 30cm ～ 15cm	約 30cm ～ 15cm
（点灯および枠が早い点滅）	（点滅）	約 15cm 以下	約 15cm 以下

※1 イラストは説明のための例であり、表示により異なります（→ P. 377）

※2 インテリジェントパーキングアシスト 2 装着車では、センサー表示が灰色で表示されます。また、サイドエリアのスキャンが完了するまでの間は、フロントサイドセンサー作動表示、リヤサイドセンサー作動表示は表示されません。（→ P. 386, 387）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声案内とブザー音

静止物を検知すると、ブザーが鳴ります。

T-Connect ナビゲーションシステム装着車は、ブザー音と同時に音声案内を行います。

■ フロント側またはリヤ側のみで静止物を検知しているとき

- 静止物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。静止物との距離が約 30 cm 以下のとき、ブザーは断続音「ピピピ」から連続音「ピー」になります。
- 複数のセンサーが同時に静止物を検知しているときは、もっとも近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。
- ブザー吹鳴後、静止物との距離が近づかない場合は、自動でブザーが消音されます。ただし、静止物との距離が約 30cm 以下のときは消音されません。（自動ミュート機能）

ブザーの音量と鳴るタイミングを変更することができます。

静止物を検知できる範囲

① 約 100cm

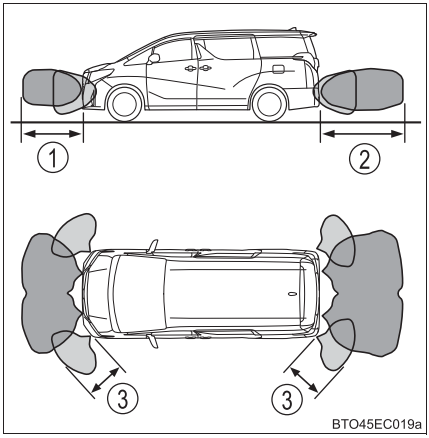
② 約 150cm

③ 約 60cm

検知できる範囲は右図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

サイドエリアの静止物の検知については P. 386 を参照してください。

静止物の形状・条件によっては検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。



静止物を検知できる範囲を変更することができます。

知識

■作動条件

●エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

●クリアランスソナーが ON のとき

●シフトレバーが P 以外にあるとき

●車速が約 10km/h 以下のとき

●ハンドルを約90°以上切っているとき(インテリジェントパーキングアシスト2 装着車のフロントサイドセンサー、リヤサイドセンサー)

■クリアランスソナーの割り込み表示について(インテリジェントパーキングアシスト2 装着車)

→ P. 420

■ブザー音量調整

マルチインフォメーションディスプレイ上でブザー音量の調整ができます。

クリアランスソナー、RCTA ★のブザー音を一括で調整します。

メーター操作スイッチを使って設定を変更します。(→ P. 92)

押すごとに 1,2,3 の間で音量が切りかわります。

★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ブザー音の一時ミュート（消音）

作動対象を検知した場合、マルチインフォメーションディスプレイ上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。

メーター操作スイッチの を押すとクリアランスソナー、RCTA ★のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

一時ミュート（消音）が解除されるとき：

●シフトレバーを切りかえたとき

●センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき

●使用中の機能を OFF にしたとき

●エンジンスイッチを OFF にしたとき

●シフトレバーが D または M で、車速が 15 km/h 以上のとき

■センサーの検知について

●センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。

●静止物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。

●センサーが静止物に近付きすぎると検知できないことがあります。

●静止物を検知してから、表示が出る（ブザーが鳴る）までに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示が出る（ブザーが鳴る）までに、静止物まで約 30cm 以内に接近するおそれがあります。

●オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。

●他システムのブザーの音などにより本システムの音が聞き取りづらくなる場合があります。

■システムが正しく検知できないことがある静止物

静止物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

●針金・フェンス・ロープなどの細いもの

●綿・雪などの音波を吸収しやすいもの

●鋭角的な形のもの

●背の低いもの

●背が高く上部が張り出しているもの

●人や動物などの動いているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、センサーが正常に作動しないことがあります。

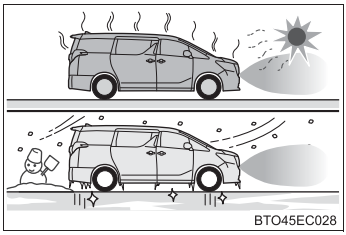
●センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）

●センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）

特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があっても検知しないことがあります。

●センサーを手などで覆ったとき

●炎天下や寒冷時



●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など

●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなどの超音波を発生するものが近付いたとき

●大雨や水しぶきがかかったとき

●センサーに静止物が近付きすぎたとき

●超音波を反射しにくい歩行者（例：ギャザーやフリルの多いスカートなど）

●地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凹凸なもの、波打っているものが検知範囲にあるとき

●風が強いとき

●霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき

●作動対象物と車両の間に検知できない対象物があるとき

●車・オートバイ・自転車・歩行者などの作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき

●衝突などで、センサーの方向がずれたとき

●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

●積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）

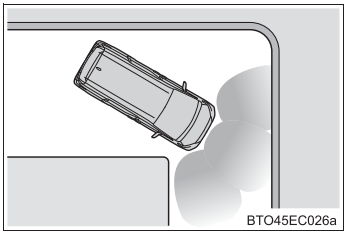
●事故や故障で自車の走行が不安定なとき

●タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

●狭い道路を走行するとき



●垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETC のバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき

●地面にわだちや穴がある場合

●排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時

●急な登坂路や降坂路を走行するとき

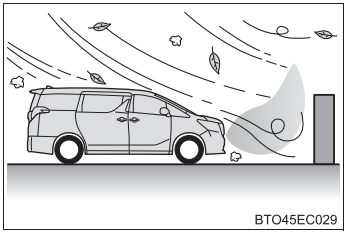
●冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき

●センサーに水滴･氷･雪･泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）

●大雨や水しぶきがかかったとき

●霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき

●風が強いとき



●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき

●積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）

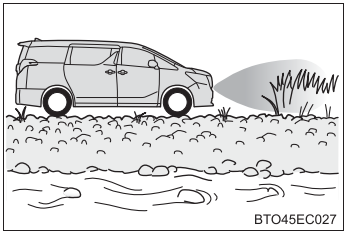
●衝突などで、センサーの方向がずれたとき

●背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき

●立体駐車場や工事現場などで柱（H 形鋼など）の付近を走行するとき

●事故や故障で自車の走行が不安定なとき

●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など



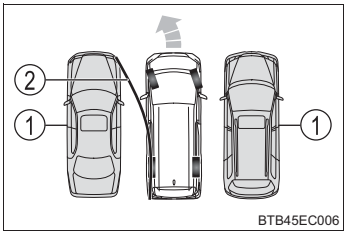
●タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

■**巻き込み警報機能について（インテリジェントパーキングアシスト２装着車）**

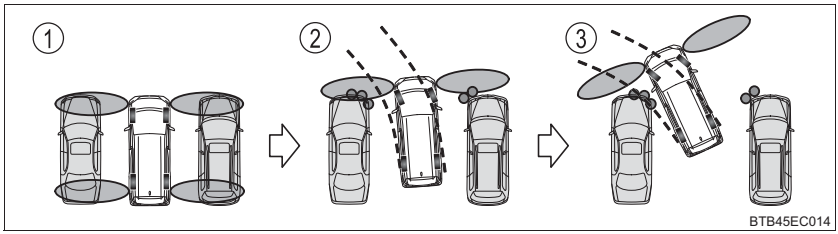
サイドエリアの静止物が車両の経路内にある場合に、表示とブザーで運転者に知らせます。

① 静止物

② 計算した車両経路



走行中にサイドセンサーで静止物を検知します。車両が移動して静止物がサイドセンサーで検知できない位置にあった場合も、車両の位置を計算することで静止物の位置を算出し、車両の経路内に静止物がある場合に、巻き込み警報機能が作動します。



●：サイドセンサーで検知した静止物

① 停車時はサイドエリアの静止物の検知は行いません。

② 車両移動中に静止物を検知

③ サイドセンサーで、静止物を直接検知していない状態でも、表示とブザーで知らせます。

■サイドエリアの静止物の検知について
（インテリジェントパーキングアシスト２装着車）

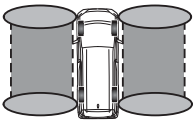
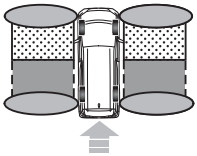
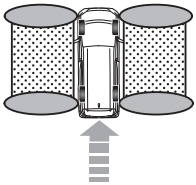
●サイドエリアの静止物は、センサーで直接検知するのではなく、車両前後のサイドセンサーで検知したあと、車両の位置を計算することで静止物の位置を算出します。そのためエンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたあと、しばらく走行してセンサーでサイドエリアのスキャンが完了するまでは、サイドエリアに静止物があっても検知できない場合があります。

●サイドセンサーで車・人・動物などを検知したときは、車・人・動物などがサイドセンサーの検知範囲内から出ても検知している状態が継続します。

●サイドエリアをスキャン中は、マルチインフォメーションディスプレイの表示が次のようになります。

スキャンが完了すると、約 3 秒間マルチインフォメーションディスプレイの表示が継続されたあとにセンサー作動表示は消灯します。

▶前進しているとき

	サイドエリアのスキャンが未完了の状態	車両前半分のスキャンが完了した状態	サイドエリアのスキャンが完了した状態
マルチインフォメーションディスプレイの表示			
車両の状態※	 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにした直後	 車体の全長の半分の距離を前進した状態	 車体の全長分の距離を前進した状態

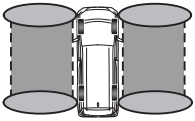
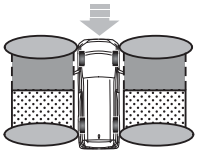
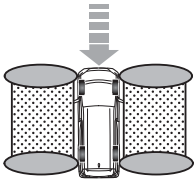
●：サイドセンサーの検知エリア

●：サイドエリア（サイドエリアのスキャンが未完了の部分）

●：サイドエリア（サイドエリアのスキャンが完了した部分）

※ イラストは説明のための例であり、実際の検知エリアとは異なります。

▶後退しているとき

	サイドエリアのスキャンが未完了の状態	車両うしろ半分のスキャンが完了した状態	サイドエリアのスキャンが完了した状態
マルチインフォメーションディスプレイの表示			
車両の状態※	 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにした直後	 車体の全長の半分の距離を後退した状態	 車体の全長分の距離を後退した状態

●：サイドセンサーの検知エリア

●：サイドエリア（サイドエリアのスキャンが未完了の部分）

●：サイドエリア（サイドエリアのスキャンが完了した部分）

※ イラストは説明のための例であり、実際の検知エリアとは異なります。

■**マルチインフォメーションディスプレイに「ソナーの汚れを除去してください」が表示されたときは**

クリアランスソナーのセンサーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。
この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。
また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、静止物があっても検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

■**マルチインフォメーションディスプレイに「クリアランスソナー故障」が表示されたときは**

センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。
トヨタ販売店で点検を受けてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「クリアランスソナー使用できません」が表示されたときは

●大雨などでセンサー表面に水が継続的に流れている可能性があります。システムが正常と判断した時に復帰します。

●バッテリーを脱着したあとに、初期化がされていないことが考えられます。（→ P. 388）システムの初期化を行ってください。初期化を行っても表示が消えない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーを脱着したときは

システムを初期化する必要があります。約 35km/h 以上の車速で 5 秒以上直進走行することで初期化できます。

■カスタマイズ機能

センサーの検知範囲を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 661）

警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■システムを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。

●センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けないでください。

●センサー周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はトヨタ販売店で点検を受けてください。前後のバンパーやグリルの脱着や交換が必要な場合はトヨタ販売店にご相談ください。

●改造・分解・塗装をしないでください。

●ライセンスプレートカバーを取り付けないでください。

●適正なタイヤ空気圧を維持してください。

警告

■クリアランスソナーを OFF にするとき

次のときはシステムを OFF にしてください。クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

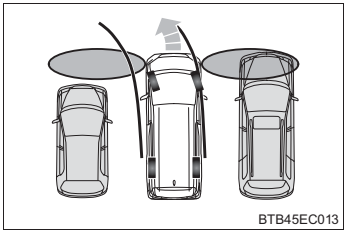
- 上記の内容が守られないとき
- トヨタ純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

■サイドセンサーについて★

次のとき、クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

- エンジンスイッチをイグニッション　ON モードにした直後の発進時、フロントサイドセンサーで検知できないような小さい車両や静止物が隣にあるとき

  右図の場合、前進しても左側にある車両を検知できないため、巻き込み警報機能は作動しません。



- サイドセンサーで検知できない位置に静止物がある場合や、人がいる場合
- サイドエリアのスキャン完了後でも、車・人・動物などが車両の横からサイドエリアに進入してきた場合は検知できません。

■洗車時の注意

- 高圧洗浄機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗浄機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意

■**クリアランスソナー使用時の注意**

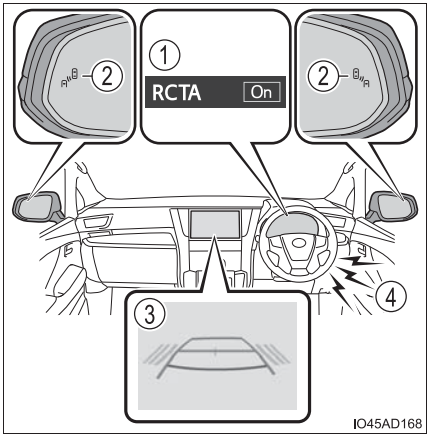
次のとき、センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- 静止物を検知していない状態で、クリアランスソナーの作動表示が点滅し、ブザーが鳴ったとき
- センサー部付近に物をぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき
- バンパーをぶつけたとき
- ブザー音がしないのにクリアランスソナーの作動表示が点灯したままのとき

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能はリヤバンパー上方の内側にあるブラインドスポットモニターのレーダーセンサーを使用し、運転者の目視だけでは感知しづらい領域の確認を補助する機能です。後退時に運転者を支援します。

システムの構成部品



① マルチインフォメーションディスプレイ

RCTA 機能の ON ／ OFF を切り替えます。

② ドアミラーインジケーター

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のドアミラーインジケーターが点滅します。

③ マルチメディア画面の表示

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、マルチメディア画面に検知した側の RCTA アイコン（→ P. 393）が点灯します。

④ RCTA ブザー

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、ブザーが鳴ります。

設定のしかた

マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ 画面で RCTA の ON（作動）・OFF（停止）の切りかえができます。（→ P. 92）

RCTA 機能が OFF のときは、RCTA OFF 表示灯（→ P. 75）が点灯します。エンジンスイッチがイグニッション ON モードになるたび、RCTA 機能は ON になります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■RCTA ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオなど大きな音がする場合、RCTA ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「RCTA　現在使用できません」が表示されたとき

センサー周辺のリヤバンパー上方に氷・雪・泥などが付着していることが考えられます（→ P. 371）。センサー周辺のリヤバンパー上方の氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合、正常に作動しないことがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「RCTA 故障　販売店で点検してください」が表示されたとき

センサーの故障や位置、向きのずれなどが考えられます。トヨタ販売店にて点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

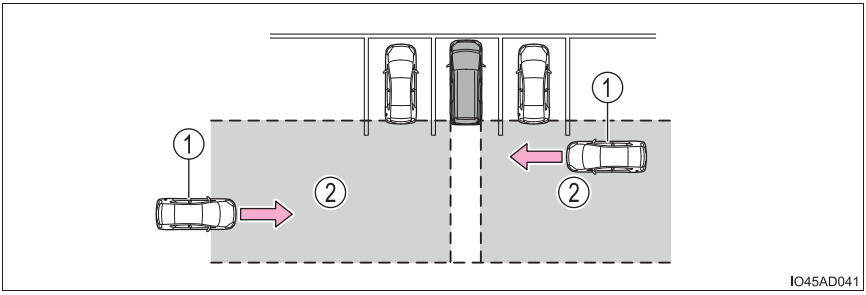
お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
（→ P. 92）

■レーダーセンサーの取り扱いについて

→ P. 371

RCTA 機能

RCTA 機能はレーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、ドアミラーのインジケーターとブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。



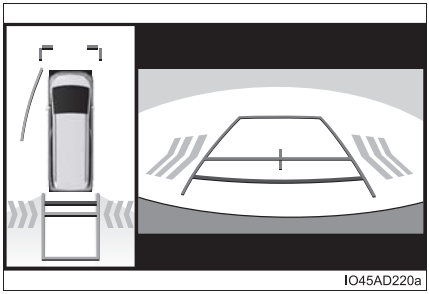
① 接近車両

② 接近車両を検知できる範囲

■ RCTA アイコンの表示

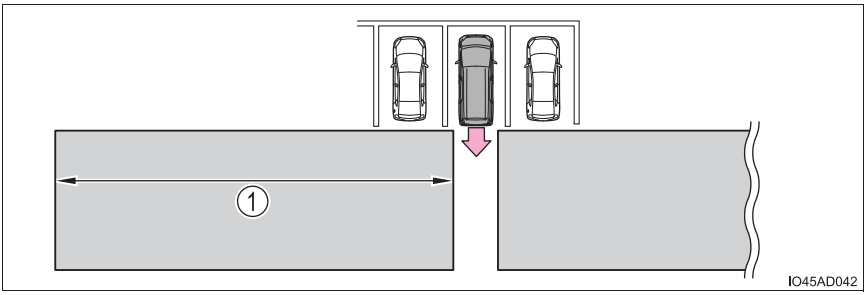
自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、マルチメディア画面上に次の表示をします。

イラストは両方向から車両が接近している例です。



RCTA 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



速度が速い車両に対しては、より離れた位置で警報ブザーを鳴らします。

例：

接近車両	速度	①警報距離（概算）
速い	28 km/h	20 m
遅い	8 km/h	5.5 m

知識

■RCTA 機能の作動条件

RCTA 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

●RCTA 機能が ON のとき

●シフトレバーが R のとき

●自車の車速が約 8 km/h 以下のとき

●接近する他車の車速が約 8 km/h ～ 28 km/h の間のとき

■ **ブザー音量調整**

マルチインフォメーションディスプレイ上でブザー音量の調整ができます。

RCTA、クリアランスソナーのブザー音を一括で調整します。

メーター操作スイッチを使って設定を変更します。（→ P. 92）

押すごとに 1,2,3 の間で音量が切りかわります。

■ **ブザー音の一時ミュート（消音）**

作動対象を検知した場合、マルチインフォメーションディスプレイ上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。

メーター操作スイッチの を押すと RCTA、クリアランスソナーのブザー音が一括でミュート（消音）されます。

一時ミュート（消音）が解除されるとき：

- シフトレバーを切りかえたとき
- センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
- 使用中の機能を OFF にしたとき
- エンジンスイッチを OFF にしたとき

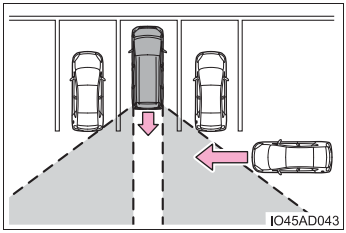
■システムが検知しない車両について

RCTA 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●真後ろから接近する車両

●自車の隣の駐車スペースで後退する車両

●障害物のためにセンサーが検知できない車両



●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※

●小型の二輪車、自転車、歩行者など ※

●自車から遠ざかる車両

●自車の隣の駐車スペースから接近する車両 ※

●センサーと接近車両との距離が近すぎる場合

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

RCTA 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。

●センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき

●泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパー上方に付着したとき

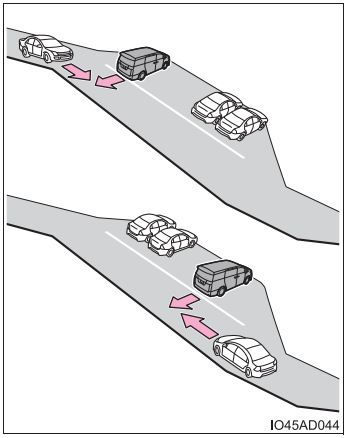
●大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき

●複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき

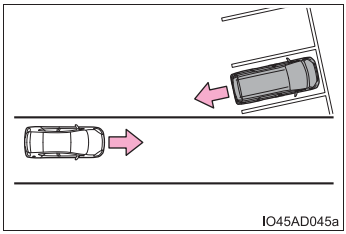
●車両が高速で接近するとき

●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

●勾配の変化が激しい坂で後退しているとき



●斜めの駐車場から出庫するとき



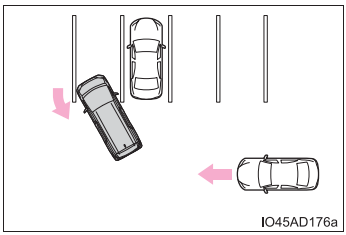
●検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき

●炎天下や寒冷時

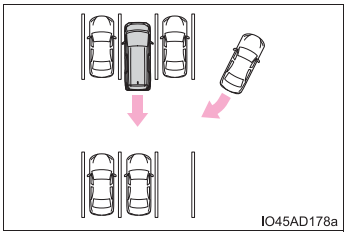
●ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき

●車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

●自車が旋回しているとき



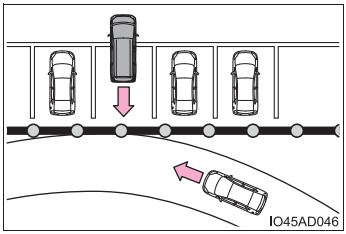
●旋回しながら車両が近づいてきたとき



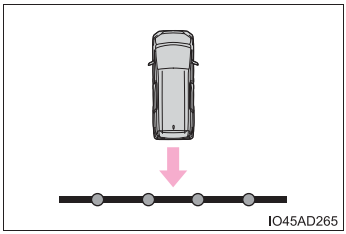
■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

●駐車場に面した道を車両が走行しているとき

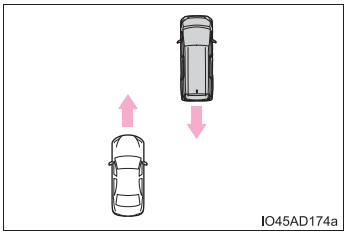


●車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき

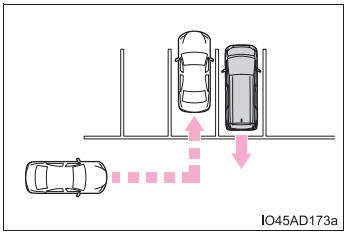


●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

●車両が自車の横を通過するとき



●自車の近くで旋回していく移動物が存在するとき



●自車近くに室外機などの回転体があるとき

●センサーに向けてスプリンクラーなどによる水の飛散があったとき

●動いているもの（旗・排気ガス・大粒の雨や雪、路面の雨水など）

●ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき

●グレーチングや側溝

●炎天下や寒冷時

●ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
●車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。（→ P. 373）

■システムを正しく作動させるために

→ P. 371

PKSB（パーキングサポートブレーキ）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、駐車時などの低速走行時に作動対象を検知した場合、警報と自動ブレーキ制御で作動対象との衝突被害の軽減に寄与するシステムです。壁などの静止物を検知するパーキングサポートブレーキ（静止物）、後退時に後方接近車両を検知するパーキングサポートブレーキ（後方接近車両）があります。

◆ パーキングサポートブレーキ（静止物）

→ P. 408

◆ パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）★

→ P. 412

システムを作動させるには

パーキングサポートブレーキ（静止物）、パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）★を一括で ON/OFF します。

メーター操作スイッチを使って ON ／ OFF を切りかえます。（→ P. 92）

1 < > を押して を選択する

2 を上下に操作して「PKSB」を選択し、 を押す

PKSB システムを OFF した場合、PKSB OFF 表示灯（→ P. 75）が点灯します。OFF（非作動）に切りかえて、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの から「PKSB」を ON（作動）にし、システム作動状態にしないと PKSB（パーキングサポートブレーキ）は復帰しません。（エンジンスイッチの操作では復帰しません）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

エンジン出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

エンジン出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチメディア画面★およびマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

● エンジン出力抑制制御作動中（加速制限制御）

一定以上の加速をシステムが制限しているとき：

マルチメディア画面表示：表示なし

マルチインフォメーションディスプレイ表示：「加速抑制中です」

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：吹鳴あり

● エンジン出力抑制制御作動中（出力最大抑制制御）

通常よりやや強めのブレーキ操作が必要だとシステムが判断したとき：

マルチメディア画面表示：「ブレーキ！」

マルチインフォメーションディスプレイ表示：「ブレーキ！」

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：ポーン（単発音）

● ブレーキ制御作動中

急ブレーキが必要だとシステムが判断したとき：

マルチメディア画面表示：「ブレーキ！」

マルチインフォメーションディスプレイ表示：「ブレーキ！」

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：ポーン（単発音）

● システム作動により車両停止

ブレーキ制御作動後に車両が停止したとき：

マルチメディア画面表示：「ブレーキを踏んでください」

マルチインフォメーションディスプレイ表示：「アクセルが踏まれています　ブレーキを踏み直してください」

アクセルが踏まれていない場合は「ブレーキを踏んでください」が表示されます。

PKSB OFF 表示灯：点灯

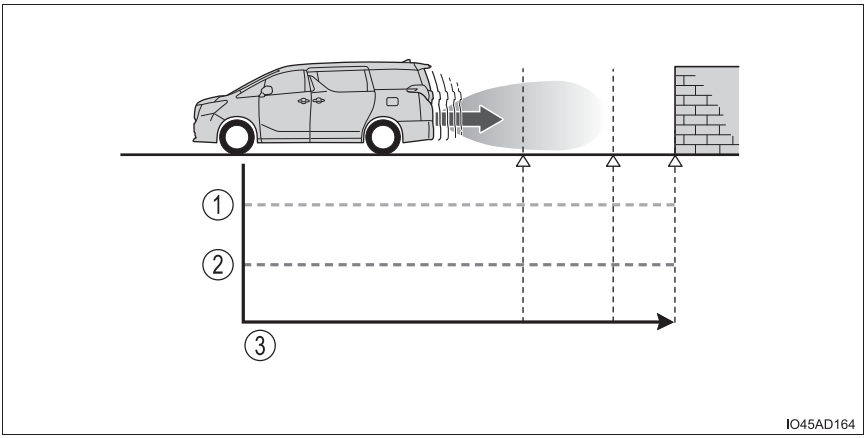
ブザー：ポーン（単発音）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

PKSB（パーキングサポートブレーキ）の作動について

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、衝突の可能性がある作動対象（壁などの静止物、後方接近車両）を検知したとき、エンジンの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。（エンジン出力抑制制御：下記図 2）また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。（ブレーキ制御：下記図 3）

● 図 1（PKSB（パーキングサポートブレーキ）非作動時）

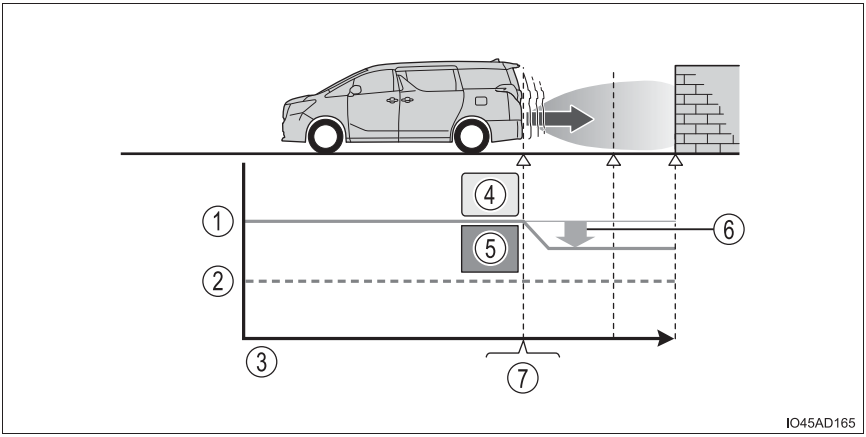


① エンジン出力

② 制動力

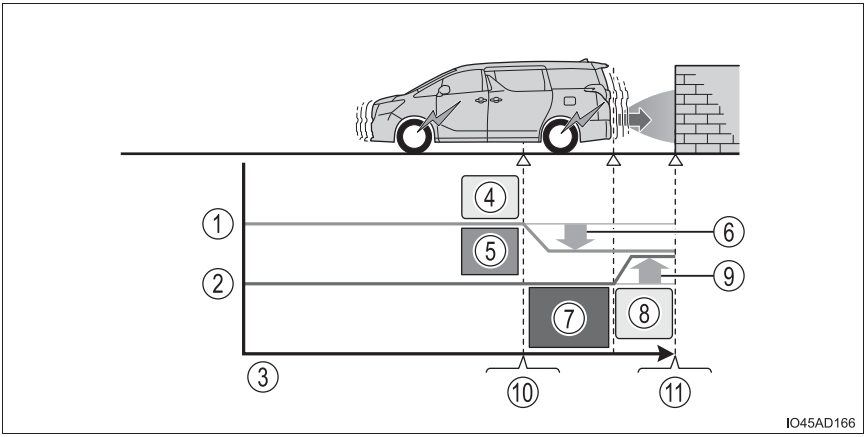
③ 時間

● 図２（エンジン出力抑制制御時）



① エンジン出力
② 制動力
③ 時間
④ エンジン出力抑制制御開始
⑤ 作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき
⑥ エンジン出力を抑える
⑦ 例：マルチインフォメーションディスプレイ表示「ブレーキ！」

● 図 3（エンジン出力抑制制御かつブレーキ制御時）



① エンジン出力

② 制動力

③ 時間

④ エンジン出力抑制制御開始

⑤ 作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき

⑥ エンジン出力を抑える

⑦ 作動対象と衝突の可能性が非常に高いとシステムが判断したとき

⑧ ブレーキ制御開始

⑨ ブレーキ制御を上げる

⑩ 例：マルチインフォメーションディスプレイ表示「ブレーキ！」

⑪ 例：マルチインフォメーションディスプレイ表示「アクセルが踏まれています ブレーキを踏み直してください」

知識

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動したときは

システム作動により車両が停止した場合、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止して、PKSB OFF 表示灯が点灯します。また、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動した場合でもブレーキ制御は 2 秒で解除されるため、そのまま発進できます。また、ブレーキペダルを踏んでも解除されるため、再度アクセルペダルを踏むと発進できます。

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）の復帰について

システム作動により PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止したあとに、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を復帰させたい場合、次のいずれかを行うと、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が復帰します。このとき、PKSB OFF 表示灯が消灯します。（→ P. 75）

- PKSB システムを ON（作動）にする（→ P. 400）
- エンジンスイッチを OFF にしてから、再度イグニッション ON モードにする
- シフトレバーを P にする
- 進行方向の作動対象がなくなった状態で走行する
- 車両の進行方向を切りかえる

■マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングサポートブレーキ 現在使用できません」が表示され、PKSB OFF 表示灯が点滅したときは

大雨などでセンサー表面に水が継続的に流れている可能性があります。システムが正常と判断した時に復帰します。

■マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングサポートブレーキ 現在使用できません」と「クリアランスソナー使用できません　ソナーの汚れを除去してください」が表示され、PKSB OFF 表示灯が点滅したときは

センサー部に氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。センサーの汚れを取り除いても表示が出るとき、またはセンサーが汚れていなくても表示が出るときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーを脱着したときは

システムを初期化する必要があります。約 35km/h 以上の車速で 5 秒以上直進走行することで初期化できます。

警告

■安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。PKSB （パーキングサポートブレーキ）は作動対象への衝突を緩和し、衝突被害軽減に寄与できる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。
- 故意に車や壁に向かって走行するなど、システムの作動を確認する行為は大変危険です。絶対におやめください。

■パーキングサポートブレーキを OFF にするとき

次のときは、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用する場合
- 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けた場合
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 自走式洗車機を使用する場合
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

注意

■**マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングサポートブレーキ 現在使用できません」が表示され、PKSB OFF 表示灯が点滅したときは**

エンジンスイッチをイグニッション ON にした直後に、上記表示が出ることがあります。その場合は周囲を確認しながら注意して走行してください。一定距離の走行で使用可能となりますが、使用できない場合は安全な場所に車を停止し、クリアランスソナーセンサーのバンパー周辺の汚れを取り除いてください。

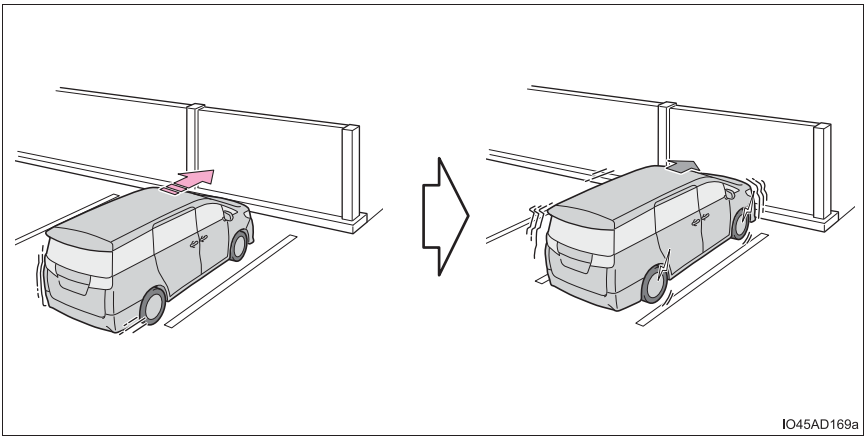
パーキングサポートブレーキ（静止物）

駐車時や低速走行時において、壁などの静止物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトレバーの入れ間違いによる発進時に、センサーが前後進行方向の静止物を検知するとシステムが作動し、衝突を緩和し衝突被害低減に寄与します。

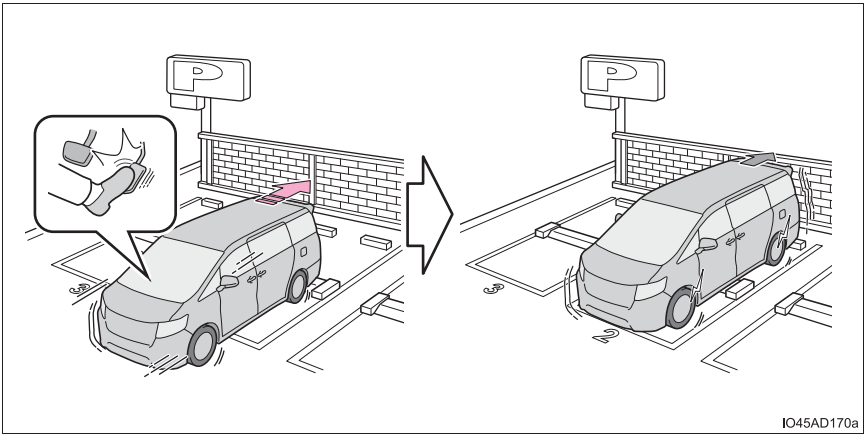
システム作動例

次のようなときに進行方向の静止物を検知してシステムが作動します。

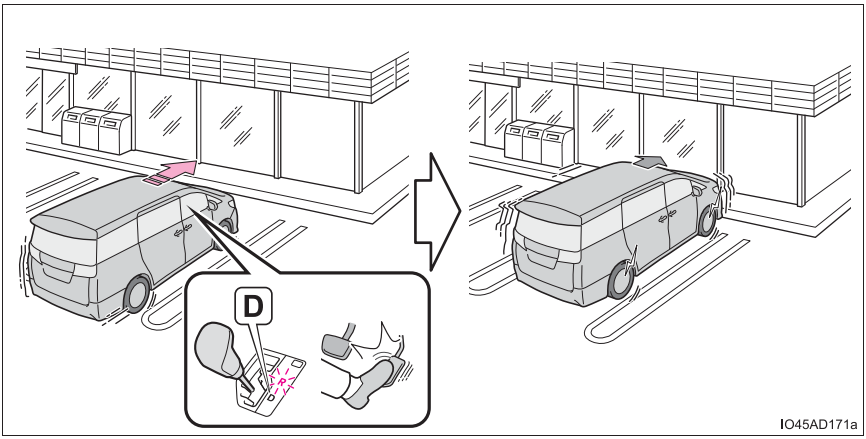
■ 低速走行時にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



■ アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき



■ 誤ってシフトレバーを D に入れ前進してしまったとき



センサーの種類

→ P. 376

知識

■パーキングサポートブレーキ（静止物）の作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯・点滅（→ P. 73, 75）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●エンジン出力抑制制御

・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
・車速が約 15km/h 以下
・車両進行方向に作動対象となる静止物がある（約 2 ～ 4m 先まで）
・衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御

・エンジン出力抑制制御作動中
・衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■パーキングサポートブレーキ（静止物）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●エンジン出力抑制制御

・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとシステムが判断したとき
・車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）

●ブレーキ制御

・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
・車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）

■パーキングサポートブレーキ（静止物）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（静止物）の検知範囲は、クリアランスソナーの感知範囲（→ P. 380）とは異なります。
そのため、クリアランスソナーが静止物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（静止物）は作動を開始していない場合があります。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

→ P. 383

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→ P. 384

警告

■システムを正しく作動させるために

→ P. 388

■万一、踏切内などでパーキングサポートブレーキ（静止物）が誤って作動したときは

→ P. 405

■洗車時の注意

→ P. 389

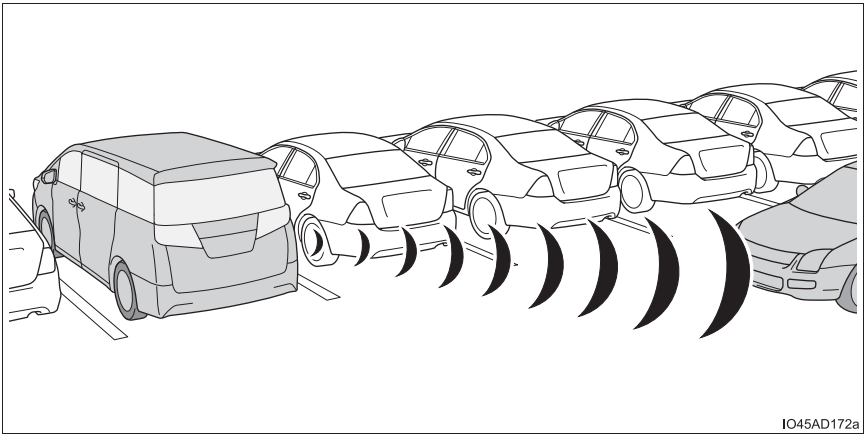
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）★

レーダーセンサーで自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、システムが衝突の危険性があると判断した場合にブレーキ制御をすることで、接近車両への衝突を緩和し衝突被害軽減に寄与します。

システム作動例

次のようなときに進行方向の車両を検知してシステムが作動します。

■ **後退時、近接車両接近中にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき**



センサーの種類

→ P. 371

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯・点滅（→ P. 73, 75）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●エンジン出力抑制制御

・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
・車速が約 15km/h 以下
・後側方から接近する車両の車速が約 8km/h 以上
・シフトポジションが R のとき
・接近車両への衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御

・エンジン出力抑制制御作動中
・接近車両への衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●エンジン出力抑制制御

・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
・自車後側方への接近車両がなくなったとき

●ブレーキ制御

・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
・自車後側方への接近車両がなくなったとき

■パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の検知範囲は、RCTA の検知範囲（→ P. 394）とは異なります。

そのため、RCTA が障害物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）は作動を開始していない場合があります。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

→ P. 396

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→ P. 398

警告

■システムを正しく作動させるために

→ P. 371

インテリジェントパーキングアシスト2★

インテリジェントパーキングアシスト2について

■ 機能概要

インテリジェントパーキングアシスト2は、画面表示や音声、ブザー音による操作案内および、ハンドル操作を自動で行うことにより、画面上で確認した目標駐車位置付近への後退駐車や縦列駐車からの出庫を補助するシステムです。（シフトレバー操作、および前進・後退時の速度調整は自動で行いません）

また、パノラミックビューモニターで、車両前方や車両後方、車両上方の映像を表示することにより、車両周辺の確認を補助します。パノラミックビューモニターについては、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

- インテリジェントパーキングアシスト2は自動駐車装置ではありません。後退駐車や縦列駐車からの出庫を行うための補助装置です。
- 設定した目標駐車位置付近に向けハンドル操作をアシストするシステムのため、駐車時の路面や自車の状況・目標駐車位置までの距離などにより、設定した目標駐車位置に到達できない場合があります。

■ パーキングサポートブレーキについて

インテリジェントパーキングアシスト2が作動しているときは、パーキングサポートブレーキのON／OFFに関係なく、システムが衝突の可能性がある障害物を感知したとき、パーキングサポートブレーキのエンジン出力抑制制御・ブレーキ制御が作動します。（→P. 417）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

- 後退または前進するときは、必ず車両の後方や前方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり後退または前進してください。
- 周辺の車両や障害物、人などに接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、IPA スイッチ（→ P. 418）を押してシステムを解除してください。
- カメラのレンズの特性により、画面に映る人や障害物は、実際の位置や距離と異なります。（詳しくは、「ナビゲーションシステム取扱書／周辺監視／パノラミックビューモニター」を参照してください。）
- インテリジェントパーキングアシスト 2 はシステムで停車を行いません。目標駐車位置および切返し位置では、ブレーキペダルを踏んで停車してください。
- 低い障害物（縁石やブロックなど）は検知できないことがあるため、周囲の安全を直接確認し、接触のおそれがある場合は、ブレーキペダルを踏んで停車してください。

インテリジェントパーキングアシスト 2 のアシストモードと機能一覧

アシストモード	駐車種類	機能	機能概要	参照ページ
車庫入れ アシストモード	並列駐車	バック 駐車機能	後退開始位置からアシストを開始し、目標駐車位置までアシストを行います。 また、認識した駐車区画から目標を選択・変更できます。	P. 423
		前進誘導 機能	目標駐車位置の正面に停車した状態からアシストを開始し、後退開始位置への案内を含めたバック駐車アシストを行います。	P. 422
縦列駐車 アシストモード	縦列駐車	縦列駐車 機能	目標駐車位置の検出と後退開始位置を案内し、後退からアシストを開始し、目標駐車位置までアシストを行います。	P. 432
縦列出庫 アシストモード	縦列出庫	縦列出庫 機能	縦列駐車状態からアシストを開始し、駐車スペースから出られる位置までアシストを行います。	P. 440

知識

■インテリジェントパーキングアシスト 2 作動中のパーキングサポートブレーキについて

インテリジェントパーキングアシスト 2 作動中は、パーキングサポートブレーキの ON ／ OFF（→ P. 400）に関係なく、システムが衝突の可能性がある障害物を感知したとき、パーキングサポートブレーキのエンジン出力抑制制御・ブレーキ制御が作動します。

●パーキングサポートブレーキ作動後はインテリジェントパーキングアシスト 2 の作動を一時的に中止し、パーキングサポートブレーキの作動がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。（→ P. 401）

●パーキングサポートブレーキが解除されたあと、インテリジェントパーキングアシスト 2 が作動可能な場合は、マルチインフォメーションディスプレイにシフト操作を促すメッセージが表示されます。マルチインフォメーションディスプレイの表示に従いシフトレバーを操作し、再度 IPA スイッチ（→ P. 418）を押すことでインテリジェントパーキングアシスト 2 の作動を継続できます。

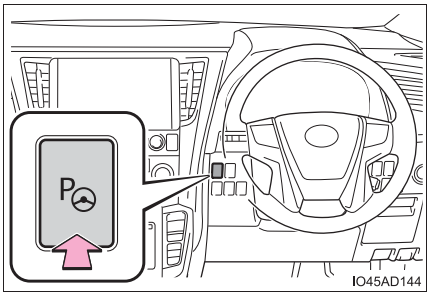
●パーキングサポートブレーキの作動による中止が 3 回発生した場合、インテリジェントパーキングアシスト 2 の作動を解除します。

アシストモードの切りかえ

■ IPA スイッチによる切りかえ

スイッチを押す

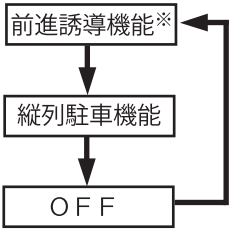
機能の切りかえ、アシストモードの中止／再開ができます。



エンジンスイッチがイグニッション ON モード、シフトレバーが P、R 以外で車速が約 30km/h 以下のとき、IPA スイッチを押すごとに、次のように機能が切りかわります。

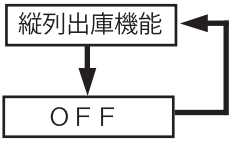
選択中の機能がマルチインフォメーションディスプレイの作動表示部（→ P. 419）に表示されます。

▶ シフトレバーが P 以外で IPA スイッチを押したとき



※ 前進誘導機能の作動条件（→ P. 429）を満たしたときに切りかえできます。作動条件を満たしていない場合は、縦列駐車機能に切りかわります。

▶ シフトレバーが P で IPA スイッチを押したとき



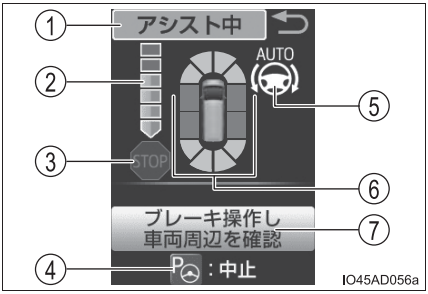
■ シフトレバー操作による機能の切りかえ（リバース連動機能 ON 時）

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき、シフトレバーを R にすると、バック駐車機能に切りかわります。

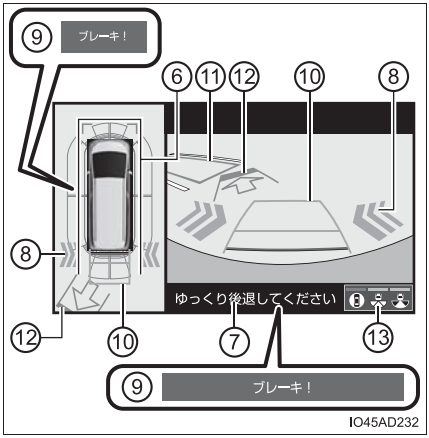
ガイド画面について

マルチインフォメーションディスプレイとマルチメディア画面にガイド画面が表示されます。

▶ マルチインフォメーションディスプレイ表示



▶ マルチメディア画面



① 作動表示部

インテリジェントパーキングアシスト 2 の作動状態を示します。

② アシスト段階表示

車両停止位置・アシスト終了位置まで の段階を目盛りの数で表示します。

③ ストップ表示

点灯したときは、すみやかにブレーキ ペダルを踏んで車両を停止してください。

④ IPA スイッチアイコン

IPA スイッチを操作することでアシストモードの切りかえができます。また、システムの中止／再開ができるときに表示されます。

⑤ ハンドル AUTO 操作表示

ハンドルの自動操作が作動しているとき表示されます。

⑥ クリアランスソナー表示

→ P. 377

⑦ アドバイス表示

表示内容に従って操作を行ってください。画面の例では、「ブレーキペダルを踏んで車速を調整しながら、車両周辺の安全を確認してください」という内容をお知らせしています。

⑧ RCTA （リヤクロストラフィックアラート）表示★

→ P. 393

⑨ PKSB（パーキングサポートブレーキ）表示

→ P. 428

⑩ ガイド線

詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

⑪ 目標駐車枠

⑫ 切り返しの位置

⑬ 画面モード切りかえスイッチ

パノラミックビュー＆バックビュー／バックビュー／ワイドバックビューが切りかわります。詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

知識

■メーター内のインテリジェントパーキングアシスト２表示灯(→ P. 75)について

インテリジェントパーキングアシスト2によるハンドルの自動操作が作動しているときに点灯します。制御が終了したときは、しばらく点滅したあとに消灯します。

■クリアランスソナーの割り込み表示について

インテリジェントパーキングアシスト２作動中は、クリアランスソナーの ON ／ OFF（→ P. 376）に関係なく、クリアランスソナーが障害物を感知すると、ガイド画面に自動的にクリアランスソナー表示が割り込み表示されます。
（→ P. 377）

■音声案内について

システムの作動状態、運転者への操作案内を音声でお知らせします。

●音量はナビゲーションシステムの設定に連動します。

●マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ 画面から音声案内の ON ／ OFF を設定できます。（→ P. 92）

■リバース連動機能（→ P. 428）を ON ／ OFF するには

マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ 画面からリバース連動機能の ON ／ OFF を設定できます。（→ P. 92）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アシストモードの中止・中断

次のときにアシストモードが中止または、中断されます。

▶アシストが中止されるとき
・画面を切りかえた
・システムの温度保護機能が働いた
・システム異常
・車庫入れアシストモードで目標駐車位置を確定せずに後退した
・システムがアシスト継続できない駐車環境と判断した

アシストが中止されたときは、ハンドルをしっかり持って、ブレーキペダルを踏んで車両を停車してください。
すでにシステムは中止されていますので、はじめからやり直すか、引き続き駐車するときは通常どおりハンドルを操作してください。

▶アシストが中断されるとき
・ハンドルを操作した
・アシスト中に車速が 7km/h をこえた
・パーキングサポートブレーキが作動した

アシストが中断されたときは、IPA スイッチを押すことでアシストを再開できます。

知識

■アシスト中に制限速度を超過しそうになったとき

ブザーが鳴り、制限速度をこえてしまう可能性があることをお知らせするアドバイスが表示されます。
アドバイスが表示されたときは、ただちにブレーキペダルを踏んで減速してください。減速しないまま加速し続けると、一定の速度をこえた時点でアシストが中断されます。
(→ P. 452)

IO45AD057a

並列駐車のしかた（車庫入れアシストモード）

■ 機能概要

車庫入れアシストモードは次の 2 つの機能があります。

▶ 前進誘導機能（→ P. 424）

目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、駐車スペースが検出できれば、前進誘導機能を使用することができます。
また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

① 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、IPA スイッチを押して、車庫入れ駐車を選択

検出した駐車スペース、または道幅（駐車スペース向い側までの距離）が狭い場合は案内されません。

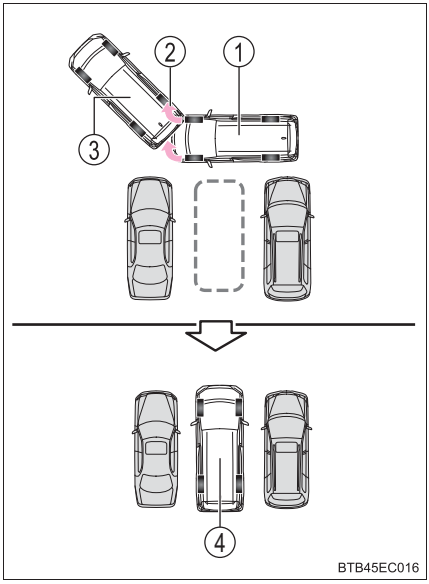
② ハンドルの自動操作が作動します。

③ 後退開始位置に着いたことを音により案内します。

④ 駐車完了

アシストモードが終了します。

駐車スペースの状況により、③のあと後退を開始してから駐車完了までのあいだに、前進または後退方向への切り返しが必要な場合は、前進開始位置・後退開始位置の案内、およびハンドルの自動操作をくり返します。



▶ バック駐車機能（→ P. 428）

目標駐車位置の前方で停車し、シフトレバーを R にすると、バック駐車機能を使用することができます。（リバース連動機能 ON 時）
また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

駐車スペースに区画線があるときに使用できます。

① 目標駐車位置の前方で停止し、シフトレバーを R にする

リバース連動機能によりインテリジェントパーキングアシスト2が作動します。

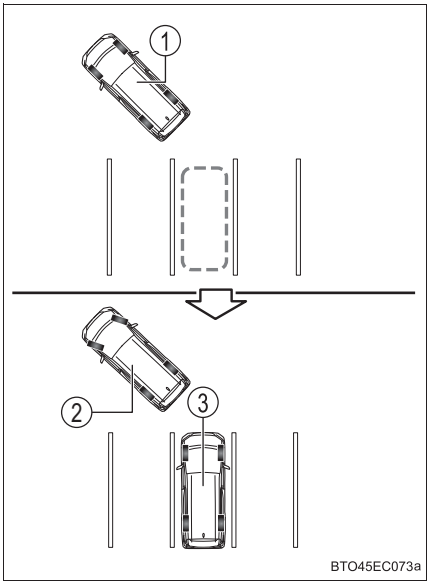
② マルチメディア画面をタッチして、お好みの駐車スペースを選択する

目標駐車位置を確定するとアシストが開始されます。

③ 駐車完了

アシストモードが終了します。

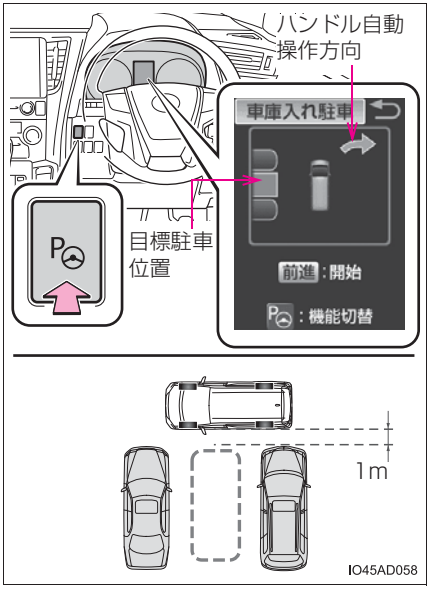
駐車スペースの状況により、② でアシストを開始してから駐車完了までのあいだに、前進または後退方向への切り返しが必要な場合は、前進開始位置・後退開始位置の案内、およびハンドルの自動操作をくり返します。



■ 前進誘導機能を使用して駐車する

1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で車両を停車し、IPA スイッチを押し、マルチインフォメーションディスプレイの表示が「車庫入れ駐車」に切りかわったことを確認する

前進誘導機能に切りかわると**「前進誘導モードです 前進するとアシストを開始します」**と音声が出力されます。

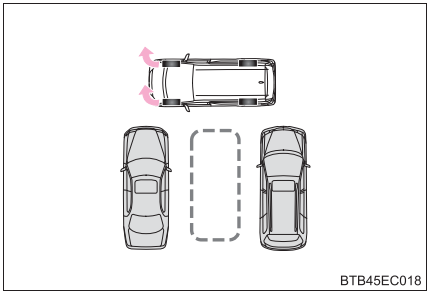


- 表示内のハンドル自動操作方向の矢印の向き、および目標駐車位置を確認してください。
- IPA スイッチを、押すごとにモードが切りかわります。（→ P. 418）
- シフトレバーが D※ 以外、または車速が検知されたときは、IPA スイッチを押しても車庫入れ駐車の表示には切りかわりません。

※ D は M ポジションを含みます。

- 方向指示レバー（→ P. 259）を操作して車両の左右いずれか駐車したい方向を選択できます。
- 駐車スペースが狭い場合や、アシストに十分なエリアがない場合はシステムを使用できません。マルチインフォメーションディスプレイの表示内容を参考に別の駐車スペースで使用してください。

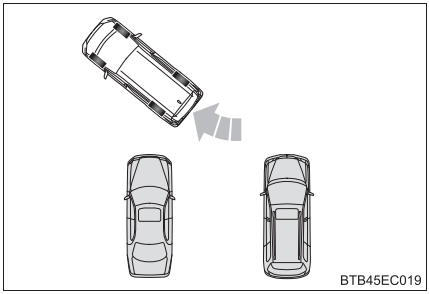
2 通常の運転操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、前方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり前進すると**「“ピー”」**という音が鳴り、メーター内のインテリジェントパーキングアシスト 2 表示灯が点灯し、アシストが開始されます。



- ハンドルの自動操作が開始されると、表示内にハンドル AUTO 操作表示(→ P. 419)とアシスト段階表示(→ P. 419)が表示されます。
- アシストを中止するには、IPA スイッチを押します。

  アシストが中止されると**「“ピピッ” アシストを中止します」**と音声が出力されます。
- 車速が速すぎると、**「“ピピッ” アシストを中止します アシストを再開する場合は IPA スイッチを操作します」**と音声が出力され、アシストが中断されます。
- 制限車速が超過しそうになったときは、**「“ポーン” “ポーン”」**という音が鳴り、制限速度をこえてしまう可能性があることをお知らせするアドバイスが表示されます。(→ P. 421)
- アシスト開始時にスペースが狭かった場合、**「“ピピッ” アシストを中止します」**と音声が出力され、アシストが中断されます。

3 **「“ポーン”」**という音が鳴り、表示内のストップ表示(→P. 419)が点灯したらブレーキペダルを踏んで停車する



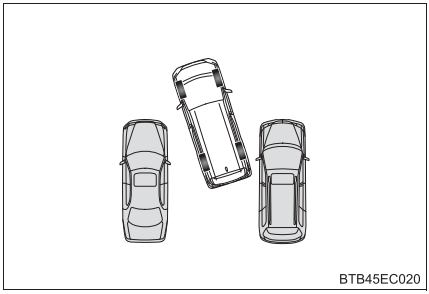
4 **「シフトをリバースにしてください」**と音声が出力されたらシフトレバーを R にする

5 **「ゆっくり後退してください」**と音声が出力されたら通常の後退操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、後方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり後退する

・目標駐車位置に一度で入りきらず、切り返しが必要な場合：手順 6 へ

・切り返しが不要な場合：手順 12 へ（→ P. 427）

6 **「“ ポーン ”」**という音が鳴り、表示内のストップ表示（→P. 419）が点灯したらブレーキペダルを踏んで停車する


BTB45EC020

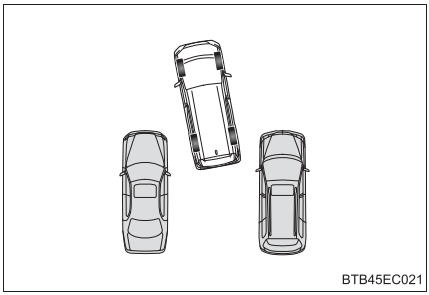
7 **「シフトをドライブにしてください」**と音声が出力されたらシフトレバーを D※ にする

※ D は M ポジションを含みます。

現在停車している位置でアシストを終了したい場合は、シフトレバーを P にしてください。

8 **「ゆっくり前進してください」**と音声が出力されたら通常の運転操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、前方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり前進する

9 **「“ ポーン ”」**という音が鳴り、表示内のストップ表示（→P. 419）が点灯したらブレーキペダルを踏んで停車する


BTB45EC021

10 **「シフトをリバースにしてください」**と音声が出力されたら、シフトレバーを R にする

11 **「ゆっくり後退してください」**と音声が出力されたら通常の後退操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、後方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり後退する

駐車スペースの状況により、手順 6 から 11 をくり返す場合があります。

12 車両がほぼ目標駐車位置に入り、**「“ピー”」**という音が鳴り、表示内のストップ表示（→ P. 419）が点灯したらブレーキペダルを踏んで停車する

車庫入れアシストモードが終了します。

- ブザーは安全のため、目標駐車位置より若干手前で出力されます。また、その時点でシステムの作動も終了するため、ハンドルをしっかり持ち、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながらゆっくり後退し、希望の位置に駐車します。
- 必ず目視やミラーで車両の前後を確認しながら後退してください。

■ バック駐車機能を使用して駐車する

リバース連動機能（→ P. 430）が ON のとき、シフトレバーを R にするとバック駐車機能が作動し、複数の駐車区画から目標を選択・変更することができます。

車庫入れアシストモードで使用できます。

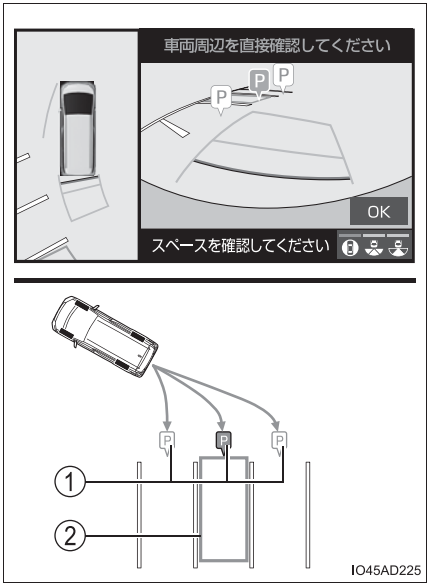
1 シフトレバーを R にする

「バック駐車モードです」と音声が出力され、駐車枠の候補が表示されます。

① 認識した駐車区画

現在選択されている駐車区画が青色で表示されます。

② 目標駐車枠

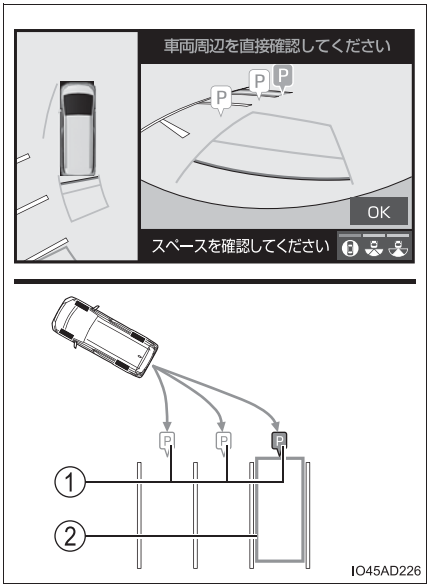


2 マルチメディア画面にタッチして駐車区画を選択して、目標駐車位置を変更する

① 認識した駐車区画

現在選択されている駐車区画が青色で表示されます。

② 目標駐車枠



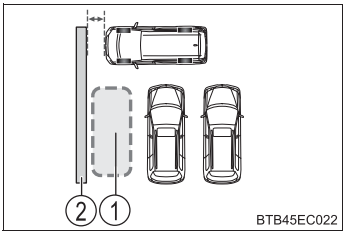
3 マルチメディア画面の OK（→ P. 419）にタッチして目標を確定すると、**「後退するとアシストを開始します」**と音声が出力されます。その後、ブレーキペダルから徐々に足を離しゆっくり後退すると、**「“ピー”」**という音が鳴りアシストが開始されます。

マルチメディア画面の OK にタッチしたあとの手順は前進誘導機能を使用して駐車する手順の 5 以降と同様です。（→ P. 426）

知識

■車庫入れアシストモードの作動条件

- 機能を正しく作動させるために、ゆっくり（すぐに停車できる車速で）走行してください。
- 車両が移動しているときは、使用することができません。
- カメラでの白線認識により駐車場の区画線を検出し、駐車区画を特定しております。正常に検出できなかった場合（→ P. 454）は作動できません。
  ただし、前進誘導機能を使用するとき、目標駐車位置の隣に駐車車両や壁などが検知された場合は作動します。
- 前進誘導機能を使用するとき、駐車スペースの状況により、車両前方に駐車に必要なスペースがない場合は、目標駐車位置に到達できないことがあります。

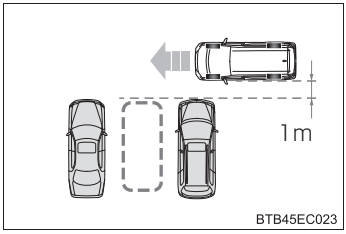


① 目標駐車位置

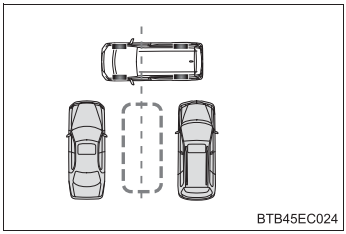
② 壁

■前進誘導機能を使用するときのコツ

1 駐車車両がある場合、駐車車両と約 1m 間隔をあけて目標駐車位置に近づいてください。
駐車車両との間隔があきすぎていると、フロントサイドセンサー・リヤサイドセンサーが駐車車両を検出できない場合があります。



2 目標駐車位置の中央が真横に見える位置で停車してください。
また、IPA スイッチを押すときは、車両が完全に停車した状態で押してください。



■バック駐車機能について

●検出した駐車区画が 1 つの場合は、目標駐車位置の選択・変更はできません。
●検出した駐車区画が複数の場合は、最も適した駐車区画を目標駐車位置としてシステムが選択します。（最初にシフトレバーを R にしたときに選択されます）

■リバース連動機能を ON ／ OFF するには

マルチインフォメーションディスプレイの 画面からリバース連動機能の ON ／ OFF を設定できます。（→ P. 92）

警告

低い障害物（縁石やブロックなど）は検知できないことがあるため、周辺の安全を直接確認し、接触のおそれがある場合はブレーキペダルを踏んで停車してください。

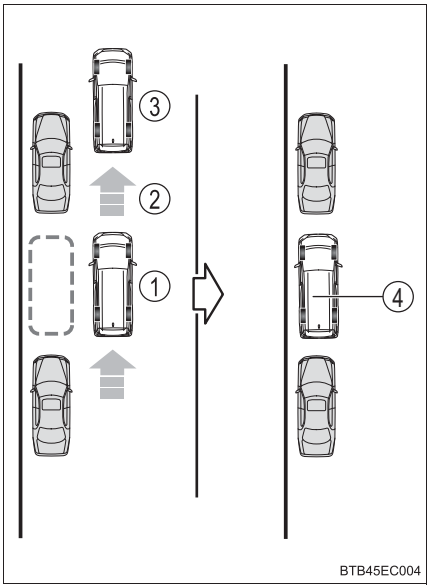
注意

- 青の枠が駐車車両にかかっているなど、目標駐車位置を誤認識している場合は、駐車位置を変更してください。
- 青の枠の中や自車と目標駐車位置との間に障害物がないことを必ず確認してください。青の枠の中や自車と目標駐車位置の間に障害物がある場合は、接触するため車庫入れアシストモードは使用しないでください。
- 路面に段差や勾配があると正しい位置に目標駐車位置を設定できないため、駐車位置がずれたり、車両が傾くことがあります。このような場所では、車庫入れアシストモードは使用しないでください。
- 狭いスペースに駐車するときは隣接車両に接近します。接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車してください。
- 駐車車両など周辺の環境によって駐車位置がずれたり、車両が傾くことがあります。必要に応じて手動で整列してください。

縦列駐車のしかた（縦列駐車アシストモード）

■ 機能概要

駐車スペースが検出できれば、アシスト開始位置までの前進を案内し、アシストを開始する縦列駐車アシストモードを使用することができます。
また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。



① 道路または路肩と平行にまっすぐ前進して目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で車両を停車し、IPA スイッチを 2 回押して、縦列駐車アシストモードを選択

② 道路または路肩と平行にまっすぐ前進し駐車スペースを検出

③ アシスト可能な後退開始位置に着いたことを音と表示により案内し、案内に従ってシフトレバーを切りかえ、移動を開始するとハンドルの自動操作が開始されます。

検出した駐車スペース、または道幅（駐車スペース向い側までの距離）が狭い場合は案内されません。

④ 駐車完了

アシストモードが終了します。

駐車スペースの状況により、③のあと後退を開始してから駐車完了までのあいだに、前進または後退方向への切り返しが必要な場合は、前進開始位置・後退開始位置の案内、およびハンドルの自動操作をくり返します。

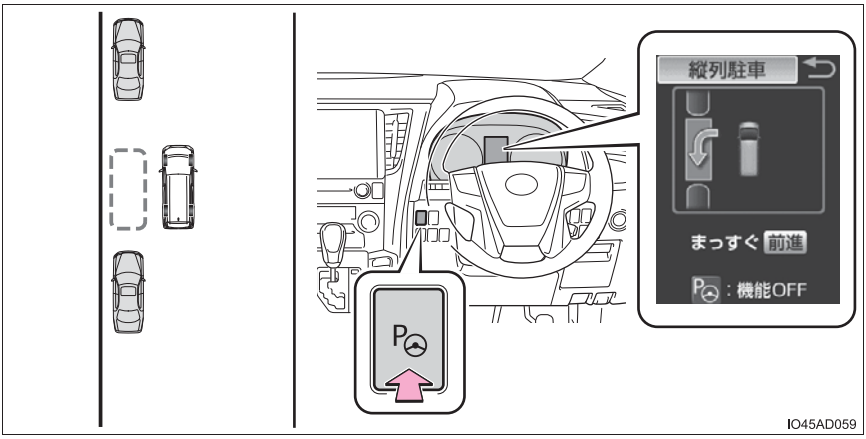
■ **縦列駐車機能を使用して駐車する**

1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、IPA スイッチを 2 回押し、マルチインフォメーションディスプレイの表示が「縦列駐車」に切りかわったことを確認する

縦列駐車機能に切りかわると、**「縦列駐車モードです ゆっくり前進してください」**と音声が出力されます。

● IPA スイッチを押すごとにモードが切りかわります。（→ P. 418）

● 車速が約 30km/h 以上のときは、IPA スイッチを押しても「縦列駐車」の表示には切りかわりません。

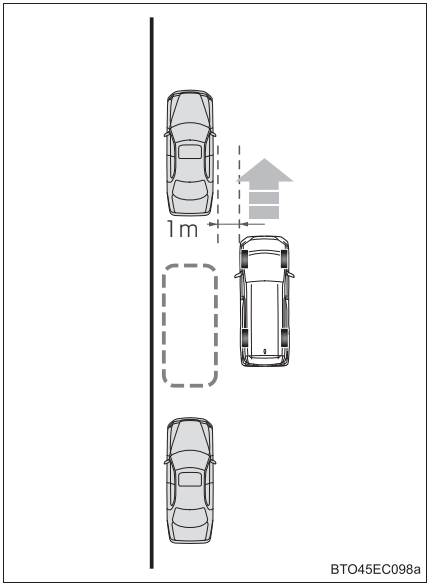


2 道路（または路肩）と平行で、駐車車両との間隔が約1mの位置に車両を移動させ、まっすぐ前進する

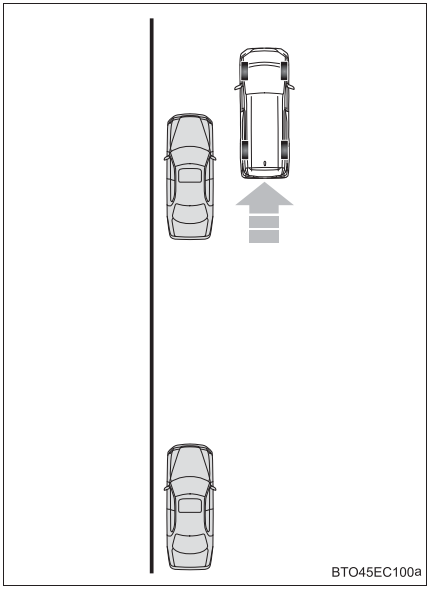
- ゆっくり前進してください。
- 駐車スペースの探索が開始されます。

  スペース探索中に、方向指示レバー（→ P. 259）で車両左右の駐車スペースを選択できます。

- 機能を中止する場合は、IPA スイッチを 1 回押して、機能を OFF にしてください。
- 駐車スペースを検出すると画面が切りかわります。

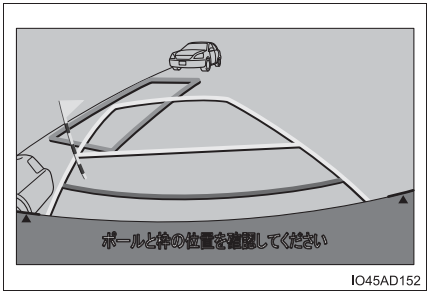


3 「“ ポーン ”」という音が鳴り、表示内のストップ表示(→P. 419)が点灯したらブレーキペダルを踏んで停車する



4 **「後退するとアシストを開始します」**と音声が出力されたらシフトレバーを R にする

5 青の枠が駐車したい場所に合っていることを確認する



6 通常の後退操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、後方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり後退すると**「“ピー”」**という音が鳴り、メーター内のインテリジェントパーキングアシスト 2 表示灯が点灯し、アシストが開始されます。

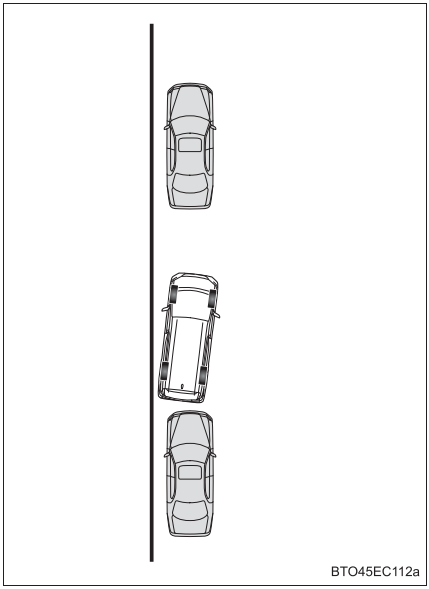
- ハンドルの自動操作が開始されると、表示内にハンドル AUTO 操作表示(→ P. 419)とアシスト段階表示(→ P. 419)が表示されます。
- アシストを中止するには IPA スイッチを押します。

  アシストが中止されると**「“ピピッ” アシストを中止します」**と音声が出力されます。

7 通常の後退操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、後方および周辺の安全を直接確認し、駐車スペース内に障害物がないことを確認してから、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながらゆっくり後退する

- 後退車速が速すぎると、**「“ピピッ” アシストを中止します アシストを再開する場合は IPA スイッチを操作します」**と音声が出力され、アシストが中断されます。
- 画面に表示されている青の枠は自車の大きさとほぼ同じサイズで表示されます。（目標駐車位置設定時に表示される青の枠は、一般的な路面の駐車枠の大きさで表示されます）
  - ・目標駐車位置に一度で入りきらず、切り返しが必要な場合：手順 8 へ
  - ・切り返しが不要な場合：手順 14 へ

8 **「“ポーン”」**という音が鳴り、表示内のストップ表示（→P. 419）が点灯したらブレーキペダルを踏んで停車する



9 **「シフトをドライブにしてください」**と音声が出力されたらシフトレバーを D※ にする

※ D は M ポジションを含みます。

現在停車している位置でアシストを終了したい場合は、シフトレバーを P にしてください。

10 **「ゆっくり前進してください」**と音声が出力されたら通常の運転操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、前方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり前進する

11 **「“ポーン”」**という音が鳴り、表示内のストップ表示（→ P. 419）が点灯したらブレーキペダルを踏んで停車する

12 **「シフトをリバースにしてください」**と音声が出力されたらシフトレバーを R にする

13 **「ゆっくり後退してください」**と音声が出力されたら通常の後退操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、後方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり後退する

駐車スペースの状況により、手順 8 から 13 をくり返す場合があります。

14 車両がほぼ目標駐車位置に入り、**「“ピー”」**という音が鳴り、表示内のストップ表示（→ P. 419）が点灯したらブレーキペダルを踏んで停車する

縦列駐車アシストモードが終了します。

- 停車したあと、任意で前進または後退し、希望の位置に車両を移動してください。
- 必ず目視やミラーで車両の前後を確認しながら後退してください。

知識

■縦列駐車アシストモードの作動条件

- 縦列駐車アシストモードを正しく動作させるために、道路（または路肩）と平行に駐車車両との間隔が約 1m の位置をゆっくり（すぐに停車できる車速で）走行してください。
- 車速が約 30km/h 以上のときは、使用することができません。
- フロントサイドセンサー・リヤサイドセンサーにより駐車車両を検出し、駐車位置を特定しているため、検出できない場合（→ P. 460）は、案内されません。
- 駐車車両がない場合は、駐車車両を特定できないため縦列駐車アシストモードは作動できません。
- 駐車スペースの周囲の環境によってはスペースを検出できず、縦列駐車アシストモードが作動できないことがあります。
- 車速が約 30km/h 以上になる、または IPA スイッチにより機能を OFF にするまで案内が継続されます。

■IPA スイッチを押すタイミングについて

縦列駐車アシストモードを使用して駐車するときの手順で、次のときもアシストモードが作動することがありますが、その際はマルチインフォメーションディスプレイの表示に従って駐車操作を行ってください。

●手順 1 で、目標駐車位置の手前を通りこして IPA スイッチを押した
手順 1 で、停車せずに車両移動中に IPA スイッチを押す場合、1 回押すだけで「縦列駐車」を選択でき、そのまま手順 2 に移ることができます。

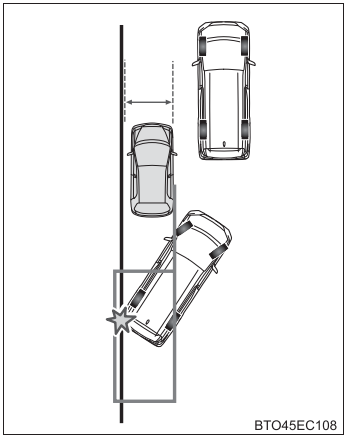
●IPA スイッチを押していない状態のまま、手順 3 の位置まで車両を移動し、シフトレバーを R にしてから IPA スイッチを押した

警告

低い障害物（縁石やブロックなど）は検知できないことがあるため、周辺の安全を直接確認し、接触のおそれがある場合はブレーキペダルを踏んで停車してください。

注意

- 青の枠の中や自車と目標駐車位置との間に障害物がないことを必ず確認してください。
  青の枠の中や自車と目標駐車位置の間に障害物がある場合は、接触するため縦列駐車アシストモードは使用しないでください。
- 路面に段差や勾配があると正しい位置に目標駐車位置を設定できないため、駐車位置がずれたり、車両が傾くことがあります。このような場所では、縦列駐車アシストモードは使用しないでください。
- 駐車車両の車幅が狭いときや駐車車両が路肩側に極端に近いときは、駐車をアシストする位置も路肩に接近します。接触、脱輪しそうなときはブレーキペダルを踏んで停車し、IPA スイッチを押してシステムを解除してください。



- 駐車スペースの奥側に壁などがある場合は、通路に少しはみ出した位置に目標駐車位置が設定されることがあります。
- 駐車車両など周辺の環境によって駐車位置がずれたり車両が傾くことがあります。必要に応じて手動で整列してください。
- 駐車スペースに障害物、段差や縁石があるときでも、隣接車両に合わせた位置にアシストします。
  接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、IPA スイッチでシステムを中止してください。

縦列出庫のしかた（縦列出庫アシストモード）

■ 機能概要

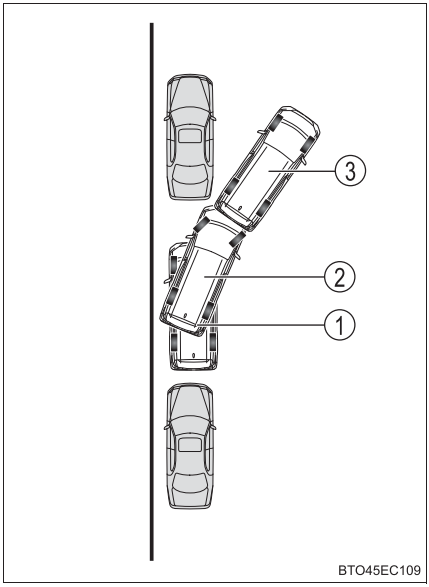
縦列駐車から出庫する際、出庫したい方向を選択することで発進可能な位置までのハンドル操作をアシストします。

① シフトレバーがPの状態でIPAスイッチを押して、縦列出庫を選択し、方向指示レバーで希望の出庫方向を選択する

② 案内に従ってシフトレバーを切りかえると、ハンドルの自動操作が作動します。

③ 発進可能な位置に到達したことを音と表示で案内します。

駐車スペースの状況により、②でハンドルの自動操作が開始してから発進可能な位置に到達するまでのあいだに、前進または後退方向への切り返しが必要な場合は、前進開始位置・後退開始位置の案内、およびハンドルの自動操作をくり返します。



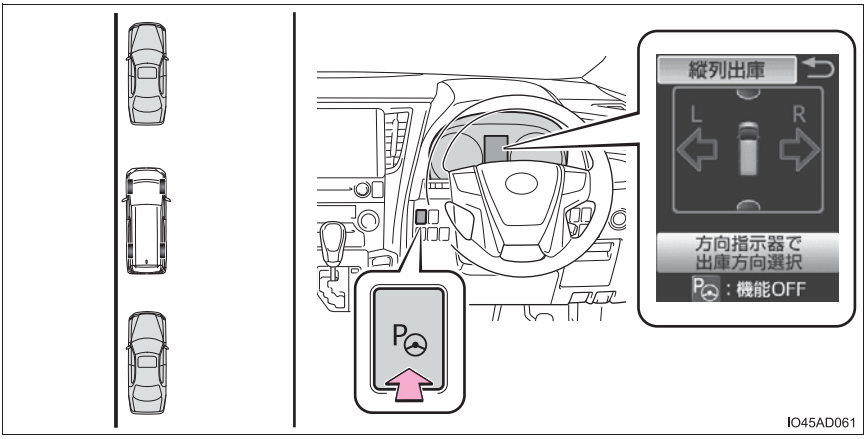
■ 縦列出庫機能を使用して出庫する

⚠ 注意

縦列駐車から出庫する以外の目的では、縦列出庫機能を使用しないでください。万が一、誤ってアシストを開始してしまった場合は、ブレーキペダルを踏んで停車し、IPA スイッチを操作してアシストを中止してください。

1 シフトレバーが P の状態で IPA スイッチを押し、マルチインフォメーションディスプレイの表示が「縦列出庫」の画面に切りかわったことを確認する

縦列出庫機能に切りかわると**「縦列出庫モードです 方向指示レバーで方向を選択してください」**と音声が出力されます。



2 方向指示レバー（→ P. 259）を操作して左右いずれか出庫したい方向を選択する

3 表示内のアドバイス表示（→ P. 419）に従って、シフトレバーを R（または D※）にすると、**「“ピー”」**という音が鳴りアシストが開始されます。

手順 4 以降は、方向指示レバーで出庫方向を選択後、アドバイス表示に「シフト→［R］」が表示されたときの場合です。

※ D は M ポジションを含みます。

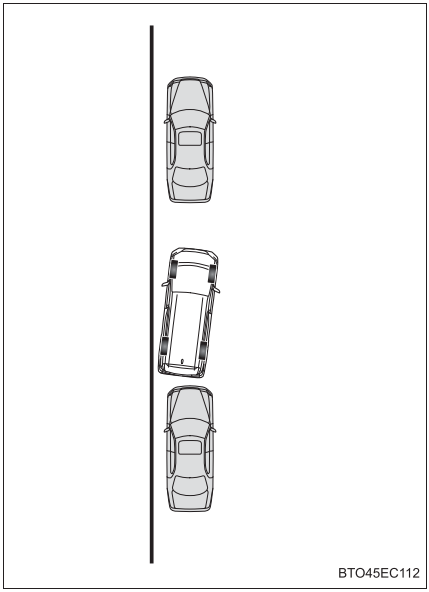
- ハンドルの自動操作が開始されると、表示内にハンドル AUTO 操作表示（→ P. 419）とアシスト段階表示（→ P. 419）が表示されます。
- アシストを中止するには IPA スイッチを押します。

アシストが中止されると**「“ピピッ” アシストを中止します」**と音声が出力されます。

4 通常の後退操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、後方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり後退してください。

- 後退車速が速すぎると、**「“ピピッ” アシストを中止します アシストを再開する場合は IPA スイッチを操作します」**と音声が出力され、アシストが中断されます。
- 制限車速が超過しそうになったときは、**「“ポーン” “ポーン”」**という音が鳴り、制限速度をこえてしまう可能性があることをお知らせするアドバイスが表示されます。（→ P. 421）

5 **「“ ポーン ”」**という音が鳴り、表示内のストップ表示（→P. 419）が点灯したらブレーキペダルを踏んで停車する



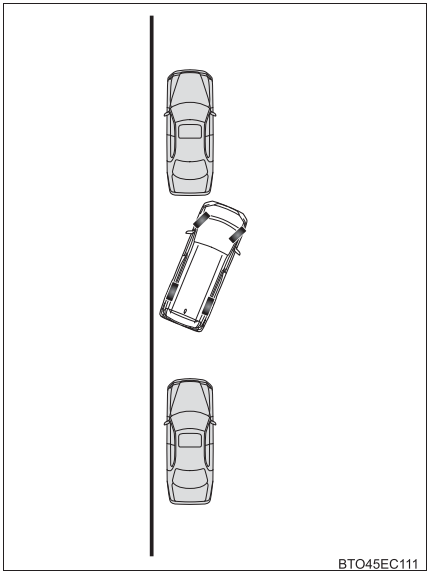
6 **「シフトをドライブにしてください」**と音声が出力されたらシフトレバーを D※ にする

※ D は M ポジションを含みます。

7 **「ゆっくり前進してください」**と音声が出力されたら通常の運転操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、前方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり前進する

・一度で出庫できず、切り返しが必要な場合：手順 8 へ （→ P. 443）
・切り返しが不要な場合：手順 14 へ （→ P. 445）

8 「“ ポーン ”」という音が鳴り、表示内のストップ表示（→P. 419）が点灯したらブレーキペダルを踏んで停車する

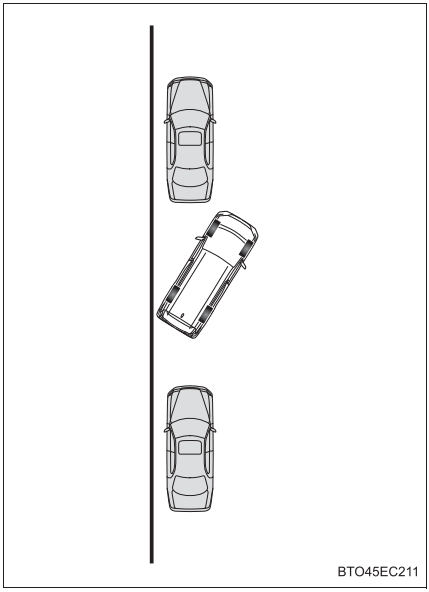


9 **「シフトをリバースにしてください」**と音声が出力されたらシフトレバーをＲにする

10 **「ゆっくり後退してください」**と音声が出力されたら通常の後退操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、後方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり後退する

駐車スペースの状況により、手順 5 から 10 をくり返す場合があります。

11 「“ ポーン ”」という音が鳴り、表示内のストップ表示（→P. 419）が点灯したらブレーキペダルを踏んで停車する

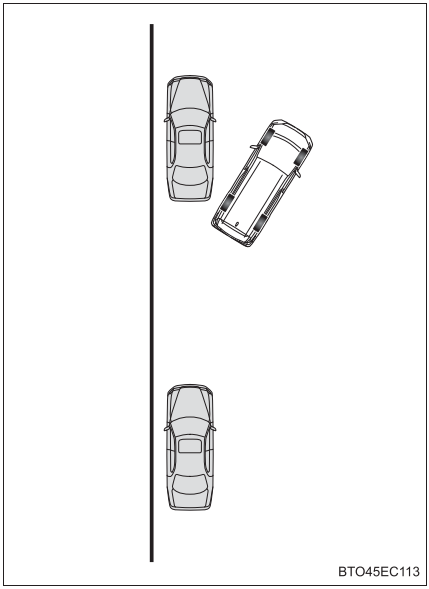


12 **「シフトをドライブにしてください」**と音声が出力されたらシフトレバーを D※ にする

※ D は M ポジションを含みます。

13 **「ゆっくり前進してください」**と音声が出力されたら通常の運転操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、前方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり前進する

14 車両がほぼ出庫可能位置に到達し、**「“ピー” アシストを終了します」**と音声が出力され、アシストが終了します。
そのままハンドルを持ち、前進してください。



知識

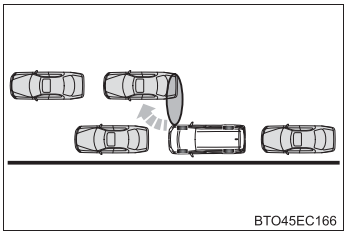
■縦列出庫機能について

アシスト中に、運転者が出庫可能と判断しハンドルを操作すると、その位置でアシストを中止します。

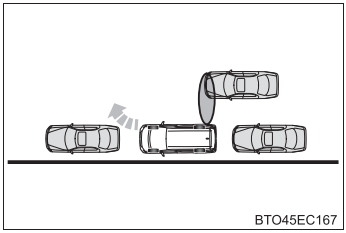
■縦列出庫機能が作動しない状況

次のような状況では縦列出庫機能は作動しません。

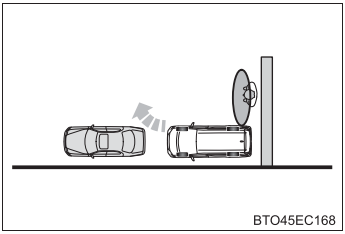
●出庫方向に信号待ちなどの車両がある場合



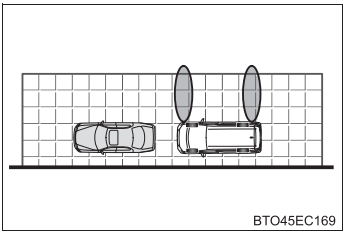
●出庫方向の後方に車両が待っている場合



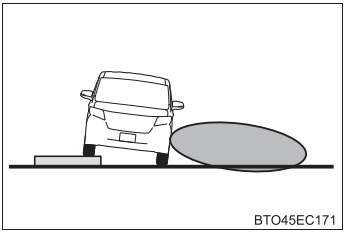
●フロントまたは、リヤのサイドセンサー付近に壁、柱などの障害物がある場合や、人がいる場合


BTO45EC168

●路面が石畳や荒い砂利・グレーチングになっている場合


BTO45EC169

●縁石に乗り上げて駐車し、サイドセンサーが路面を感知している場合


BTO45EC171

●車両の前方に駐車車両がない場合

●車両の前端と駐車車両との間隔があきすぎている場合

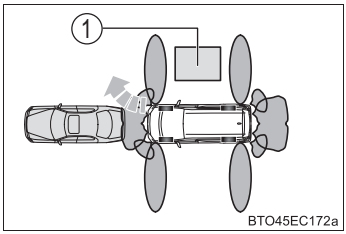
警告

■縦列出庫機能について

次のとき、サイドセンサーで障害物を正確に感知できないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

●障害物がセンサーで感知できない位置にある場合

① 障害物

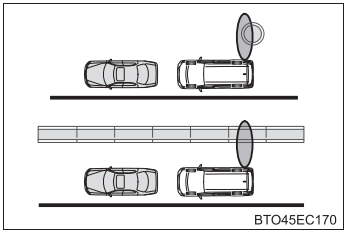


●次のような障害物は正確に感知しないことがあります。

・針金・フェンス・ロープなどの細いものの場合
・綿・雪などの音波を吸収しやすいものの場合
・鋭角的な形のものの場合
・背の低いものの場合
・背が高く上部が張り出しているものの場合
・人・動物などの動いているものの場合

特に人は衣類の種類によっても感知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

●出庫方向の側面に穴や溝がある場合



マルチインフォメーションディスプレイのメッセージについて

インテリジェントパーキングアシスト 2 が作動できないときや、作動が中止または、中断されたときなどにマルチインフォメーションディスプレイに次のメッセージが表示されます。ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。

■ 作動できないとき

メッセージ	状況・対処方法
	システムに異常があるおそれがある → エンジンスイッチをいったん OFF にしてからエンジンを始動してください。 再度表示される場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。
	システムに故障のおそれがある → エンジンスイッチをいったん OFF にしてからエンジンを始動してください。 再度表示される場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。
	パワーステアリング装置の一時的な過熱が起きた → エンジンスイッチをいったん OFF にし、しばらくしてからエンジンを始動して使用してください。
	エンジンが作動していない → エンジンを始動してください。
	センサー部に氷・雪・泥などが付着している → 氷・雪・泥などを取り除いてください。
	センサー部が凍結している → 凍結部が解ければ正常に復帰します。
	バッテリーを脱着した → 約 35km/h 以上の車速で 5 秒以上直進走行してください。
	ドアミラーが格納した状態で IPA スイッチを操作した → ドアミラーをもとの位置にもどしてから使用してください。

メッセージ	状況・対処方法
	バックドアが開いた状態で IPA スイッチを操作した → バックドアを閉じてから使用してください。
	車速が 30km/h を超過した状態で IPA スイッチを操作した → 車速約 30km/h 以下にして使用してください。
	路面勾配が 30%以上の場所で IPA スイッチを操作した → 急勾配での使用は危険なため、路面勾配が30%未満の場所に移動して使用してください。
	駐車スペースがない場所で IPA スイッチを操作した、または道幅の狭い駐車スペースでIPA スイッチを操作した → 駐車スペースがないためアシストできません。横幅が約 2.6m 以上の駐車スペース、または認識できる駐車枠がある場所に移動して使用してください。

メッセージ	状況・対処方法
	道幅の狭い駐車スペースで IPA スイッチを操作した → 道幅が狭いためアシストできません。道幅が約4.5m以上の駐車スペースの近くで使用してください。
	自車前方に障害物が存在し、後退開始位置まで前進できないような場所でIPAスイッチを操作した → 前方に障害物があるためアシストできません。駐車スペースの前で停車した際に、前方に障害物がないような駐車スペースで使用してください。
	自車が駐車するのには狭すぎる駐車スペースでIPA スイッチを操作した → 駐車スペースがないためアシストできません。横幅が約 2.6m 以上の駐車スペース、または認識できる駐車枠がある場所に移動して使用してください。
	縦列出庫で自車前後の間隔が狭いときにIPAスイッチを操作した → 自車前後スペースが狭く、アシストによる出庫ができません。周囲の安全を確認した上で手動で出庫してください。
	縦列出庫で、前方近くに障害物が存在しない、または自車側方に障害物が存在し、出庫ができない状況で IPA スイッチを操作した → 容易に出庫できる、または側方に障害物があるため、アシストによる出庫ができません。周囲の安全を確認した上で手動で出庫してください。

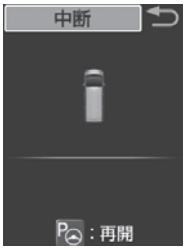
■ 作動が中止されたとき

メッセージ	状況・対処方法
	アシスト中に運転者がシフトレバーを P にした、または IPA スイッチを操作した
	縦列アシストモードの駐車スペース探索中に車速が 30km/h をこえた
	駐車スペースが狭い場所でアシストを開始した → 横幅が約2.6m以上の駐車スペースがある場所に移動して使用してください。
	縦列出庫アシストモードにおいて、方向指示レバーで出庫方向を選択せずにシフトレバーを操作した → 案内どおりに操作してください。

メッセージ	状況・対処方法
	アシスト開始時に、案内と逆方向に進行した → 案内どおりに操作、進行してください。

■ 作動が中断されたとき

メッセージ	状況・対処方法	
	アシスト中に運転者がハンドルに力を加えた	→ 停車してハンドルに力を加えないように手を添えた状態でIPAスイッチを押すとアシストを再開できます。
	アシスト中に車速が7km/hをこえた	

メッセージ	状況・対処方法	
	アシスト中断中、ハンドルに力を加えた状態でIPA スイッチを押した	→ ハンドルに力を加えないように手を添えた状態で停車するとアシストが再開します。
	アシスト中断中、車両が移動している状態でIPA スイッチを押した	
	アシスト中断中（再開可能）	→ 停車してハンドルに力を加えないように手を添えた状態でIPAスイッチを押すとアシストを再開できます。
	アシスト中に、前方障害物に接近しすぎた	→ シフトレバーをＲにしてから、IPA スイッチを押すと、アシストを再開できます。
	アシスト中に、後方障害物に接近しすぎた	→ シフトレバーをＤにしてから、IPA スイッチを押すと、アシストを再開できます。

■ インテリジェントパーキングアシスト２作動中にマルチメディア画面が黒くなったときは

無線の電波による影響を受けているか、システムになんらかの異常が発生しているおそれがあります。
無線のアンテナをカメラの近くに設置している場合は、できるだけ離して設置してください。無線のアンテナがカメラの近くになく、エンジンスイッチを一度 OFF にしてから、再度エンジンを始動しても画面が正常に表示されない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

使用上の注意点について

以下の内容は、別冊「ナビゲーションシステム取扱書／周辺監視／パノラミックビューモニター」を参照してください。

- 画面の映る範囲について
- カメラについて
- 画面と実際の路面との誤差について
- 画面と実際の立体物との誤差について

■ 白線認識が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、路面の駐車枠を検出することができない場合があります。

- 白線のない駐車場（駐車枠がロープ、ブロックなどでつくられている場合）
- 白線がかすれや汚れなどによってはっきり見えないとき
- 路面が白っぽく白線とのコントラスト差が小さいとき（コンクリート路面に黄色線など）
- 路面の駐車枠線が黄色など白以外の色のとき
- 夜間や地下、立体駐車場など周囲が暗いとき
- 降雨時や雨上がりなど、路面が濡れて光っていたり、水たまりがあるとき
- 朝日や夕日など、太陽の光がカメラに入るとき
- 積雪や融雪剤があるとき
- 路面補修痕、路面表示などやポールなどの障害物があるとき
- 路面の色や明るさが一様でないとき
- カメラにお湯や水をかけたときなど、レンズが曇っているとき
- 自車の影や木陰などの影響を受けてしまった場合

● カメラのレンズが汚れたり、水滴が付着しているとき

次のような状況では、目標駐車位置を誤認識する場合があります。

● 路面補修痕、路面表示などやポールなどの障害物があるとき

● 降雨時や雨上がりなど、路面が濡れて光っていたり、水たまりがあるとき

● 路面の色や明るさが一様でないとき

● 勾配がついている駐車場

● 駐車車両の影響を受けてしまった場合（駐車車両の影、駐車車両のグリルやサイドステップなど）

● 白線がかすれや汚れなどによってはっきり見えないとき

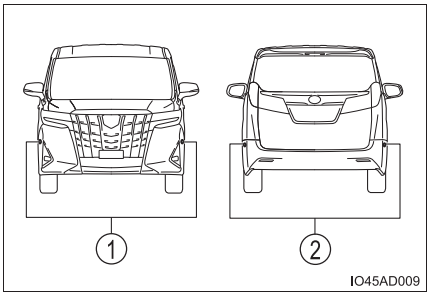
● 自車の影や木陰などの影響を受けてしまった場合

■ **センサーについて**

センサーにより駐車車両を検出して、駐車位置を特定しやすくします。

① フロントサイドセンサー

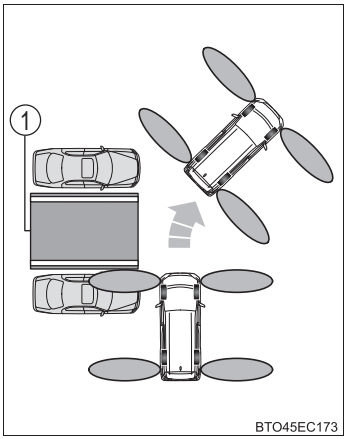
② リヤサイドセンサー



知識

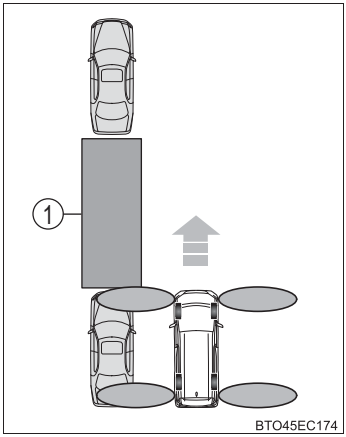
●車庫入れアシストモード時のセンサー感知範囲について

① 目標駐車位置



●縦列駐車アシストモード時のセンサー感知範囲について

① 目標駐車位置

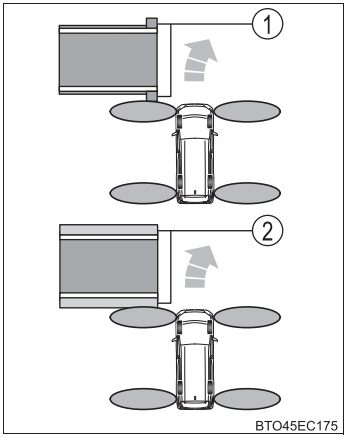


●駐車車両が目標駐車位置の奥にある場合は、距離が遠くなるため検出できないことがあります。また、駐車車両の形状や条件によっては検出距離が短くなったり、検出できないことがあります。

●柱や壁など駐車車両以外は検出できないことがあります。また、検出できても目標駐車位置がずれることがあります。

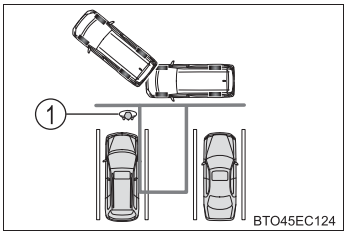
① 柱

② 壁



●歩行者などを検出して目標駐車位置がずれることがあります。

① 歩行者



警告

- インテリジェントパーキングアシスト2を過信しないでください。一般の車と同様、必ず後方や周辺の安全を直接確認しながら慎重に前進または、後退してください。
- マルチメディア画面だけを見ながら後退することは絶対にしないでください。画面に映っている映像と実際の状況は異なることがあり、画面だけを見て後退すると車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。後退するときは、必ず目視やミラーなどで後方や周辺の安全を直接確認してください。
- 前進または、後退するときは、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり前進または、後退してください。
- 周辺の車両や障害物、人などに接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、IPA スイッチを押してシステムを中止してください。
- 駐車区画のある平坦な駐車場で使用してください。
- 使用中はハンドルが自動的に回転するため、次の点に注意してください。
  - ・ネクタイ、スカーフ、腕などを巻き込むおそれがあります。上体をハンドルに近づけないでください。また、お子様がハンドルに近づかないよう注意してください。
  - ・爪が長いとハンドルが回転する際にけがをするおそれがあります。
  - ・万一のときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、IPA スイッチを押してシステムを中止してください。
- 駐車するときは、必ず目標駐車位置に車を駐車できるかを確認してから操作を行ってください。
- 次のような状況では、使用しないでください。
  - ・駐車場以外の場所
  - ・砂地、砂利地のような駐車枠のない整備されていない駐車場
  - ・傾斜、段差のある平坦でない駐車場
  - ・凍結したり、すべりやすい路面、または雪道
  - ・真夏の炎天下でアスファルトがとけているようなとき
  - ・目標駐車位置（青の枠の中）や自車と目標駐車位置との間に障害物があるとき
  - ・人や車両などの通行量の多いとき
  - ・駐車不可能な場所（車両が入らない程狭い。崖など）
  - ・カメラのレンズの汚れ、西日、影、雪などで画面が見にくいとき
  - ・タイヤチェーン、応急用タイヤを使用しているとき
  - ・バックドアが完全に閉まっていないとき
- メーカー出荷時装着タイヤ以外のタイヤは使用しないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。また、タイヤを交換すると、画面に表示される線や枠の表示位置に誤差が生じることがあります。タイヤを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

●設定した駐車スペースへアシストするシステムのため、駐車時の路面や自車の状況、駐車スペースまでの距離などにより、駐車スペースを認識できなかったり、最後までアシストできない場合があります。

●次のような状況では、設定した位置にアシストできない場合があります。

・タイヤが極端に摩耗していたり、空気圧が低いとき
・極端に重いものを積んでいるとき
・車両の片側にだけ荷物などを積んで車両が傾いているとき
・駐車場にロードヒーター（路面凍結防止用のヒーター）が設置されているとき
・タイヤを縁石などに強く当てて、ホイールアライメントが正常でないとき

上記の場合以外で設定位置と車両の位置が大きくずれる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

●外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像が薄れることがあります。とくに動いているものの映像が歪む、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。

●インテリジェントパーキングアシスト2が正常に作動しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがありますので、次のことにご注意ください。

・カメラ部を強くたたいたり、物をぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。
・カメラ部は防水構造となっていますので、取りはずし・分解・改造をしないでください。
・カメラレンズを洗うときは、大量の水でカメラの汚れを流した後、水で湿らせた柔らかい布でカメラレンズをふき取ってください。
カメラレンズを強くこするとカメラレンズが傷ついて、鮮明な画像を見ることができなくなるおそれがあります。
・カメラレンズを強くこすったり、硬いブラシや研磨剤などでみがいたりするとレンズが傷付き、映像に悪影響をおよぼすおそれがあります。
・カメラ部に有機溶剤・ボディワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
・寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。
・カメラ部をぶつけたときは、カメラの位置、取り付け角度がずれているおそれがあります。早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。
・洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。高水圧のためカメラの故障の原因となることがあります。

警告

●センサーが正常に作動しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがありますので、次のことにご注意ください。

・センサー部付近を強くたたいたり、物をぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。
・高圧洗浄機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水を当てないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。バンパーをぶつけたときは、センサーの故障などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。
・センサーに氷、雪、泥などが付着したときは、画面に「現在使用できません」と表示されることがあります。センサー部についた異物を取り除いてください。

●次のとき、センサーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

・サイドエリアのスキャン（→P. 386, 387）が完了するまでのあいだは、サイドエリアに障害物があっても障害物を感知できません。
・サイドエリアのスキャン完了後でも、車・人・動物などが車両の横からサイドエリアに進入してきた場合は感知できません。
・センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）。とくに低温時には凍結などにより異常表示が出たり、駐車車両があっても感知しないことがあります。
・センサーを手でふさいだとき
・車両姿勢が大きく傾いたとき
・炎天下や寒冷時
・凸凹道、坂道、砂利道、草むら走行時など
・他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、他車のセンサーなどの超音波を発生するものが近付いたとき
・雨や水しぶきがかかったとき
・市販のフェンダーポール、無線機用アンテナを車に付けたとき
・センサーに駐車車両が近付きすぎたとき
・目標駐車位置の隣に駐車車両があるにもかかわらず、駐車枠が目標駐車位置から大きくずれた位置に表示されるときは、センサーの角度がずれているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。
・センサーが感知する範囲には、アクセサリー用品などを取り付けないでください。

●システムは適切な経路で切り返し位置の案内を出しますが、隣接車両への接近など、ユーザーが不安に感じた場合は、任意のタイミングでシフトを切りかえてください。ただし、切り返し回数が多くなったり、駐車精度が悪化することがあります。

●駐車スペース内に障害物が存在しても、検出できずにアシストすることがあります。

システム初期化について

■ 初期化が必要なとき

次の場合には、必ず初期化作業を行ってください。

（詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書／周辺監視／パノラミックビューモニター」を参照してください。）

- バッテリーの脱着中にハンドル操作を行ったとき
- バッテリーの電圧が低下したとき
- バッテリーを脱着したとき
- シフトレバーをＲにして、システム初期化中画面が表示されたとき（バッテリー能力の低下など）
- ステアリングセンサーを脱着したとき
- ステアリングセンサーの信号に異常が発生した。

⚠ 注意

- 初期化作業を行っても、画面が切りかわらないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 初期化作業を行って、通常の画面にもどったときは、一度アシストモードを使用して、目標駐車位置に以前と同じようにアシストされることを確認してください。平坦路で使用しても、以前より斜めになったり、横方向にずれる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

ABS・TRC・VSC・EPS を協調して制御します。

すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

◆ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

◆ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

◆ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

◆ 緊急ブレーキシグナル

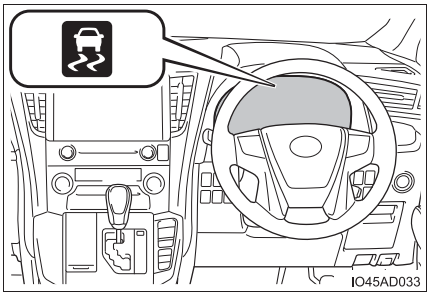
急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

◆ アクティブトルクコントロール 4WD★

通常走行時からコーナリング時、登坂時、発進時、加速時や雪や雨などによりすべりやすい路面などでさまざまな走行状況に応じて FF（前輪駆動）走行状態から 4WD（4 輪駆動）走行状態まで自動的に制御し、安定した操作性、走行安定性に寄与します。

TRC・VSC が作動しているとき

TRC･VSC が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



TRC を停止するには

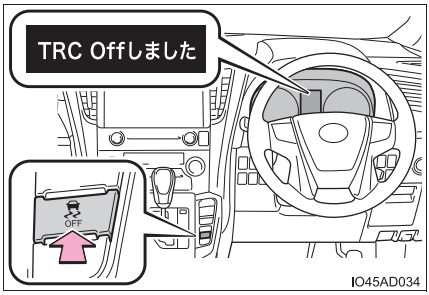
ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。

このようなときに OFF を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには OFF を押す

マルチインフォメーションディスプレイに「TRC Off しました」と表示されます。

もう一度 OFF を押すと、システム作動可能状態にもどります。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■VSC と TRC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に [OFF] を押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「TRC Off しました」と表示されます。※

もう一度 [OFF] を押すと、システム作動可能状態にもどります。

※ PCS（プリクラッシュセーフティ）装着車は、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキも停止します。PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→ P. 303）

■ [OFF] を押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに「TRC Off しました」が表示されたとき

TRC が作動できない状態になっています。トヨタ販売店にご相談ください。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

- シフトレバーの位置が P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）
- 車両停止状態
- アクセルペダルを踏んでいない
- パーキングブレーキがかかっていない

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- シフトレバーを P または N の位置にした
- アクセルペダルを踏んだ
- パーキングブレーキをかけた
- ブレーキペダルから足を離して最大 2 秒経過した

■ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

●エンジン始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる
・ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
・ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、次のときはシステム作動可能状態にもどります。

●エンジンスイッチを OFF にしたとき

●（TRC のみを作動停止にしている場合）車速が高くなったとき
ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドルが重く感じられるようになります。
その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

●非常点滅灯が点滅していないこと

●車速が約 55km/h 以上

●ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだとシステムにより判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●非常点滅灯を点滅させた

●ブレーキペダルを離した

●車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

■マルチインフォメーションディスプレイに 4WD システムに関するメッセージが表示されたとき（4WD 車）

それぞれ、次のように対処してください。

●「4WD システム 高温 2WD 走行に 切りかわりました」
過熱のため 4WD システムが一時解除され、前輪駆動走行に切りかわりました。エンジンをかけたまま安全な場所に停車してください。※
しばらくして表示が消えれば、4WD システムが自動的に復帰します。表示が消えないときは、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

●「4WD システム故障 2WD 走行になります 販売店で点検」
4WD システムに異常が発生しています。すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

※ 停車時は表示が消えるまでエンジンを停止しないでください。

警告

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC や VSC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や、凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能でありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■スリップ表示灯が点滅しているとき

TRC・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

警告

■**TRC や VSC を OFF にするときは**

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■**タイヤまたはホイールを交換するときは**

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→ P. 653）
異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■**タイヤとサスペンションの取り扱い**

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
  - ・エンジンオイル
  - ・冷却水
  - ・ウォッシャー液
- バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン※（前部タイヤ用）を使用してください。

  タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーン※はタイヤサイズに合ったものを使用してください。
  （タイヤについて：→ P. 545）

※ 18 インチホイール装着車を除く

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをPに入れて駐車し、必ず輪止め※1をしてください。
  輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトレバーをPに入れたあとにパーキングブレーキを解除してください。（→P. 260）
- パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーをPに入れた状態でシフトレバーが動かないこと※2を確認してください。
- 寒冷時にブレーキ部品がぬれた状態で車を駐車したままにすると、凍結するおそれがあります。

※1 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

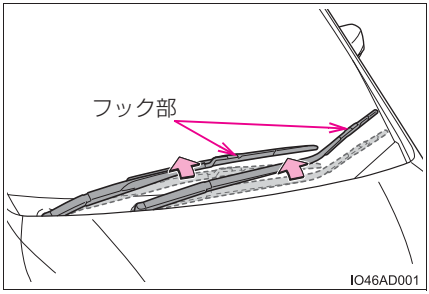
※2 ブレーキペダルを踏まないでPからシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ワイパー停止位置の切りかえ（寒冷地仕様車）

ワイパーの停止位置を冬用停止位置に切りかえることができます。
フロントウインドウガラスに多量の雪が積もった場合、ワイパーが上がらなくなりワイパーモーターを損傷するおそれがありますので、標準停止位置から冬用停止位置に切りかえてください。

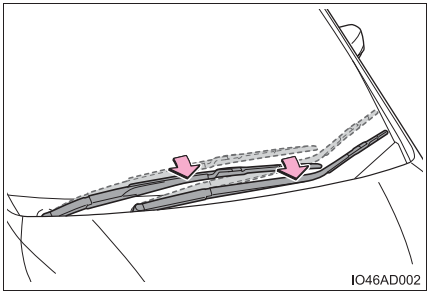
■ 冬用停止位置に切りかえるには

ワイパーアームのフック部をしっかり持ち、ガラス面にそって引き上げます。



■ 標準停止位置にもどすときは

フック上部をガラス面にそって、手で押します。



知識

■タイヤチェーンについて

▶ 18 インチホイール装着車を除く

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

●安全に作業できる場所で行う

●前 2 輪に取り付ける

●タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う

●取り付け後約 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う

▶ 18 インチホイール装着車

タイヤとボデーの隙間が狭いため、タイヤチェーンを装着できません。

■寒冷地用ワイパーブレードについて

●降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。

●高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

■ワイパー停止位置の切りかえ機構（寒冷地仕様車）

標準停止位置の状態でワイパー作動中、ワイパー停止位置に雪がたまると、自動的に冬用停止位置に切りかわる構造になっていますが、雪のたまりかたによっては冬用停止位置に切りかわらず “ コツン ”、“ コツン ” と音がする場合があります。
音がしたときは、冬用停止位置に切りかえて雪を取り除いてください。

警告

■冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

●指定サイズのタイヤを使用する

●空気圧を推奨値に調整する

●装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない

●冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

警告

■**タイヤチェーン装着時の警告（18 インチホイール装着車を除く）**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ
- LTA（レーントレーシングアシスト）を使用しない

注意

■**タイヤチェーンの使用について（18 インチホイール装着車を除く）**

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■**ガラスに付いた氷を除去するとき**

氷をたたいて割らないでください。
ガラスがひび割れるおそれがあります。

■**ワイパーアームを立てるとき（寒冷地仕様車）**

ワイパーを積雪時の停止位置に切りかえてから立ててください。（→ P. 471）
停止位置を切りかえずに立てると、ワイパーアームとボンネットが干渉し、傷が付くおそれがあります。

室内装備・機能

5

5-1. エアコンの使い方

フロントオートエアコン.....476

リヤオートエアコン.....487

ステアリングヒーター／
シートヒーター／
シートベンチレーター.....490

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧.....493

・室内灯.....495

・マップランプ.....496

・リヤパーソナルランプ
（セカンドシート／
サードシート）.....496

・読書灯.....498

・ルーフカラー
イルミネーション.....499

5-3. 収納装備

収納装備一覧.....500

・グローブボックス.....501

・コンソールボックス.....501

・カップホルダー／
ボトルホルダー.....503

・小物入れ.....507

ラゲージルーム内装備.....510

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備.....514

・サンバイザー.....514

・バニティミラー.....514

・時計.....514

・アクセサリーソケット.....515

・アクセサリー
コンセント.....517

・後席用サンシェード.....519

・サイドテーブル.....520

・買い物フック.....522

・アシストグリップ.....523

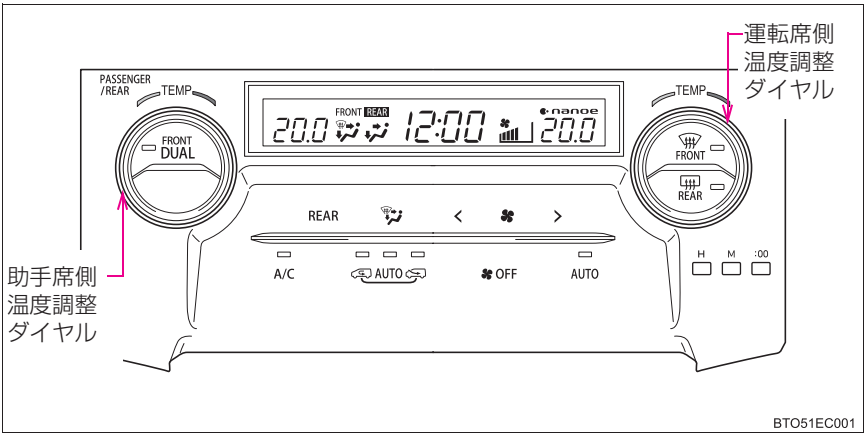
・コートフック.....524

・ステアリングスイッチ.....525

フロントオートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

エアコン操作スイッチについて



■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調整ダイヤルを右へ、下げるときは左へまわす。

A/C のインジケーターが消灯している場合は、送風または暖房で使用できます。

■ 風量を切りかえる

風量を増やすにはエアコン操作パネルの ＜ ✤ ＞ の ＞ に、減らすには ＜ にタッチする

送風を停止するときは、✤OFF にタッチします。

■ **吹き出し口を切りかえる**

エアコン操作パネルの にタッチする

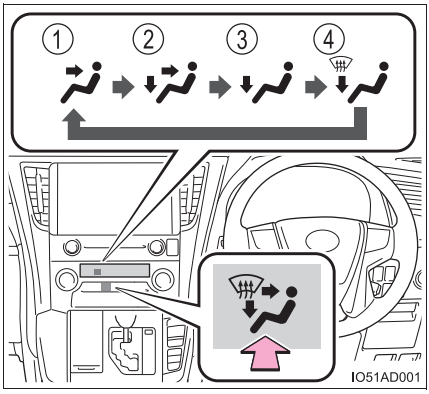
タッチするたびに吹き出し口が切りかわります。

① 上半身に送風

② 上半身と足元に送風

③ 足元に送風

④ 足元に送風・フロントウインドウガラスの曇りを取る



■ **その他の機能**

- 内気循環／外気導入を切りかえる（→ P. 478）
- フロントウインドウガラスの曇りを取る（→ P. 479）
- リヤウインドウガラスの曇りやミラーの霜★をとる（→ P. 479）

オート設定で使用する

1 エアコン操作パネルの AUTO にタッチする

2 AUTO モードになるまでエアコン操作パネルの AUTO を繰り返しタッチする（AUTO 内外気切りかえ装着車）

排ガスセンサーにより外気導入と内気循環を自動で切りかえます。

3 温度を設定する

4 A/C にタッチする

タッチするたびにエアコンの ON ／ OFF が切りかわります。

5 ファンを止めたいときは、エアコン操作パネルの OFF にタッチする

■ **オート設定時の作動表示灯について**

風量や吹き出し口を切りかえると、エアコン操作パネルの AUTO の作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

■ **運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード）**

次のいずれかの操作をすると、左右独立モードが ON になります。

- FRONT DUAL を押す
- 助手席の設定温度を変更する

左右独立モードになり FRONT DUAL の作動表示灯が点灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

その他の機能

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには

▶ AUTO 内外気切りかえ装着車

エアコン操作パネルの AUTO にタッチするごとに次のように切りかわり、選択されているスイッチの作動表示灯が点灯します。

外気導入モード→内気循環モード→ AUTO モード

フロントエアコンが作動しているときに AUTO モードにすると、車両外気（排気ガスなど）の状態などにより、外気導入と内気循環を自動で切りかえます。

▶ AUTO 内外気切りかえ非装着車

エアコン操作パネルの にタッチする

タッチするごとに外気導入・内気循環が切りかわり、選択されているスイッチの作動表示灯が点灯します。

■ 前席からリヤエアコンを操作するには

エアコン操作パネルの REAR にタッチする

モニター部に「REAR」が表示され、リヤエアコン操作モードに切りかわり、前席からリヤエアコンを操作できます。
スイッチにタッチしてから、約 10 秒間スイッチ操作をしないとモニター部に「FRONT」が表示され、フロントエアコン操作モードに戻ります。

● 設定温度をかえるには

設定温度を上げるときは助手席側温度調整ダイヤルを右へ、下げるときは左へまわす

モニター部の助手席側設定温度の表示がリヤエアコンの設定温度の表示に切りかわります。

● 風量をかえるには

風量を増やすにはエアコン操作パネルの < ✽ > の > に、減らすには < にタッチする

送風を停止するときは、✽OFF にタッチします。

● 吹き出し口を切りかえるには

エアコン操作パネルの にタッチする

タッチするたびに吹き出し口が切りかわります。（→ P. 487）

■ **フロントウインドウガラスの曇りを取るには**

フロントウインドウガラス、運転席・助手席ドアガラスの曇りを取るときに使用してください。

を押す

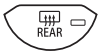
除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります）

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度

を押すと前のモードにもどります。

■ **リヤウインドウデフォッガー & ミラーヒーター★**

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。



を押す

リヤウインドウデフォッガーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

■ **「ナノイー」★を ON・OFF するには**

マルチインフォメーションディスプレイの で ON（作動）・OFF（停止）の切りかえができます。（→ P. 92）

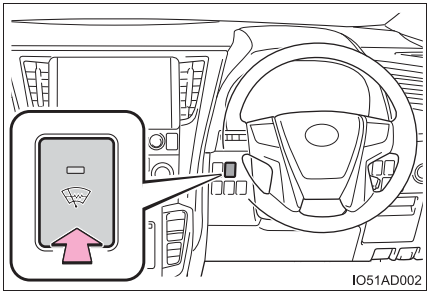
ON を選択すると、モニター部に「nanoe」が表示されます。

■ **ウインドシールドデアイサー★**

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用ください。

ウインドシールドデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

ウインドシールドデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

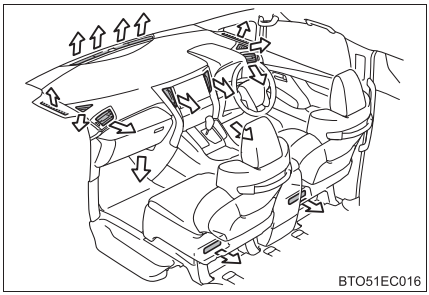


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

吹き出し口について

■ 吹き出し口の位置

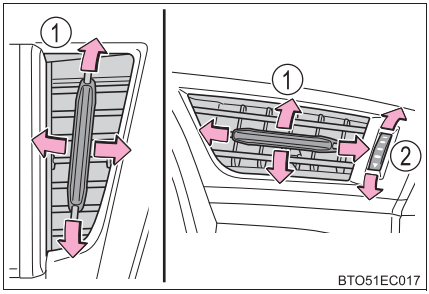
吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。



■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

① 風向きの調整

② 吹き出し口の開閉



知識

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO にタッチした直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■ガラスの曇りについて

●車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、A/C を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

● A/C を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

●内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■外気導入・内気循環について

●トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

●設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■エコドライブモードのエアコン作動について

●エコドライブモードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。

・エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房 / 冷房の能力を抑制します。
・オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。

●空調の効きをより良くしたいときは、次の操作をおこなってください。

・風量を調整する
・温度を調整する
・エコドライブモードを解除する

■外気温度が 0 ℃近くまで下がったとき

エアコン操作パネルの A/Cにタッチしても除湿機能が作動しない場合があります。

■後席エアコン状態表示について

マルチインフォメーションディスプレイからリヤエアコンの作動状態を確認できます。（→ P. 90）

■スイッチの操作音について

タッチスイッチ以外のスイッチ（プッシュスイッチ、ダイヤルスイッチおよび時計スイッチ）の操作音は鳴りません。

■タッチスイッチの操作についてご留意いただきたいこと

●指（指の腹）で操作してください。

●エアコン操作パネルの表面にフィルムなどを貼ったり、塗装をしたとき、反応しないことがあります。

●ペンなどは反応しません。

●モニター部はタッチ操作できません。

●操作するときは、他の指などがエアコン操作パネルにふれないようにしてください。

●連続して操作するときは、確実に指を離してから操作しなおしてください。

●エアコン操作パネルを強く押さないでください。

●エアコン操作パネルに水・異物が付着した場合、反応することがありますので、拭き取ってから操作してください。

■タッチスイッチの操作が正常に反応しないおそれのある状況

●手袋などを装着しているとき

●エアコン操作パネルの表面にフィルムなどを貼ったり、塗装をしたとき

●エアコン操作パネルが汚れていたり、水などが付着しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●無線機や携帯電話などの無線通信機器を携帯しているとき

●エアコン操作パネルが次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●エアコン操作パネルに触れていたり、手を近づけた状態でエンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにすると、エアコン操作パネルが反応しないことがあります。その場合、エアコン操作パネルから手を離し、約 10 秒待ってから再度エアコン操作パネルにタッチしてください。

■タッチスイッチの操作が反応しにくいときは

エアコン操作パネルが汚れていると、タッチ操作の際に反応しにくい場合があります。タッチパネルは、こまめに清掃してください。

■エアコン操作パネルを清掃するときは

清掃する際にタッチスイッチが反応することがあります。エンジンスイッチを OFF にしてから清掃してください。

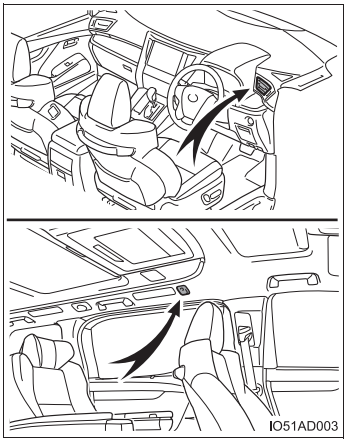
■「ナノイー」※1 について★

エアコンには「ナノイー」技術が搭載されています。この技術は運転席外側吹き出し口・後席「ナノイー」吹き出し口（後席「ナノイー」装着車）を通じて、水に包まれた肌や髪にやさしい弱酸性の「ナノイー」を放出し、室内を爽やかな空気環境に導きます ※2。

●「ナノイー」の作動中、吹き出し口が上半身に送風、上半身と足元に送風、または足元に送風のときに効果を発揮します。それ以外の条件では、効果が十分に得られない場合があります。

●「ナノイー」作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。

●「ナノイー」作動中は、運転席外側吹き出し口、後席の「ナノイー」吹き出し口（後席「ナノイー」装着車）付近で、小さな作動音が聞こえることがありますが異常ではありません。



※1「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

※2 温湿度環境、風量・風向きによっては「ナノイー」の効果が十分に得られない場合があります。

■換気とエアコンの臭いについて

●車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■エアコンフィルターついて

→ P. 551

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■エアコン操作パネルのタッチスイッチの反応を変更するには

次の操作により、スイッチにタッチしてから反応するまでの時間を変更できます。

操作中はエアコンの操作はできません。

1 エアコン操作パネルの AUTO と A/C を約 3 秒間触れ続ける

モニターの表示が切りかわり、助手席側温度部に「01」～「05」が表示されます。

2 REAR を押すごとに、反応するまでの時間が次のように切りかわります。

01 → 02 → 03 → 04 → 05

数字が小さいほど反応時間が早く、大きいほど遅くなります。
また、03・04・05 を選択した場合、タッチするスイッチによっては他のスイッチと反応するまでの時間が異なるものもあります。

お好みの設定を表示した状態のまま、約 5 秒間タッチ操作を行わないと、通常の表示に戻り、設定が完了します。

設定変更後、しばらくの間モニター部の表示がすべて点灯しますが、この間にエンジンスイッチを OFF にしないでください。
設定した内容が取り消しになります。

■エアコン操作パネルのタッチスイッチの操作音を ON ／ OFF するには

次の操作により、スイッチにタッチした時の操作音を ON ／ OFF できます。

操作中はエアコンの操作はできません。

1 エアコン操作パネルの AUTO と REAR を約 3 秒間触れ続ける

モニターの表示が切りかわり、助手席側温度部に「On」または、「OFF」と表示されます。

2 REAR を押すごとに、ON ／ OFF が切りかわります。

「On」または、「OFF」を表示した状態のまま、約 5 秒間タッチ操作を行わないと、通常の表示にもどり、設定が完了します。

設定変更後、しばらくの間モニター部の表示がすべて点灯しますが、この間にエンジンスイッチを OFF にしないでください。
設定した内容が取り消しになります。

■排ガスセンサーの感度調整（AUTO 内外気切りかえ装着車）

次の操作により、外気導入と内気循環の切りかえが AUTO モードのときの排ガスセンサーの感度調整ができます。

操作中はエアコンの操作はできません。

1 エアコン操作パネルの AUTO を約 3 秒間触れ続ける

モニターの表示が切りかわり、運転席側温度部に「-3」～「3」が表示されます。

2 運転席側温度調整ダイヤルをまわして調整する

-3 ～ 3 で調整できます。

数字が小さいほど感度が低く、大きいほど高くなります。

お好みの設定を表示した状態のまま、約 5 秒間タッチ操作を行わないと、通常の表示に戻り、設定が完了します。

■カスタマイズ機能

AUTO を ON にしたとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえるかどうかなどを設定できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 660）

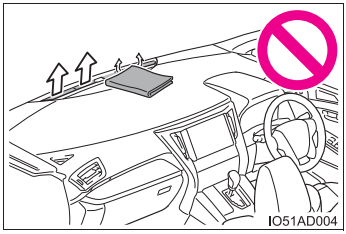
警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

●外気の湿度が高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、

を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

●フロントウインドウガラスの曇り取りを妨げないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。



■リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター★・ウインドシールドデアイサー★作動中の警告

●ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

●フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

■「ナノイー」★について

このシステムは、高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

注意

■「ナノイー」★の損傷を防ぐために

運転席外側吹き出し口または、後席「ナノイー」吹き出し口（→ P. 483）の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に働かなくなるおそれがあります。

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

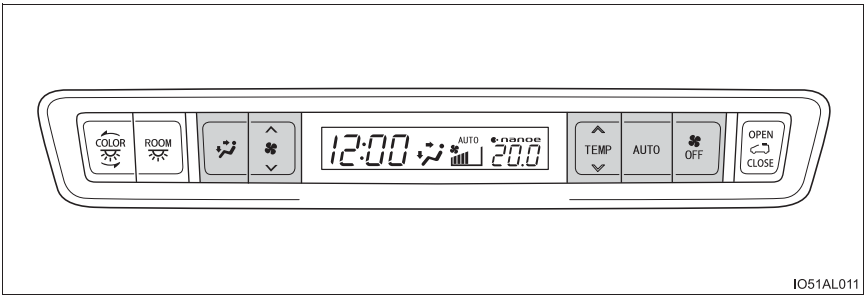
■吹き出し口について

暖房で使用するときは、吹き出し口が熱くなりますので、注意して調整してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リヤオートエアコン

リヤエアコン操作スイッチについて



■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは TEMP の ∧ を、下げるときは ∨ を押す

■ 風量を切りかえる

風量を増やすには の ∧ を、減らすには ∨ を押す

送風を停止するときは、OFF を押します。

■ 吹き出し口を切りかえる

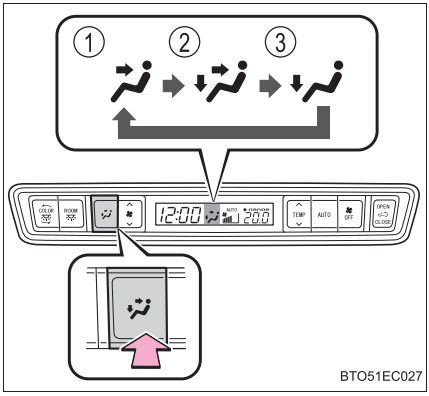
を押す

押すたびに吹き出し口が切りかわります。

① 上半身に送風

② 上半身と足元に送風

③ 足元に送風



オート設定で使用する

1 エアコン操作スイッチの AUTO を押す

モニター部に「AUTO」と表示されます。

2 温度を設定する

3 ファンを止めたいときは、OFF を押す

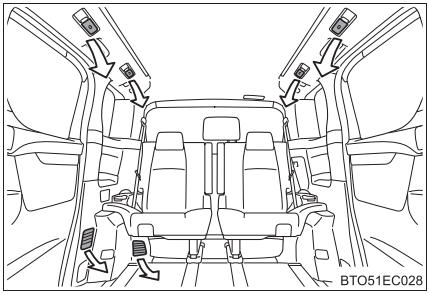
■ オート設定時の作動表示灯について

風量や吹き出し口を切りかえると、モニター部の「AUTO」が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

吹き出し口について

■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置が変化します。

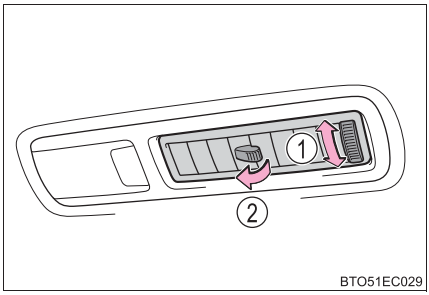


■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

① 風向きの調整

② 風向きの調整
／吹き出し口の開閉

風向きを車両後方側いっぱいに調整すると、吹き出し口を閉じることができます。



「ナノイー」を使うには（後席「ナノイー」装着車）

→ P. 479

知識

■フロントメインスイッチについて

フロントエアコン操作パネルの REAR にタッチすることにより、フロント席からリヤエアコンの操作ができます。

■リヤエアコンの作動条件について

フロントエアコンが停止しているときは、冷房、除湿機能は作動せず、送風のみとなります。

■「ナノイー」について（後席「ナノイー」装着車）

→P. 483

■エアコンの臭いについて

●リヤエアコン使用中に、車室内のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■後席エアコン状態表示について

→P. 90

警告

■「ナノイー」について（後席「ナノイー」装着車）

→P. 486

注意

■「ナノイー」の損傷を防ぐために（後席「ナノイー」装着車）

→P. 486

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中はリヤエアコンを使用しないでください。

■吹き出し口について

→P. 486

ステアリングヒーター★／シートヒーター★／シートベンチレーター★

ハンドルの左右のグリップ部やシートを暖めたり、シートから風を出して通気をよくできます。

警告

- 低温やけどを負うおそれがあるため、次のかたがステアリングヒーター／シートヒーターに触れないようにご注意ください。
  - ・乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由なかた
  - ・皮膚の弱いかた
  - ・疲労の激しいかた
  - ・深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用されたかた
- 異常加熱や低温やけどの原因になるおそれがあるため、シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。
  - ・長時間連続使用しないでください。
  - ・毛布・クッションなどを使用しないでください。

注意

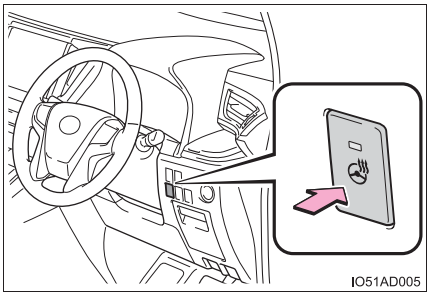
- シートヒーター／シートベンチレーターの損傷を防ぐため、凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。
- バッテリーあがりを防ぐため、エンジンが停止した状態で使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ステアリングヒーター★

ON ／ OFF

ON のときはインジケーターが点灯します。



知識

- 作動条件：エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき
- タイマー制御：約 30 分後に自動で OFF になります。

シートヒーター＆ベンチレーター（フロントシート）★

① ツマミを押す

ツマミが出ます。
温度や風量を調整したあとはツマミを押しもどしてください。

② OFF

③ 送風する（左にまわす）

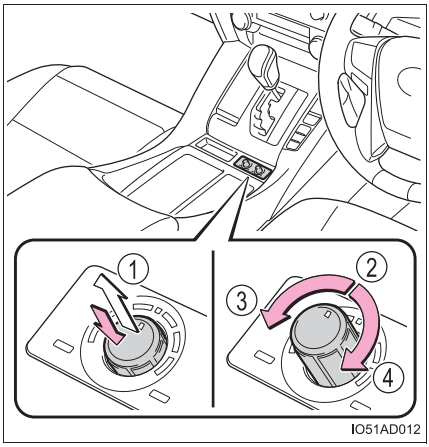
インジケーターが点灯します。

風量は 3 段階に切りかえることができます。

④ シートを暖める（右にまわす）

インジケーターが点灯します。

温度は 3 段階に切りかえることができます。

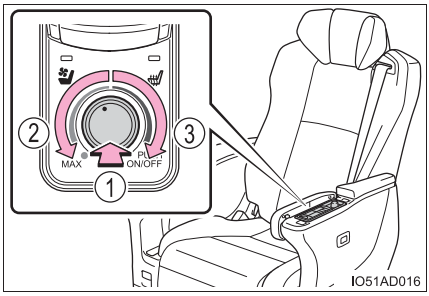


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

シートヒーター＆ベンチレーター（セカンドパワーシート［シートポジションメモリー装着車］）

1 カバーを開ける（→ P. 163）

2 シートヒーター＆ベンチレーターを ON にし、温度を調整する



① ON にする（押す）

OFF にするにはもう一度ツマミを押します。

② 送風する（左にまわす）

のインジケーターが点灯します。

風量は 4 段階に切りかえることができます。

③ シートを暖める（右にまわす）

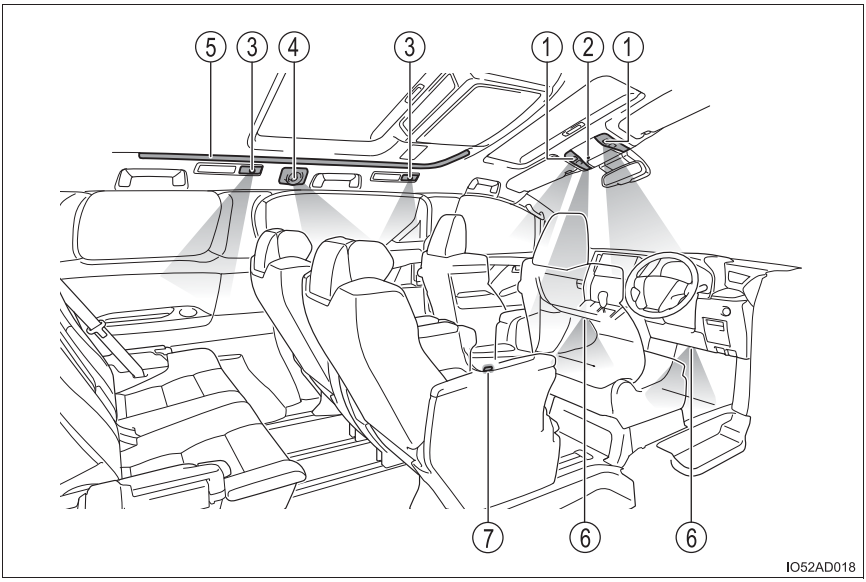
のインジケーターが点灯します。

温度は 3 段階に切りかえることができます。

知識

作動条件：エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

室内灯一覧



① マップランプ（→ P. 496）
② ダウンライト
③ リヤパーソナルランプ（セカンドシート／サードシート）（→ P. 496）
④ 読書灯★（→ P. 498）
⑤ ルーフカラーイルミネーション（→ P. 499）
⑥ 足元照明★
⑦ ドアカーテシランプ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

- メインスイッチがドアポジションのとき、電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジンスイッチのモードにより各部の照明が自動的に点灯・消灯します。（イルミネーテッドエントリーシステム）
- エンジンスイッチが OFF で室内灯が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。
- 室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 659）

注意

バッテリーあがりを防止するために、エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

室内灯（メインスイッチ）

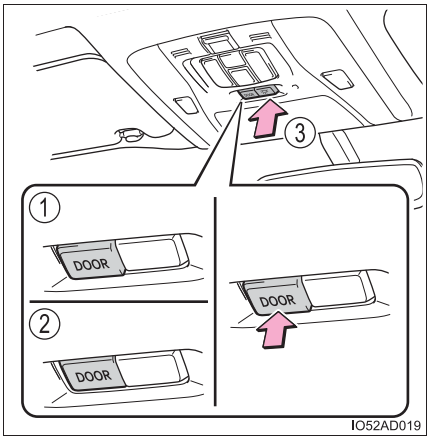
▶ タイプ A

① ドア連動を OFF にする

② ドア連動を ON にする

ドア連動 ON にしていると、ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯を切りかえます（ドアポジション）

③ ランプを点灯／消灯する

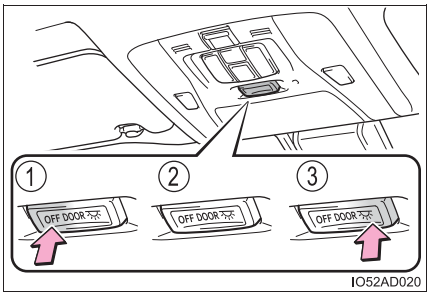


▶ タイプ B

① ランプを消灯する

② ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯を切りかえる（ドアポジション）

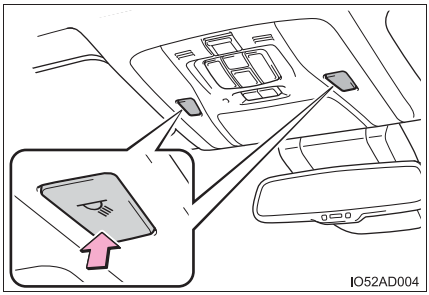
③ ランプを点灯する



を押すと、マップランプとリヤパーソナルランプが点灯します。

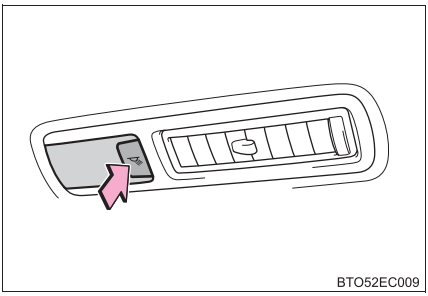
マップランプ

点灯／消灯



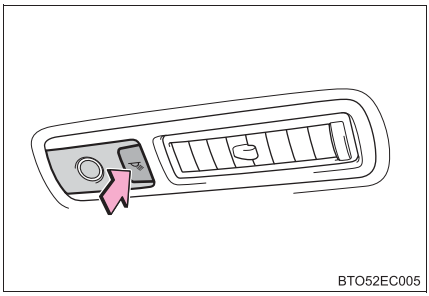
リヤパーソナルランプ（セカンドシート／サードシート）

▶ タイプ A



点灯／消灯

▶ タイプ B



点灯／消灯 ※

スイッチを押すたびに明るさを３段階に切りかえることができます。
スイッチを押し続けると、どの段階の明るさからでも消灯します。

※ マルチインフォメーションディスプレイからも消灯することができます。（→ P. 90）

知識

■ラウンジモードについて（タイプ B）

マルチインフォメーションディスプレイで「天井照明設定」から「ラウンジモード」を選択すると、すべてのリヤパーソナルランプが 20% の明るさで点灯します。（→ P. 90）

- ラウンジモードの解除ができます。
- ラウンジモードで点灯中でも、リヤパーソナルランプのスイッチで明るさを切りかえたり、消灯したりすることができます。
- ラウンジモードを選択していると、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにするたびに、すべてのリヤパーソナルランプが 20% の明るさで点灯します。

読書灯★

1 カバーを開ける（→ P. 163）

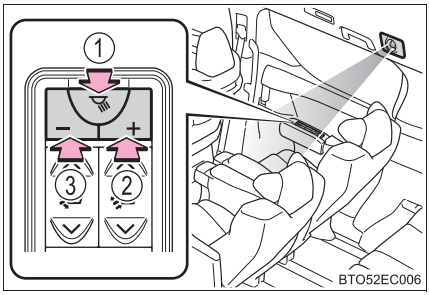
2 次の要領で操作する

① 点灯／消灯

② 明るくする

③ 暗くする

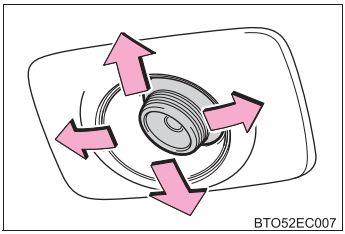
スイッチ（②または③）を押すたびに、明るさを 4 段階に切りかえることができます。



知識

●読書灯を消灯させたあとで再度点灯させたときは、消灯前と同じ明るさになります。

●お好みの角度に調整できます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

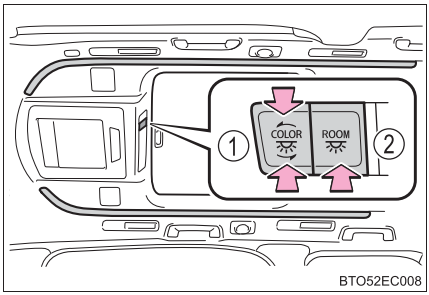
ルーフカラーイルミネーション

① 色をかえる

スイッチを押すたびに 16 色から選択できます。

② 点灯／消灯

スイッチを押すたびに明るさを 4 段階に切りかえることができます。
スイッチを押し続けると消灯します。



知識

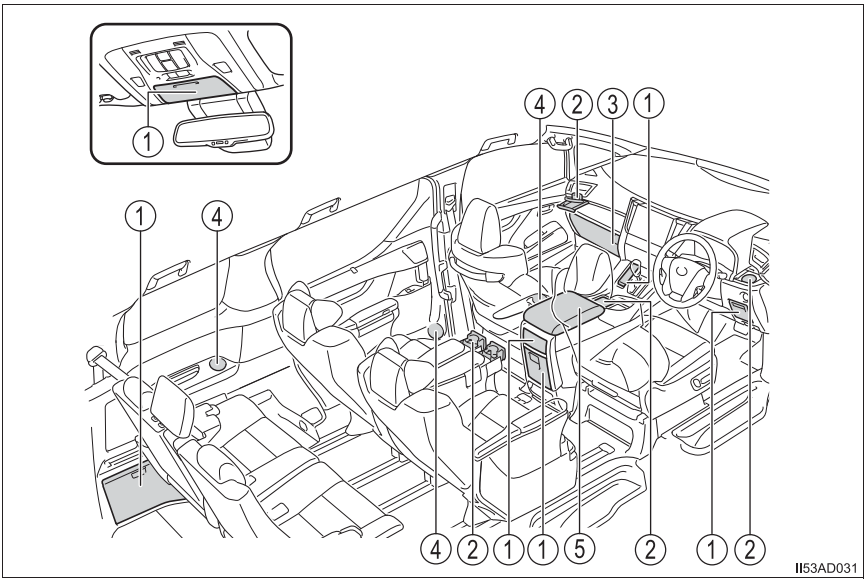
●ルーフカラーイルミネーションはマルチインフォメーションディスプレイからも操作することができます。（→ P. 90）

●エンジンスイッチが OFF のときにルーフカラーイルミネーションを点灯しても、イグニッション ON モードにすると消灯します。

再び ROOM を押すと点灯します。

●ルーフカラーイルミネーションが部分的に点灯している、またはカラーが混ざって点灯しているときは、使用しないでトヨタ販売店で点検を受けてください。

収納装備一覧



① 小物入れ
（→ P. 507、513）

② カップホルダー （→ P. 503）

③ グローブボックス
（→ P. 501）

④ ボトルホルダー （→ P. 505）

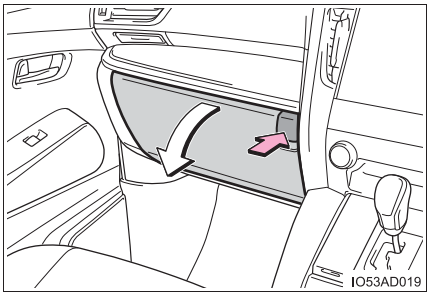
⑤ コンソールボックス
（→ P. 501）

警告

- メガネ･ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
  放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
  - ・室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
  - ・室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる
- 収納装備を使わないときは、フタを必ず閉じてください。
  急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

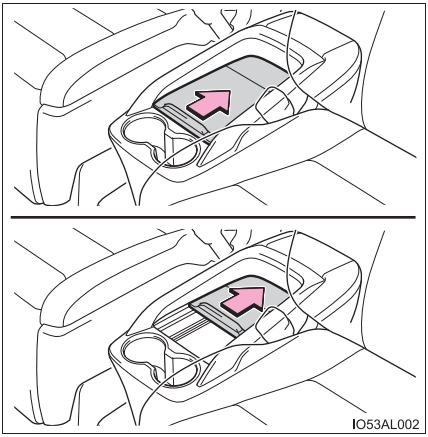
グローブボックス

ボタンを押して開ける



コンソールボックス

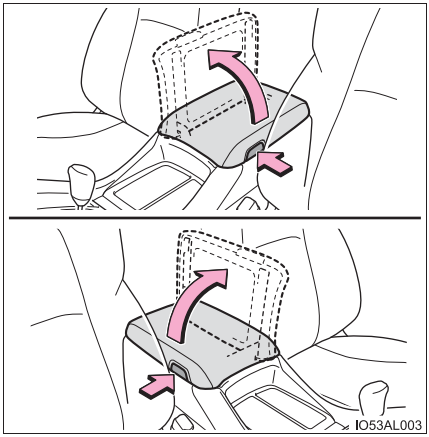
▶ タイプ A



フタの突起部を引いて開ける

・2 段階に開けることができます。
・閉めるときはフタの突起部を押してください。

▶ タイプ B



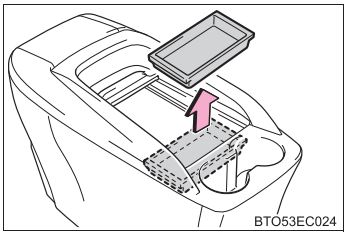
ボタンを押して開ける

左右どちらからでも開けることができます。

知識

▶タイプ A

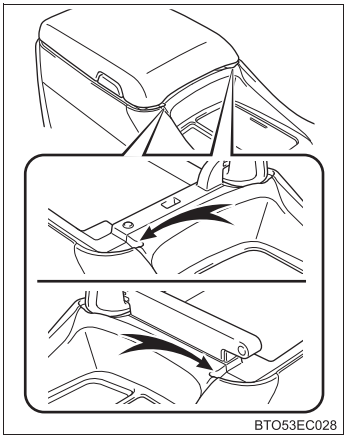
●中のトレイ★をはずすことができます。



●カードやコインなどのうすいものをフタの上に置かないでください。フタを開閉する際に巻き込まれることがあります。
巻き込まれた場合は、コンソールボックスの中から取り出すことができます。

▶タイプ B

フタが閉まっているとき、接続機器の配線は図の穴を通してください。

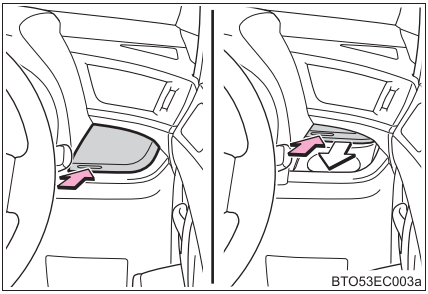


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

カップホルダー／ボトルホルダー

■ カップホルダー

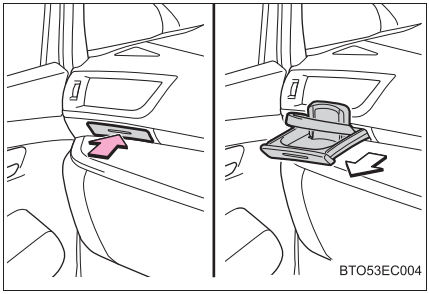
▶ フロントシート（運転席側）



押して開ける

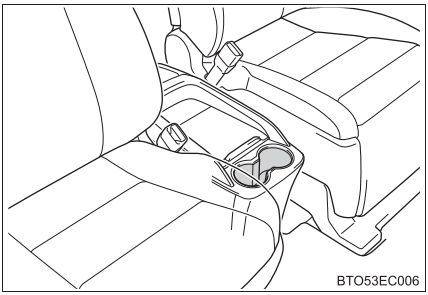
再び押すと閉まります。

▶ フロントシート（助手席側）

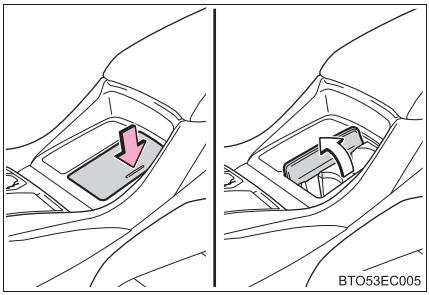


押して開ける

▶ コンソールボックス（タイプ A）

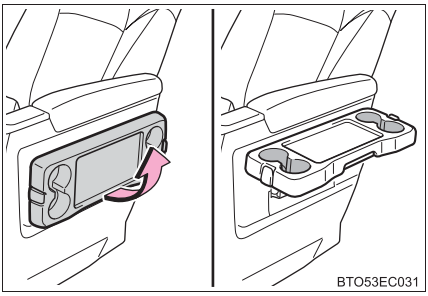


▶ コンソールボックス（タイプ B）



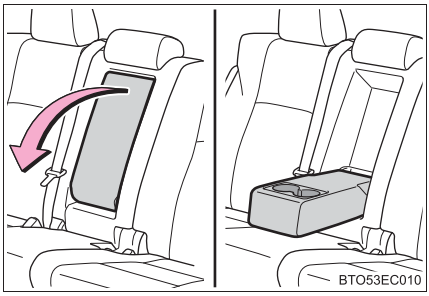
押して開ける

▶ セカンドマニュアルシート（7 人乗り車）／セカンドパワーシート（シートポジションメモリー非装着車）



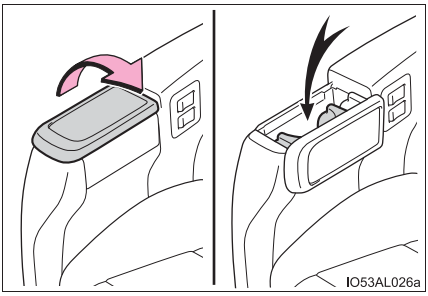
サイドテーブルを引き起こす（→ P. 520）

▶ セカンドシート（8 人乗り車）



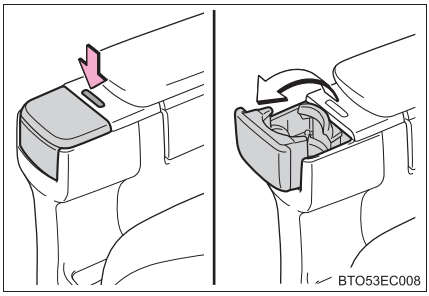
アームレストを倒して使用する

▶ セカンドパワーシート（シートポジションメモリー非装着車）



カバーを開ける

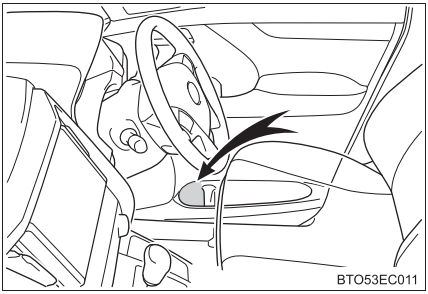
▶ セカンドパワーシート（シートポジションメモリー装着車）



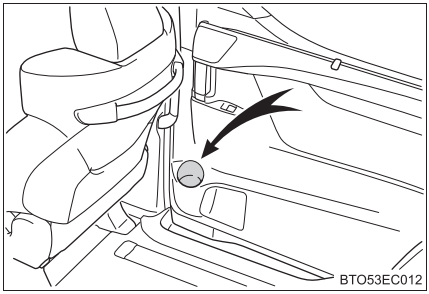
ボタンを押してカバーを開ける

■ ボトルホルダー

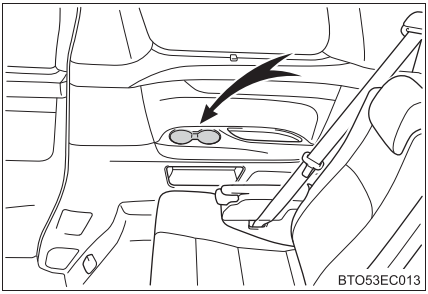
▶ フロントシート



▶ セカンドシート



▶ サードシート



運転席側は 2 つ、助手席側は 1 つになります。

知識

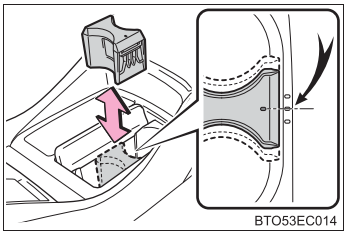
■カップホルダーを使用するときは（セカンドマニュアルシート［7 人乗り車］）

セカンドシートの左右位置が外側にあるときに使用できます。

■カップホルダーの仕切りについて（コンソールボックス［タイプ B］）

●位置を調整することができます。

●清掃のために取りはずすことができます。



■ボトルホルダーを使用するときは

●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

●ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

警告

●カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。また、フタを閉じているときでも、ものを収納しないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。

●やけどを防ぐために、カップホルダーに温かい飲み物を置くときはフタを閉めておいてください。

●ボトルホルダーにはペットボトル以外のものを置かないでください。急ブレーキをかけたときや衝突時に収納していたものが飛び出し、けがをするおそれがあります。

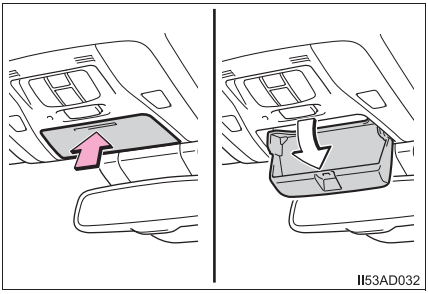
●フロントシート（運転席側）カップホルダーを使用するとき、背の高いカップを置くと、運転者の視界をさまたげ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

- ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。
- スライドドアを開ける前にセカンドシートのボトルホルダーを使用していないことを確認してください。
  ドアの開閉を妨げたりドアを損傷するおそれがあります。
- フロントシート（助手席側）のカップホルダーを使用するときは、過度の負荷を与えないでください。また、車に乗り降りする際に手をついたり、体があたったりしないように注意してください。

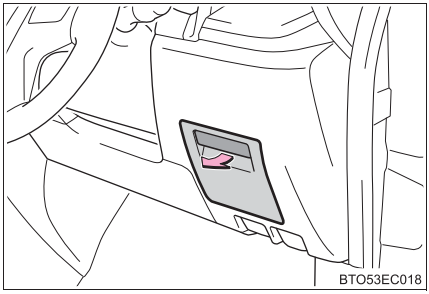
小物入れ

▶ オーバーヘッドコンソール★



押して開ける

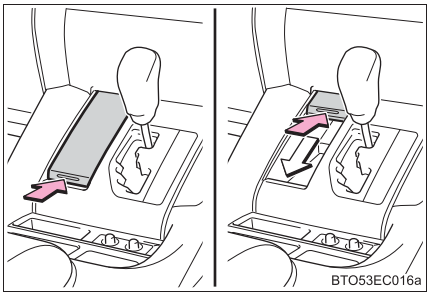
▶ 運転席ロア小物入れ



ノブを引いて開ける

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

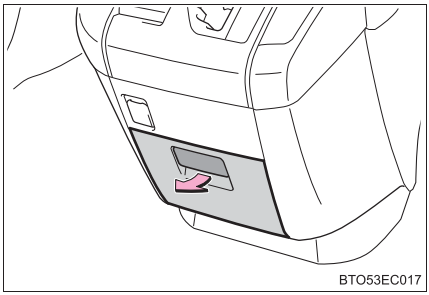
▶ センターパネル



押して開ける

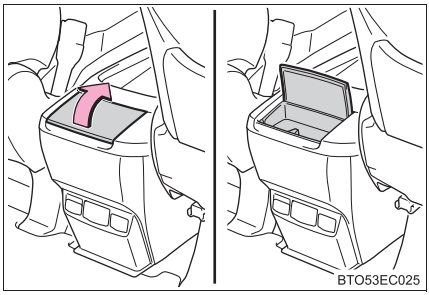
再び押すと閉まります。

▶ センターロア小物入れ★



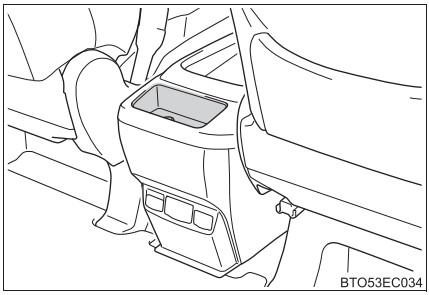
ノブを引いて開ける

▶ コンソールボックス後部（タイプ A）

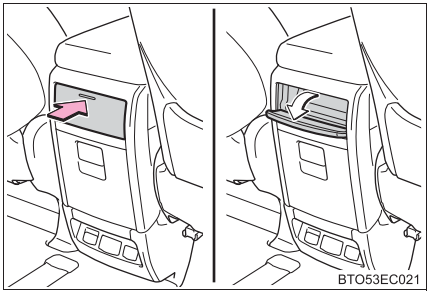


引いて開ける

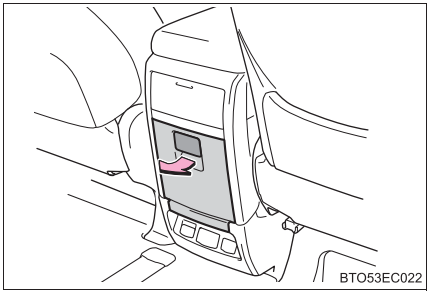
▶ コンソールボックス後部（タイプ A フタ無し）



▶ コンソールボックス後部（タイプ B）



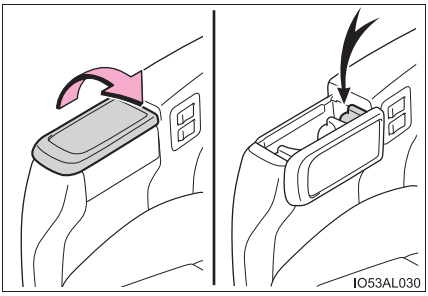
押して開ける



ノブを引いて開ける

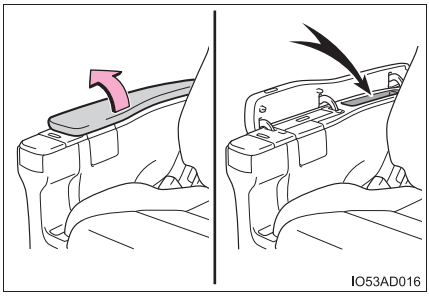
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ セカンドパワーシート（シートポジションメモリー非装着車）



カバーを開ける

▶ セカンドパワーシート（シートポジションメモリー装着車）



カバーを開ける

知識

メーカーオプションの ETC2.0 ユニット★は、運転席ロア小物入れの中に装着されます。

警告

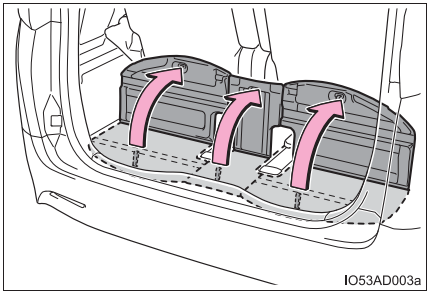
- オーバーヘッドコンソールに 200g 以上のものを入れないでください。200g 以上のものを入れると、オーバーヘッドコンソールが開き収納されているものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- コンソールボックス後部（タイプ A）：カップや缶、ペットボトルなどを置かないでください。急ブレーキをかけたときや衝突時に飛び出し、けがをするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ラゲージルーム内装備

デッキボード

ストラップを持ってデッキボードを上げる



知識

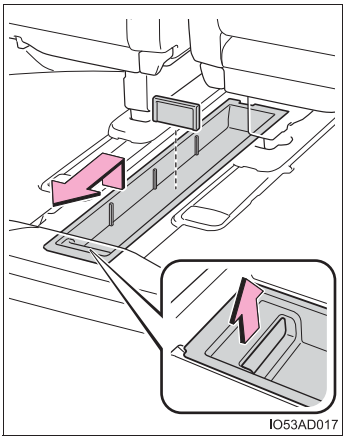
■停止表示板について

左右どちらかのデッキボードを上げて、その中に収納してください。

■ラゲージボックスについて

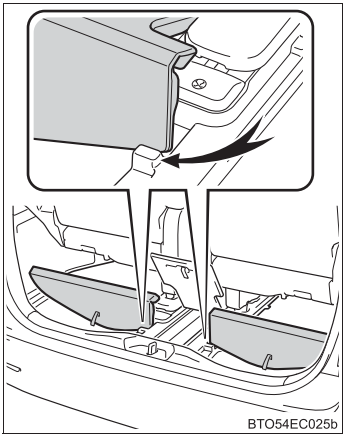
●仕切りの位置を調整したり、取りはずすことができます。

●ラゲージボックスは取りはずすことができます。真上に持ち上げて取りはずしてください。



■デッキボードについて

左右のデッキボードを折り曲げて図のくぼみにかけることができます。



警告

デッキボードを取りはずしたときは、走行前に必ずもとどおりに取り付けてください。取りはずしたまま走行すると、急ブレーキをかけたときなどにデッキボードや収納していたものが飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

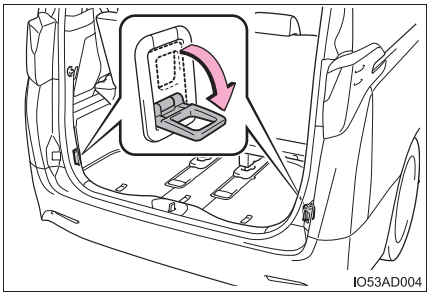
注意

破損を防ぐために、デッキボードの上に立ったり、無理な力をかけたりしないでください。

デッキフック

フック起こして使用する

デッキフックを使って荷物を固定することができます。

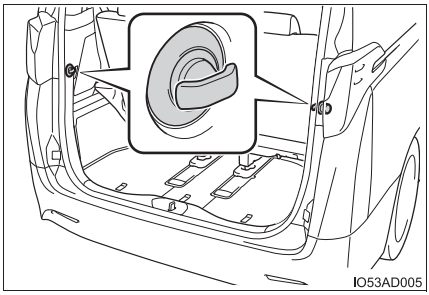


警告

デッキフックを使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

ネットフック

積荷ネットなどをかけるときに使用する

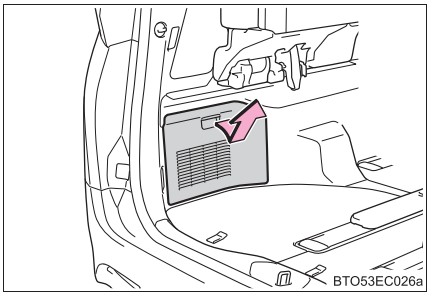


注意

ネットフックの破損を防ぐために、3kg 以上のものをフックに吊り下げないでください。
フックが折れたり、走行中にはずれたりするおそれがあります。

ラゲージルーム小物入れ

カバーを開ける



警告

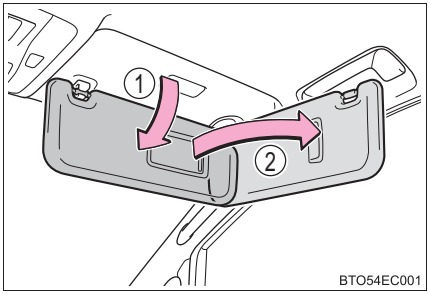
走行中はカバーを閉じてください。事故や急ブレーキの際に傷害につながるおそれがあります。

その他の室内装備

サンバイザー

① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

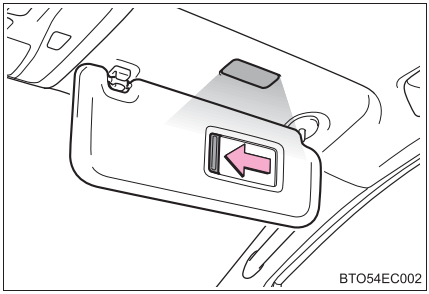
② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす



バニティミラー

カバーをスライドして開ける

カバーを開けるとランプが点灯します。



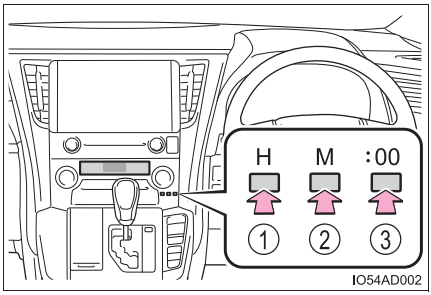
時計

① “時” を調整する

② “分” を調整する

③ “分” を 00 にする ※

※（例）1：00 ～ 1：29 → 1：00
1：30 ～ 1：59 → 2：00



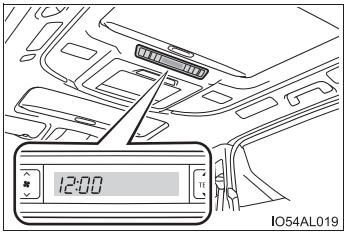
知識

●時刻が表示されるとき

・フロントエアコン操作パネル：エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのとき
・リヤエアコン操作パネル：エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

●バッテリー端子の脱着を行うと、時計は自動的に 1：00 にセットされます。

●リヤエアコン操作パネルの時計も同時に調整されます。

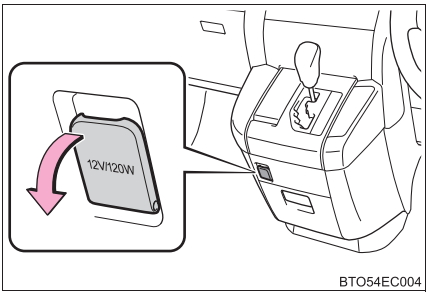


アクセサリーソケット

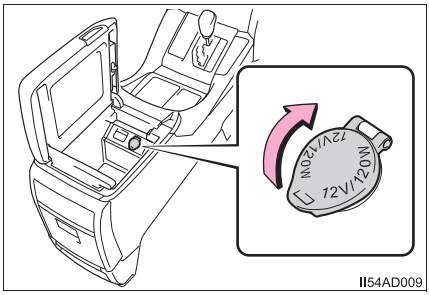
DC12 V ／ 10 A（消費電力 120 W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

フタを開けて使用する

▶ センターパネル



▶ コンソールボックス内部（タイプ B）



知識

■アクセサリーソケットを使用するとき

●使用条件：エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのとき

●接続する機器によっては、USB接続端子★またはHDMI端子★と同時に使用することができない場合があります。
USB 接続端子および HDMI 端子については、別冊「マルチメディア取扱書」または「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

●Stop & Start システム装着車：Stop & Start システムの作動により、エンジン停止状態からエンジンが再始動するとき、一時的にアクセサリーソケットが使用できないことがありますが、異常ではありません。

■エンジンスイッチを OFF にするとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。接続したままにしておくと、エンジンスイッチを正常に OFF にすることができなくなる場合があります。

注意

●ショートや故障を防ぐために、アクセサリーソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

●バッテリーあがりを防止するために、エンジンが停止した状態で、アクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

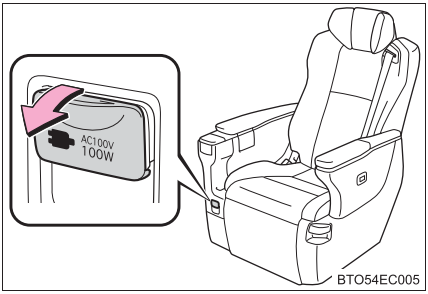
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アクセサリーコンセント

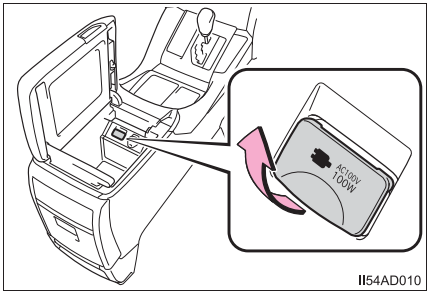
AC100 Vで最大消費電力100 W以下の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

フタを開けて使用する

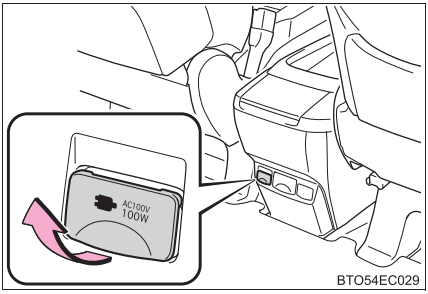
▶ セカンドパワーシート（シートポジションメモリー装着車）



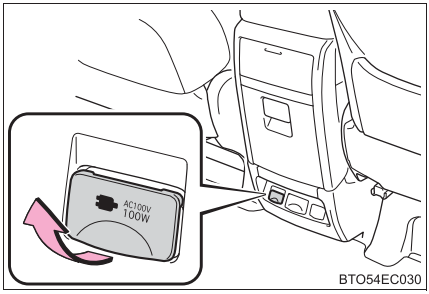
▶ コンソールボックス内部（タイプB）



▶ コンソールボックス後部（タイプA）



▶ コンソールボックス後部（タイプB）



知識

■使用条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■正常に使用できないおそれのある電気製品

次のような AC100 V の電気製品は、消費電力が 100 W 以下の場合でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時のピーク電力が高い電気製品
- 精密なデータを処理する計測機器
- 電源周波数の切りかえ（50 ／ 60 Hz）のある機器

■Stop & Start システムが作動しているときは★

Stop & Start システムの作動により、エンジン停止状態からエンジンが再始動するとき、一時的にアクセサリーコンセントが使用できないことがありますが、異常ではありません。

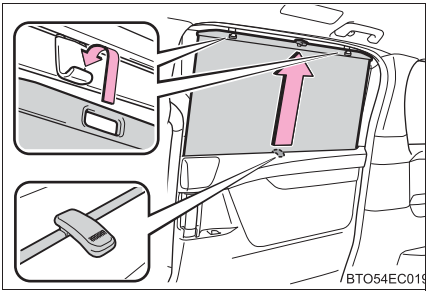
注意

- ショートや故障を防ぐために、アクセサリーコンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。
- バッテリーあがりを防止するために、エンジンが停止した状態で、アクセサリーコンセントを長時間使用しないでください。
- ヒューズが切れるのを防ぐために、AC100 V で最大消費電力 100 W 以上の電気製品を使用しないでください。消費電力が 100 W をこえる電気製品を使用すると、保護回路が作動して電源を遮断します。

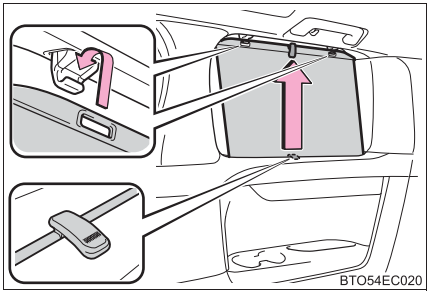
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

後席用サンシェード★

▶ セカンドシート



▶ サードシート



ツマミをしっかりと持って引き出し、フックにかける

もどすときはフックからはずし、しっかりと持ったままゆっくり収納します。

⚠ 注意

■正常に機能させるために

次のことをお守りください。

- 開閉のさまたげになる部分にものを置かない
- 後席用サンシェードにものを貼らない
- 後席用サンシェードをフックにかけているときに過度の負荷をかけない
- スライドドアが開閉しているときは、セカンドシートの後席用サンシェードを操作しない
- 収納するときに傾けた状態で収納しない
  傾けた状態で収納すると、スクリーン部のしわの原因になります。

■後席用サンシェードの破損を防止するために

次のことをお守りください。

- フックが片方はずれた状態で使用しない
  スライドドアを開閉するときに後席用サンシェードが破損するおそれがあります。
- フックにかけた状態でスクリーン部をひっぱらない
  スクリーン部が破損するおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

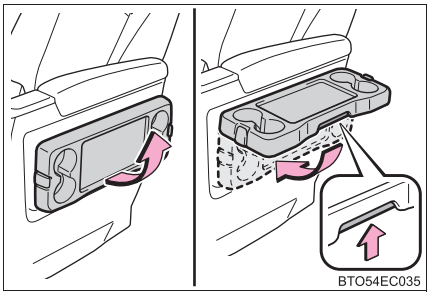
サイドテーブル★

▶ タイプ A

サイドテーブルを引き起こす

サイドテーブルがロックしていることを確認してください。

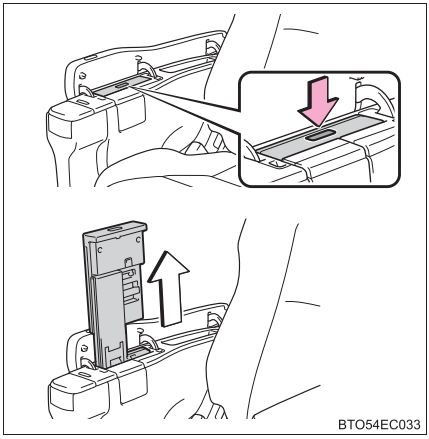
格納するときは、レバーを上に引いてテーブルを押します。



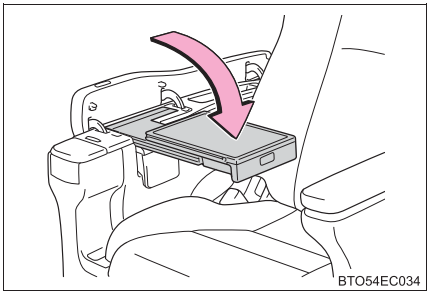
▶ タイプ B

1 フタを開けてボタンを押す

サイドテーブルが自動で上がります。

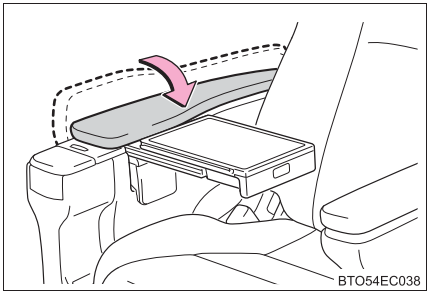


2 サイドテーブルを倒す



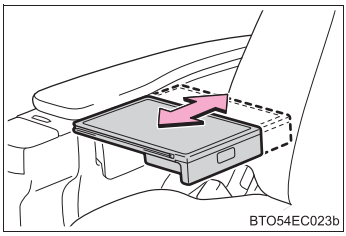
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

3 フタを閉じる



知識

- タイプ B：テーブルを格納するときは、テーブルをいちばんうしろまで移動させてください。
- タイプ B：前後にスライドさせることができます。



警告

サイドテーブルを使用するときは次の警告をお守りください。
お守りいただかないと事故や急ブレーキの際に傷害につながるおそれがあり危険です。

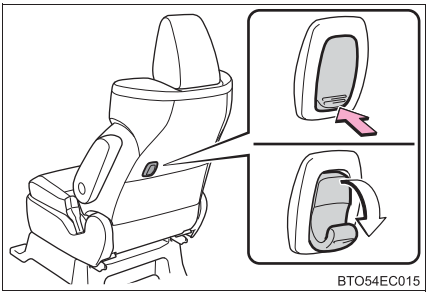
- サイドテーブルの上に乗ったり、重いものをのせないでください。
- 使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。
- タイプ B：走行中はサイドテーブルを使用しないでください。
- タイプ B：サイドテーブルを使用するときは、フタを閉じてください。

注意

- テーブルの破損を防ぐために、重いものをのせないでください。
- タイプ B：いちばん上の位置にあげてからサイドテーブルを倒してください。

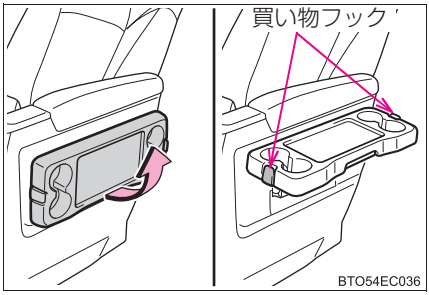
買い物フック★

▶ 運転席



フックを引き起こす

▶ セカンドマニュアルシート（7 人乗り車）／セカンドパワーシート（シートポジションメモリー非装着車）



サイドテーブルを引き起こす（→ P. 520）

警告

使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

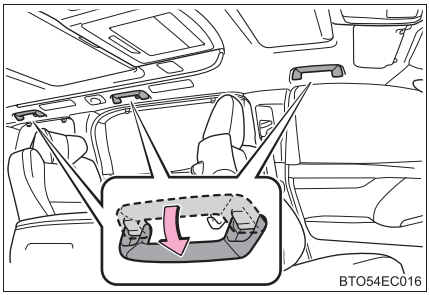
注意

買い物フックの破損を防ぐために、4kg 以上のもの（運転席）、2kg 以上のもの（セカンドシート）をフックに吊り下げないでください。
フックが折れたり、走行中にはずれたりするおそれがあります。

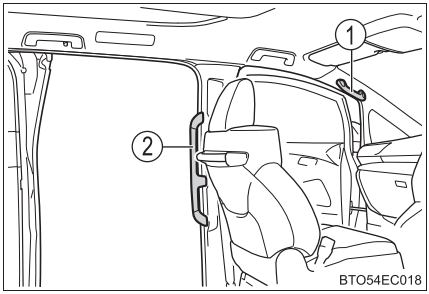
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アシストグリップ

天井に取り付けられているアシストグリップ（回転式）は、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



乗降時などでは、ピラーに取り付けられている①または②のアシストグリップ（固定式）をお使いください。



警告

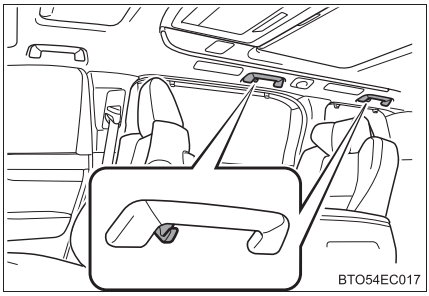
アシストグリップ（回転式）は、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

注意

破損を防ぐために、アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。

コートフック

コートフックは、セカンドシート／サードシートのアシストグリップに付いています。



警告

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

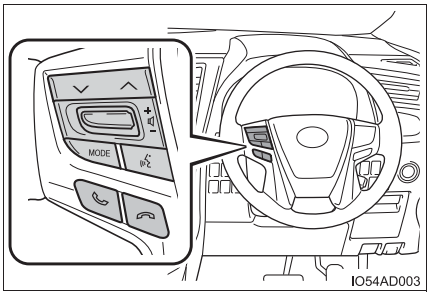
注意

- コートフックに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。
- セカンドシートにあるコートフックを使用するときは、スライドドアを開閉する際にドアへ引っかからないよう注意してください。

ステアリングスイッチ

▶ マルチメディア画面非装着車

ハンドル左側にあるスイッチで、オーディオを操作することができます。



装着されているオーディオ・ナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは商品に付属の取り扱い説明書をご覧ください。

▶ マルチメディア画面装着車

別冊「マルチメディア取扱書」、「ナビゲーション取扱書」または「ナビゲーションシステム取扱書」をお読みください。

警告

事故を防ぐために、運転中にステアリングスイッチを操作するときは、十分注意してください。

お手入れのしかた

6

6-1. お手入れのしかた
外装の手入れ.....528
内装の手入れ.....534
6-2. 簡単な点検・部品交換
ボンネット 537
ガレージジャッキ.....541
ウォッシャー液の補充.....543
タイヤについて.....545
タイヤ空気圧について 549
エアコンフィルターの交換 ...551
ワイパーゴムの交換.....554
キーの電池交換.....560
ヒューズの点検・交換.....564
外装のランプの交換.....567

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■セルフリストアリングコートについて

お車のボデーには、洗車などによる小さなすり傷を自然に復元する、傷付きにくい塗装を使用しています。

- 新車時から５～８年のあいだ、効果が持続します。
- 傷が復元するまでの時間は、傷の深さや周囲の温度により変化します。
  なお、お湯をかけて塗装を温めると、復元するまでの時間が短くなる場合があります。
- 鍵や硬貨などによる深い傷は復元できません。
- 成分にコンパウンド（磨き粉）が含まれるワックス類は使用しないでください。

■自動洗車機を使うとき

●お車を洗う前に：

・ドアミラーを格納する
・パワースライドドアを停止する（→ P. 123）
・パワーバックドア★を停止する（→ P. 140）

走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。

●ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。

●洗車機によっては、リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や傷付いたり、破損したりするおそれがあります。

■高圧洗浄機を使うとき

●室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

●駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部品に近付けすぎないでください。
近付けすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。

■洗車などで車に水をかけたとき

電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠・解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

●電子キーを車両から 2m 以上離れた場所に保管する（電子キーの盗難に注意してください）

●電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー & スタートシステムの作動を停止する（→ P. 150）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ホイール・ホイールキャップについて

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。

●洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。

●塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。

・酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
・硬いブラシを使用しない
・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ブレーキパッドやディスクローターについて

水に濡れた状態のまま駐車しておくと、錆びて貼り付くことがあります。洗車後は低速で走行し、ブレーキを数回かけて乾燥させてから駐車してください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■フロントドアガラスの撥水コーティング★について

●撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。

・フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
・汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
・コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
・金属製の道具で霜取りをしない

●水滴のはじきが悪くなったときは補修することができます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

■メッキ部品のお手入れについて

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

●中性洗剤を水で約 5%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る

●乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る

●油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

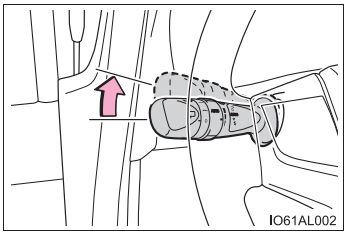
警告

■**洗車をするとき**

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■**フロントウインドウガラスを清掃するとき（雨滴感知式ワイパー装着車）**

ワイパースイッチを OFF にしてください。AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。



- 雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき
- 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき
- フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき
- 車内からセンサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■**排気管について**

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■**ブラインドスポットモニター★について**

リヤバンパー上方の塗装に傷が付くと、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。トヨタ販売店にご相談ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合は、ただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと
・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
・ばい煙･油煙･粉じん･鉄粉･化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
・ほこり・泥などで激しく汚れたとき
・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ランプの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ランプを損傷させるおそれがあります。

●ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■自動洗車機を使用するときは（雨滴感知式ワイパー装着車）

ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

⚠ 注意

■高圧洗浄機を使用するときは

- 洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水をあてないでください。高い水圧により衝撃が加わり、装備が正常に作動しなくなるおそれがあります。
- エンブレム裏に搭載されているレーダーに直接水をかけないでください。部品故障の原因になるおそれがあります。
- ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクター類に近付けすぎないでください。
  高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。
  - ・駆動系部品
  - ・ステアリング部品
  - ・サスペンション部品
  - ・ブレーキ部品
- モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。
- フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

室内の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1%にうすめてやわらかい布に含ませふき取る

  水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

  ウール用の中性洗剤を水で約 5% にうすめて使用してください。
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

合成皮革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1%にうすめてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■スーパー UV カットガラス★について

- ドアガラス・リヤクォーターガラス・リヤウインドウガラスが汚れているときは、早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいて清掃してください。
- ドアガラスの汚れがひどいときは、ドアガラスの開閉をくり返さないでください。

警告

■車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
  電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。（→ P. 35）
  電気の不具合により、SRSエアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シート周辺の注意

車内を清掃するときや、シートの下に落としたものを拾うときなど、シートの下に手を入れるときは十分注意してください。シートレール、シートの土台部分などにあたり、けがをするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール、その他のアルカリ性や酸性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

●革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

●直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■リヤウインドウガラス／右側クォーターウインドウの内側を掃除するときは

●熱線（リヤウインドウガラス）やアンテナ（右側クォーターウインドウ）を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■スーパー UV カットガラス★を清掃するときは

ドアガラス・リヤクォーターガラス・リヤウインドウガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品（ガラスクリーナー・洗剤・ワックスなど）を使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

■フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。
また、レンズにはふれないでください。（→ P. 293）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

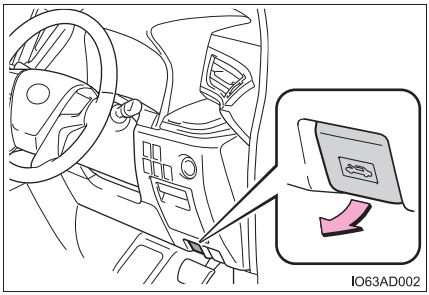
ボンネット

室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

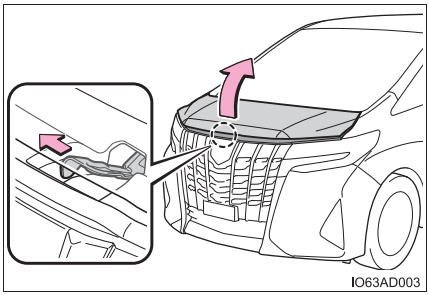
開け方

1 ボンネット解除レバーを引く

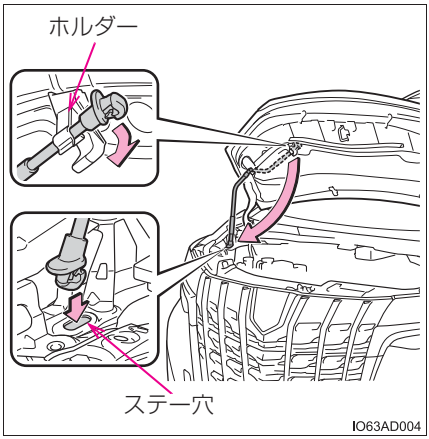
ボンネットが少し浮き上がります。



2 レバーを押して、ボンネットを開ける



3 ボンネットステーをステー穴に挿し込む



閉め方

1 ボンネットを支えながら、ボンネットステーをはずしてホルダーに格納する

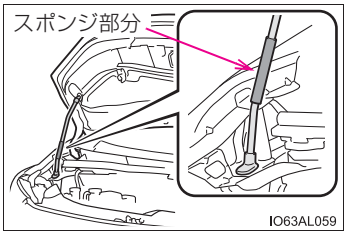
2 車体から約 20cm の高さまで、ボンネットをゆっくりおろす

3 ボンネットを落として閉め、ロックされていることを確認する

知識

■ボンネットを開くとき

ボンネットステーはスポンジ部分を持って取り扱ってください。また、走行直後にボンネットを開ける必要がある場合は、ボンネットステーが熱くなっていることがあるため、金属部分にふれないよう、特に注意してください。



警告

■走行前の確認

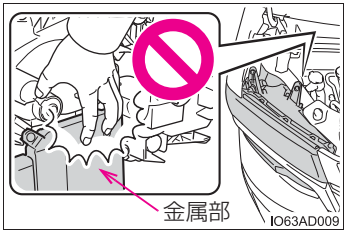
ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■けがを防ぐために

走行後のエンジンルーム内は高温になっています。熱くなった部品にさわるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ランプの取り扱い

ヘッドランプ点灯中および消灯直後はヘッドランプECUの金属部が高温になります。やけどをするおそれがあるので、冷めるまでふれないでください。

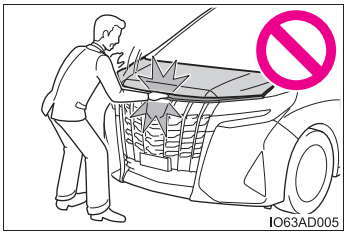


■エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットを閉めるとき

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



注意

■ボンネットへの損傷を防ぐために

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。
閉め方：→ P. 538

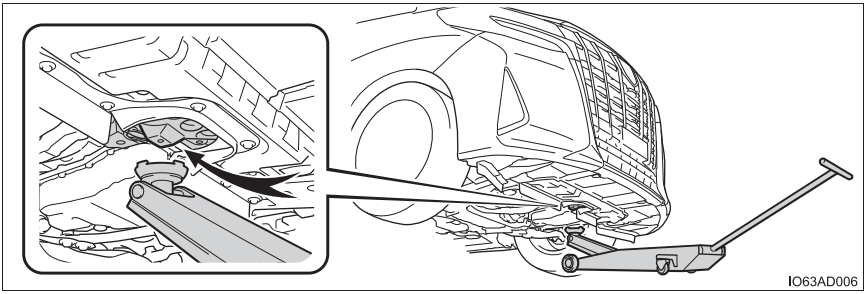
■ボンネットを閉めるときは

ボンネットステーをステー穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。
ステーを正しくもどさない状態でボンネットを閉めると、ボンネットやステーが損傷するおそれがあります。

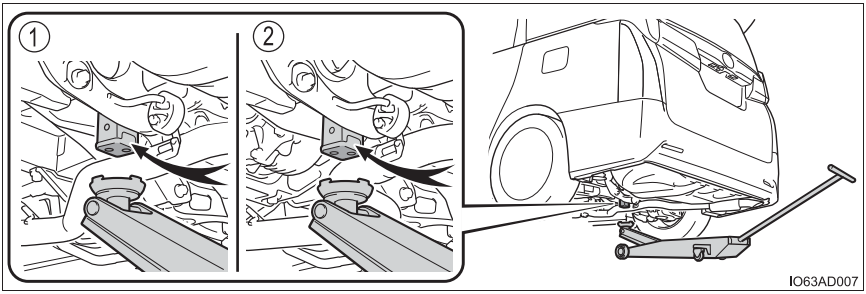
ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

◆ フロント側



◆ リヤ側



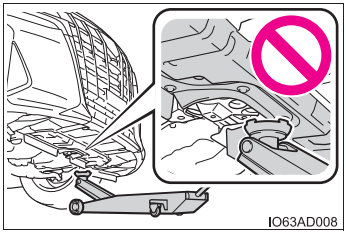
① FF 車（前輪駆動）

② 4WD 車（4 輪駆動）

注意

■車両の前側をジャッキアップするときは

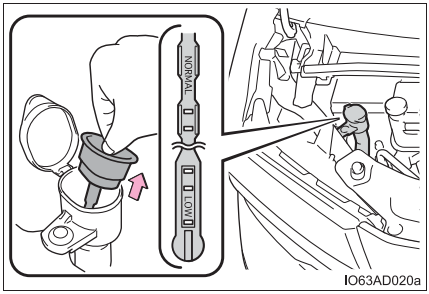
ジャッキの受け皿が車両下部の樹脂カバーにかかっていないことを確認してください。樹脂カバーにジャッキがかかった状態でジャッキアップすると、フロントサスペンションの部品が損傷するおそれがあります。



ウォッシャー液の補充

補充のしかた

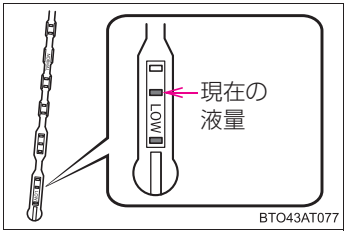
液面が LOW の位置に近付いたらウォッシャー液を補充してください。



知識

■ゲージの使い方

ウォッシャー液の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残量を判断します。
残量がゲージの先端から 2 つめの穴部より下回った（LOW の位置まで低下した）ら、ウォッシャー液を補給してください。



警告

■ウォッシャー液を補充するとき

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。
ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■**ウォッシャー液について**

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■**ウォッシャー液のうすめ方**

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

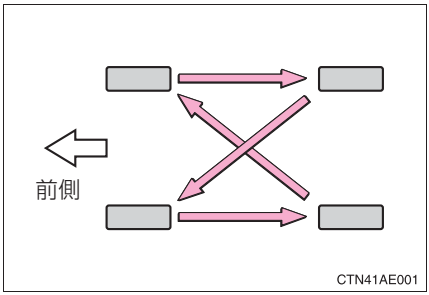
- タイヤ空気圧

  空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。
- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

タイヤローテーションのしかた

図で示すようにタイヤのローテーションを行う

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。



知識

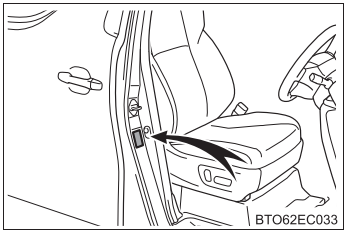
■タイヤ空気圧の数値

タイヤサイズ	空気圧※ kPa（kg/cm^2）	
	前輪	後輪
215/65R16 98H	240（2.4）	
225/60R17 99H	240（2.4）	
235/50R18 97V	240（2.4）	

応急用タイヤ★：420kPa（4.2kg/cm^2）※

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

※ タイヤが冷えているときの空気圧



■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■応急用タイヤについて（応急用タイヤ装着車）

応急用タイヤは指定の場所（→ P. 618）に搭載し、留め具をしっかり締め付けて、確実に固定してください。応急用タイヤの留め具がゆるんでいると、走行中に異音が発生することがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**点検・交換時の警告**

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●工場出荷時に設定されているサイズ以外のタイヤは使用しない
次のようなおそれがあります。

・ハンドルをきった際に、タイヤと車体が干渉する
・最低地上高が確保できない
・操縦安定性の悪化による横転事故
・ABS ／ VSC が正しく作動しない

●タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する

●メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない

●ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない

●サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

■**異常があるタイヤの使用禁止**

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●破裂などの修理できない損傷を与える

●車両が横すべりする

●車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

警告

■**タイヤ交換時の注意**

ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

注意

■**走行中に空気もれが起こったら**

走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■**悪路走行に対する注意**

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。（→ P. 653）

知識

■タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
  タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

警告

■**タイヤの性能を発揮するために**

適正なタイヤ空気圧を維持してください。
タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
  （路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

注意

■**タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは**

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

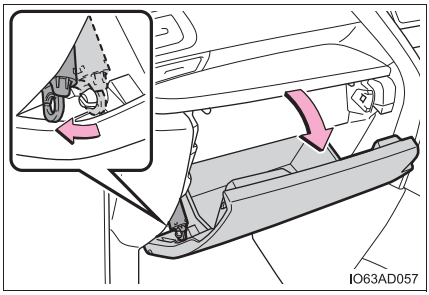
エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

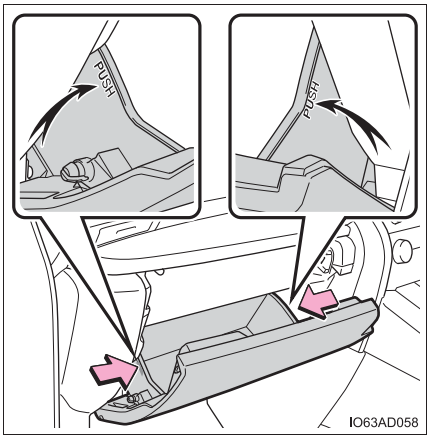
交換のしかた

1 エンジンスイッチを OFF にする

2 グローブボックスを開きダンパーステーのピンをはずす

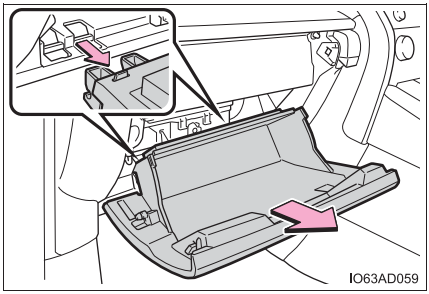


3 グローブボックス側面を内側に押して上部のツメを片側ずつはずし、グローブボックスを支えながらゆっくりと全開させる



4 グローブボックスがいっぱいまで開いた状態から、少しだけ持ち上げた位置で手前に引き、グローブボックス下部の結合部をはずす

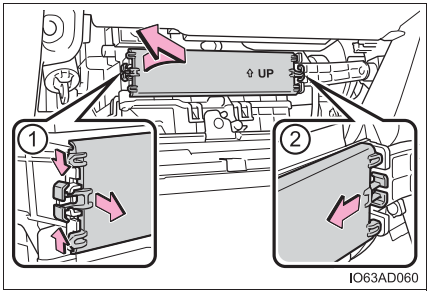
軽く引いても結合部がはずれない場合は、無理に引っ張らず、持ち上げる量を微調整しながら手前に引いてください。



5 フィルターカバーを取りはずす

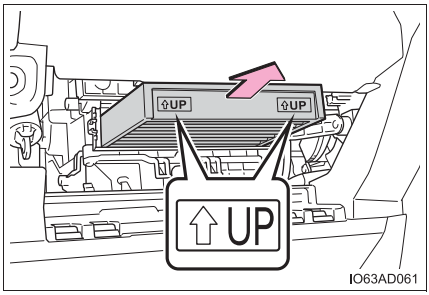
① フィルターカバーの固定を解除する

② フィルターカバーを矢印の方向にずらし、ツメからフィルターカバーを抜く



6 フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。



7 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは次の時期を目安に交換してください。

15,000km［7,500km※1］ごと、ただし 12ヶ月をこえないこと ※2

※1 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

※2 芳香剤などの使用により脱臭寿命が著しく低下する場合があります。エアコンの臭いが気になりだしたらフィルターを交換してください。

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

⚠注意

■エアコンを使用するときの注意

●フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。

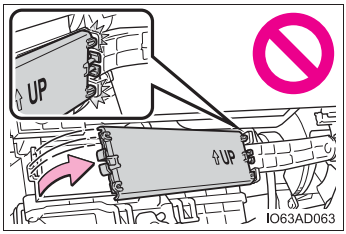
●フィルターは交換するタイプです。
水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■グローブボックスを取りはずすとき

必ず指定の手順（→ P. 551）に従って取りはずしてください。正しい方法で取りはずさないと、グローブボックス下部の結合部が破損するおそれがあります。

■フィルターカバーの破損を防ぐために

フィルターカバーの固定を解除するときに、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力が加わらないよう注意してください。
ツメが破損するおそれがあります。



ワイパーゴムの交換

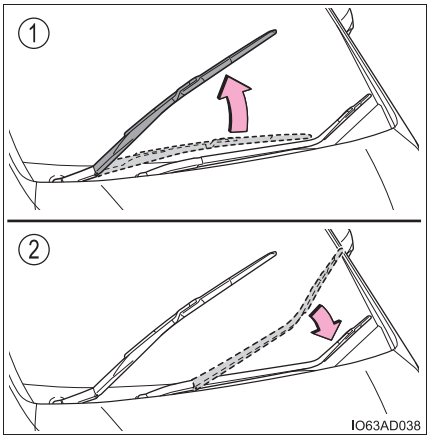
ワイパーゴムを交換する際は、次の要領でワイパーの各部品を操作してください。

ワイパーアームの取り扱い方法

■ フロントワイパー

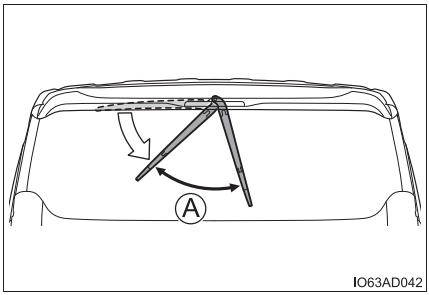
① ワイパーアームを起こすときは、運転席側から助手席側の順番でアームを持ち上げる

② もとの位置にもどすときは、助手席側から運転席側の順にアームを降ろす



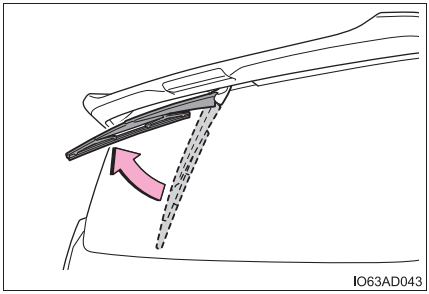
■ リヤワイパー

1 リヤワイパースイッチ（→ P. 286）でリヤワイパーを作動させ、リヤワイパーが図のⒶに示す範囲内に入ったら、エンジンスイッチを OFF にしてリヤワイパーを停止させる



2 ワイパーアームを起こす

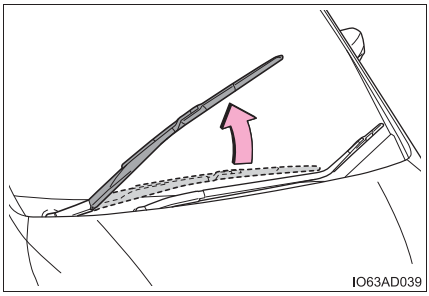
ワイパーアームをもとにもどしたあとは、忘れずにリヤワイパースイッチを OFF にしてください。



フロントワイパー

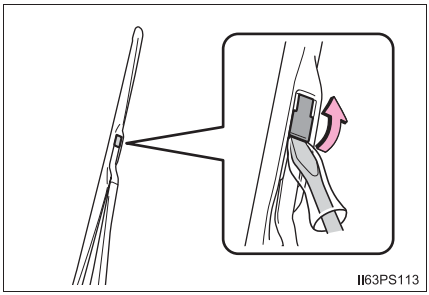
■ フロントワイパーブレードの脱着

1 ワイパーアームを起こす



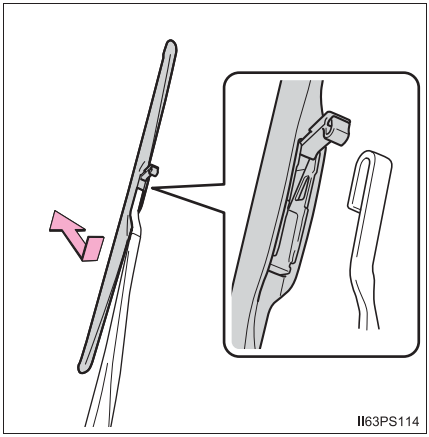
2 図のようにマイナスドライバーを挿し込んで、ストッパーを起こす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



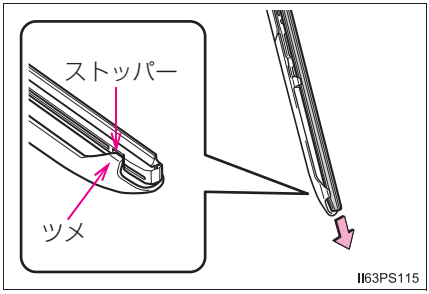
3 ワイパーブレードをスライドさせ、ワイパーアームから取りはずす

取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付けます。



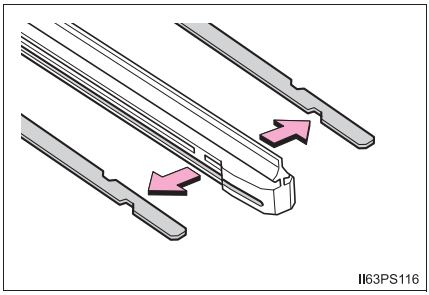
■ ワイパーゴムの交換

1 ワイパーゴムを引っ張り、ワイパーブレードのツメをストッパーからはずし、そのまま引き抜く



2 引き抜いたワイパーゴムから金属プレート 2 枚を取りはずし、新しいワイパーゴムに付けかえる

金属プレートの切り欠きと反りの方向が、もとどおりになっていることを確認してください。



3 ストッパーがない側を先にして、ワイパーゴムをワイパーブレードに挿入する

4 ワイパーブレードのツメで、ワイパーゴムのストッパーを確実に固定する

リヤワイパー

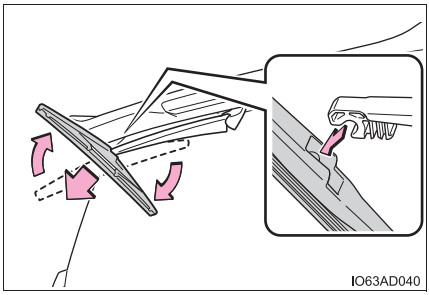
■ リヤワイパーブレードの脱着

1 ワイパーアームを起こす（→ P. 554）

2 「カチッ」と音がしてツメのかん合がはずれる位置までワイパーブレードを起こし、ワイパーアームからワイパーブレードを取りはずす

取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付けます。

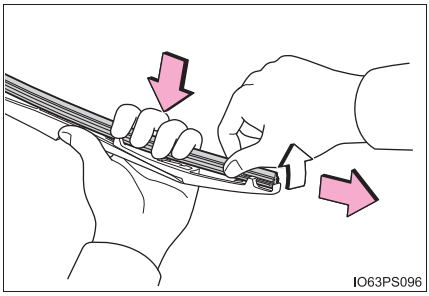
ワイパーブレードを取り付けたあとは、接続部が確実にロックされていることを確認してください。



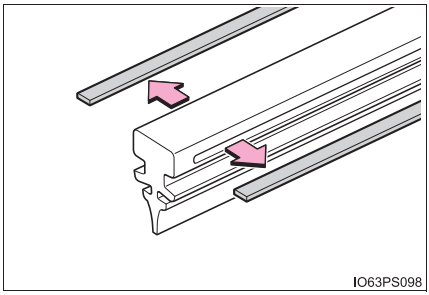
■ ワイパーゴムの交換

1 ワイパーブレードのストッパーからワイパーゴムを引き出し、そのまま引き抜く

ワイパーブレードのツメとツメの中央付近を軽く握って押すとワイパーゴムが浮き上がり、引き抜きやすくなります。

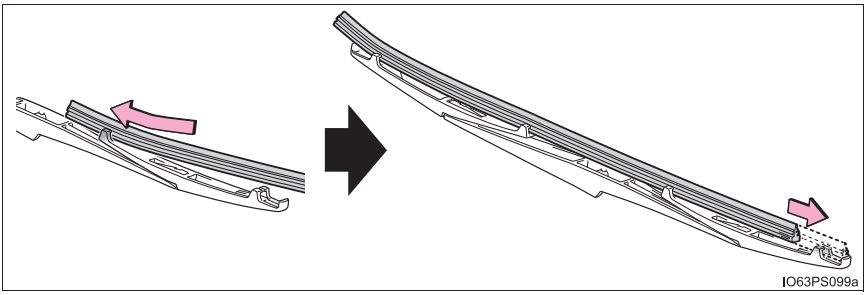


2 引き抜いたワイパーゴムから金属プレート 2 枚を取りはずし、新しいワイパーゴムに付けかえる



3 ワイパーブレード中央部のツメを通してワイパーゴムを挿入し、3つのツメに通したらストッパーからはみ出させ、残った1つのツメに通す

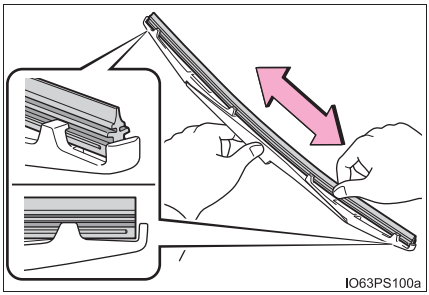
ワイパーゴムにウォッシャー液を少量塗布すると、溝に入れやすくなります。



4 ワイパーブレードのツメがワイパーゴムの溝に入っているか確認する

・ワイパーゴムの溝にワイパーブレードのツメが入っていない場合は、ワイパーゴムをつまみ、数回スライドすると溝に入れることができます。

・ワイパーゴムの中央部を軽く持ち上げると、スライドさせやすくなります。



知識

■ワイパーブレード・ワイパーゴムの取り扱いについて

誤った取り扱いをすると、ワイパーブレード、またはワイパーゴムが損傷するおそれがあります。ご自身でのワイパーブレード・ワイパーゴムの交換に不安がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■リヤワイパーアームを起こすとき

リヤワイパーがリヤスポイラーにあたらないことを確認しながらゆっくりと引き起こしてください。いっぱいまで起こしリヤスポイラーにあたりそうなときは、いったんリヤワイパーアームをもどし、最初に止めた位置よりも下を向くように、リヤワイパーの停止位置を調整してください。

⚠注意

■損傷を防ぐために

●ワイパーアームを起こすときは、必ず運転席側を先に立ててから助手席側を立ててください。また、もとにもどすときは、必ず助手席側から先にもどしてください。

●ワイパーゴムを交換するときは、ツメの破損に注意してください。

●ワイパーアームからワイパーブレードを取りはずしたあとはフロントウインドウガラスが傷付かないように、フロントウインドウガラスとワイパーアームのあいだに布などを挟んでください。

●無理にワイパーゴムを引き出したり、ワイパーゴムの金属プレートが変形しないようにしてください。

キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

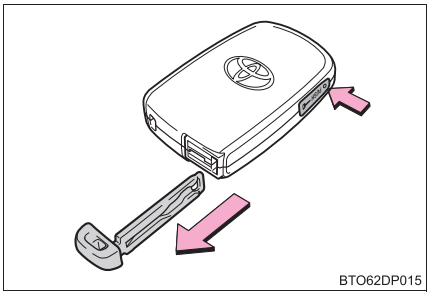
用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池 CR2032

電池交換のしかた

▶パワーバックドア非装着車

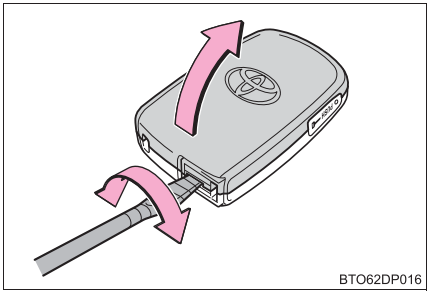
1 メカニカルキーを抜く



2 カバーをはずす

適切なサイズのマイナスドライバーをご使用ください。無理にこじった場合、カバーが変形するおそれがあります。

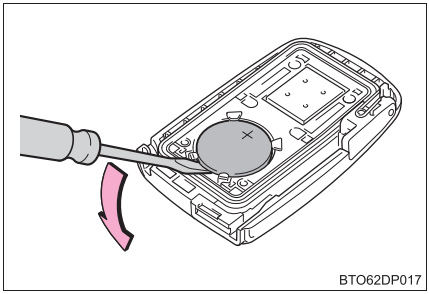
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



3 消耗した電池を取り出す

カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子キーのモジュールが貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子キーのモジュールをひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

電池をはずす際は、適切なサイズのマイナスドライバーをご使用ください。

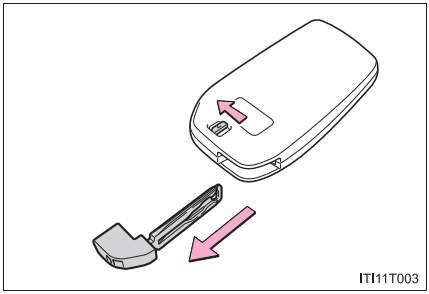

BTO62DP017

新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。

4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

▶パワーバックドア装着車

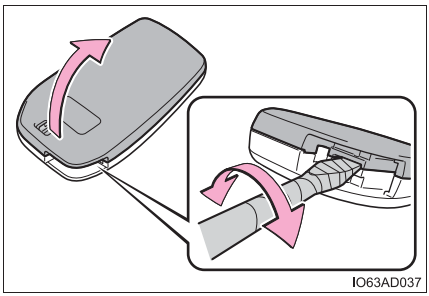
1 メカニカルキーを抜く


ITI11T003

2 カバーをはずす

適切なサイズのマイナスドライバーをご使用ください。無理にこじった場合、カバーが変形するおそれがあります。

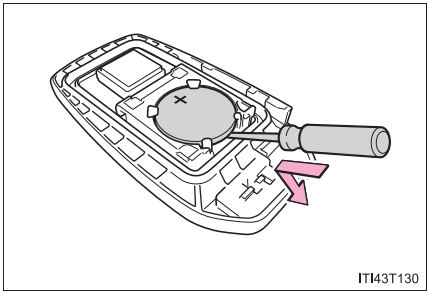
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。


IO63AD037

3 消耗した電池を取り出す

カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子キーのモジュールが貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子キーのモジュールをひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

電池をはずす際は、適切なサイズのマイナスドライバーをご使用ください。



新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。

4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■リチウム電池 CR2032 の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

●スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレス機能が作動しない

●作動距離が短くなる

■キーの電池を交換したときは

キーのスイッチを押し、本体の LED が点灯することを確認します。

警告

■電子キーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
- 電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか 2 時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。
- カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

■電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために

- 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
- 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
- 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

注意

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
  錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

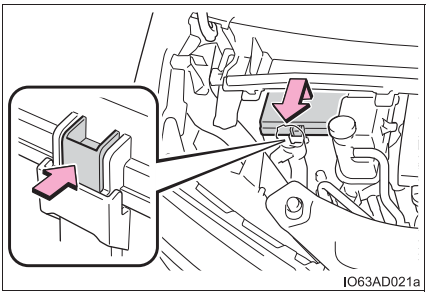
ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

1 エンジンスイッチを OFF にする

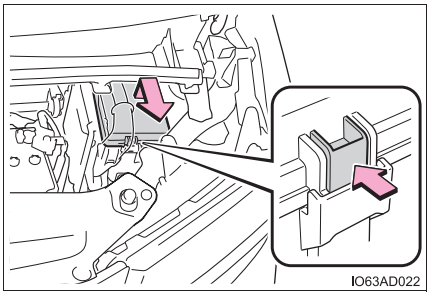
2 ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム（1）



ツメを押してロックをはずし、フタを持ち上げながら手前に引いて取りはずす

▶ エンジンルーム（2）



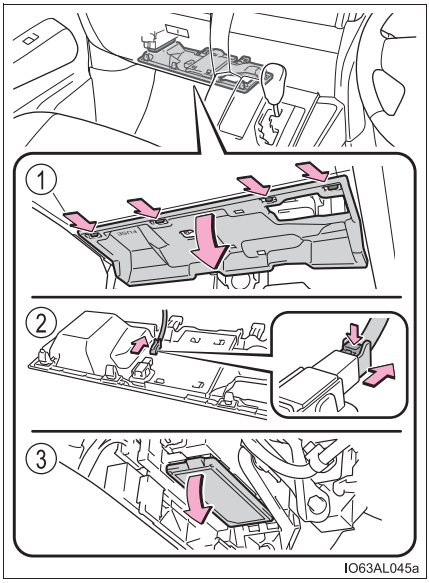
ツメを押してロックをはずし、フタを持ち上げながら手前に引いて取りはずす

▶ 助手席足元

① ツメを押してアンダーカバーを取りはずす

② ツメを押してコネクターを取りはずす（足元照明装着車）

③ カバーを取りはずす

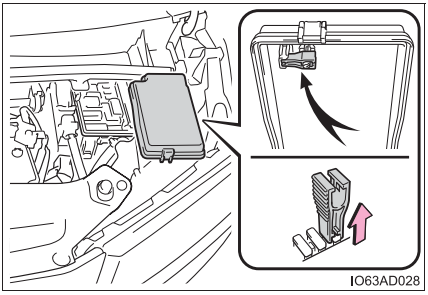


IO63AL045a

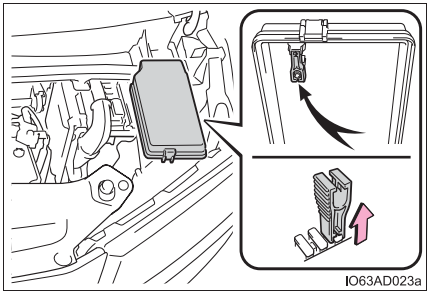
3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。

▶ 2AR-FE エンジン搭載車


IO63AD028

▶ 2GR-FKS エンジン搭載車

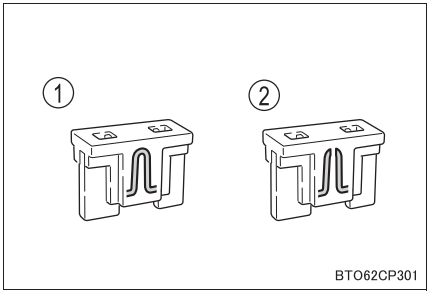

IO63AD023a

4 ヒューズが切れていないか点検する

① 正常

② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



知識

■ヒューズを交換したあとは

●交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。（→ P. 567）

●交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

外装のランプの交換

外装のランプが点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

知識

■LED ランプについて

次のランプは、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ●ヘッドランプ（前照灯）
- ●フロントフォグランプ
- ●コーナリングランプ★
- ●方向指示灯／非常点滅灯
- ●車幅灯／デイライト★
- ●制動灯／尾灯
- ●制動灯
- ●尾灯★
- ●後退灯
- ●リヤフォグランプ★
- ●ハイマウントストップランプ
- ●番号灯

■レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- ●レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ●ランプ内に水がたまっている

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

万一の場合には 7

7-1. まず初めに

故障したときは.....570
非常点滅灯
（ハザードランプ）.....571
発炎筒.....572
車両を緊急停止するには.....574
水没・冠水したときは.....575

7-2. 緊急時の対処法

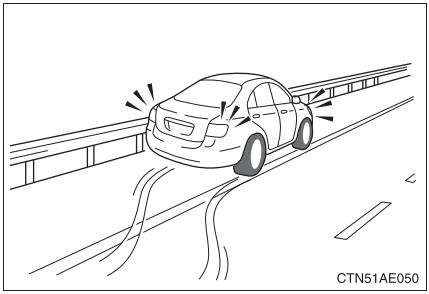
けん引について.....577
フューエルポンプ
シャットオフシステム.....586
警告灯がついたときは.....587
警告メッセージが表示
されたときは.....593
パンクしたときは
（タイヤパンク
応急修理キット装着車）.....599
パンクしたときは
（応急用タイヤ装着車）.....617
エンジンが
かからないときは.....630
電子キーが正常に働かない
ときは.....632
バッテリーが
あがったときは.....635
オーバーヒートしたときは...641
スタックしたときは.....644

故障したときは

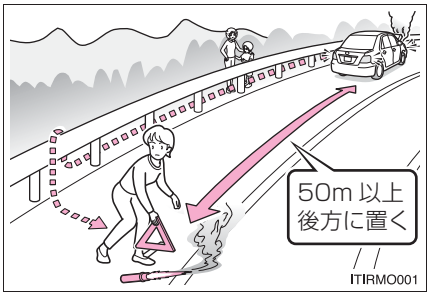
故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

非常点滅灯（→ P. 571）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

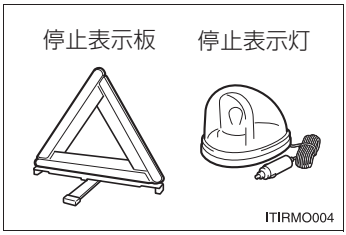


- 同乗者を避難させる
- 車両の50m 以上後方に発炎筒（→ P. 572）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
  - ・見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
  - ・発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する

知識

■停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。



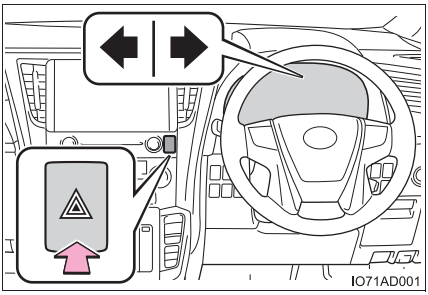
非常点滅灯（ハザードランプ）

事故などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

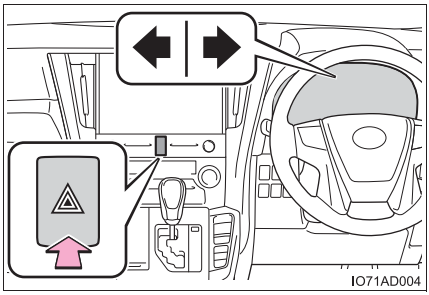
スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。

▶ T-connect　ナビゲーションシステム非装着車



▶ T-Connect　ナビゲーションシステム装着車



知識

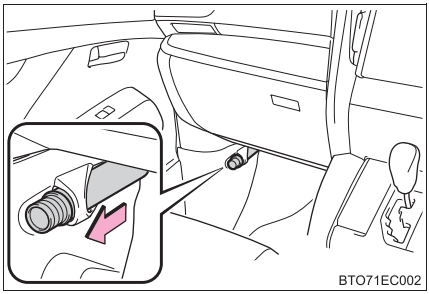
■非常点滅灯について

エンジン停止中に非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

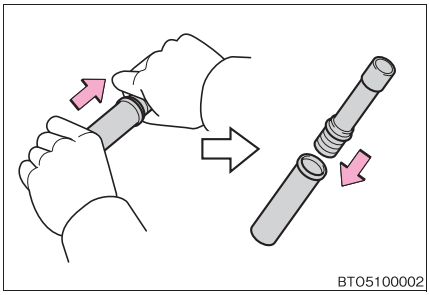
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約５分です。非常点滅灯と併用してください。

1 助手席足元の発炎筒を取り出す

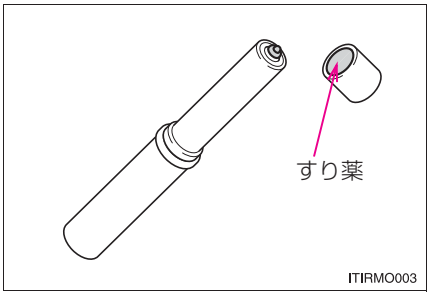


2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



3 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。



知識

■発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。
有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトレバーを N に入れる

▶ シフトレバーが N に入った場合

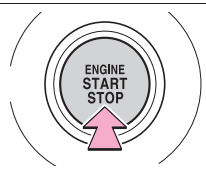
3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 エンジンを停止する

▶ シフトレバーが N に入らない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してエンジンを停止する



2 秒以上押す、または 3 回以上連続で押す

CTY52AD212

5 車を安全な道路脇に停める

警告

■**走行中にやむを得ずエンジンを停止するとき**

ブレーキの効きが悪くなると共にハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウインドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

  車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

知識

■水位がフロアを超えると

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウインドウやパワースライドドアが作動しなくなったり、エンジンが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■緊急脱出用ハンマー※の使用について

この車両のフロントウインドウガラスとドアガラスには合わせガラス★が使用されております。
合わせガラスは、緊急脱出用ハンマー※で割ることができません。

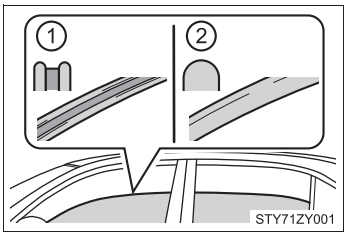
※ 詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

■合わせガラスの見分け方

ガラスの断面を上から見たとき、2 枚の板ガラスを貼り合わせてあるのが合わせガラスです。

① 合わせガラス

② 強化ガラス



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**走行中の警告**

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

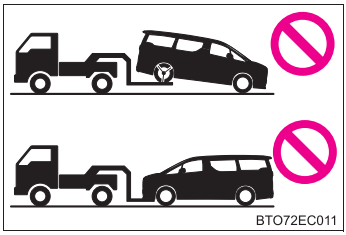
警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■レッカー車でけん引するとき

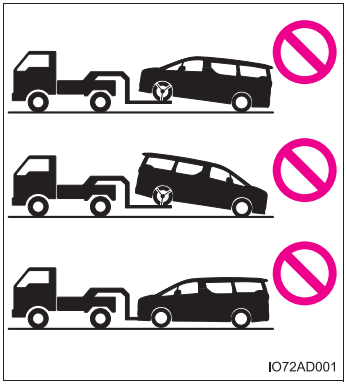
▶FF 車

必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損するおそれがあります。



▶4WD 車

4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり車が台車から飛び出したりするおそれがあります。



警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■他車にけん引してもらうときの運転について

●けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。

●エンジンスイッチを OFF にしないでください。
ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

■けん引フックを車両に取り付けるとき

●けん引フックは、搭載されている車両専用です。他の車のけん引フックを使用したり、この車のけん引フックを他の車に取り付けたりしないでください。

●指定の位置にしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかり取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

注意

■車両の損傷を防ぐために

●他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない
・速度 30 km/h 以下、距離 80 km 以内でけん引する
・前進方向でけん引する
・サスペンション部などにロープをかけない

●この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で前輪を持ち上げるか（FF 車）、4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

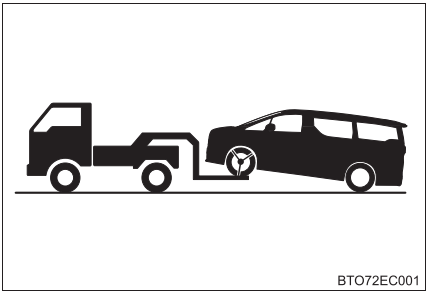
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

● エンジンはかかるが車が動かない
● 異常な音がする

レッカー車でけん引するとき

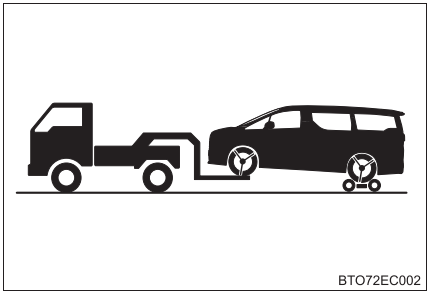
▶ 前向きにけん引するときは（FF 車）



パーキングブレーキを解除する

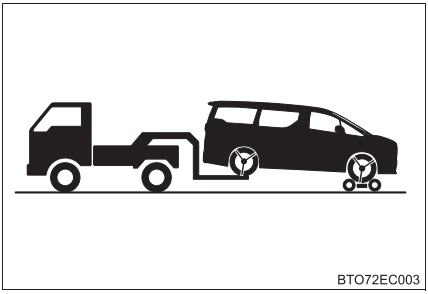
オートモードを OFF にしてください。（→ P. 261）

▶ 前向きにけん引するときは（4WD 車）



台車を使用して後輪を持ち上げる

▶ うしろ向きにけん引するときは

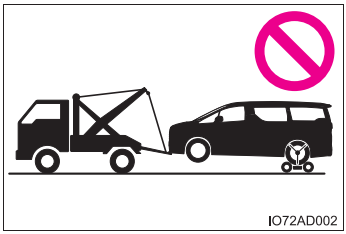


台車を使用して前輪を持ち上げる

⚠ 注意

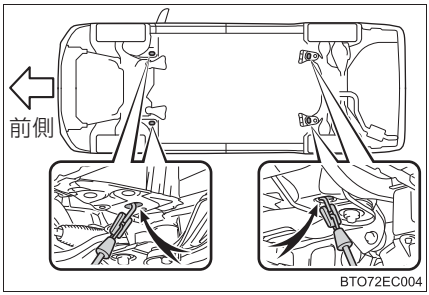
■ **レッカー車でけん引するとき**

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

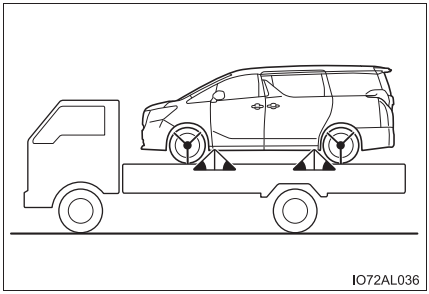


車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する



鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が 45° になるように固縛する



注意

■車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

他車にけん引してもらうとき

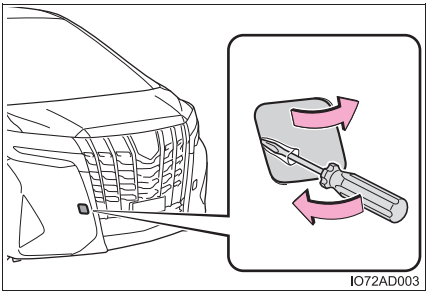
他車にけん引してもらうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

1 けん引フックを取り出す（→ P. 602, 618）

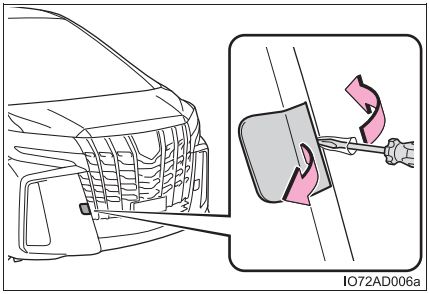
2 マイナスドライバーを使って、けん引フックを取り付ける側のフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

▶ 標準モデル

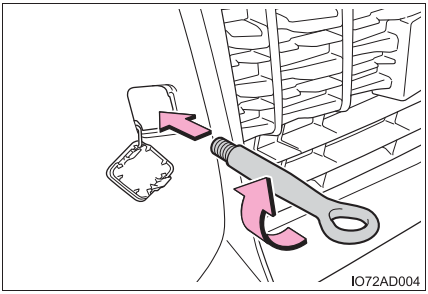


▶ エアロモデル

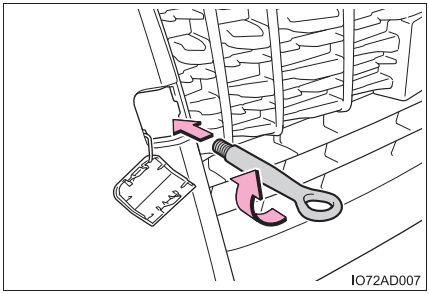


3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める

▶ 標準モデル



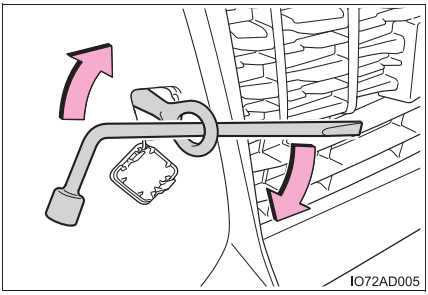
▶ エアロモデル



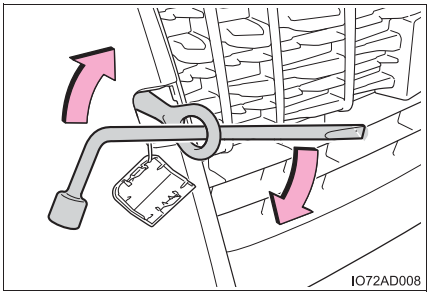
4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

締め付ける際、ホイールナットレンチや金属の固い棒などで車体を傷付けないように注意してください。

▶ 標準モデル



▶ エアロモデル

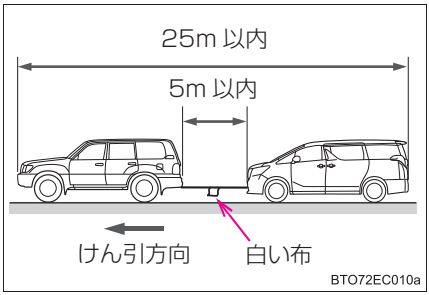


5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3 m 平方（30 cm×30 cm）以上



7 運転者はけん引される車両に乗り、エンジンをかける

けん引される前に、いったんエンジンスイッチを OFF にしたあと、エンジンをかけてください。（Stop & Start システム装着車のみ）

エンジンがかからないときは、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしてください。

PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にしてください。（→ P. 400）

8 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

オートモードを OFF にしてください。（→ P. 261）

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは：→ P. 257

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

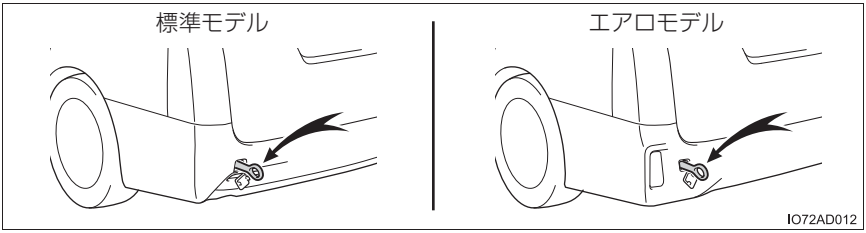
エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールナットレンチについて

ラゲージルーム内に搭載されています。（→ P. 602, 618）

■緊急用フックについて

雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったとき、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。



■リヤ側にフックを取り付けるとき

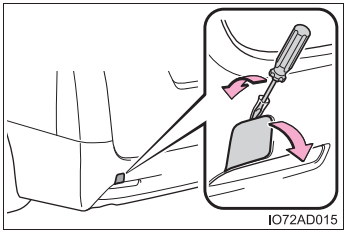
緊急用フックを取り付けるときは、手順に従って取り付けてください。

▶標準モデル

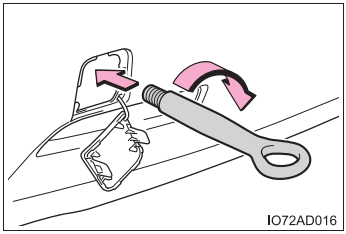
1 トランク内のホイールナットレンチ、マイナスドライバー、けん引フックを取り出す（→ P. 602, 618）

2 図に示す部分を手で押して隙間を作り、マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、ドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

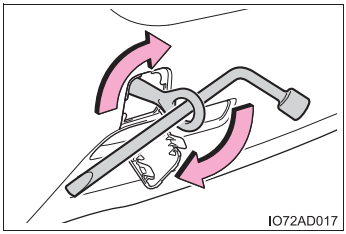


3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

締め付ける際、ホールナットレンチや金属の固い棒などで車体を傷付けないように注意してください。

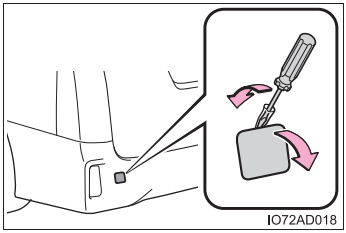


▶エアロモデル

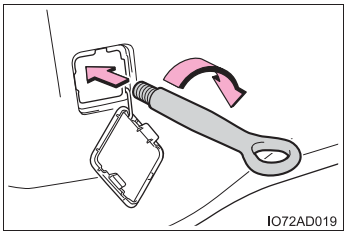
1 トランク内のホイールナットレンチ、マイナスドライバー、けん引フックを取り出す（→P. 602, 618）

2 図に示す部分を手で押して隙間を作り、マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、ドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

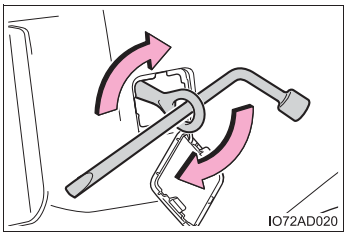


3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

締め付ける際、ホールナットレンチや金属の固い棒などで車体を傷付けないように注意してください。



⚠注意

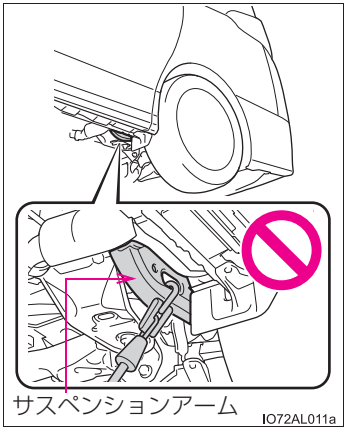
■緊急用フックについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

- やむを得ない場合以外は使用しないでください。
- 緊急用フックで他車をけん引しないでください。

■車両のうしろ側を固縛するときは

リヤサスペンションが損傷するおそれがあるため、図で示すサスペンションアームには絶対に固縛フックをかけないでください。



■Stop & Start システム装着車をけん引をするときは

4 輪すべてを接地した状態でのけん引が必要な場合は、システム保護のため、けん引される前にいったんエンジンスイッチを OFF にしてから、エンジン始動またはエンジンスイッチをイグニッション ON モードにしてください。

フューエルポンプシャットオフシステム

エンジン停止時および SRS エアバッグ作動時は、フューエルポンプシャットオフシステムが作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。

システムが作動したあと、エンジンを始動するには、次の手順に従ってください。

1 エンジンスイッチをアクセサリーモードまたは OFF にする

2 エンジンを再始動する

注意

■**エンジンを始動する前に**

車両下をよく確認してください。
地面に燃料もれを見つけた場合は、燃料システムに損傷があり、修理する必要があります。その場合はエンジンを再始動しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
（赤色）	**ブレーキ警告灯（警告ブザー ※1）** ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**
	充電警告灯 充電系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**
	油圧警告灯 ※4（警告ブザー ※5） エンジンオイルの圧力が異常に低い **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**
	高水温警告灯 ※4 エンジン冷却水の高温異常 **→ ただちに安全な場所に停車して点検する（→ P. 641）**
（黄色）	**ブレーキ警告灯** 電動パーキングブレーキシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	エンジン警告灯 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・ SRS エアバッグシステムの異常 ・ プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	ABS &ブレーキアシスト警告灯 ・ ABS の異常 ・ ブレーキアシストの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
（赤色 / 黄色）	**パワーステアリング警告灯（警告ブザー）** EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	スリップ表示灯 ・ VSC システムの異常 ・ TRC システムの異常 ・ ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** VSC・TRC システム作動時は点滅します。
HOLD （点滅）	**ブレーキホールド作動表示灯** ・ ブレーキホールドステムの異常 ・ ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
OFF （点滅）	**Stop & Start キャンセル表示灯★** Stop & Start システムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** Stop & Start システム非作動時は点灯します。（→ P. 359）
P OFF （点滅）	**クリアランスソナー OFF 表示灯（警告ブザー）** ・ センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない ・ クリアランスソナーの異常 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→ P. 387）警告メッセージが表示されたままの場合はただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
RCTA OFF （点滅）	**RCTA OFF 表示灯★（警告ブザー）** ・レーダーセンサー周辺のリヤバンパー上方に汚れや付着物がある ・RCTA（リヤクロストラフィックアラート）の異常 **→ センサー周辺のリヤバンパー上方の氷・雪・泥などを取り除いてください。（→ P. 392）警告メッセージが表示されたままの場合はただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
OFF （点滅）	**PKSB OFF 表示灯（警告ブザー）** ブザーが鳴った場合： PKSB（パーキングサポートブレーキ）の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** ブザーが鳴らなかった場合： センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→ P. 405, 593）**
OFF （点滅または点灯）	**PCS 警告灯** 警告ブザーが鳴った場合： プリクラッシュセーフティの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** 警告ブザーが鳴らない場合： プリクラッシュセーフティが一時的、または対処を行うまで作動停止している **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→ P. 297）** プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。 **→ P. 308**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	ペダル誤操作警告灯 ※4 ブザーが鳴った場合： ・ブレーキオーバーライドシステムの異常 ・ドライブスタートコントロールの異常 ・PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動した（→ P. 401） ・アクセルペダルを踏んだ状態でシフト操作が行われたことにより、ドライブスタートコントロールが作動 **→ ただちにアクセルペダルを離してください。** **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。** ブザーが鳴らなかった場合： アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたことにより、ブレーキオーバーライドシステムが作動 **→ アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。**
（点滅）	**パーキングブレーキ表示灯** パーキングブレーキが完全にかかっていない、または解除されていない可能性があります。 **→ パーキングブレーキスイッチを再度操作してください。** パーキングブレーキが解除されていないときは点灯します。解除後、消灯すれば正常です。
	半ドア警告灯（警告ブザー ※2**）** いずれかのドアが確実に閉まっていない **→ 開いているドアを閉める**
	燃料残量警告灯 ・燃料の残量が約 11 L 以下になった（FF 車） ・燃料の残量が約 10L 以下になった（4WD 車） **→ 燃料を補給する**
	シートベルト非着用警告灯（警告ブザー ※3**）** 運転席・助手席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する**
	マスターウォーニング システムの異常時にブザーと共に点灯・点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージを表示します。 → P. 593

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
（橙色）	**LTA 表示灯 ※4（警告ブザー）** LTA（レーントレーシングアシスト）の異常 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→ P. 320）**

※1 ブレーキ警告ブザー：
警告灯が点灯している状態で、車速が約 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。
ブザーが鳴ったときは、ブレーキ液の不足が考えられます。

※2 半ドア走行時警告ブザー：
→ P. 118

※3 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間継続的に鳴ります。

※4 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※5 油圧警告ブザー：
警告灯が点灯している状態で、車速が約 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。

知識

■シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

●助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。

●助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

警告

■**警告灯の点灯や警告ブザーの吹鳴に合わせて、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき**

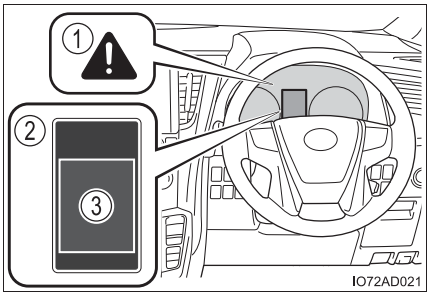
メッセージの内容に従って対処してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**パワーステアリング警告灯が点灯したとき**

黄色に点灯したときは操作力補助が制限され、赤色に点灯したときは操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。



① マスターウォーニング

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。※

② マルチインフォメーションディスプレイ

③ 対処方法

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージに従ってください。

処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

※ メッセージの内容によっては、マスターウォーニングが連動しない場合があります。

メッセージと警告作動

メッセージの内容によって警告灯や警告ブザーの作動が次のように切りかわります。ディーラーで点検をするように表示されたときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

	専用警告灯	警告ブザー ※	警告内容
点灯	―	あり	走行にかかわるシステムの故障や、そのまま放置すると思わぬ危険を招くおそれがあるなどの重要なメッセージを意味します。
―	点灯または点滅	あり	表示されたシステムに故障のおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点滅	―	あり	車両への損傷や、思わぬ危険を招くおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点灯	―	なし	電装品の故障や状態、メンテナンスのお知らせなどのメッセージを意味します。
点滅	―	なし	車両を正しく操作していない場合や、操作方法のアドバイスなどを意味します。

上記の点灯状況、ブザーの吹鳴状況と異なる場合があります。その際は表示された内容に従ってすみやかに対応してください。

※ メッセージを最初に表示したときに作動します。

知識

■警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■専用警告灯について

次の内容のメッセージ、または画像が表示されたときは、マスターウォーニングが点灯・点滅しません。その場合は個別の専用警告表示を行います。

●「ABS 故障 販売店で点検してください」が表示されている：
ABS ＆ブレーキアシスト警告灯が点灯します。（→ P. 588）

●開いているドアまたは、ボンネット※ が表示されている：
半ドア警告灯が点灯します。（→ P. 590）

※ ボンネットのみが開いている場合、半ドア警告灯は点灯しません。

■「販売店で点検してください」の警告メッセージが表示されたとき

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。

すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■各部の操作に関するメッセージが表示されたとき

●アクセルペダル・ブレーキペダルの操作に関するメッセージが表示されたとき

・PCS（プリクラッシュセーフティ）やレーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）などの走行支援システムの作動中、ブレーキ操作に関する警告メッセージが表示される場合があります。
メッセージが表示されたときは、必ず減速、または画面で指示された操作を行ってください。

・ブレーキオーバーライドシステム・ドライブスタートコントロール・PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動したときに、警告メッセージが表示されます（→ P. 236, 236, 401）。
画面の指示に従って対処してください。

●エンジンスイッチの操作に関するメッセージが表示されたとき

正しい手順で始動操作をしていないときや、誤操作の可能性があるときなどに、エンジンスイッチの操作に関するアドバイスが表示されます。
画面の指示に従って操作し直してください。

●シフトレバーの操作に関するメッセージが表示されたとき

誤ったシフトポジションの選択や、停車中の意図せぬ車両の動き出しなどを防止するため、シフトレバーの操作が指示されることがあります。
その場合は、画面の指示に従ってシフトポジションを変更してください。

●各部の開閉状態や、消耗品の補充などに関するメッセージ・画像が表示されたとき

画面の表示、または警告灯で指示された部位を確認し、開いているドアを閉めたり、消耗品を補充したりするなどの対処を行ってください。

■「取扱書を確認」の警告メッセージが表示されたとき

●次のメッセージが表示されたときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

・「エンジン油圧不足 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」
・「故障のためブレーキ力が低下 安全な場所に停車して取扱書を確認」

●「スマートエントリー＆スタートシステム故障　取扱書を確認」が表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

●「エンジン冷却水高温　安全な場所に停車して取扱書を確認してください」が表示されたときは、対処方法に従ってください。（→ P. 641）

■「駐車時は P レンジに入れてください」が表示されたとき

シフトレバーが P 以外でエンジンスイッチを OFF にせずに運転席ドアが開いたときにメッセージが表示されます。

駐車時は P にしてください。

■「バッテリー保護のため自動で電源を off しました」が表示されたとき

自動電源 OFF 機能が作動したときに表示されます。

この場合、次回エンジン始動時にエンジン回転数を少し高めにし、約 5 分間その回転数を保持しバッテリーを充電してください。

■「エンジン停止のため ハンドルが重くなります」が表示されたとき

走行中にエンジンが停止したときにメッセージが表示されます。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■「エンジンオイル量不足 補充するか、交換してください」が表示されたとき

エンジンオイルが不足しているときにメッセージが表示されます。エンジンオイル量を点検し、オイルを補給してください。

また、傾斜路などに停車したときに表示される場合があります。水平な路面に移動し、メッセージが表示されるか確認してください。

■前方カメラの異常を示すメッセージが表示されたときは

メッセージに表示された異常が解消されるまで、以下のシステムは作動しない可能性があります。（→ P. 297, 589）

●PCS（プリクラッシュセーフティ）

●LTA（レーントレーシングアシスト）

●AHS（アダプティブハイビームシステム）★

●AHB（オートマチックハイビーム）★

●RSA（ロードサインアシスト）

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

●先行車発進告知機能

■レーダーの異常を示すメッセージが表示されたときは

メッセージに表示された異常が解消されるまで、以下のシステムは作動しない可能性があります。（→ P. 297, 589）

●PCS（プリクラッシュセーフティ）

●LTA（レーントレーシングアシスト）

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

●先行車発進告知機能

■「クルーズコントロール使用不可　取扱書を確認ください」が表示されたとき

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）のシステムが一時的、または対処を行うまで使用できません。（要因および対処方法→ P. 297）

■「クルーズコントロール　現在使用できません」が表示されたとき

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）のシステムが一時的に使用不可と判断されています。しばらく走行してからレーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を再度設定してください。

■警告ブザーについて

→ P. 591

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**警告灯の点灯や警告ブザーの吹鳴に合わせて、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき**

メッセージの内容に従って対処してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■**「電力消費が大きいため一部の空調・ヒータ作動を制限中です」がひんぱんに表示されるときは**

充電系の異常やバッテリーが劣化している可能性があります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

タイヤパンク応急修理キット装着車には、スペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）。パンクしたタイヤの損傷状況により、応急修理キットでは応急修理できない場合があります。（→ P. 601）

タイヤパンク応急修理キットによる応急修理は、一時的な処置です。できるだけ早くタイヤを修理・交換してください。

警告

■**タイヤがパンクしたときは**

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

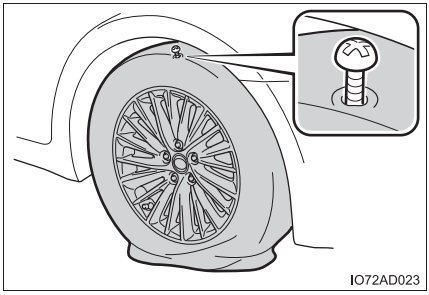
応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーをPに入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる（→P. 571）
- パワードアオフスイッチをONにする（→P. 123）
- タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

・タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。

・パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。



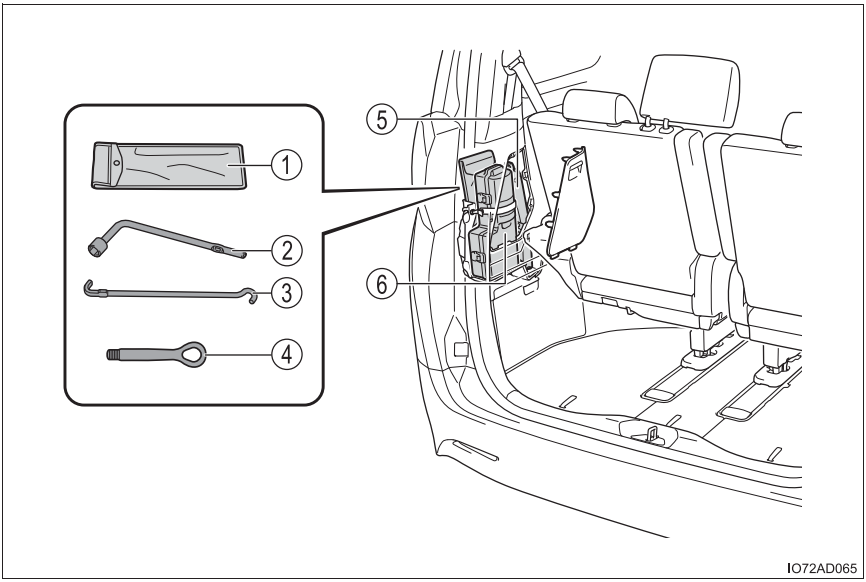
知識

■応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

- ●タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- ●タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- ●タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- ●タイヤに約 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ●ホイールが破損しているとき
- ●2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- ●1 本のタイヤに 2 箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ●補修液の有効期限が切れているとき

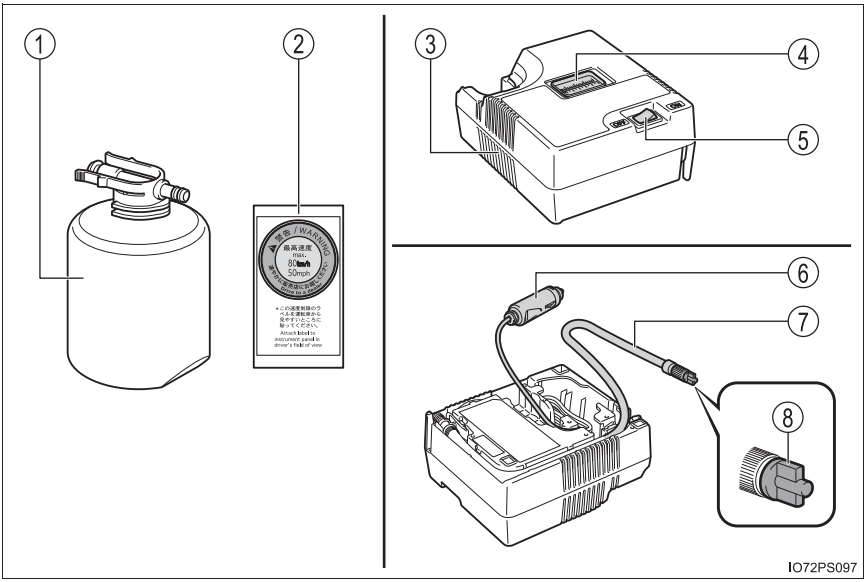
タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置



① 工具袋
② ホイールナットレンチ
③ ジャッキハンドル
④ けん引フック
⑤ ジャッキ ※1
⑥ タイヤパンク応急修理キット ※2

※1 ジャッキの使い方（→ P. 623）
※2 ケース内に収納されています。

タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称



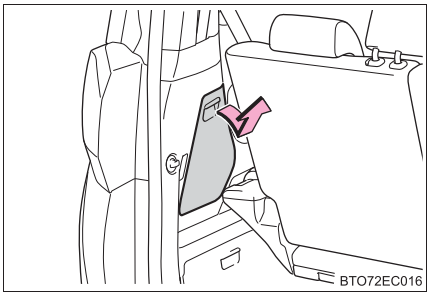
① ボトル
② 速度制限ラベル
③ コンプレッサー
④ 空気圧計
⑤ 電源スイッチ
⑥ 電源プラグ
⑦ ホース
⑧ 空気逃がしキャップ

タイヤパンク応急修理キットの取り出し方

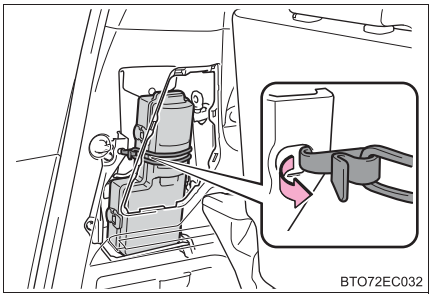
1 カバーを取りはずす

助手席側のサードシートをはね上げている（→ P. 197）ときは、シートをもとにもどしてから、カバーを取りはずしてください。

はね上げた状態ではサードシートが干渉し、カバーの取りはずしが困難になる場合があります。

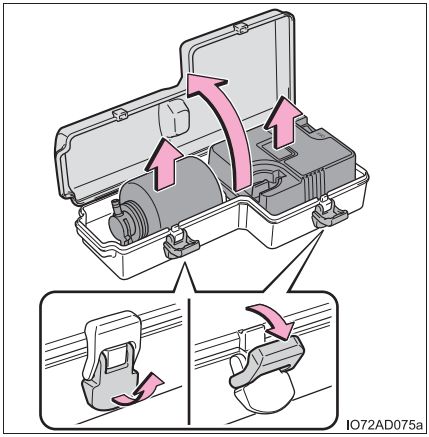


2 固定バンドのフックをはずし、タイヤパンク応急修理キットのケースを取り出す



3 ロック（2 箇所）をはずしてフタを開き、タイヤパンク応急修理キットを取り出す

使用後はもとどおりケースに収納します。



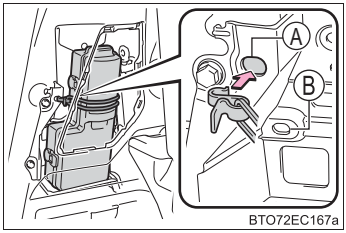
知識

■応急修理キットを使用したあとは

次の手順でもとどおり車両に搭載してください。応急修理キットが正しく搭載されていないと、走行中に異音の発生の原因となる可能性があります。

応急修理キットを固定するバンドのフックは、Ⓐの穴に掛けます。

Ⓑの穴は工具袋の固定に使用します。
(→ P. 621)

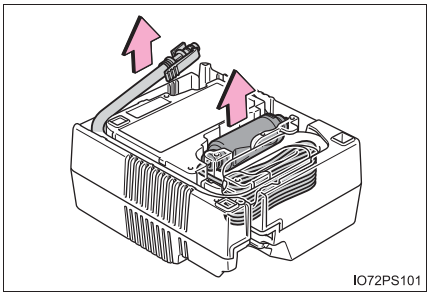


応急修理するとき

1 応急修理キットをケースから取り出す

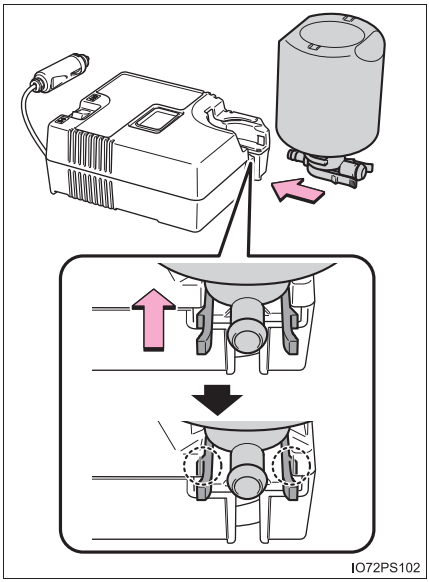
ボトルに同封されているラベルは、所定の位置へ貼り付けます。（手順10へ）

2 コンプレッサーからホースを取りはずし、電源プラグを取り出す



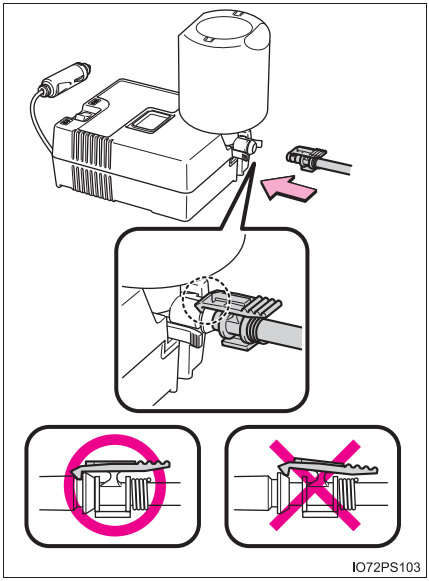
3 ボトルをコンプレッサーに接続する

図のように、ボトルをまっすぐコンプレッサーに挿入・接続し、ボトルのツメが穴に隠れていることを確認してください。

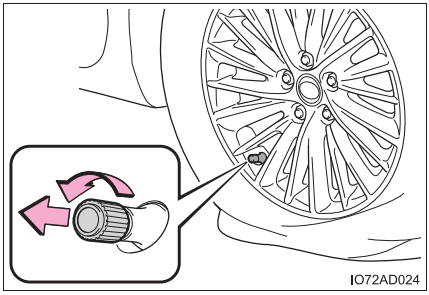


4 ホースをボトルに取り付ける

図のように、ボトルにホースがしっかり接続しているか確認してください。

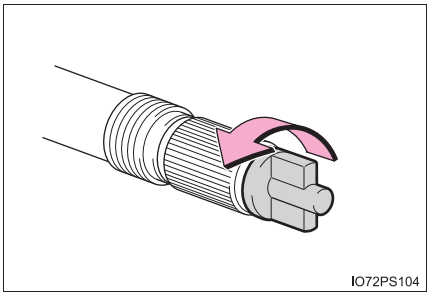


5 パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす



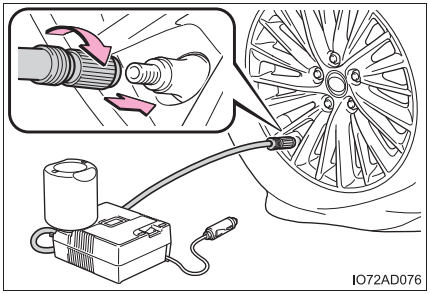
6 ホースをのばし空気逃がしキャップを取りはずす

空気逃がしキャップは再度使用するため、なくさないように保管してください。

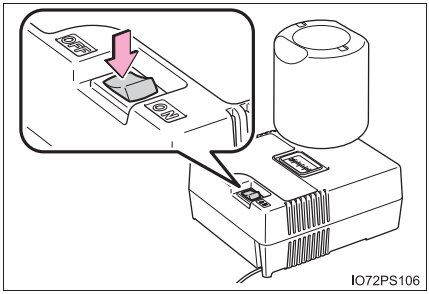


7 ホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

ホース先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込みます。

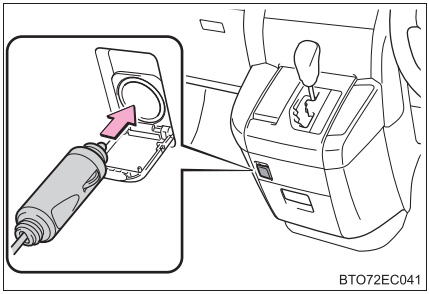


8 コンプレッサーのスイッチがOFF であることを確認する

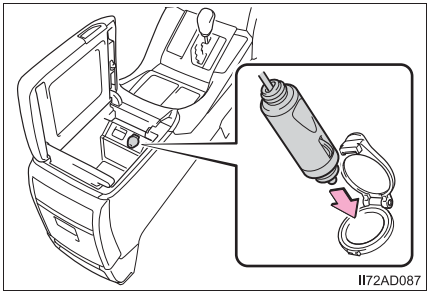


9 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む（→ P. 515）

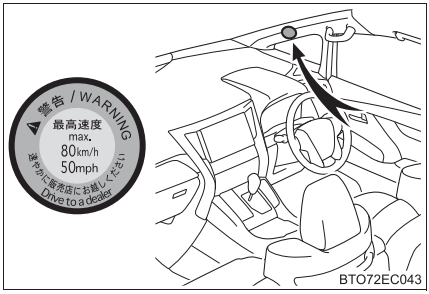
▶ 大型コンソールボックス非装着車



▶ 大型コンソールボックス装着車

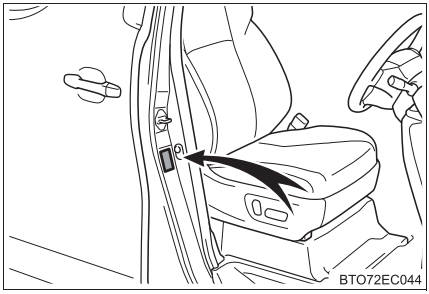


10 運転席から見やすい位置に、付属のラベルを貼り付ける



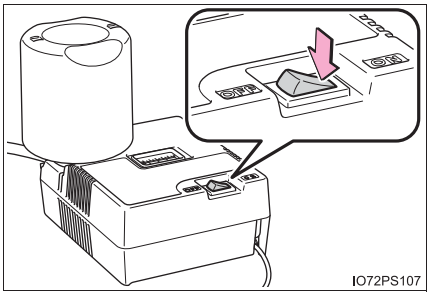
11 タイヤの指定空気圧を確認する

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。（→ P. 546）



12 エンジンを始動する（→ P. 246）

13 コンプレッサーのスイッチをONにし、パンク補修液と空気を充填する



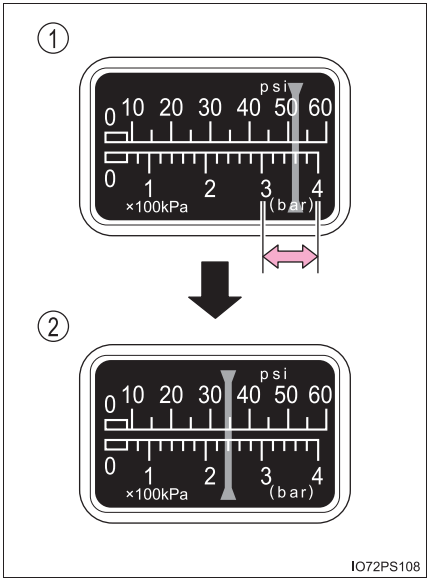
14 空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する

① 一時的に空気圧計が 300 ～ 400kPa(3.0～4.0kg/cm^2)まで上昇し、徐々に減少します。

② スイッチを ON にしてから約 1 ～ 5 分程度で実際の空気圧になります。

空気圧を確認するときは、コンプレッサーのスイッチを OFF にしてください。
空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

充填までに必要な時間は、約５～20 分です（外気温により異なります）。25 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。コンプレッサーのスイッチを OFF にして、トヨタ販売店にご連絡ください。



空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。
(→ P. 612, 653)

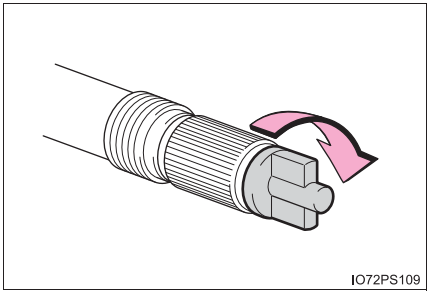
15 コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認した上で、アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

16 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

17 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



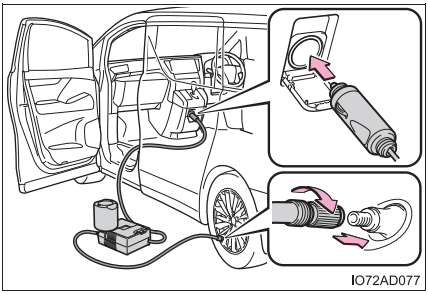
18 いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納する

19 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約 5km、速度 80km/h 以下で安全に走行する

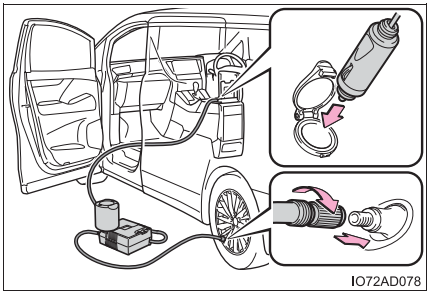
20 走行後、平坦な場所に停車して再度、応急修理キットを接続する

ホースを接続する前に、空気逃がしキャップを取りはずしてください。

▶ 大型コンソールボックス非装着車



▶ 大型コンソールボックス装着車

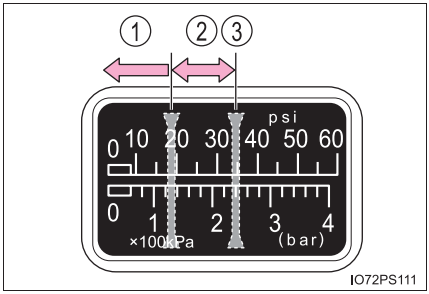


21 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にしてから再度 OFF し、空気圧を確認する

① 空気圧が130kPa（1.3kg/cm^2）未満の場合：応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

② 空気圧が130kPa（1.3kg/cm^2）以上、指定空気圧未満の場合：手順22へ

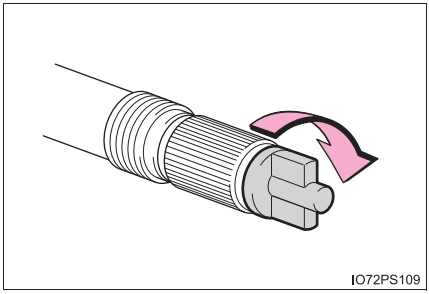
③ 空気圧が指定空気圧（→P. 653）の場合：手順23へ



22 コンプレッサーのスイッチをONにして指定空気圧まで空気を充填し、再度、約 5km 走行後にあらためて手順20から実施する

23 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



24 ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納する

25 急ブレーキ・急加速・急ハンドルを避け、走行距離が約 100km 以内、かつ 80km/h 以下の速度で、トヨタ販売店まで慎重に運転する

タイヤの修理・交換、応急修理キットの処理についてはトヨタ販売店にご相談ください。

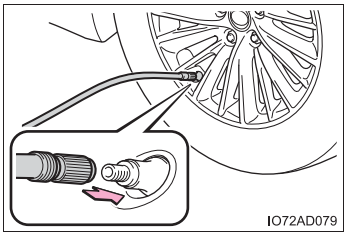
トヨタ販売店にてタイヤを修理・交換するときに、パンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。

知識

■空気を入れすぎてしまったとき

1 タイヤからボトルのホースを取りはずす

2 ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付け、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあて、空気を抜く



3 ボトルのホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する

4 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧計を確認する

指定空気圧より低いときは、再度コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■応急修理後のタイヤのバルブについて

応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■応急修理キットの点検について

パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。
有効期限はボトルに表示されています。
有効期限が切れたパンク補修液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

■補修液を廃棄するときは

補修液には環境に有害な物質が含まれています。補修液のボトル、および補修液の廃棄が必要な際は、トヨタ販売店、または都道府県知事の許可を受けた、専門の廃棄物処理業者に処理をご依頼ください。

■応急修理キットについて

●応急修理キットは自動車タイヤの空気充填用です。

●パンク補修液には有効期限があります。有効期限はボトルに表示されています。有効期限が切れる前に新しいボトルに交換してください。交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

●パンク補修液ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。

●外気温度が－30℃～60℃のときに使用できます。

●応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。

●パンク補修液が衣服に付着するとシミになる場合があります。

●パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。

●応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。

●タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

警告

■**タイヤがパンクしているときは**

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

■**応急修理キットについて**

●応急修理キットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■**パンク補修液について**

●誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。

●もし目に入ったり、皮膚に付いたりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

警告

■パンクしたタイヤを応急修理するときは

●車両を安全で平坦な場所に停止させてください。

●走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとボトルのホースをしっかりと接続してください。ホースの接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。

●パンク補修液注入中にボトルのホースがはずれると、圧力でホースが暴れ大変危険です。

●空気充填後は、ボトルのホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。

●作業手順に従って応急修理を行ってください。
手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。

●破裂の危険があるので、応急修理キット作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。

●応急修理キットは長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。40 分以上連続で作動させないでください。

●応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所付近の金属部分は特に熱くなるのでふれないでください。

●速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ作動部に速度制限ラベルを貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■補修液を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

●低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。

●車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、次のことを確認してください。

・タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
・再度、空気圧を測ってください。130kPa 未満の場合はタイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

⚠注意

■応急修理をするときは

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。
  取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。
- 応急修理キットは倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。

■応急修理キットについて

- 応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかると劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- 応急修理キットはケースに入れて砂ぼこりや水を避けて収納してください。
- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、空気圧計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）

パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。
（タイヤについての詳しい説明は P. 545 を参照してください）

警告

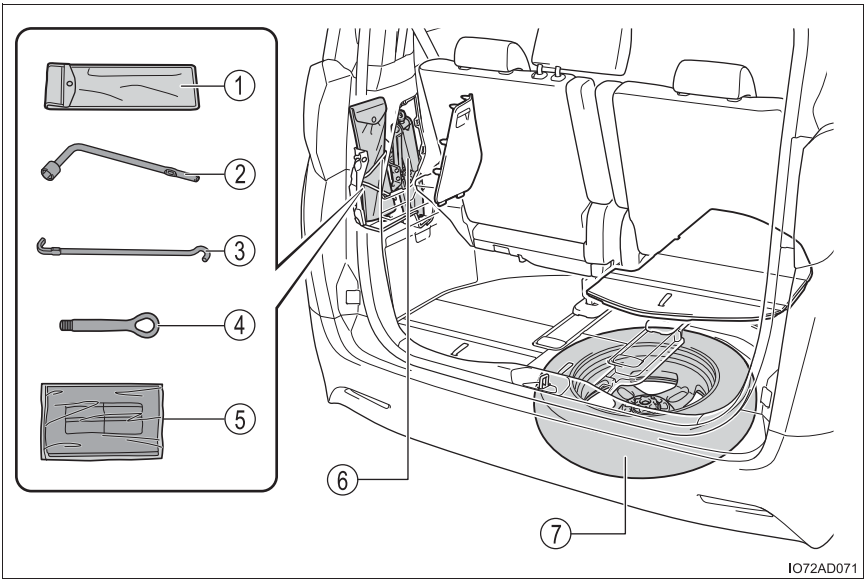
■タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる（→ P. 571）
- パワードアオフスイッチを ON にする（→ P. 123）

工具とジャッキの位置



① 工具袋
② ホイールナットレンチ
③ ジャッキハンドル
④ けん引フック
⑤ 汚れ防止シート
⑥ ジャッキ
⑦ 応急用タイヤ

警告

■**ジャッキの使用について**

次のことをお守りください。
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

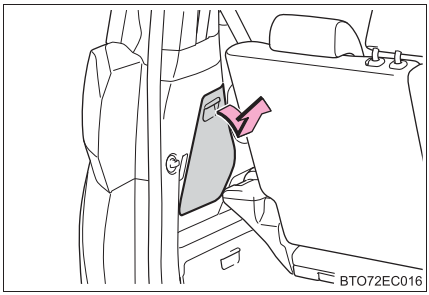
- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、エンジンを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

ジャッキ・工具の取り出し方

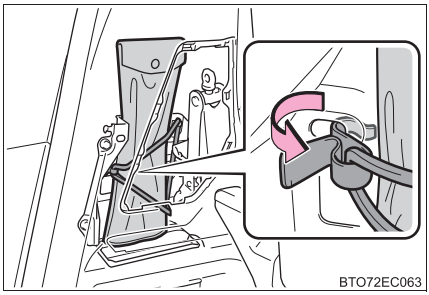
1 カバーを取りはずす

助手席側のサードシートをはね上げている（→ P. 197）ときは、シートをもとにもどしてから、カバーを取りはずしてください。

はね上げた状態ではサードシートが干渉し、カバーの取りはずしが困難になる場合があります。



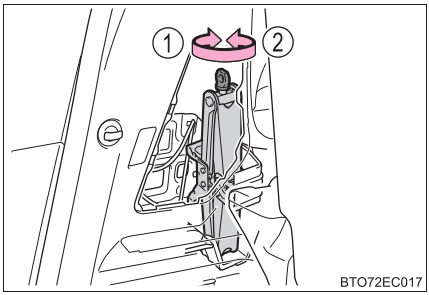
2 固定バンドのフックをはずし、工具袋を取り出す



3 ジャッキをゆるめて取りはずす

① 締まる

② ゆるむ

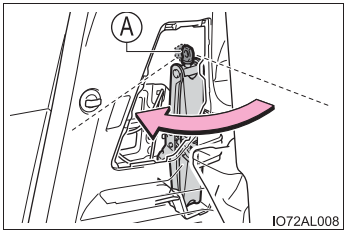


知識

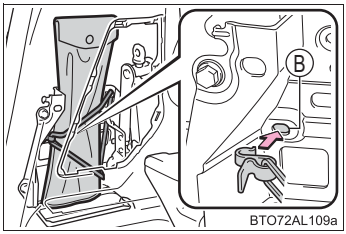
■ジャッキ・工具を使用したあとは

次の手順でもとどおり車両に搭載してください。ジャッキ・工具袋が正しく搭載されていないと、走行中に異音の発生の原因となる可能性があります。

1 ジャッキを収納部に載せ、Ⓐ部をまわして位置を固定したあと、約 2.0 ～ 4.0N・m（0.2 ～ 0.4kgf・cm）の力でしっかりと締め付ける（ジャッキを軽く固定したあとに、約 90° ～ 180° まわします）



2 工具袋を固定するバンドのフックは、Ⓑの穴に掛ける



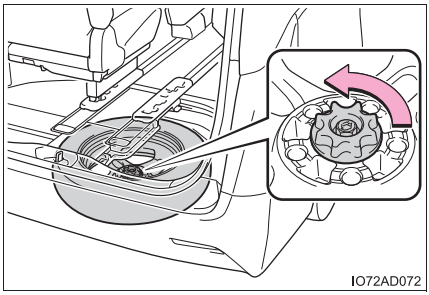
応急用タイヤの取り出し方

1 運転席側のサードシートをはね上げる（→ P. 197）

2 運転席側のデッキボードを取りはずす

3 留め具を取りはずす

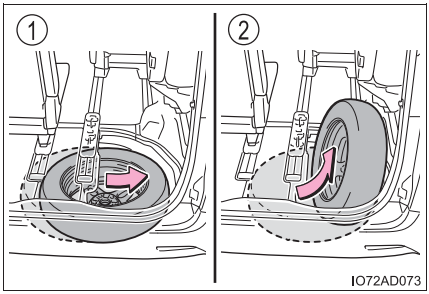
応急用タイヤの留め具が固くてまわらないときは、車載のレンチを使用してください。（タイヤを固定するときは、留め具を手で取り付けてください。レンチなどの工具は使用しないでください）



4 次の要領で応急用タイヤを車両右側から取り出す

① 応急用タイヤを右側に引き出す

② 上に向かって転がす要領で応急用タイヤを取り出す



警告

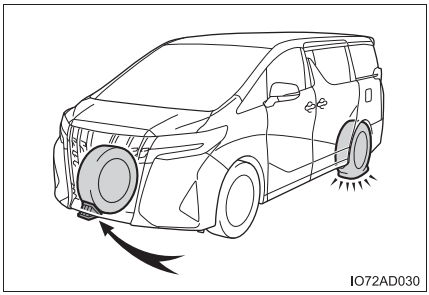
■応急用タイヤを収納するとき

ボデーと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

パンクしたタイヤの交換

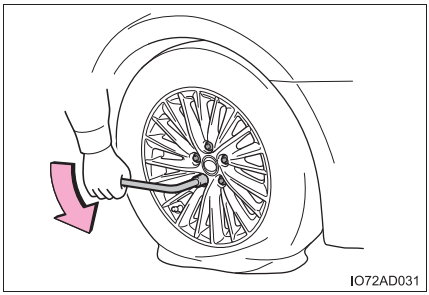
1 輪止め※をする

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

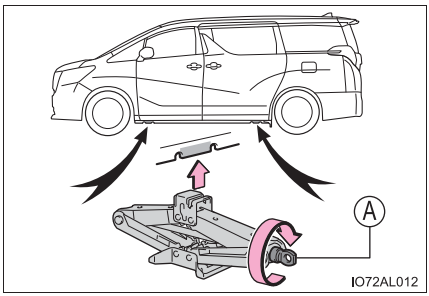


パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

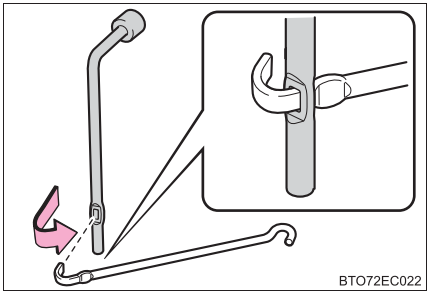
2 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる



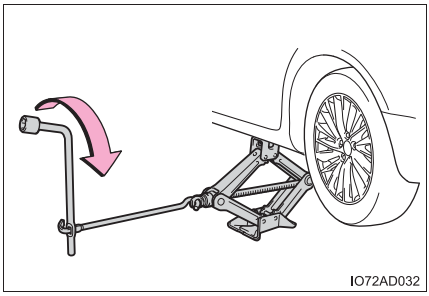
3 ジャッキのⒶ部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける



4 ジャッキハンドルとホイールナットレンチを図のように組み合わせる

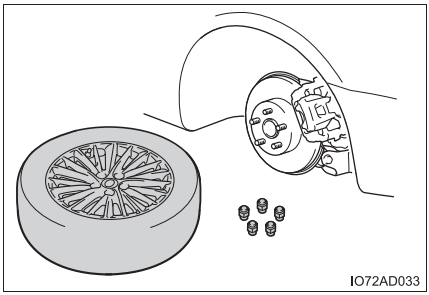


5 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



6 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にします。



警告

■タイヤ交換について

●次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

・走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため、タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
・パワーバックドア非装着車：タイヤ交換などをする際は、パワードアオフスイッチ（→ P. 123）を ON にしてください。ON にしないと、誤ってパワースライドドアスイッチを操作したときにスライドドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。
・パワーバックドア装着車：タイヤ交換などをする際は、パワードアオフスイッチ（→ P. 123）を ON にしてください。ON にしないと、誤ってパワースライドドアスイッチ／パワーバックドアスイッチを操作したときにスライドドア／バックドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。

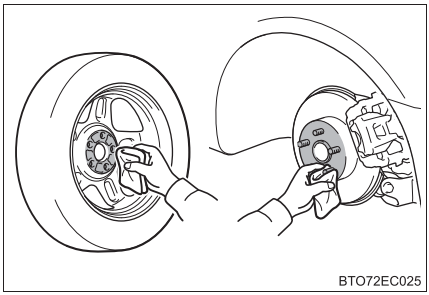
●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・ホイールの交換後は、すぐに 103N・m（1050kgf・cm）の力でナットを締める
・タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける

タイヤの取り付け

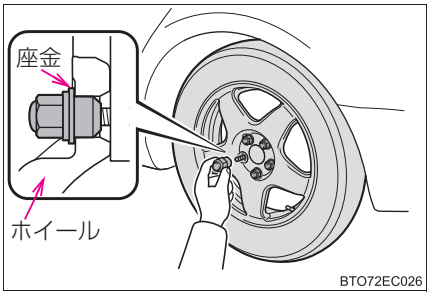
1 ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。


BTO72EC025

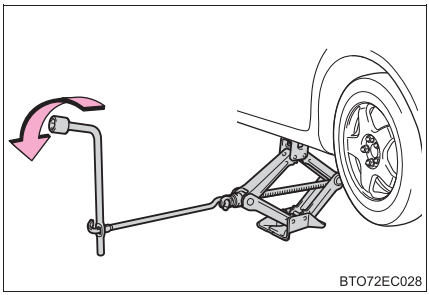
2 応急用タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

ナットの座金がホイールにあたるまでまわします。



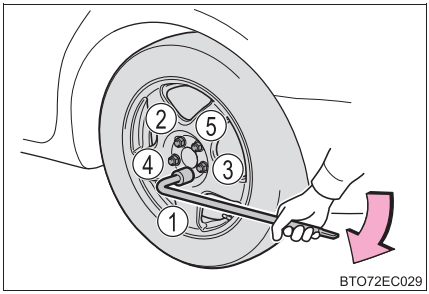
BTO72EC026

3 車体を下げる


BTO72EC028

4 図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける

締め付けトルク：
103N・m（1050kgf・cm）



BTO72EC029

5 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

パンクしたタイヤは、応急用タイヤ格納位置に格納できません。ラゲージルームに格納してください。（→ P. 627）

知識

■応急用タイヤについて

●タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみ使用してください。

●空気圧を必ず点検してください。（→ P. 653）

■応急用タイヤを装着しているとき

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなる場合があります。

■雪道・凍結路で前輪がパンクしたとき（235/50R18 97V 装着車を除く）

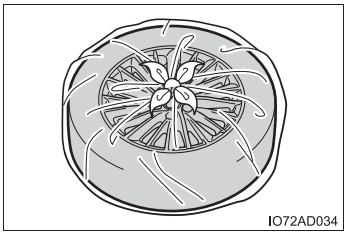
1 後輪を応急用タイヤに交換する

2 パンクした前輪をはずした後輪と交換する

3 タイヤチェーンを前輪に装着する

■標準タイヤの格納について

標準タイヤは、応急用タイヤが格納してある場所には格納できません。パンクなどではずした標準タイヤは、汚れ防止シートに包んでラゲージルームに格納してください。



警告

■**応急用タイヤを使用するとき**

●お客様の車専用になっているため、他の車には使用しないでください。

●同時に 2 つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。

●できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。

●急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避けてください。

●摩耗限度（トレッドウェアインジケーターまたはスリップサイン）をこえて使用しないでください。

■**応急用タイヤを装着しているとき**

正確な車両速度が検出できない場合があり、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

・ABS
・ブレーキアシスト
・VSC
・TRC
・EPS
・AHS（アダプティブハイビームシステム）★
・AHB（オートマチックハイビームシステム）★
・PCS（プリクラッシュセーフティ）
・LTA（レーントレーシングアシスト）
・RSA（ロードサインアシスト）
・レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）
・BSM（ブラインドスポットモニター）★
・クリアランスソナー
・RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）
・インテリジェントパーキングアシスト 2★
・パノラミックビューモニター★
・ナビゲーションシステム★

また、次のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

・4WD システム★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**応急用タイヤ使用時の速度制限**

応急用タイヤを装着しているときは、80km/h 以上の速度で走行しないでください。
応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■**ジャッキや工具を使用したあとは**

走行前に正しい位置に格納されているか確認してください。正しく格納されていないと、事故や急ブレーキの際、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

注意

■**応急用タイヤ装着中の注意**

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなる場合があります。段差を乗りこえるときは注意してください。

■**タイヤチェーンの装着について**

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体にあたり、車を損傷したり走行に悪影響をおよぼしたりするおそれがあります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→ P. 246）に従っても、エンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
  再度、正しい手順（→ P. 246）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。
  （→ P. 67）

スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 635）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

スターターがまわらない場合

電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→ P. 631）

スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 635）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急始動機能

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、次の手順でエンジンが始動する場合があります。
緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを引く（→ P. 261）

   メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

2. シフトレバーが P の位置にあることを確認する
3. エンジンスイッチをアクセサリーモードにする
4. ブレーキペダルをしっかり踏んでエンジンスイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。
ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→ P. 151）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー＆スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠とキー連動操作

メカニカルキー（→ P. 106）を使って次の操作ができます。

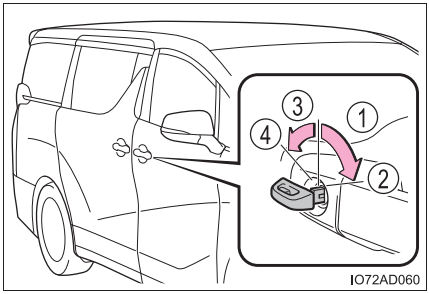
① 全ドア施錠

② ドアガラスとリヤムーンルーフ★が閉まる（まわし続ける）※

③ 全ドア解錠

④ ドアガラスとリヤムーンルーフ★が開く（まわし続ける）※

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。（→ P. 662）

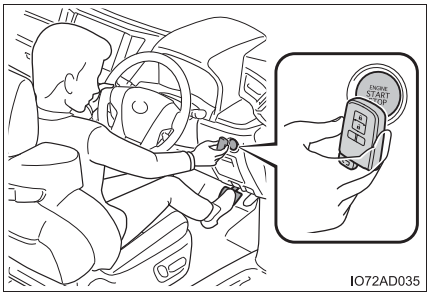


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

エンジン始動の方法

1 シフトレバーが P の状態でブレーキペダルを踏む

2 スイッチが付いている側を表にして、電子キーでエンジンスイッチにふれる

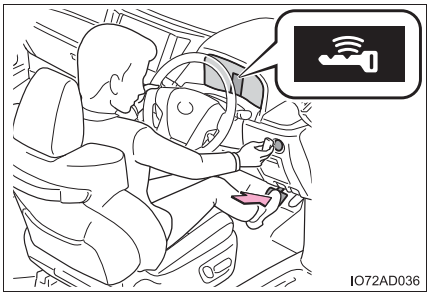


電子キーの形状は、グレード等により異なります。（→ P. 106）

電子キーを認識するとブザーが鳴り、イグニッション ON モードへ切りかわります。

カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたときは、アクセサリーモードへ切りかわります。

3 ブレーキペダルをしっかり踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイに が表示されていることを確認する



4 エンジンスイッチを短く確実に押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

知識

■エンジンの停止のしかた

通常のエンジンの停止方法と同様に、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにしてエンジンスイッチを押します。

■電池交換について

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。（→P. 560）

■オートアラームについて

メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームが設定されません。なお、オートアラーム設定中にメカニカルキーで解錠すると、警報が鳴りますのでご注意ください。（→P. 69）

■エンジンスイッチのモードの切りかえ

エンジン始動方法の手順 3 で、ブレーキペダルから足を離してエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。（→P. 247）

■電子キーが正常に働かない場合

- 車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。（→P. 658）
- 電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は解除してください。（→P. 150）

警告

■メカニカルキーを使ってドアガラスとリヤムーンルーフ★を操作するとき

ドアガラスやリヤムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやリヤムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

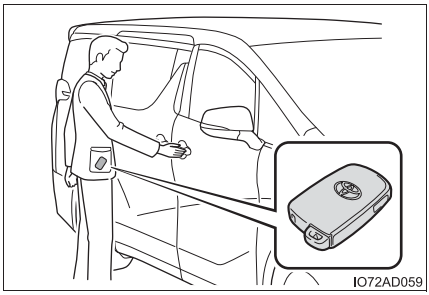
バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

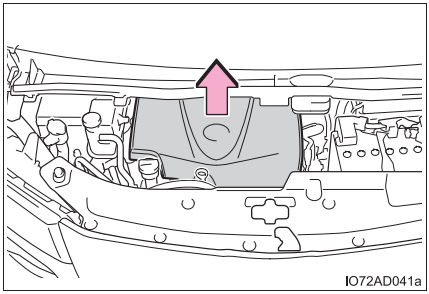
1 電子キーを携帯していることを確認する

ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。
（→ P. 70）



2 ボンネットを開ける（→ P. 537）

3 エンジンカバーをはずす（2GR-FKS エンジンのみ）



4 バッテリーの＋端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ

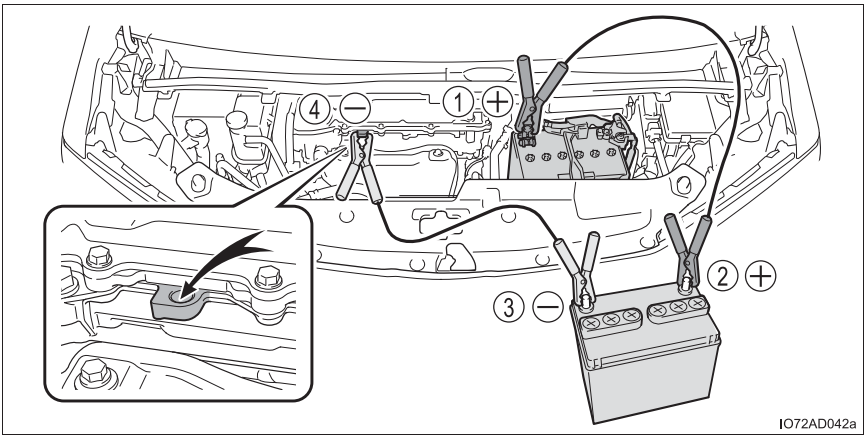
① 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子につなぐ

② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ

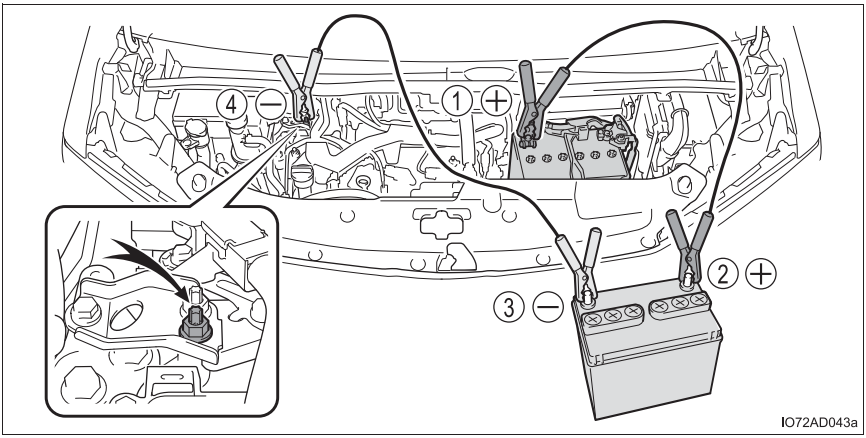
③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ

④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

▶ 2AR-FE エンジン搭載車



▶ 2GR-FKS エンジン搭載車



5 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する

6 エンジンスイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

7 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったんイグニッション ON モードにしてからエンジンを始動する

8 エンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

エンジンが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■バッテリーあがりを防ぐために

●エンジンが停止しているときは、ランプやエアコンの電源を切ってください。（Stop & Start システム★によるエンジン停止中を除く）

●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■バッテリーがあがってしまったときは

●コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

●初期設定が必要な機能があります。（→ P. 665）

■バッテリー端子をはずすときは

バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。（バッテリーは走行中に自動で充電されます）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■バッテリーあがり時や取りはずし時など

●バッテリー脱着直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。

●バッテリー脱着後、最初のエンジン始動は失敗することがあります。2 回目以降のエンジン始動は正常に動作しますので、問題ではありません。

●車両は常にエンジンスイッチの状態を記憶しています。バッテリーあがり時、バッテリー脱着後は、バッテリーがあがる前の状態に車両は復帰します。バッテリーを脱着する際は、エンジンスイッチを OFF にしてから行ってください。バッテリーあがり前のエンジンスイッチの状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。

●Stop & Start システム装着車：最大 1 時間、Stop & Start システムが作動しないことがあります。

■バッテリーを交換するとき

●交換前と同一のケースサイズ、かつ 20 時間率容量（20HR）が同等以上のバッテリーを使用してください。

・ケースサイズが異なると、バッテリーが正しく固定されません。
・20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない期間が短い期間であってもバッテリーがあがって、エンジンの始動ができなくなるおそれがあります。

●Stop & Start システム装着車：
装着されているバッテリーは、Stop & Start システム専用品です。S-95 またはそれ以上の性能を持つバッテリーと交換してください。
適切なバッテリーをご使用いただかない場合、バッテリー保護のために Stop & Start システムの作動が制限されます。さらにバッテリーの早期劣化や、最悪の場合にはエンジンが再始動しなくなるおそれがあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

警告

■バッテリー端子をはずすときは

必ず－端子を先にはずしてください。＋端子を先にはずすと、＋端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがあるほか、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- ＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近付けない

■バッテリーを交換するときは

- 液栓やインジケーターがステーに近いと、バッテリー液（硫酸）がもれだすおそれがあります。
- バッテリーの交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■**バッテリーのマイナス端子について**

ボデーに接続されたバッテリーのマイナス端子をはずさないでください。
誤ってはずすとプラス端子と接触し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■**ブースターケーブルの取り扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 水温計（→ P. 79）の針がレッドゾーンに入ったり、エンジンの出力が低下する（スピードが出ないなど）
- マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」が表示される
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

1 安全な場所に停車し、エアコンをOFFにしてから、エンジンを停止する

2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

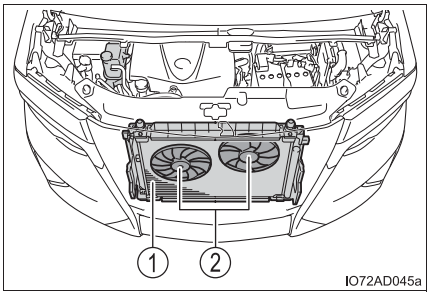
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

① ラジエーター

② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

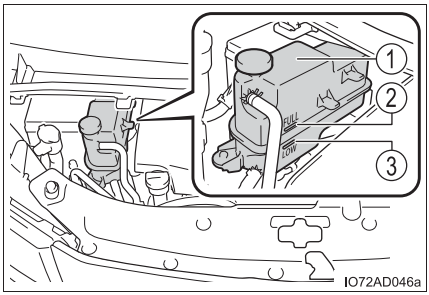


4 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

① リザーバータンク

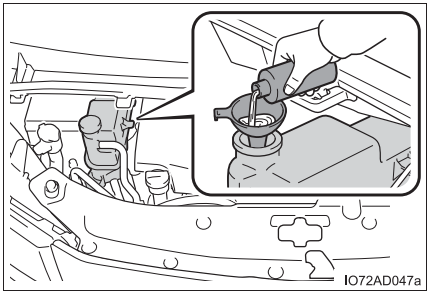
② “FULL”（上限）

③ “LOW”（下限）



5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急処置として水を補給してください。



6 エンジンを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。
（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

7 ファンが作動していない場合：
すぐにエンジンを停止し、トヨタ販売店に連絡する

ファンが作動している場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

8 マルチインフォメーションディスプレイの「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」表示を確認する

表示が消えていない場合：
エンジンを停止してトヨタ販売店に連絡する

表示が消えている場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

警告

■**エンジンルームを点検しているとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

●エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。

●手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●エンジンおよびラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

注意

■**冷却水を入れるとき**

エンジンが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■**冷却系統の故障を防ぐために**

次のことをお守りください

●異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない

●市販の冷却水添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法で脱出してください。

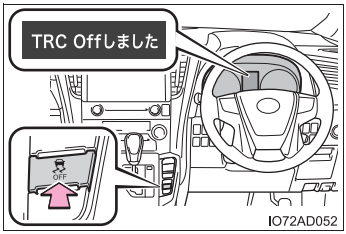
1. パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にして、エンジンを停止する
2. 前輪周辺の土や雪などを取り除く
3. 前輪の下に木や石などをあてがう
4. エンジンを再始動する
5. シフトレバーを D または R に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

   4WD 車は、マルチインフォメーションディスプレイで 4WD 作動状態を確認することができます（→ P. 89）。なお、手動で FF ／ 4WD を切りかえることはできません。状況に応じて自動で切りかわります。

知識

■脱出しにくいとき

を押して TRC を OFF にしてください。



警告

■**脱出するとき**

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■**シフトレバーを操作するとき**

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■**トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報 8

8-1. 仕様一覧
メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）.....648
8-2. カスタマイズ機能
ユーザーカスタマイズ機能一覧.....654
8-3. 初期設定
初期設定が必要な項目.....665

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。
トヨタ車には、最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	項目	容量［L］（参考値）
▶ 2AR-FE エンジン搭載車 ・無鉛レギュラーガソリン ・バイオ混合ガソリン（レギュラー）※ ▶ 2GR-FKS エンジン搭載車 ・無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク） ・バイオ混合ガソリン（プレミアム）※	FF 車	75
	4WD 車	65

※ エタノールの混合率 10%以下または、ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

エンジンオイル

指定銘柄	エンジン	容量［L］（参考値※）	
		オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨： トヨタ純正 モーターオイル SP 0W-20 —API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 0W-20 適合： トヨタ純正 モーターオイル SN 5W-30 —API SN/RC, SAE 5W-30	2AR-FE	4.0	4.4
	2GR-FKS	5.3	5.4

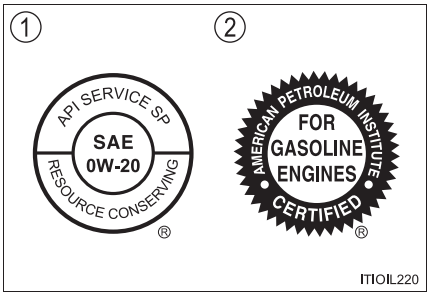
※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SP/RC、SN PLUS/RC、SN/RC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。0W-20 は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、優れた省燃費性能を発揮できます。0W-20 が入手困難な場合は、5W-30 もご使用いただけます。なお、ILSAC 規格合格油の缶にはILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

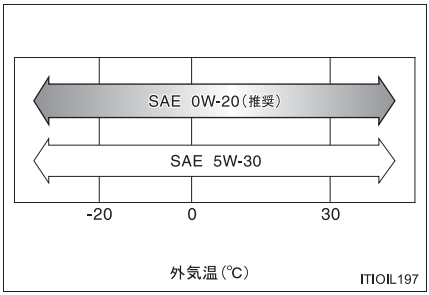
① API マーク

② ILSAC CERTIFICATIONマーク



■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

・0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。

・0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。
粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	エンジン	容量［L］（参考値）
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　－ 12℃ 濃度 50%　－ 35℃	2AR-FE	9.3
	2GR-FKS	10.7

トランスミッション

指定銘柄	エンジン	容量［L］（参考値※）
トヨタ純正 CVT フルード　FE	2AR-FE	7.5
トヨタ純正オートフルード　WS	2GR-FKS	7.5

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

注意

■ **トランスミッションフルードについて**

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

トランスファー（4WD 車）

オイルタイプ・推奨粘度	容量［L］（参考値）
トヨタ純正ディファレンシャルギヤオイル LT（API GL-5 SAE75W-85）	0.45

リヤディファレンシャル（4WD 車）

オイルタイプ・推奨粘度	容量［L］（参考値）
トヨタ純正ディファレンシャルギヤオイル LT（API GL-5 SAE 75W-85）	0.5

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値［mm］	
遊び	1 ～ 6	
踏み込んだときの床板とのすき間 ※	2AR-FE	144 以上
	2GR-FKS	138 以上

※ エンジン回転時に 490N（50kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

ウォッシャータンク

容量［L］（参考値）
2.5

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ		ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
			前輪	後輪
標準タイヤ	215/65R16 98H	16×6 1/2J	240（2.4）	
	225/60R17 99H	17×6 1/2J	240（2.4）	
	235/50R18 97V	18×7 1/2J	240（2.4）	
応急用タイヤ★	T155/80D17 100M	17×4T	420（4.2）	

電球（バルブ）※

電球	W（ワット）数
マップランプ（バルブタイプ★）	8
リヤパーソナルランプ（セカンドシート／サードシート）（バルブタイプ★）	5
ドアカーテシランプ★	5
ラゲージルームランプ	5
バニティランプ	8

※ 表に記載の無いランプは LED を採用しています。

車両仕様

名称	型式	エンジン	駆動方式
アルファード	AGH30W	2AR-FE（2.5L ガソリン）	FF（前輪駆動）
	AGH35W		4WD（4 輪駆動）
	GGH30W	2GR-FKS（3.5L ガソリン）	FF（前輪駆動）
	GGH35W		4WD（4 輪駆動）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。マルチメディア画面★・マルチインフォメーションディスプレイの操作により、設定を変更することができる機能もあります。

設定変更のしかた

以下の方法で設定変更が可能な項目は「車両カスタマイズ設定一覧」（→ P. 655）をご確認ください。

■ マルチメディア画面★で設定するには

1 「MENU」スイッチにタッチし、「設定・編集」を選択する

2 「設定・編集」画面の「車両」を選択する

3 「車両カスタマイズ」を選択する

4 設定を変更したいカテゴリーを選択する

5 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する

6 機能の作動内容を選択する

作動・非作動を変更できる機能では、「する」（作動）、「しない」（非作動）を選択します。

音量やセンサーの感度などを変更できる機能では、「+」または「-」を選択してレベルを調整し、⮌ を選択します。

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

→ P. 92

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

① マルチメディア画面の画面操作で設定変更可能

② 車両側のスイッチなどで設定変更可能

③ トヨタ販売店で設定変更可能

■ ドアロック（→ P. 116）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
車速感応オートドアロック	あり	なし	○	○	○
シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック）	なし	あり	○	○	○
シフトレバーを P にしたときの全ドア解錠（シフト操作連動アンロック）	あり	なし	○	○	○
運転席を開けたときの全ドア自動解錠（運転席ドア開連動アンロック）	なし	あり	○	○	○

■ パワースライドドア（→ P. 119）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
車室内のパワースライドドアスイッチ操作	長押し	短押し	―	―	○
スライドドアハンドルスイッチの反応時間	0.3 秒	OFF	―	―	○
		0.5 秒			
		0.8 秒			
電子キーのパワースライドドアスイッチ操作	スライドドア施錠時：なし スライドドア解錠時：長押し	なし	―	―	○
		スライドドア施錠時：なし スライドドア解錠時：短押し			
		スライドドア施錠時：なし スライドドア解錠時：2 回押し			
		スライドドア施錠時・解錠時共に 2 回押し			
		スライドドア施錠時・解錠時共に長押し			

■ パワーバックドア★（→ P. 138）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
車室内のパワーバックドアスイッチ操作	長押し	短押し	―	―	○
作動の合図（ブザー）	する	しない	―	―	○
電子キーのパワーバックドアスイッチ操作	バックドア施錠時：なし バックドア解錠時：長押し	なし	―	―	○
		バックドア施錠時：なし バックドア解錠時：短押し			
		バックドア施錠時：なし バックドア解錠時：2 回押し			
		バックドア施錠時・解錠時共に 2 回押し			
		バックドア施錠時・解錠時共に長押し			
施錠時に電子キーのパワーバックドアスイッチ操作したときのドアロック解錠作動	全ドア	バックドアのみ	―	―	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通（→ P. 112,119,138,148）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
ドアを施錠・解錠したときの非常点滅灯の点滅（施錠・解錠時非常点滅灯応答）	あり	なし	○	—	○
半ドア警告ブザー	あり	なし	—	—	○
ドアを施錠・解錠したときの作動確認ブザー音量（施錠・解錠時ブザー音量調節）	レベル 5	OFF	○	—	○
		レベル 1 ～ 7			
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒	—	—	○
		120 秒			

■ スマートエントリー&スタートシステム（→ P. 148）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
スマートエントリー&スタートシステム	あり	なし	○	—	○
連続してできる施錠操作の回数	2 回	無制限	—	—	○

■ ワイヤレスドアロック（→ P. 112）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
ワイヤレス機能	あり	なし	—	—	○

■ ドライビングポジションメモリー★（→ P. 178）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
降車時の運転席シート移動量調節（降車時運転席シート移動量調整）	標準	OFF	○	—	○
		少なめ			
メモリーコール機能と連動するドアの選択	運転席ドア	全ドア	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ランプ自動点灯・消灯システム（→ P. 267）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
ライトセンサーの感度調整 （コンライト感度調整）	－２	－１～２	○	―	○
ランプの自動消灯	フロントドアまたはスライドドアを開けたとき消灯	エンジンスイッチを OFF にしたとき消灯	―	―	○

■ デイライト★（→ P. 269）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
デイライトの点灯	あり	なし	―	―	○

■ イルミネーション（→ P. 493）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
ドアを閉めたあと、点灯している室内灯が自動で消灯するまでの時間 （室内照明消灯時間調節）	15 秒	OFF	○	―	○
		7.5 秒			
		30 秒			
エンジンスイッチ OFF 後の室内灯自動点灯機能	あり	なし	―	―	○
ドアを解錠したときの室内灯自動点灯	あり	なし	―	―	○
電子キーを携帯して車両に近付いたときの室内灯自動点灯	あり	なし	―	―	○
足元照明の点灯	あり	なし	―	―	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ メーター（→ P. 78, 82）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
周囲の明るさにより、メーターなどの照度を自動減光するためのセンサーの感度調節	0	－2～+2	―	―	○
周囲の明るさにより、減光したメーターなどの照度をもとにもどすためのセンサーの感度調節	0	－2～+2	―	―	○
エコドライブインジケーターゾーン表示	する	しない	―	―	○

■ エアコン（→ P. 476）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない	○	―	○
排ガスセンサー感度調整★	標準	－3～+3	○	○	○

■ エコドライブモード（→ P. 253）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
エコドライブモード時にヒーター／冷却機能を最小限にする	あり	なし	―	―	○

■ オートアラーム（→ P. 68）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
メカニカルキーを使って解錠したときのアラーム解除	しない	する	―	―	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ クリアランスソナー（→ P. 376）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
フロントセンターセンサーの感知可能距離（画面表示ブザータイミング）	遠い	近い	―	―	○
リヤセンターセンサーの感知可能距離（画面表示ブザータイミング）	遠い	近い	―	―	○

■ インテリジェントパーキングアシスト２★（→ P. 415）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
障害物回避距離	標準	短い	―	―	○
		少し長い			
		長い			
並列駐車可能スペース	標準	狭い	―	―	○
		少し広い			
		広い			
縦列駐車可能スペース	標準	狭い	―	―	○
		少し広い			
		広い			

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ パワーウインドウ（→ P. 225）、リヤムーンルーフ★※（→ P. 229）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
メカニカルキー連動開閉機能	なし	あり	―	―	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり	―	―	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能（ブザー）	あり	なし	―	―	○
窓開警告機能	あり	なし	―	―	○
リヤムーンルーフ★開警告機能	あり	なし	―	―	○

※：パワーウィンドウの設定を変更すると、リヤムーンルーフ★の設定も連動して変更されます。

■ ドアミラー（→ P. 221）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
オート電動格納作動	ドアの施錠・解錠と連動	なし	―	―	○
		エンジンスイッチと連動			
リバース連動作動	あり	なし	―	―	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ AHS（アダプティブハイビームシステム）★（→ P. 271）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
アダプティブハイビームシステム	あり	なし ※	—	—	○
前方車両と遮光ハイビームとの間隔	標準	狭い	—	—	○
		広い			
車速に応じた、ハイビームの明るさと照らす範囲の調整	約 15km/h から作動	約 30km/h から作動	—	—	○
		約 80km/h から作動			
カーブを走行しているとき、進行方向側のハイビームを明るく照らす	あり	なし	—	—	○
先行車との距離に応じた、ロービームの照らす範囲の調整	あり	なし	—	—	○

※ AHB（オートマチックハイビーム）として作動します。（→ P. 276）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■車両カスタマイズについて

●「車速感応式自動ドアロック」と「シフトレバーをＰ以外にしたときの全ドア施錠」を両方とも「あり」にした場合次のように作動します。

・シフトレバーをＰ以外にすると全ドア施錠されます。
・全ドア施錠された状態で発進した場合、車速感応式自動ドアロックは作動しません。
・発進前にいずれかのドアロックを解錠してから発進した場合は、車速感応式ドアロックが作動します。

●解錠後にドアを開けなかったときの自動施錠が作動した合図は、「作動の合図（非常点滅灯）」・「作動の合図音量（ブザー音量の調整）」の設定に依存します。

警告

■カスタマイズを行うときは

エンジンを始動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■カスタマイズを行うときは

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

初期設定が必要な項目

次の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく働かせるために初期設定が必要です

項目	機能の内容	参照
パノラミックビューモニター★	・バッテリーの充電・交換後の再接続時 ・ヒューズ交換時	別冊「ナビゲーションシステム取扱書」
バックガイドモニター★		別冊「マルチメディア取扱書」または「ナビゲーション取扱書」
パワースライドドア		P. 128
パワーバックドア★		P. 143
PKSB（パーキングサポートブレーキ）		P. 406
インテリジェントパーキングアシスト２★		P. 461
クリアランスソナー		P. 406
パワーウインドウ	正常に働かないとき	P. 226
リヤムーンルーフ★		P. 230

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

さくいん

こんなときは
（症状別さくいん）.....668
車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....671
アルファベット順さくいん.....673
五十音順さくいん.....675

マルチメディア画面装着車は、次の装備については別冊「マルチメディア取扱書」、「ナビゲーション取扱書」または「ナビゲーションシステム取扱書」をお読みください。

- ナビゲーション
- オーディオ＆ビジュアル
- 後席 13.3 型ワイドディスプレイ
- 音声操作システム
- パノラミックビューモニター
- バックガイドモニター
- ETC/ETC2.0 システム
- ハンズフリー
- T-Connect

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない

キーをなくした

- キーまたはメカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいキーまたはメカニカルキーを作ることができます。（→ P. 109）
- キーまたは電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→ P. 111）

解錠・施錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？ （→ P. 560）
- エンジンスイッチがイグニッション ON モードになっていませんか？
  施錠するときはエンジンスイッチを OFF にしてください（→ P. 247）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
  施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。（→ P. 151）

スライドドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？
  チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください（→ P. 124）

スライドドアが全開にならない

- 中間ストッパーがかかっていませんか？
  給油口が開いていると、スライドドアは途中までしか開きません（中間ストッパー位置で停止します）。給油口を閉じ、いったんスライドドアを全閉にしてから、再度スライドドア開けてください。（→ P. 127）

故障かな？と思ったら

エンジンがかからない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチを押していますか？ （→ P. 246）
- シフトレバーは P になっていますか？ （→ P. 252）
- キーが車内の検知される場所にありますか？ （→ P. 148）
- ステアリングロックされていませんか？ （→ P. 249）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
  このときは、一時的な方法でエンジンをかけることができます。
  （→ P. 633）
- バッテリーがあがっていませんか？ （→ P. 635）

ブレーキペダルを踏んでいてもシフトレバーが P から動かない

- エンジンスイッチはイグニッション ON モードになっていますか？
  エンジンスイッチがイグニッション ON モードでブレーキを踏んでも解除できないとき（→ P. 257）

エンジンを停止したあとにハンドルがまわせなくなった

- 盗難防止のため、自動的にロックされます。（→ P. 249）

パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウインドウロックスイッチが押されていませんか？
  ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。（→ P. 225）

エンジンスイッチが自動的に OFF になった

- 一定時間アクセサリーモードまたはイグニッションONモード（エンジンがかかっていない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→ P. 248）

警告音・アラーム・ホーンが鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→ P. 671）をご確認ください。

警告灯や警告メッセージが表示されたとき

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P. 587、593 をご確認ください。

トラブルが発生した

タイヤがパンクした

- タイヤパンク応急修理キット装着車
  車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→ P. 599）
- 応急用タイヤ装着車
  車を安全な場所に停め、パンクしたタイヤを応急用タイヤに交換してください。（→ P. 617）

立ち往生した

- ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 644）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状況や誤操作などをお知らせするために各種の警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P. 68
ドアを開閉したとき	シフトポジションがＰ以外になっている	P. 596
	窓・リヤムーンルーフ★が開いている（エンジン停止中のみ）	P. 227 P. 230
	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P. 68
エンジンを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P. 560
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 149
	電子キーを車内に置き忘れている	P. 149

※ ドアまたはバックドアを解錠する、またはエンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにするか、エンジンを始動すると、警報を解除することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 590
	パーキングブレーキが解除されていない	P. 263
	運転席・助手席のシートベルトを着用していない※	P. 590
シフトダウンしたとき	シフトダウン制限をこえて操作した	P. 256
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 240
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用している	P. 333
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動した	P. 299
車線から逸脱しそうになったとき	LTA（レーントレーシングアシスト）を使用している	P. 309
制限速度より一定の速度を超過したとき	RSA（ロードサインアシスト）が作動した	P. 323
はみ出し通行禁止の道路で追い越しをかけたとき		
後退時に左右からの車を検知したとき	RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★が作動した	P. 391
前の車が発進しても停止し続けたとき	先行車発進告知機能が作動した	P. 342

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アルファベット順さくいん

4WD
（4 ホイールドライブ）. 653
A/C
（エアコン）. 476, 487
ABS
（アンチロックブレーキシステム）. 462, 587
AHB
（オートマチックハイビーム）. 276
AHS
（アダプティブハイビームシステム）. 271
AI-SHIFT
（アーティフィカルインテリジェンスシフト）. 257
BSM
（ブラインドスポットモニター）. 369
ECO
（エコノミー / エコロジー）. 89
EDR
（イベントデータレコーダー）. 8
EPS
（エレクトリックパワーステアリング）. 462, 587
ESPO
（ECO（エコ）＋ PASSPORT（パスポート））. 101
FF
（フロントエンジンフロントドライブ）. 653
ILSAC CERTIFICATION
（イルサックサーティフィケーション）. 650
IPA
（インテリジェントパーキングアシスト 2）. 415
ISOFIX
（アイソフィックス／イソフィックス）. 63
LTA
（レーントレーシングアシスト）. 309
PCS
（プリクラッシュセーフティ）. 299

PKSB
（パーキングサポートブレーキ）. 408
RCTA
（リヤクロストラフィックアラート）. 391
RF-transmitter（Radio Frequency-transmitter）
（ラジオフリクエンシートランスミッター）. 9
RSA
（ロードサインアシスト）. 321
SRS
（サプリメンタルレストレイントシステム）. 35
S-VSC
（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）. . . 462
Toyota Safety Sense
LTA（レーントレーシングアシスト）. 309
PCS（プリクラッシュセーフティ）. 299
RSA （ロードサインアシスト）. 321
AHS （アダプティブハイビームシステム）. 271
AHB （オートマチックハイビーム）. 276
先行車発進告知機能. 342
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）. 326
TRC
（トラクションコントロール）. 462
VSC
（ビークルスタビリティコントロール）. 462

五十音順さくいん

あ

アースポイント（バッテリーあがりの処置）..... 636
アームレスト 157, 172, 176
RSA（ロードサインアシスト）..... 321
ITS Connect 345
アイドリングストップ 356
　アイドリングストップ時間 364
　Stop & Start キャンセル表示灯 75
　Stop & Start システム 356
　Stop & Start 表示灯 75
アウターミラー（ドアミラー）... 221
　操作 221
　BSM（ブラインドスポットモニター）..... 369
アクセサリーコンセント 517
アクセサリーソケット 515
アクセサリーモード 247
アシストグリップ 523
足元照明 493
アダプティブハイビームシステム 271
アラーム 68
　オートアラーム 68
　音さくいん 671
　警告ブザー 68
アンチロックブレーキシステム（ABS）..... 462
アンテナ（スマートエントリー&スタートシステム）..... 148

い

イージークローザー（スライドドア／バックドア）..... 126, 142
イグニッションスイッチ（エンジンスイッチ）..... 246
位置交換（タイヤローテーション）..... 545
イベントデータレコーダー（EDR）..... 8
イモビライザーシステム 67
イルミネーテッドエントリーシステム 493
インジケーター（表示灯）..... 75
インテリアランプ（室内灯）..... 493
　操作 495, 496, 498
　ワット数 653
インテリジェントパーキングアシスト2（IPA）..... 415
　縦列出庫機能 440
　縦列駐車機能 432
　前進誘導機能 424
　操作 418
　バック駐車機能 428
インナーミラー 207, 209

う

ウインカー（方向指示灯）..... 259
方向指示レバー..... 259
ランプの交換..... 567
ウインドウ 225
ウォッシャー..... 282, 286
パワーウインドウ 225
リヤウインドウ
デフォッガー 479
ウインドシールドデアイサー 479
ウインドウロックスイッチ 225
ウェルカム
パワースライドドア 124
ウォーニングランプ
（警告灯）..... 73, 587
ウォッシャー 282, 286
液の補充..... 543
スイッチ..... 282, 286
タンク容量..... 652
冬の前の準備・点検 469
動けなくなったときは
（スタック）..... 644
雨滴感知式ワイパー..... 283
運転..... 234
運転を補助する装置 462
寒冷時の運転..... 469
正しい運転姿勢 26
手順 234
運転席シートポジション
メモリー 178

え

エアコン 476, 487
「ナノイー」..... 483
フィルターの交換 551
フロントエアコン 476
リヤエアコン..... 487
エアバッグ.....35
SRS エアバッグ警告灯 73
作動条件 40
配置 35
エコドライブインジケーター.....89
ESPO 画面.....101
LTA（レーントレーシング
アシスト）.....309
警告メッセージ.....320
操作.....315
エレクトリックパワー
ステアリング（EPS）.....462
機能.....462
パワーステアリング
警告灯 73, 588
パワーステアリング警告
ブザー 588
エンジン
エンジンイモビライザー
システム 67
エンジンがかからない
（エンジンが始動
できない）.....630
エンジン警告灯.....73, 587
エンジンスイッチ.....246
エンジンの始動方法.....246
オーバーヒート.....641
ボンネット 537
エンジンオイル 649
冬の前の準備・点検.....469
メンテナンスデータ.....649
油圧警告灯 73, 587
油圧警告ブザー.....591

エンジンスイッチ..... 246
イグニッション 246
エンジンスイッチ 246
エンジンフード（ボンネット）... 537
開け方..... 537
エンジンルーム
エンジンルームから
蒸気が出ている 641

お

オイル（エンジンオイル）..... 649
応急用タイヤ 617
空気圧..... 653
交換方法..... 617
オーディオ ※
オートアラーム..... 68
オートドアロック・
アンロック機能..... 116
オートエアコン..... 476, 487
オートマチック
トランスミッション 252
操作 252
7 速スポーツシーケンシャル
シフトマチックモード..... 254
M モード..... 255
オートマチックハイビーム 276
オートレベリングシステム
（ヘッドランプ）..... 270
オーバーヒート..... 641
オープナー
給油口..... 288
ボンネット..... 537
お子さまを乗せるとき.....45
ウインドウロックスイッチ 225
お子さまの安全のために 45
子供専用シート.....46
シートベルトの着用.....32
チャイルドシートの取り付け ...46
チャイルドプロテクター 124
オドメーター.....78
機能.....78
表示切りかえボタン.....79

か

カーテンシールドエアバッグ.....35
カーペット.....24
洗浄.....535
フロアマットの取り付け方 24
外気温度表示.....78
外装のランプ.....567
交換について 567
カスタマイズ機能 654
型式 653
カップホルダー 503
カメラ
前方センサー 293
デジタルインナーミラー 216
ガラスの曇り止め
（リヤウインドウ
デフォッガー）.....479
ガレージジャッキ 541
冠水路走行.....244
寒冷時の運転.....469

※：マルチメディア画面装着車は、別冊「マルチメディア取扱書」、「ナビゲーション取扱書」または「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

き

キー 106
エンジンが始動できない..... 630
キーナンバープレート..... 106
キーの構成..... 106
キーレスエントリー 112, 148
キーをなくした 109, 111
正常に働かない 632
解錠・施錠ができない..... 632
電子キー..... 106
電池が切れた 560, 632
メカニカルキー 108
ワイヤレスリモコン
..... 107, 113, 120, 140
キーレスエントリー..... 112, 148
スマートエントリー&
スタートシステム..... 148
ワイヤレスドアロック..... 112
給油 288
給油のしかた 288
緊急時シートベルト固定機構 32
緊急時の対処
エンジンが始動できない..... 630
オーバーヒートした 641
キーの電池が切れた 560, 632
警告灯がついた 587
警告メッセージが
表示された 593
けん引..... 577
故障したときは 570
車両を緊急停止する 574
水没・冠水したときは..... 575
スタックした 644
電子キーが正常に働かない 632
発炎筒 572
バッテリーがあがった 635
パンクした 599, 617

く

空気圧（タイヤ）.....653
メンテナンスデータ 653
区間距離計
（トリップメーター）.....79
機能 79
表示切りかえボタン 79
曇り取り
フロントウインドウ
ガラス 479
ミラーヒーター.....479
リヤウインドウ
デフォッガー.....479
クラクション（ホーン）.....205
クリアランスソナー 376
警告メッセージ.....387
警告ブザー 380
操作 376
クリアランスランプ（車幅灯）....267
スイッチ 267
ランプの交換 567
クリップ
フロアマット 24
クルーズコントロール.....326
グローブボックス 501

け

警音器（ホーン）..... 205
計器類（メーター）..... 78
警告灯..... 73
照度調整..... 80
表示灯..... 75
マルチインフォメーション
ディスプレイ 82
メーター..... 78
警告灯 73
ABS ＆ブレーキアシスト..... 588
LTA 表示灯..... 591
SRS エアバッグ 588
エンジン..... 587
クリアランスソナー
OFF 表示灯..... 588
高水温..... 587
充電 587
シートベルト非着用 590
Stop ＆ Start
キャンセル表示灯..... 588
スリップ表示灯 588
燃料残量..... 590
パーキングブレーキ 590
パワーステアリング 588
半ドア..... 590
PCS 589
PKSB OFF 表示灯..... 589
プリテンショナー 588
ブレーキ..... 587
ブレーキホールド 588
ペダル誤操作..... 590
マスターウォーニング..... 590
油圧 587
警告ブザー
運転席・助手席シートベルト
非着用 590
クリアランスソナー.....380
シフトダウン制限.....256
スマートエントリー＆
スタートシステム 149
先行車発進告知機能.....342
パーキングブレーキ
未解除走行時.....263
パワーステアリング.....588
半ドア 114
半ドア走行時 118
PKSB.....401
PCS.....299
ブレーキ 587
窓開 227
油圧.....587
ランプ消し忘れ.....270
リバース 256
リヤムーンルーフ開.....230
レーダークルーズ
コントロール.....340
警告メッセージ 593
化粧ミラー（バニティミラー）....514
けん引.....577
けん引のしかた.....577
フック 581

こ

交換
エアコンフィルター 551
外装のランプ 567
キーの電池 560
タイヤ 617
ヒューズ 564
ワイパーゴム 554
工具（ツール）..... 602, 618
後席用サンシェード 519
航続可能距離 87
後退灯（バックアップランプ）
ランプの交換 567
コーナリングランプ 269
子供専用シート 46
取り付け方 59
小物入れ 507
コンビニフック
（買い物フック）..... 522
コンソールボックス 501
コンライト
（自動点灯・消灯装置）..... 267

さ

サイドエアバッグ 35
サイドテーブル 520
サイド方向指示灯
方向指示レバー 259
ランプの交換 567
サイドミラー（ドアミラー）..... 221
操作 221
BSM（ブラインドスポット
モニター）..... 369
坂道発進補助機能 359
サンシェード
スライドドア 519
ムーンルーフ 230
サンバイザー 514
サードシート 175

し

シート 155, 160, 175
子供専用シート 46
サードシート 175
シートアレンジ 193
セカンドシート 160
正しい運転姿勢 26
調整 155, 160, 175
手入れ 534
ドライビングポジション
メモリー 178, 184
パワーイージーアクセス
システム 178
フロントシート 155
ヘッドレスト 186
ポジションメモリー 180
メモリーコール機能 182
シートアレンジ 193
シートヒーター 490
シートベルト 28
お子さまの着用 32
緊急時シートベルト固定機構 ... 32
シートベルト非着用
警告灯 73, 590
正しく着用するには 28
着け方・はずし方 28, 29, 30
手入れ 535
妊娠中の方の着用 33

シートベルトプリテンショナー..... 31
機能 31
プリテンショナー
警告灯..... 73, 587
室内灯
読書灯..... 498
マップランプ..... 496
ルーフカラー
イルミネーション..... 499
リヤパーソナルランプ..... 496
ワット数..... 653
始動のしかた 246
シフトポジション..... 253
シフトレバー 252
シフトレンジの切りかえ..... 252
シフトロックシステム
（解除ボタン）..... 257
操作 252
リバース警告ブザー 256
シフトレバーがシフト
できないときは..... 257
シフトロックシステム..... 257
締め付けトルク（ホイール）..... 626
ジャッキ
ガレージジャッキ 541
車載ジャッキ..... 602, 618
ジャッキハンドル..... 602, 618
車幅灯
スイッチ..... 267
ランプの交換..... 567
車両型式 653
車両仕様（スペック）..... 648
車両データの記録..... 7
車両を緊急停止するには 574
ジュニアシート..... 53
瞬間燃費.....87
仕様（車両仕様）.....648

す

スイッチ
アダプティブハイビーム
システム 272
イグニッション.....246
IPA（インテリジェント
パーキングアシスト2）.....418
ウインドウロック.....225
ウインドシールド
デアイサー.....479
ウォッシャー 282, 286
ECO MODE.....253
LTA.....315
エンジンスイッチ.....246
オートマチックハイビーム 276
クルーズコントロール.....326
シート調整 155, 160
シートヒーター.....490
シートベンチレーター.....490
シートポジション
メモリー 178, 184
車間距離切りかえ
（レーダークルーズ
コントロール）.....332
ステアリングヒーター.....490
ドアミラー 221
ドアロック 115
パワーウインドウ.....225
パワースライドドア 122

パワーバックドア 140
非常点滅灯
（ハザードランプ）..... 571
VSC OFF 463
フォグランプ 280
ヘルプネットボタン ※
メーター操作 84
ランプ 267
リヤウインドウ
デフォッガー 479
ワイパー 282, 286
スタック 644
Stop & Start システム 356
アイドリングストップ
時間 364
キャンセルスイッチ 359
Stop & Start
キャンセル表示灯 73, 75
Stop & Start システム 356
Stop & Start 表示灯 75
ステアリングホイール
（ハンドル）..... 205
位置調整 205
スイッチ ※ 84, 525
ステアリングヒーター 490
ステアリングロック 249
解除できないとき 249
警告メッセージ 249
ストップランプ（制動灯）
ランプの交換 567
スノータイヤ（冬用タイヤ）..... 469
スピードメーター 78
スペアタイヤ（応急用タイヤ）
空気圧 653
交換方法 617
スペック（車両仕様）..... 648
スマートエントリー＆
スタートシステム 148
アンテナの位置 148
エンジンの始動 246
カスタマイズ設定 654
警告メッセージ 593
警告ブザー 149, 593
作動範囲 148
正常に働かないとき 632
節電機能 149
電波がおよぼす影響
について 154
ドアの解錠・
施錠 112, 119, 138
スモールランプ（車幅灯）..... 267
スイッチ 267
ランプの交換 567

スライドドア 119
スライドドア
イージークローザー..... 126
スマートエントリー&
スタートシステム..... 148
ドアガラス..... 225
半ドア警告灯 590
半ドア走行時警告ブザー..... 118
パワースライドドア 120
窓開警告ブザー 227
ロックレバー..... 119
ワイヤレスリモコン 120

せ

清掃..... 528, 534
アルミホイール 530
外装 528
シートベルト 535
内装 534
レーダー..... 294
制動灯
ランプの交換 567
セカンドシート..... 160
シートヒーター 490
シートベンチレーター..... 490
シートポジションメモリー.... 184
正しい運転姿勢 26
調整 160
手入れ..... 534
セカンドシート
ポジションメモリー 184
積算距離計（オドメーター）.....79
機能 79
表示切りかえボタン 79
セキュリティ
インジケーター 67, 68
先行車発進告知機能 342
センサー
インナーミラー.....208
デジタルインナーミラー 215
雨滴感知センサー.....284
ブラインド
スポットモニター 371
レーダーセンサー.....293
洗車 528
前照灯（ヘッドランプ）.....267
スイッチ 267
ライトセンサー.....269
ランプの交換 567
ランプ消し忘れ警告ブザー 270
ランプ消し忘れ防止機能 269

そ

速度計（スピードメーター）.....78

た

ターンシグナルランプ
（方向指示灯）.....259
方向指示レバー.....259
ランプの交換 567

※：マルチメディア画面装着車は、別冊「マルチメディア取扱書」、「ナビゲーション取扱書」または「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

タイヤ 545
応急用タイヤ 617
空気圧 549, 653
交換 617
締め付けトルク 626
点検 545
パンクした
ときは 599, 617
ホイールサイズ 653
ローテーション
（位置交換） 545
タイヤが空まわりする
（スタックした） 644
タイヤチェーン 469

ち

チェーン（タイヤチェーン） 469
チャイルドシート 46
ISOFIX バーでの取り付け 63
シートベルトでの固定 60
選択方法 46
チャイルドプロテクター 124
駐車ブレーキ
（パーキングブレーキ） 260
操作 260
警告灯 73
警告ブザー 263

つ

ツインムーンルーフ 229
リヤムーンルーフ開
警告ブザー 230
通信利用型レーダークルーズ
コントロール 335
ツール（工具） 602, 618

て

ディファレンシャル 652
デイライト 269
手入れ 528, 534
アルミホイール 530
外装 528
シートベルト 535
デジタルインナーミラー 216
内装 534
デジタルインナーミラー 209
デッキフック 512
デッキボード 510
テールランプ（尾灯） 267
スイッチ 267
ランプの交換 567
デフォッガー
（リヤウインドウ
デフォッガー） 479
電球（バルブ）
外装のランプの交換に
ついて 567
ワット数 653

点検基準値
（メンテナンスデータ）..... 648
電子キー 106
作動範囲..... 148
正常に働かないとき 632
節電機能..... 149
電池が切れた..... 560, 632
電池交換..... 560
電池交換（キー）..... 560

と

ドア 112, 119, 138
スマートエントリー&
スタートシステム..... 148
チャイルドプロテクター..... 124
ドアガラス..... 225
窓開警告ブザー 227
ドアロックスイッチ 115
半ドア警告灯 590
半ドア走行時警告ブザー..... 118
ロックレバー..... 115, 119
ワイヤレスリモコン
..... 107, 113, 120, 140
ドアカーテシランプ..... 493
位置 493
ワット数..... 653
ドアミラー 221
操作 221
BSM（ブラインドスポット
モニター）..... 369
盗難防止装置
エンジンイモビライザー
システム..... 67
オートアラーム 68
読書灯.....498
時計 514
トークスイッチ※ 525
トップテザーアンカー.....65
Toyota Safety Sense.....292
RSA（ロードサイン
アシスト）.....321
アダプティブハイビーム
システム 271
LTA（レーントレーシング
アシスト）.....309
オートマチックハイビーム 276
先行車発進告知機能.....342
PCS（プリクラッシュ
セーフティ）.....299
レーダークルーズコントロール
（全車速追従機能付き）.....326
ドライビングポジション
メモリー.....178, 184
パワーイージーアクセス
システム 178
ポジションメモリー.....180
メモリーコール機能.....182
ドライブインフォメーション.....87
トラクションコントロール
（TRC）.....462
トランスミッション 252
操作.....252
メンテナンスデータ.....651
トリップメーター 79
機能.....79
表示切りかえボタン.....79

※：マルチメディア画面装着車は、別冊「マルチメディア取扱書」、「ナビゲーション取扱書」または「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

な

内装
収納装備 500
手入れ 534
「ナノイー」 483
ナビゲーションシステム ※

に

ニーエアバッグ 35
荷物
積むときの注意 245

ぬ

ぬかるみにはまった（スタックした） 644

ね

燃費
瞬間燃費 87
平均燃費 87
燃費画面 101
燃料 648
給油 288
種類 648
燃料残量警告灯 74, 590
容量 648
燃料計 78

は

PKSB（パーキングサポートブレーキ） 400
警告メッセージ 405
パーキングサポートブレーキ（静止物） 408
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両） 412
パーキングブレーキ 260
操作 260
警告灯 73, 590
警告ブザー 263
パーソナルランプ 496
操作 496
ワット数 653
排気ガス 44
ハイビーム（ヘッドランプ） 267
アダプティブハイビームシステム 271
オートマチックハイビーム 276
スイッチ 267
電球（バルブ）の交換 567
ハイマウントストップランプ
電球（バルブ）の交換 567
バイオ混合ガソリン 288
ハザードランプ（非常点滅灯） 571
スイッチ 571
電球（バルブ）の交換 567
挟み込み防止機能
スライドドア 128
バックドア 143
パワーウインドウ 225
リヤムーンルーフ 230

発炎筒 572
バックアップランプ（後退灯）
ランプの交換 567
バックドア 138
バックドア
イージークローザー..... 141
スマートエントリー&
スタートシステム..... 148
半ドア警告灯 590
半ドア走行時警告ブザー..... 118
パワーバックドア 140
ワイヤレスリモコン 140
バッテリーがあがった..... 635
バニティ（化粧用）ミラー 514
バルブ（電球）
外装のランプの交換に
ついて..... 567
ワット数..... 653
パワーイージーアクセス
システム 178
パワーウインドウ..... 225
ウインドウロックスイッチ.... 225
閉めることができない
ときは..... 226
操作 225
挟み込み防止機能 225
巻き込み防止機能 226
パワーステアリング..... 462
機能 462
警告灯..... 588
警告メッセージ 593
パワースライドドア 120
操作 120
挟み込み防止機能..... 128
パワーバックドア 140
パンクした
応急用タイヤ装着車..... 617
タイヤパンク応急修理キット
装着車 599
番号灯
（ライセンスプレートランプ）... 267
スイッチ 267
ランプの交換 567
ハンドル
（ステアリングホイール）..... 205
位置調整 205
スイッチ ※ 84, 525

ひ

BSM（ブラインド
スポットモニター)..... 369
ビークルスタビリティ
コントロール（VSC)..... 462
PCS（プリクラッシュ
セーフティ）..... 299
ヒーター
シートヒーター..... 490
ステアリングヒーター 490
フロントエアコン..... 476
リヤエアコン 487
非常点滅灯
（ハザードランプ)..... 571
スイッチ 571
ランプの交換 567

※：マルチメディア画面装着車は、別冊「マルチメディア取扱書」、「ナビゲーション取扱書」または「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

尾灯（テールランプ）..... 267
スイッチ..... 267
電球（バルブ）の交換..... 567
ヒューズ..... 564
表示灯..... 75
日よけ（サンバイザー）..... 514
ヒルスタートアシスト
コントロール..... 462

ふ

ブースターケーブル
のつなぎ方..... 635
フォグランプ..... 280
スイッチ..... 280
ランプの交換..... 567
ブザー
RSA（ロードサイン
アシスト）..... 323
RCTA（リヤクロス
トラフィックアラート）..... 391
運転席・助手席シートベルト
非着用..... 590
クリアランスソナー..... 380
シフトダウン制限..... 256
車線逸脱警報機能（LTA）..... 313
スマートエントリー&
スタートシステム..... 149
接近警報（レーダークルーズ
コントロール）..... 333
先行車発進告知機能..... 342
パワーステアリング..... 588
半ドア..... 114
半ドア走行時..... 118
PKSB..... 401
PCS..... 299
ふらつき警報機能（LTA）..... 314
ブレーキ..... 587
窓開..... 227
油圧..... 587
ランプ消し忘れ..... 270
リバース..... 256
リヤムーンルーフ開..... 230
フック
買い物フック..... 522
けん引フック..... 581
コートフック..... 524
フロアマット固定フック..... 24
デッキフック..... 512
フューエルメーター（燃料計）..... 78
フューエルリッド（給油口）..... 288
冬の前の準備（寒冷時の運転）..... 469
冬用タイヤ..... 469
ブラインドスポットモニター
（BSM）..... 369
プリクラッシュセーフティ
（PCS）..... 299
機能..... 299
PCS 警告灯..... 589
ブレーキ
緊急ブレーキシグナル..... 462
警告ブザー..... 263, 587
警告メッセージ..... 593
パーキングブレーキ..... 260
ブレーキ警告灯..... 73, 587
ブレーキホールド..... 264
メンテナンスデータ..... 652

ブレーキアシスト..... 462
ABS ＆ブレーキアシスト
警告灯..... 73, 588
機能 462
ブレーキ付近からキーキー音が
聞こえる 240
ブレーキフルード..... 652
ブレーキホールド..... 264
フロアマット 24
フロントシート..... 155
シートヒーター 490
シートポジションメモリー.... 178
正しい運転姿勢 26
調整 155
手入れ..... 534
ドライビングポジション
メモリー..... 178
ヘッドレスト..... 186
フロントフォグランプ..... 280
スイッチ..... 280
ランプの交換..... 567
フロント方向指示灯..... 259
方向指示レバー 259
ランプの交換..... 567
フロントワイパーデアイサー 479

へ

平均燃費.....87
ヘッドランプ.....267
コーナリングランプ.....269
スイッチ 267
ライトセンサー.....269
ランプの交換 567
ランプ消し忘れ警告ブザー 270
ランプ消し忘れ防止機能 269
ヘッドランプオートレベリング
システム.....270
ヘッドレスト.....186
ベビーシート.....53

ほ

ホイール
交換（タイヤ）.....617
メンテナンスデータ 653
方向指示灯.....259
方向指示レバー.....259
ランプの交換 567
ホーン（警音器）.....205
保証 9
補助確認装置.....224
ボトルホルダー 505
ボンネット.....537
開け方 537

ま

マスター
ウォーニング.....74, 590, 593
マルチインフォメーション
ディスプレイ.....82
画面の見方.....82
警告メッセージ.....593
後席状態表示画面.....90
Stop & Start システム.....364
設定画面.....92
ドライブ
インフォメーション.....87
メーター操作スイッチ.....84
メニューアイコン.....85

み

ミラー
インナーミラー.....207
デジタルインナーミラー.....209
ドアミラー.....221
バニティミラー.....514

む

ムーンルーフ.....229
挟み込み防止機能.....230
リヤムーンルーフ開
警告ブザー.....230

め

メーター（計器類）.....78
警告灯.....73
照度調整.....80
表示灯.....75
マルチインフォメーション
ディスプレイ.....82
メーター.....78
メカニカルキー.....108
メモリーコール機能.....182
メンテナンスデータ.....648

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能.....654
雪道ですべって動けない
（スタックした）.....644
油脂類.....648

よ

4WD.....653

ら

ライセンスプレートランプ
（番号灯）..... 267
スイッチ..... 267
ランプの交換..... 567
ラゲージルーム内装備..... 510
デッキフック..... 512
デッキボード..... 510
ラジエーター
オーバーヒート..... 641
メンテナンスデータ..... 651
ランプ
インテリアランプ..... 495
室内灯..... 493
ランプの交換..... 567
パーソナルランプ..... 496
非常点滅灯
（ハザードランプ）..... 571
フロントフォグランプ..... 280
ヘッドランプ（前照灯）..... 267
方向指示灯（ターンシグナル
ランプ／ウインカー）..... 259
ライトセンサー..... 269
ランプ消し忘れ警告ブザー.... 270
ランプ消し忘れ防止機能..... 269
リヤフォグランプ..... 280
ワット数..... 653
ランプ消し忘れ警告ブザー..... 270
ランプ消し忘れ防止機能..... 269

り

リヤウインドウデフォッガー
スイッチ.....479
リヤエアコン.....487
リヤフォグランプ.....280
リヤ方向指示灯.....259
方向指示レバー.....259
ランプの交換.....567
リヤワイパー.....286
ワイパーゴムの交換.....554

る

ルーフカラー
イルミネーション.....499
ルームミラー
（インナーミラー）.....207, 209
ルームランプ（室内灯）.....493
操作.....495
ワット数.....653

れ

冷却水 651
水温警告灯 73, 587
水温計 78
冬の前の準備 469
メンテナンスデータ 651
冷却装置（ラジエーター）
オーバーヒート 641
メンテナンスデータ 651
レーダークルーズ
コントロール 326
警告メッセージ 597
接近警報 333
前方センサー 293
レーントレーシングアシスト
（LTA） 309
警告メッセージ 320
操作 315
レバー
給油口 291
シフト 252
ハンドル位置調整レバー 205
方向指示 259
ボンネット解除 537
ロック（レバー） 115, 119

ろ

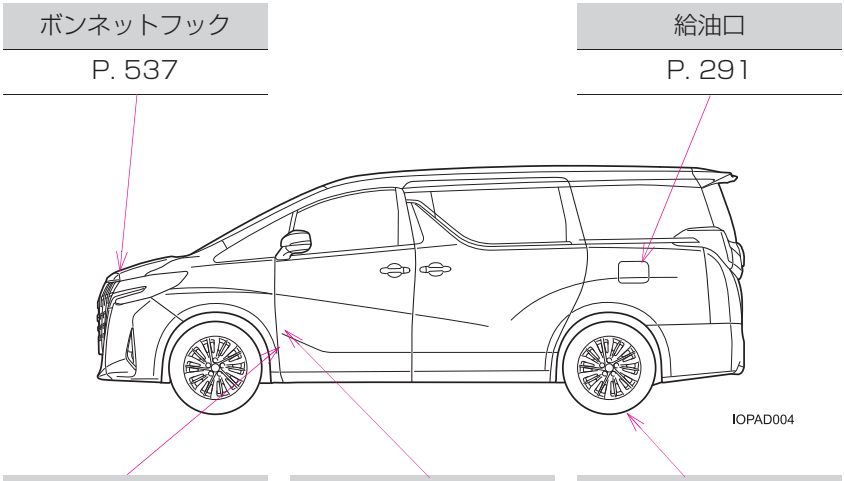
ロードサインアシスト
（RSA） 321
ロック
ウインドウロック 225
シフトロック 257
スマートエントリー&
スタートシステム 148
チャイルドプロテクター 124
ドア 115, 119, 138
ワイヤレスリモコン
..... 107, 113, 120, 140

わ

ワイパー&
ウォッシャー 282, 286
ワイパーゴムの交換 554
ワイパーブレード（寒冷地用） 472
ワイヤレスリモコン
..... 107, 113, 120, 140
作動の合図 114
操作 107, 113, 120, 140
電池の交換 560
半ドア警告ブザー 114
ワックス 528
ワット数 653

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。



燃料の容量（参考値）	FF 車：75L 4WD 車：65L		
燃料の種類			P. 648
タイヤが冷えているときの空気圧			P. 653
エンジンオイル容量（参考値）		2AR-FE	2GR-FKS
	オイルのみ交換時：	4.0L	5.3L
	オイルとフィルター交換時：	4.4L	5.4L
エンジンオイルの種類			P. 649

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター

全国共通・フリーコール

0800-700-7700

オープン時間　365日　9:00～18:00

所在地　〒450－8711　名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）を
ご用意頂くとスムーズな対応が可能です。

「個人情報保護方針」については、
https://toyota.jp/privacy_statement/ にて
掲載しております。

「リコール等情報」については、
https://toyota.jp/recall/index.html にて
掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
https://toyota.jp

キJ-2

TOYOTA

M 58228
01999−58228
CI-2022年 1 月 4 日
2021年 4 月28日 初版
2022年 1 月11日 3版
アルファード(ガソリン車)